

# 小阪合遺跡

—八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—  
〈昭和57年度 第1次調査報告書〉

1987年

(財)八尾市文化財調査研究会

# 小阪合遺跡

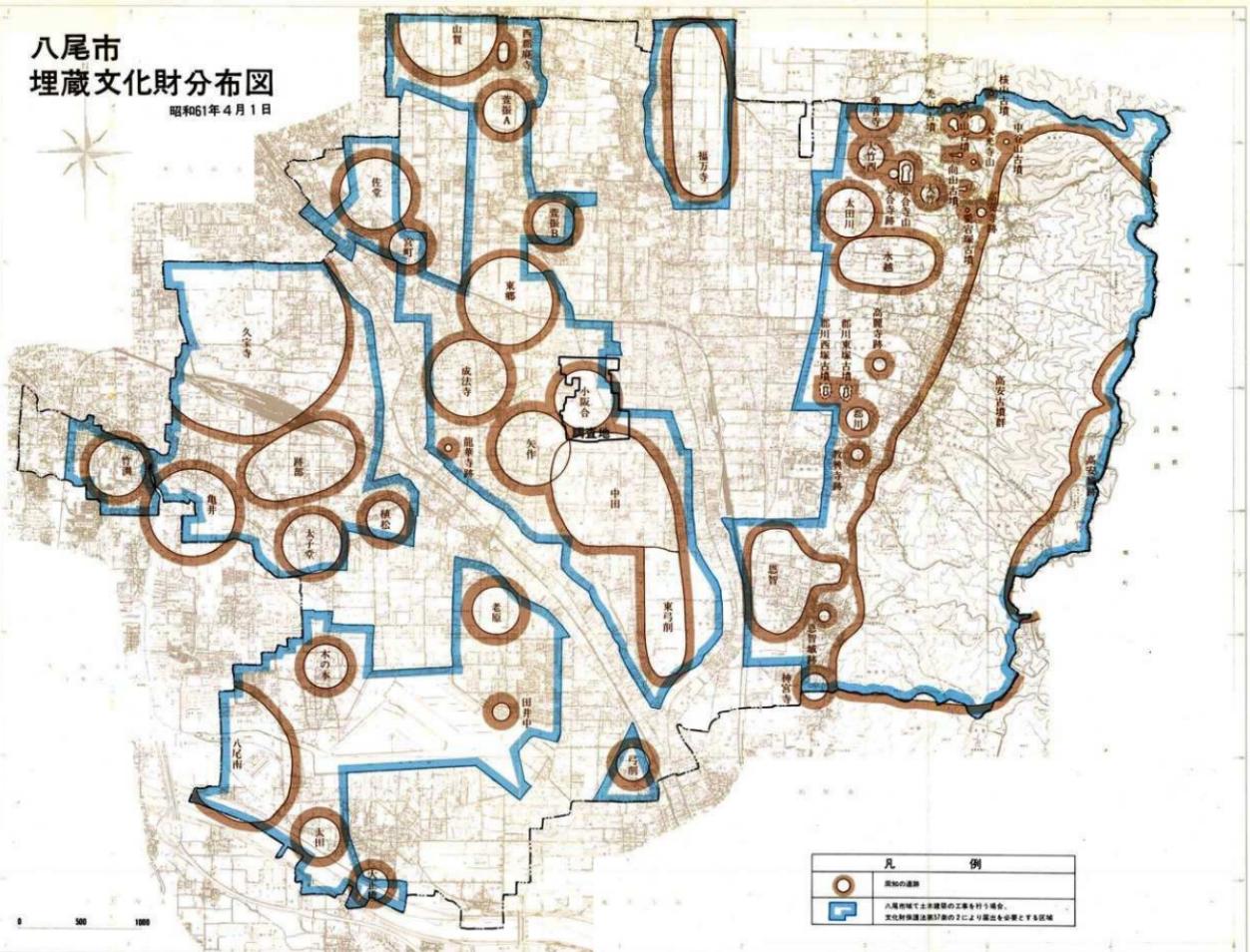
一八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—  
〈昭和57年度 第1次調査報告書〉

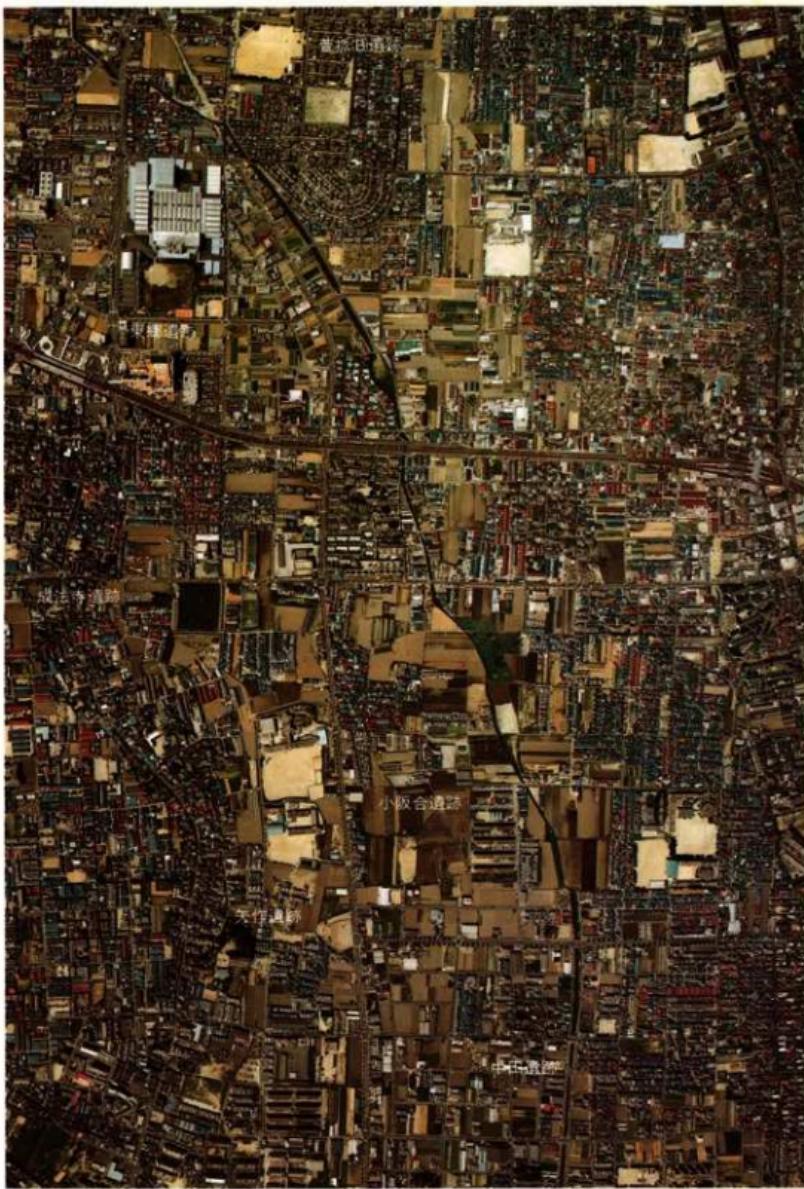
1987年

(財)八尾市文化財調査研究会

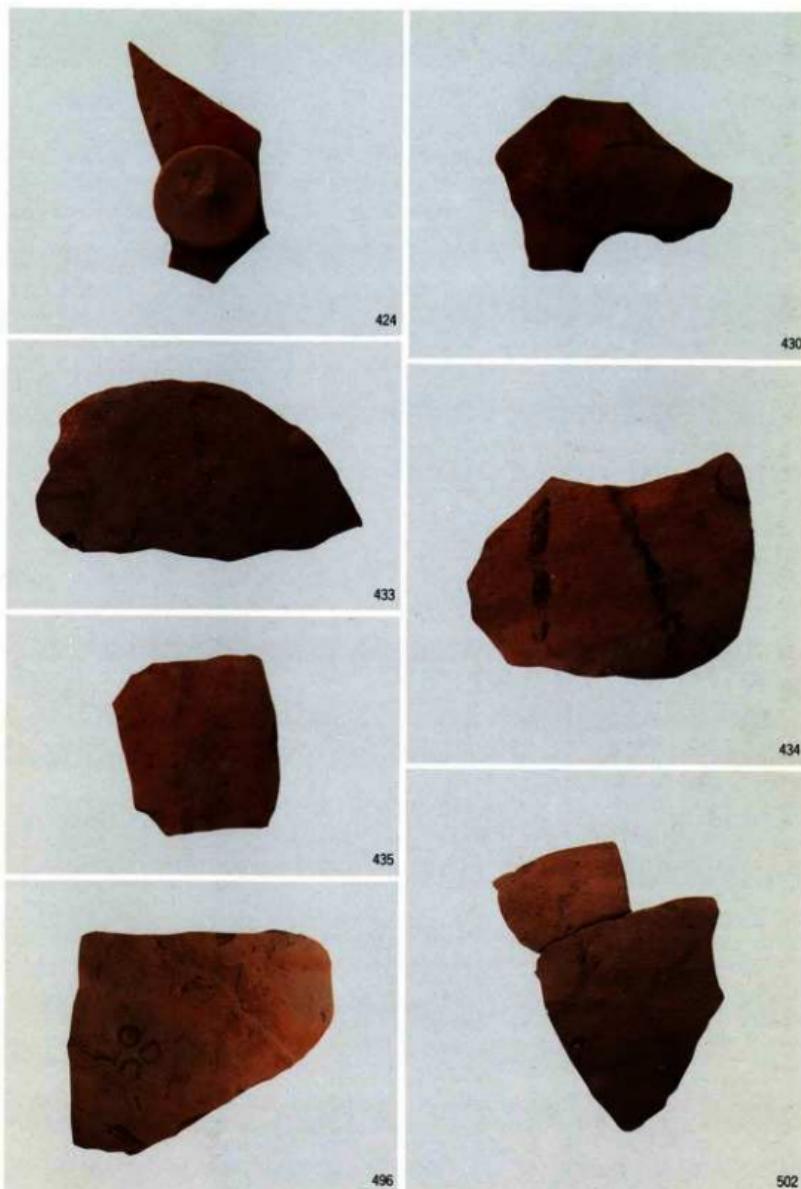
# 八尾市 埋蔵文化財分布図

昭和61年4月1日





(昭和57年4月撮影)



A—IV地区河川3 424.430墨書土器·433.434.435墨書人面土器  
A—II-21-22地区河川1 496墨書土器·502墨書人面土器

## 序 文

八尾市は、古くより旧大和川のもたらす豊かな水と、肥沃な土壤を基盤に、多くの人々が生活してきた地域で、先人の残した生活の跡を偲ぶことのできる遺物、遺構は何事にもかえ難い遺産であり、後世に伝えるべき国民共有の財産があります。

今回、報告の運びとなりました小阪合遺跡は、本市の中央部に位置し、八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業（以下「区画整理事業」という）にともなう発掘調査であります。当区画整理事業区域は、面積30haの平坦地で、北は都市計画道路の平野中高安線、南は曙川土地区画整理事業区域（施行済）、東及び西は既存の集落に接しているのであります。当区域は道路の未整備から市街化が遅れ、加えて周辺地区的急激な公共施設の整備を見るに及んで、市街化の動向が顕著化してきました。この様な背景の中で、市街化を計画的に進めるため、基盤整備として同事業を施行、昭和56年3月認可がなされ、昭和65年3月までの施行期間を以て事業が進められているのであります。

何分にも今回の調査は、当調査研究会が発足当初のこともあり、何かと戸惑いましたが、ここに、昭和57年度に実施した第1次調査の報告書が刊行できました。この間、大阪府をはじめ、八尾市区画整理事務所、並びに八尾市教育委員会、更にはこの調査に関与くださいました関係各位に、深甚なる感謝を申しあげます。今後、この報告書が広く文化財保護にご活用いただければ、この上もない幸せに存じます。今後共、当調査研究会に対し、尚一層のご指導とご協力をお願い申しあげます。尚、引き続いて年度を追って発刊いたします予定であることを附記します。

昭和62年3月

財団法人八尾市文化財調査研究会  
理 事 長 山 脇 悅 司

## 例　　言

1. 本書は、八尾市南小阪合町・青山町・山本町南に所在する八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う昭和57年第1次調査の報告書である。
1. 本書で報告する小阪合遺跡の発掘調査は、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾都市整備室南小阪合土地区画整理事務所の委託を受けて実施したものである。
1. 本書に要した費用は全て南小阪合土地区画整理事務所が負担した。
1. 本書の発掘調査の期間は、昭和57年11月27日～昭和58年3月15日までである。なお、出土遺物の整理作業及び報文作成業務は、昭和59年度第4次調査終了後の昭和59年11月1日～昭和60年3月25日までである。
1. 本調査並びに報告書に関係した者は下記のとおりである。

理 事 長 山脇 悅 司

事務局長 岡田 繁 春（昭和57年7月1日～同年8月31日）

松井 一 雄（昭和57年9月1日～昭和58年6月30日）

兎 玉 生 一（昭和58年7月1日～昭和61年3月31日）

市森 管 萱（昭和61年4月1日以降現在に至る）

事 務 員 森本 よしの

中谷 晃 子

調 査 員 高萩 千 秋

1. 第6章胎土分析については、八尾市立刑部小学校教諭奥田尚氏、八尾市教育委員会文化財室米田敏幸氏の御協力をいただいた。
1. 本調査の参加諸氏は、駒沢敦・野田雅彦・中野慶太・笠井伸彦・香林浩道・山西嘉彦・中野健太郎・松永浩司・小川克則・毛尾明彦・清間一仁・津田考一・須場一行・西辻正信・香林貴法・徳谷貞正・中川暁・南伸俊幸・松村一・池田まゆみ・木曾直美・坂上弘子・中村百合・河野宏子であり、内堀整理は上記に加えて北尾耕三・米野茂幸・西森忠幸・佐藤佳三・中西由紀子・渋田明子・岩本多貴子・徳谷久美子・寺川恵子・北村教江・堂闇ゆり子・横山妙子・大黒静子・横山真鶴・中西隆子の協力を得た。
1. 本調査に関わる土木工事は㈱東海アナースが請負った。
1. 本書の執筆は高萩が担当したが、第5章出土遺物観察表は木曾・岩本、第6章胎土分析は奥田氏が行った。
1. 本書の作成にあたり、遺物写真撮影は高萩、トレイスは北尾・山西が行った。
1. 全体の編集構成は、全員が協同で行った。

## 凡 例

1. 実測図の縮尺率は、遺構は1/60・1/80・1/100を基本とし、遺物は土器・埴輪等を1/4、井戸の木枠を1/8に統一した。
1. 遺構実測図の方位は、全て真北を示している。
1. 遺構番号は、発掘調査時で付したそのままの番号で記載した。
1. 遺物実測図は、断面の表示によって次のように分類した。弥生式土器・土師器・黒色土器・瓦・埴輪一白・須恵器一黒・木製品一斜線で表した。
1. 本書掲載の地図は、国土地理院発行の1/25000・八尾市発行の1/2500・1/1000を使用した。
1. 本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海面で、T Pと略して記載した。
1. 本調査に際しては、写真・実測図の他にカラースライドも多数作成している。市民の方々が、広く利用されることを希望する。

# 本文目次

八尾市埋蔵文化財分布図	
巻頭図版 航空写真	
巻頭図版 出土遺物	
序文	
例言	
凡例	
第1章 調査の目的と経過	1
第2章 地理・歴史的環境	4
第3章 調査の概要	7
第1節 調査の方法	7
第2節 地区割	7
第4章 調査の結果	8
第1節 基本層序	8
第2節 地区の概要	13
第3節 弥生時代後期の遺構・遺物（第2調査面）	15
第4節 古墳時代前期の遺構・遺物（第2調査面）	24
第5節 古墳時代中期の遺構・遺物（第1調査面）	53
第6節 余良～平安時代の遺構・遺物（第1調査面）	65
第7節 中世～近世の遺構・遺物（第1調査面）	98
第8節 遺物包含層	102
第5章 出土遺物観察表	133
第6章 土器胎土中の砂礫観察	216
第1節 はじめに	216
第2節 類型区分	216
第3節 類型の特徴	217
第4節 砂礫種構成から推定される砂礫の採取地	222
第7章 まとめ	230

## 挿 図 目 次

第1図 調査地位置図.....	3
第2図 地形分類図.....	5
第3図 第1次調査地区割図.....	9・10
第4図 断面図.....	11・12
第5図 A - III d 地区 S K 23 平断面図.....	15
第6図 A - III d 地区 S K 23 遺物実測図.....	15
第7図 22 k 地区 S K 36 平断面図.....	16
第8図 22 k 地区 S K 36 出土遺物実測図.....	17
第9図 22 k 地区 S K 37 平断面図.....	18
第10図 22 k 地区 S K 37 出土遺物実測図.....	18
第11図 A - III d 地区 S P 31 出土遺物実測図.....	19
第12図 A - III g 地区 S D 26 出土遺物実測図.....	21
第13図 22 j 地区 S D 109 + S D 110 平面図.....	22
第14図 A - III f 地区 S D 28 + 22 地区 S D 109 + S D 110 出土遺物実測図.....	22
第15図 22 l 地区落ち込み 1 出土遺物実測図.....	23
第16図 A - I b 地区 S K 2 平面図.....	24
第17図 A - I b 地区 S K 2 出土遺物実測図.....	25
第18図 A - I c 地区 S E 1 平断面図.....	26
第19図 A - I c 地区 S E 1 出土遺物・木枠実測図 1 .....	28
第20図 A - I c 地区 S E 1 木枠実測図 2 .....	29
第21図 A - I c 地区 S E 1 木枠実測図 3 .....	30
第22図 A - I c 地区 S E 1 木枠実測図 4 .....	31
第23図 A - I c 地区 S E 1 木枠実測図 5 .....	32
第24図 A - I c 地区 S E 1 木枠実測図 6 .....	33
第25図 A - I b 地区落ち込み 1 出土遺物実測図.....	34
第26図 A - III a 地区落ち込み 7 平断面図.....	35
第27図 A - III a 地区落ち込み 7 出土遺物実測図 1 .....	42
第28図 A - III a 地区落ち込み 7 出土遺物実測図 2 .....	43
第29図 A - III a 地区落ち込み 7 出土遺物実測図 3 .....	44

第30図	A - Ⅲ a 地区落ち込み 7 出土遺物実測図 4	45
第31図	A - Ⅲ a 地区落ち込み 7 出土遺物実測図 5	46
第32図	A - Ⅲ a 地区落ち込み 7 出土遺物実測図 6	47
第33図	A - Ⅲ a 地区落ち込み 7 出土遺物実測図 7	48
第34図	A - Ⅲ a 地区落ち込み 7 出土遺物実測図 8	49
第35図	A - Ⅲ a 地区落ち込み 7 出土遺物実測図 9	50
第36図	A - Ⅲ a 地区落ち込み 7 出土遺物実測図 10	51
第37図	A - Ⅲ a 地区落ち込み 7 出土遺物実測図 11	52
第38図	A - Ⅲ c 地区 S K 12 平断面図	54
第39図	A - Ⅲ c 地区 S K 12 出土遺物実測図	54
第40図	A - Ⅲ d 地区 S K 13 平断面図	55
第41図	A - Ⅲ d 地区 S K 13 出土遺物実測図	55
第42図	A - Ⅲ d 地区 S K 14 平面図	55
第43図	A - Ⅲ d 地区 S K 14 出土遺物実測図	56
第44図	A - Ⅲ b 地区 S K 21 平断面図	58
第45図	A - Ⅲ d 地区 S K 22 平断面図	58
第46図	A - Ⅱ e 地区落ち込み 4 出土遺物実測図	59
第47図	A - Ⅱ f 地区落ち込み 5 出土遺物実測図	60
第48図	A - Ⅱ f 地区落ち込み 5 出土遺物実測図	61
第49図	A - Ⅱ d + e 地区落ち込み 6 出土遺物実測図	61
第50図	22 g + h 地区落ち込み 9 出土遺物実測図	62
第51図	A - Ⅱ g + h 地区 S D 17 + S D 18 出土遺物実測図	63
第52図	A - Ⅱ g + h 地区 S D 17 + S D 18 出土遺物実測図	64
第53図	A - Ⅲ a 地区 S B 1 平断面図	65
第54図	A - Ⅲ e 地区 S B 2 平断面図	66
第55図	A - Ⅲ b 地区 S E 2 平断面図	70
第56図	A - Ⅲ b 地区 S E 2 出土遺物・木枠実測図 1	71
第57図	A - Ⅲ b 地区 S E 2 木枠実測図 2	72
第58図	A - Ⅲ b 地区 S E 2 木枠実測図 3	73
第59図	A - Ⅲ b 地区 S E 2 木枠実測図 4	74
第60図	A - Ⅲ b 地区 S E 2 木枠実測図 5	75
第61図	A - Ⅲ b 地区 S E 2 木枠実測図 6	76

第62図	A - III b 地区 S E 2 木枠実測図 7	77
第63図	A - III b 地区 S E 2 木枠実測図 8	78
第64図	A - III b 地区 S E 2 木枠実測図 9	79
第65図	A - III b 地区 S E 2 木枠実測図 10	80
第66図	A - III b 地区 S E 2 木枠実測図 11	81
第67図	A - III b 地区 S E 2 木枠実測図 12	82
第68図	A - III b 地区 S E 2 木枠実測図 13	83
第69図	22c 地区 S K 5 平断面図	84
第70図	A - III c 地区落ち込み 8 出土遺物実測図	86
第71図	A - IV a ~ c 地区河川 3 出土遺物実測図	91
第72図	A - II a + 21 + 22a 地区河川 1 出土遺物実測図 1	93
第73図	A - II a + 21 + 22a 地区河川 1 出土遺物実測図 2	94
第74図	A - II a + 21 + 22a 地区河川 1 出土遺物実測図 3	95
第75図	A - II a + 21 + 22a 地区河川 1 出土遺物実測図 4	96
第76図	A - II a + 21 + 22a 地区河川 1 出土遺物実測図 5	97
第77図	22a 地区 S E 4 平断面図	98
第78図	A - I + A - II 地区遺物包含層出土遺物実測図	103
第79図	A - III 地区遺物包含層出土遺物実測図 1	104
第80図	A - III 地区遺物包含層出土遺物実測図 2	105
第81図	A - III 地区遺物包含層出土遺物実測図 3	106
第82図	A - III + A - IV 地区遺物包含層出土遺物実測図	107
第83図	21 地区遺物包含層出土遺物実測図	108
第84図	22 地区遺物包含層出土遺物実測図	109
第85図	A - I 地区第 1 調査面遺構平面図	111~112
第86図	A - I 地区第 2 調査面遺構平面図	111~112
第87図	A - II 地区第 1 調査面遺構平面図	113~114
第88図	A - III 地区第 1 調査面遺構平面図	115~116
第89図	A - III 地区第 2 調査面遺構平面図	117~118
第90図	A - IV 地区第 1 調査面遺構平面図	119~120
第91図	A - IV 地区第 2 調査面遺構平面図	121~122
第92図	A - V 地区第 1 調査面遺構平面図	123~124
第93図	21 地区第 1 調査面遺構平面図	125~126

第94図	22地区第1調査面遺構平面図	127・128
第95図	22地区第2調査面遺構平面図	129・130
第96図	C-II地区第1調査面遺構平面図	131・132

## 表 目 次

第1表	弥生時代後期のピット一覧表	19
第2表	S E 1木枠観察表	27
第3表	S E 2木枠観察表	68・69
第4表	奈良～平安時代のピット一覧表	89
第5表	中近世の溝一覧表	100
第6表	中近世の溝一覧表	101
第7表	砂砾による類型区分と器種	222
第8表	砂砾種の構成	224～229

## 図版目次

- 図版一 調査地全景（航空写真）
- 図版二 A-Ⅰ地区 1 第2調査面（東より）  
2 S E 1（東より）
- 図版三 同 上 1 S K 2（南より）  
2 第1調査面（東より）
- 図版四 A-Ⅱ地区 1 全景（東より）  
2 S D 17（東より）
- 図版五 同 上 1 S K 3・S K 4・S D 6・S D 7・S D 8（北より）  
2 河川 1（北東より）
- 図版六 A-Ⅲ地区 1 第2調査面全景（東より）
- 図版七 同 上 1 h 地区遺構状況（南より）  
2 落ち込み 7（東より）
- 図版八 同 上 1 e 地区遺構状況（南より）  
2 第1調査面全景（東より）
- 図版九 同 上 1 S K 12（南より）  
2 S K 13（東より）
- 図版十 同 上 1 S K 14（東より）  
2 S K 14（南より）
- 図版十一 同 上 1 S B 1（東より）  
2 S B 2（西より）
- 図版十二 同 上 1 S E 2（北より）  
2 S E 2 木枠出土状況（北より）
- 図版十三 A-Ⅳ地区 1 第2調査面全景（西より）  
2 河川 3（西より）
- 図版十四 同 上 1 S D 56（南西より）  
2 第1調査面全景（西より）
- 図版十五 A-Ⅴ地区 1 全景（西より）
- 図版十六 21 地区 1 北部全景（南より）  
2 南部全景（北より）

- 図版十七 22 地区 1 第2調査面西部全景(東より)  
2 第2調査面東部全景(西より)
- 図版十八 同 上 1 SK35(北より)  
2 SK36(北より)
- 図版十九 同 上 1 SK37土器出土状況(東より)  
2 SK37(北より)
- 図版二十 同 上 1 第1調査面西部全景(東より)  
2 第1調査面東部全景(西より)
- 図版二十一 同 上 1 SK5(北より)  
2 SE4(北より)
- 図版二十二 C-II地区 1 全景(南より)
- 図版二十三 出土遺物 SK36 8・9・14 SK37 15 SD26 18
- 図版二十四 同 上 SE1 39・40 落ち込み 1 43 SK2 44・46~49
- 図版二十五 同 上 SK2 51・55 落ち込み 7 59・60・65~67
- 図版二十六 同 上 落ち込み 7
- 図版二十七 同 上 落ち込み 7
- 図版二十八 同 上 落ち込み 7
- 図版二十九 同 上 落ち込み 7
- 図版三十 同 上 落ち込み 7
- 図版三十一 同 上 落ち込み 7
- 図版三十二 同 上 落ち込み 7
- 図版三十三 同 上 落ち込み 7
- 図版三十四 同 上 落ち込み 7
- 図版三十五 同 上 落ち込み 7
- 図版三十六 同 上 SK12 253 SK13 265 SK14 270~275
- 図版三十七 同 上 SK14
- 図版三十八 同 上 落ち込み 5
- 図版三十九 同 上 落ち込み 5 305・306・307・333 SD17 338・344・351
- 図版四十 同 上 SD17 353・357~362・366 落ち込み 9 375・376
- 図版四十一 同 上 SE2
- 図版四十二 同 上 落ち込み 8
- 図版四十三 同 上 河川 3

- 図版四十四 出土遺物 河川 1
- 図版四十五 同 上 河川 1
- 図版四十六 同 上 河川 1
- 図版四十七 同 上 河川 1
- 図版四十八 同 上 河川 1
- 図版四十九 同 上 A-I 地区包含層 516・517 A-II 地区包含層 523・528・540  
A-III 地区包含層 543・549・552
- 図版五十 同 上 A-IV 地区包含層
- 図版五十一 同 上 21地区包含層
- 図版五十二 同 上 22地区包含層
- 図版五十三 井戸の木枠材 SE 1
- 図版五十四 同 上 SE 1
- 図版五十五 同 上 SE 1
- 図版五十六 同 上 SE 1
- 図版五十七 同 上 SE 1
- 図版五十八 同 上 SE 1
- 図版五十九 同 上 SE 2
- 図版六十 同 上 SE 2
- 図版六十一 同 上 SE 2
- 図版六十二 同 上 SE 2
- 図版六十三 同 上 SE 2
- 図版六十四 同 上 SE 2
- 図版六十五 同 上 SE 2
- 図版六十六 同 上 SE 2

## 第1章 調査の目的と経過

八尾市南小阪合町・青山町・若草町一帯に所在する小阪合遺跡は、昭和30年に若草町で実施した大阪府住宅供給公社建設工事に際し、古墳時代の著しい土器の出土をみることが発端である。一方、昭和49年度の中田遺跡範囲確認調査では、青山町3丁目付近の試掘調査において、古墳時代の遺物包含層が確認されている。その後、八尾市教育委員会文化財室(以下「文化財室」と略称する)が、数回の試掘調査において土器片をわずかに出土しているだけで、当遺跡の実態は把握されていなかった。

このような状況下、八尾市は当該地が八尾市の中心部に位置しながら、主として道路未整備から市街化が遅れているのに対し、周辺地域の急速な公共施設の整備や当該地における無計画な宅地化が顕著化してきた。

この様な背景の中で市街化を計画的に進めるために、基盤整備として土地区画整理事業の計画が、昭和56年3月31日認可され、同年4月1日に決定された。この計画は、既に宅地化された各所を配慮して、幹線道路東大阪中央線(以下、「中央線」と略称する)を軸にして区画街路網を設置し、供給処理施設・児童公園等を設けるというものである。

昭和56年8月5日、八尾都市整備室南小阪合土地区画整理事務所(以下、「区画整理事務所」と略称する)は、文化財室に八尾都市整理事業南小阪合土地区画整理事業(以下、「区画整理」と略称する)を計画している旨の事前協議書を送付した。文化財室は、当該計画地が「周知の遺跡」であること、また、南部は、昭和47年～昭和49年にかけて中田遺跡調査会が行った曇川北区土地区画整理事業に伴う発掘調査で、弥生時代～中世に至る遺構と、それに伴う遺物が多量に出土しているなどを考慮し、事前に文化財室で試掘調査を実施することとなった。

昭和56年10月23日～同年10月24日に、ポンプ場・中央線の計画予定地内に計9ヶ所の試掘孔をあけ、断面観察を行った結果、表土下(盛土部を除外した耕土面より)0.3～0.6mを測る土層内に弥生時代～中世に至る土器片を確認した。同年12月1日、文化財室は区画整理事務所と、当該計画地の遺跡保存について協議を行った。その結果、計画の変更は困難であることから、文化庁に当該事業計画書を通知するとともに、工事によって遺構・遺物の破壊・消滅が予想される部分に対処すべく資料の作成を目的として実施することになった。

昭和57年7月1日に財團法人八尾市文化財調査研究会(以下、「当研究会」と略称する)が発足し、市内における埋蔵文化財発掘調査業務を担当することになり、再度当該計画地の調査について、当研究会を交え三者協議を行った。しかし、当研究会は同年度に八尾空港内整備事業に伴う大規模な発掘調査・市内一円における発掘調査等で、人員不足であるため、幹線街路・

区画街路等の八尾市事業計画だけを当研究会が担当し、ポンプ場施設関係等の大坂府事業計画については大阪府教育委員会で実施することになった。

これによって、当研究会が実施する調査について、文化財室と区画整理事務所の三者で協議を重ねた。区画整理事務所は、当該計画地が現在民有地で農作物等を生産しうるため、補償費・他換地・年度予算等の理由により、4年ないし5年間で区分して調査することに対し、文化財室・当研究会ともに合意した。昭和57年10月25日、第1次調査として、青山町4丁目内の青山線予定地と南小阪合町1丁目内の中央線予定地の一部について、当研究会は協定書に基づく三者契約を締結し、同年11月8日、発掘調査に着手した。調査は、民有地の補償や農地の水利等の問題による調査区の縮少・区画街路21号線と22号線の追加・遺跡の埋没深度などにより、数回にわたり契約変更を重ねながら、昭和58年3月25日、現地における調査を終了した。

内業整理については、昭和59年6月15日～同年11月15日の第4次調査が終了後引き続き、昭和60年3月末日まで協定書を契約し、第1次調査の報告書作成作業を行った。この内業整理が実施されるまでには、昭和57年度から当研究会が断続的に実施した第4次調査の発掘調査。大坂府教育委員会が昭和58・59年度に実施したポンプ場等の発掘調査。<sup>註4</sup>文化財室が昭和59年度に実施した関西電力の鉄塔建設工事に伴う発掘調査で、当遺跡が弥生時代後期から中世後期に至る<sup>註5</sup>遺構・遺物が検出され、当遺跡が広範囲の遺跡であることが明らかになってきた。

なお、報告書は、昭和61年度事業として昭和57年度の第1次調査を刊行した。

#### 註

註1 八尾市役所市史編纂室『八尾市史』1958

註2 八尾市教育委員会『中田遺跡調査報告』1975

註3 中田遺跡調査会『中田遺跡(北区)発掘調査概要』1975

註4 ○(財)八尾市文化財調査研究会「小阪合遺跡」『昭和58年度事業概要報告』:(財)八尾市文化財調査研究会報告5 1984

○(財)八尾市文化財調査研究会「小阪合遺跡(第4次調査)」『昭和59年度事業概要報告』:(財)八尾市文化財調査研究会報告7 1986

註5 ○昭和58年度に南小阪合町1丁目で、小阪合ポンプ場建設に伴う発掘調査を実施している。

○昭和59年度に南小阪合町4丁目で、都市計画事業寝屋川南部流域下水道工事に伴う発掘調査を実施している。

註6 八尾市教育委員会「小阪合遺跡の調査(青山町4丁目4)」『八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書』:(財)八尾市文化財調査研究会報告11 1985



第1図 調査地位置図

## 第2章 地理・歴史的環境

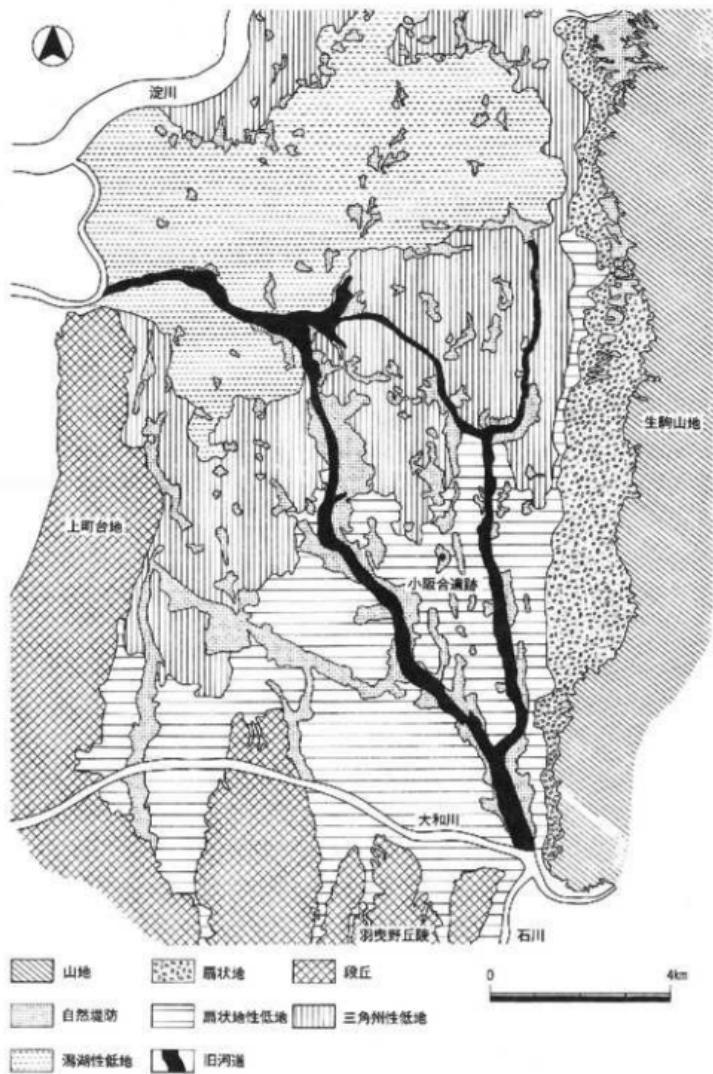
八尾市は、現在の行政区画された大阪府の東部に位置し、東は奈良県生駒郡平群町・三郷町、西は大阪市平野区、南は柏原市・藤井寺市、南西の一部は松原市、北は東大阪市と接する。小阪合遺跡は、この八尾市の中央部に位置する南小阪合町・青山町・若草町に所在する。標高8~9mを計り、北西方向に蛇行しながら穏やかに流れる楠根川を挟んだ両岸の沖積地上に立地する遺跡である。

当遺跡の地形は、東を生駒山地、西を上町台地、南を羽曳野丘陵、北を淀川に囲まれたデルタ地帯の沖積平野であるいわゆる狭義でいう河内平野に位置する。

河内平野の形成は、奈良盆地の水を集め、生駒山地と金剛山地の間にあたる龜ノ瀬の狭隘部から大阪府の柏原市に達する。ここで金剛山地を水源とした石川と合流し、北流する旧大和川(恩智川・玉串川・長瀬川・平野川等の中小河川)と、淀川などのたび重なる氾濫による堆積作用と海水準昇降による侵食基面の移動の相互作用によって形成されていった。古代には河内平野の北方に河内湖が存在していた。その後、幾多の氾濫により土砂が堆積し陸地化する。1704年(宝永元年)に行った大和川付替工事で、羽曳野丘陵の北端部・上町台地を横断する。現在大阪市と堺市の境界をなし大阪湾に注ぐ新大和川によって、河内平野におけるたび重なる氾濫が激減し、現在の景観に至っている。

さて、河内平野に人々が住み始めたのは、羽曳野丘陵先端部に位置する八尾市八尾南遺跡・大阪市長原遺跡で旧石器時代の石器が確認されているが、まだこの時代は生駒山西麓の扇状地上や羽曳野丘陵に点在していたと考えられる。縄文時代は八尾市恩智遺跡・羽曳野丘陵先端部に位置する藤井寺市国府遺跡が前期~晚期に至るまで存続する他、生駒山西麓の東大阪市細手遺跡・上町台地北端部の大坂市森の宮遺跡が中期~晚期に至る遺跡があげられる。また、後期以降は八尾市八尾南遺跡・大阪市長原遺跡・柏原市船橋遺跡などである。最近の調査では沖積地上に立地する八尾市山賀・新家・久宝寺・亀井各遺跡などで晚期の土器片が出土している。しかし、まだこの時代は河内平野の周辺に位置する生駒山西麓の扇状地・上町台地・羽曳野丘陵を居住地とし、狩猟・漁撈等の生活空間の場としていただけだと考えられる。

この河内平野に人間が定住はじめたのは、中国大陆より伝来してきた稲作農耕文化の影響と河内湖へ流入する豊富な水を供える沖積平野の低湿地が水稻栽培に適していることも相俟って、農耕集落が増加し発展して行ったと考えられるのは弥生時代以降である。この時代は農耕等の生産向上に伴い貧富の階級が生まれ、原始国家が形成されて行ったと考えられている。八尾では山賀・美園・亀井・田井中・跡部・東弓削各遺跡が前期~中期にかけて出現する。その



第2図 地形分類図

後、当沖積地が大きな展開を繰り広げるのは弥生時代後期～古墳時代前期であると考えられる。この時代の遺跡は上記の遺跡の他に八尾市中田・成法寺・東郷・萱振・佐堂・久宝寺各遺跡などがあげられる。

古墳時代に入ると農耕の生産が一層発達し、共に死者を埋葬する壮大な墳墓を築造している。それは今でもその姿を数多く残す。八尾市では心合寺山・向山・東塚・西塚の前方後円墳や高安丘塚の群集墳などがあげられる。そして、沖積地上における近年の調査では集落遺構・生産遺構と同様に埋没または削平された古墳が多數発見されている地域である。たとえば八尾市亀井・萱振両遺跡・隣接する大阪市長原遺跡などがあげられる。

歴史時代には律令国家体制のもとで国郡里の制が行われ、大阪府では攝津国・河内国・和泉国に分けられる。当遺跡は河内国の若江郡に属し、条里制土地区画の大規模な開発がなされた。現在の小阪町2丁目には延喜式内社の一つである坂合神社がある。

#### 〔参考文献〕

- 八尾市役所「八尾市史」 1958
- 八尾市教育委員会「昭和51・52年度埋蔵文化財発掘調査年報」 八尾市文化財調査報告4 1979
- 八尾市教育委員会「昭和53・54年度埋蔵文化財発掘調査年報」 八尾市文化財調査報告7 1981
- 八尾市教育委員会「東弓削遺跡」八尾市文化財調査報告3 1975
- 八尾市教育委員会「大竹遺跡」八尾市文化財調査報告5 1980
- 中田遺跡調査会「中田遺跡(北区)発掘調査概要」
- 中田遺跡調査センター「中田遺跡調査報告Ⅰ」 1974
- 八尾市教育委員会「中田遺跡調査報告Ⅱ」 1975
- 八尾市南遺跡調査会「八尾南遺跡」大阪市高速電気軌道2号線建設事業に伴う発掘調査報告書-1981
- 大阪府庁「大阪府史第1巻古代編」 大阪府編 1978
- 大阪府教育委員会「国府遺跡発掘調査概要」 1978
- 瓜生堂遺跡調査会「恩智遺跡Ⅰ・Ⅱ」 1980
- 瓜生堂遺跡調査会「恩智遺跡Ⅲ」 1981
- 大阪市文化財協会「長原遺跡発掘調査報告Ⅱ」 大阪市高速電気軌道2号線延長工事に伴う発掘調査報告書- 1982
- 大阪市文化財協会「長原遺跡発掘調査報告Ⅲ」-(仮称)大阪市立第8義務学校建設に伴う発掘調査報告書- 1983
- 長原遺跡調査会「長原遺跡発掘調査報告」 大阪市交通局地下鉄谷町線延長工事 第31・32工区の発掘調査- 1978 同改訂版 (財)大阪市文化財協会 1982
- (財)八尾市文化財調査研究会「成法寺遺跡」-八尾市光南町1丁目29番地の調査- (財)八尾市文化財調査研究会報告3 1983
- (財)八尾市文化財調査研究会「八尾市埋蔵文化財発掘調査概要 1980・1981年度」 (財)八尾市文化財調査研究会報告2 1983
- (財)八尾市文化財調査研究会「昭和58年度事業概要報告」 (財)八尾市文化財調査研究会報告5 1984

## 第3章 調査の概要

### 第1節 調査の方法

調査は、八尾市の中心部に位置する南小阪合町1丁目・同町4丁目・青山町3丁目・同町5丁目と南小阪合町2丁目・同町5丁目・青山町1丁目・同町2丁目・山本町南8丁目の各一部を対象として、総面積約300,000m<sup>2</sup>におよぶ広範囲の幹線街路・区画街路網等の計画に伴う事前発掘調査である。だが、施工期間が数年に分割して行うため、発掘調査もそれと合わせて実施した。

今回の調査は、昭和57年度第1次調査として、青山町4丁目の中央部に位置する青山線（A地区）・21号線（21地区）・22号線（22地区）と、南小阪合町1丁目に位置する中央線（C地区）の一部である道路敷面上の予定地を対象に行った。

文化財室が実施した試掘調査の結果、表土下0.3~0.6m (TP +8.0~8.3m) の間に遺構が埋没していると認められたので、調査の方法として、オープンカット工法（いわゆる素掘り調査）を行うこととなった。掘削は第2層の床土下面まで約0.3mを機械掘削し、以下は人力による掘削・精査を行った。検出した遺構については、できるかぎり平面実測図 ( $S=1/5 \cdot 1/10 \cdot 1/20$ )・断面実測図 ( $S=1/20$ ) の作成と写真撮影などの記録保存を実施した。これに伴い出土した遺物は、地区ごとに採取し、現場事務所にて洗浄・ネーミングを行った。

### 第2節 地区割

調査地区は、面積が広範囲で、網目状で細長いトレンチである。地区割は、昭和47年~49年に行なった曙川北区土地区画整理事業に伴う中田遺跡の発掘調査で、検出した遺構の関連を把握する目的などの諸条件を考慮して、中田遺跡の調査で使用された地区割プラン図のD-Iラインを基準点として、東西・北方に割り付けを行った。地区名は、南北方向の中央線を北よりC-I~C-V地区に大区分し、東西方向の青山線を西よりA-I~A-V地区に大区分し、区画街路は計画街路番号をそのまま活用した。

そして、これらの各地区を基準点から10m間隔でさらに細分し、東西方向のトレンチは西よりa・b・c・・・、南北方向のトレンチは北よりa・b・c・・・と付す。

これに基づき、第1次調査を実施した（第3図）。

## 第4章 調査の結果

### 第1節 基本層序

調査地区は、前章でも叙述したが、北西流する楠根川を挟む沖積低地上に位置し、幾度もなく氾濫を繰り返した地である。調査は東西・南北方向に細長いA地区・21地区・22地区と北東方約350mも離れているC-II地区を行った。

この様な状況において十層の様相が、各地区によって大きく異なることがあるが、総合的な観点からみた普遍的な基本層序について、以下、各層ごとに概説を行う（第4図）。

第1層表土0.1~0.2m、調査前まで水田耕作されていた耕土である。なお、A-II地区の一部に厚さ約0.5mとA-V地区は厚さ約1mの盛土により整地されていた。

第2層淡灰褐色～暗灰褐色のシルト粘土0.1~0.3m、耕土の床土と考えられる。

第3層暗灰褐色粘土0.1~0.4m、上面で近世以降と思われる水田耕作に関連する小溝を検出した。土層内からは中世～近世の遺物が摩滅した細片をわずかに出土した。なお、A-II地区の西側と22地区にはない。

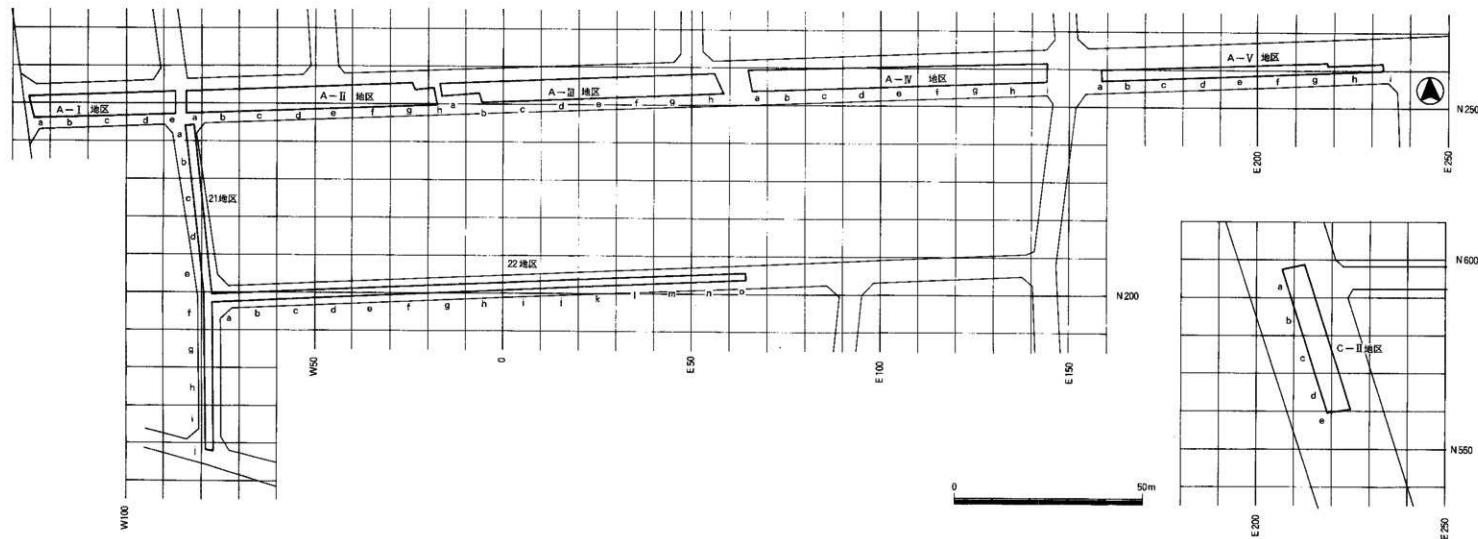
第4層灰褐色粗砂混じり粘土0.1~0.2m、この上面で東西・南北方向の小溝が全地区で検出した。特にA-IV地区・22地区で多く検出した。

第5層暗灰色粘土・黄褐色微砂混じり粘土0.1~0.2m、古墳時代中期～平安時代の遺物を包含する。

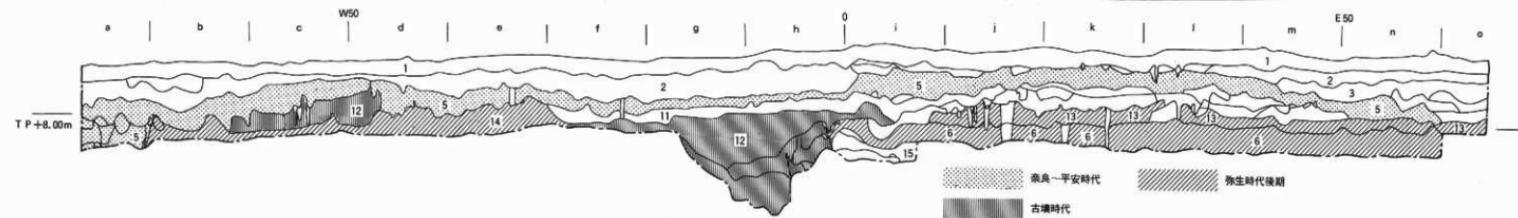
第6層暗茶色シルト混じり粘土0.1~0.5m、この上面をベースとして、古墳時代中期～平安時代の遺構が検出した。土層内からは弥生時代後期～古墳時代前期の遺物を包含する。

第7層淡茶灰色砂粘土0.2~0.4m、この上面で弥生時代～古墳時代前期の遺構が検出した。A-IV・A-V地区では確認されない。また、A-I・A-II地区は砂質土層が相当の厚みで堆積する河川跡と考えられる土層である。

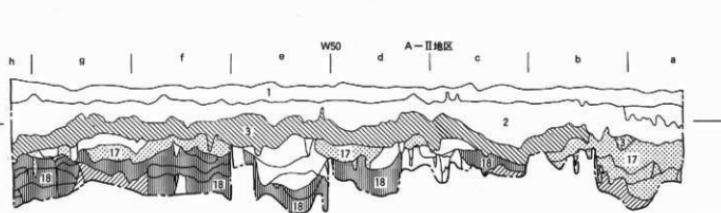
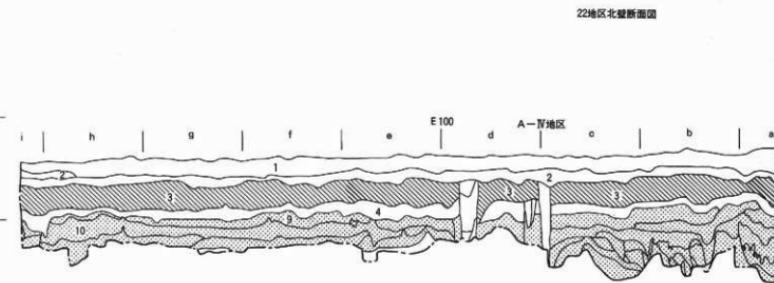
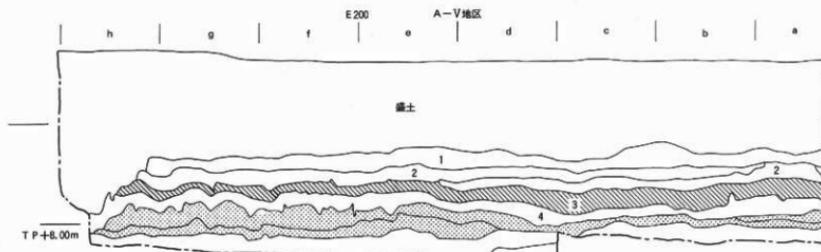
だが、C-II地区は、北東へ約350m離れている調査地区であるため、前述した基本層序とは若干異なる。第1層～第3層まではほぼ同層の堆積であるが、第4層黄灰褐色粘土(0.1~0.3m)は古墳時代～中世の摩滅した土器の細片がわずかに包含する。第5層暗茶灰色粘土(0.2~0.4m)の上面で東西方向の溝を検出した。第6層青灰色粘土(0.2m以上)は無遺物層であると思われる。



第3図 第1次調査地地区割図



22地区北壁断面



This geological cross-section diagram illustrates the stratigraphy of the area. The layers are numbered 1 through 17 from top to bottom. Specific features are labeled: 'd' is located in layer 1; 'W100' is positioned between layers 1 and 2; 'c' is in layer 3; 'b' is in layer 5; and 'A-I地区' is indicated by a bracket spanning layers 6 to 10. A horizontal line at the bottom is labeled 'TP +8.00m'. A vertical scale bar is present on the left side.

- |   |         |                  |                 |
|---|---------|------------------|-----------------|
|  | 羅食時代—近世 | 1 純土             | 10 暗褐色色砂混じり粘土   |
|  | 唐風—平安時代 | 2 暗紅褐色シルト        | 11 暗黄色色砂混じり粘土   |
|  | 古墳時代    | 3 暗紅褐色粘土         | 12 淡褐色色砂混じり粘土   |
|  | 朱生時代後期  | 4 暗褐色色砂混じり粘土     | 13 暗褐色色砂混じり粘土   |
|  |         | 5 暗灰色粘土          | 14 暗灰色微砂土       |
|   |         | 6 暗褐色色シルト混じり粘土   | 15 暗褐色色砂混じり粘土   |
|   |         | 7 淡暗褐色色砂混じ土混じり粘土 | 16 離礁藻のシルト混じり粘土 |
|   |         | 8 暗褐色粘土          | 17 暗褐色色砂混じり粘土   |
|   |         | 9 暗褐色色シルト混じり粘土   | 18 黄褐色粘土        |

第4図 断面図

## 第2節 地区の概要

当遺跡は、試掘調査・立会調査などで遺物包含層を確認した以外、その実態が全く不明であったが、今回の第1次調査によってようやく遺跡の一部が明らかになった。遺構は弥生時代後期～中世に至る各時代の生活の痕跡・氾濫の痕跡を検出した。以下、各地区ごとに遺構の状況を概説する。

### A-Ⅰ地区

この地区は、表土T.P +8.4m位から約0.4mの第4層上面で中世の条里遺構に関連すると思われる東西方向の溝(SD1)を検出した。これより約0.2m掘り下げた第6層上面を精査すると、古墳時代前期の木枠を伴う井戸(SE1)・土坑・落ち込みと、平安時代と考えられるピット・土坑・溝を検出した。また、これより下層は砂質土で相当の厚みで堆積する古墳時代以前の河川跡と考えられる。

### A-Ⅱ地区

この地区は、A-Ⅰ地区と同じく、第4層上面で中世の溝を検出した。第5層上面で平安時代の溝・河川跡、第6層上面では古墳時代中期の土坑・落ち込み・溝を検出した。これより下層は、A-Ⅰ地区と同じく砂質土の堆積する河川跡である。

### A-Ⅲ地区

この地区は、自然堤防の微高地に位置すると考えられる安定した地盤である。第6層の上面から余良時代に比定できると思われる掘立柱建物2棟、木枠を伴う井戸等と、古墳時代中期の韓式系土器等が包含する土坑等を検出した。第7層の上面では、弥生時代後期～古墳時代前期の土坑・庄内式～布留式の多量の土器を検出した落ち込み状遺構・ピット等を検出した。

### A-Ⅳ地区

この地区は、A-Ⅲ地区と反して微谷地状になっている。第4層上面は中世の東西・南北方向の溝が數十条検出した。第7層上面では奈良～平安時代の溝・河川跡を検出した。また、これより下層は古墳時代以前の遺構は検出されなかった。

### A-Ⅴ地区

この地区は、第6層の上面で奈良～平安時代のものと思われる南北方向の小溝1条を検出したのみである。遺物は出土していない。

### 21地区

この地区は、A-Ⅳ地区で検出した河川跡の南側に位置し、南北方向に延びる河川の中央部を掘り下げた状態である。この河川の堆積土からは平安時代の遺物に混じり、古墳時代の埴輪・土器などが出土されている。

## 22地区

この地区は、A-II・A-III地区の南部約50mに位置する。遺構は第4層の上面で中近世の時期と思われる小溝を検出した。第5層の上面は古墳時代中期の落ち込み状遺構・東側の第6層は弥生時代後期の包含層で、第7層の上面に土坑・ピット・溝等が切り込む遺構を検出した。

## C-II地区

この地区は、A-I～A-V地区の北部約250mに位置する。遺構は第4層の上面で中世～近世の時期と思われる東西方向の溝3条を検出しただけである。これらの溝は農耕作に関連するものと考えられ、現在の農地の区画方向に一致している。

### 第3節 弥生時代後期の遺構・遺物(第2調査面)

A-III地区と22地区の微高地の東辺に位置し、TP +7.5~7.8mの第7層をベースとして切り込む土坑・ピット・落ち込み状遺構・溝が検出した。また、西部に位置するA-I・A-II・21・22地区は、北流していたと考えられる砂質土層の堆積する河川跡が確認されたが、オープンカット工法の調査であるため地下水位面が高く、隣接する民家への影響等の諸問題により調査を断念した。ここでは、今回検出した遺構とそれに伴う遺物について各遺構ごと記述する。

#### 土坑

##### S K 19

A-III b 地区の南壁で検出した。南半部は調査区外に至る。東部は擾乱によって切断されている。検出部は東西径0.84m以上、南北径1.02m、深さ0.07mを測る土坑である。堆積土は暗灰褐色シルト混じり粘土の単一層で、基底面に若干の起伏がみられる。

遺物は、壺・高杯・甕等の畿内第V様式に類似する土器の細片を少量出土した。

##### S K 20

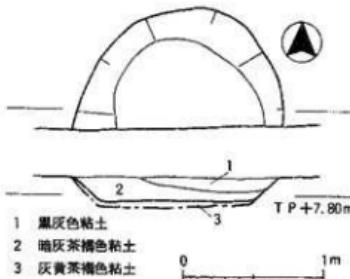
A-III b 地区で検出した。東部と南部は調査区外に至る。検出部は東西径2.5m以上、南北径4.3m以上、深さ0.1mを測る。平面は不定形を呈す。堆積土は暗茶灰色シルト混じり粘土である。この遺構は土坑を呈しているが、この下層より同時期の遺構が検出していることから、弥生時代後期の遺物包含層ではないかと思われる。

遺物は、壺・甕等の畿内第V様式に類似する土器の細片を少量出土した。

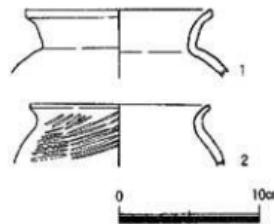
##### S K 23

A-III d 地区の南壁で検出した。南半部は調査区外に至る。検出部は東西径1.4mを測る土坑である。平面は現存部半円形を呈す。断面は皿状形を成す。堆積土は上方から黒灰色粘土・暗灰茶褐色粘土の2層に分かれ、基底部は平坦である。

遺物は、壺・甕(1・2)等の畿内第V様式に類似する土器の細片を少量出土した(第5図・第6図)。



第5図 A-III d 地区 S K 23 平断面図



第6図 A-III d 地区 S K 23 出土物実測図

### S K 25

A-III d 地区で検出した。規模は東西径0.8m、南北径1.3m、深さ0.08~0.24mを測る土坑である。平面は橢円形を呈し、S P 50'を切っている。断面は皿状形を成す。堆積土は上方から暗茶褐色粘土・淡茶褐色粘土の2層に分かれる。基底面は若干起伏している。

遺物は、壺・鉢・甕等の畿内第V様式に類似する土器の細片が少量出土した。

### S K 26

A-III f 地区の北壁で検出した。北半部は調査区外に至る。検出部は東西径2m、南北径0.3m、深さ0.17mを測る土坑である。堆積土はSK 25・SK 27と同一土層である。

遺物は出土していないが、堆積土や同一レベルの構築面で検出していることからSK 25等の遺構と同時期であると考える。

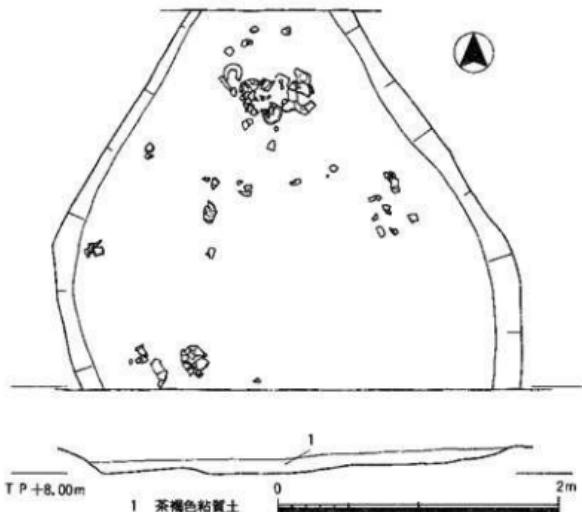
### S K 27

A-III f 地区の北壁で検出した。北半部は調査区外に至る。検出部は東西径1.5m、南北径0.6m、深さ0.3mを測る土坑である。堆積土はSK 25・SK 26と同一土層である。

遺物は、壺・甕等の畿内第V様式に類似する土器の細片を少量出土した。

### S K 29

A-III g 地区で検出した。規模は東西径1.14m、南北径0.32mを測る土坑である。平面は長



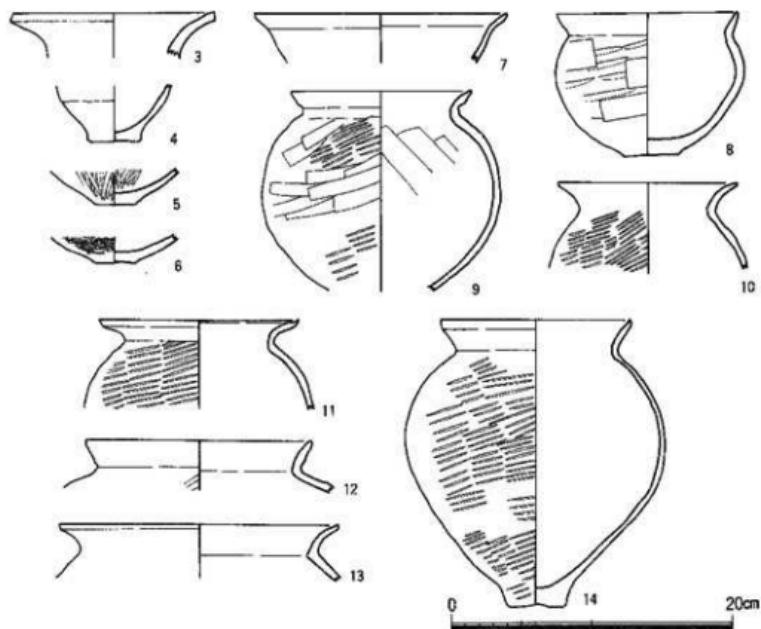
第7図 22地区 SK 36平断面図

楕円形を呈す。断面  
は皿状形を成す。堆  
積土は暗茶褐色粘土  
の単一層である。

遺物は出土してい  
ないが、層位的にみ  
て上記した遺構（S  
K 24等）と同一時期  
であると考える。

### S K 30

A-III h 地区で検  
出した。東西径0.86  
m、南北径1.3m、深  
さ0.2mを測る土坑  
である。平面はほぼ  
隅丸長方形を呈す。



第8図 22k地区SK36出土遺物実測図

断面は逆台形を成す。堆積土は暗灰褐色粘土の單一層である。

遺物は出土していないが、SK 29と同様に上記したSK 24等の遺構と同一時期と考えられる。

#### S K 36

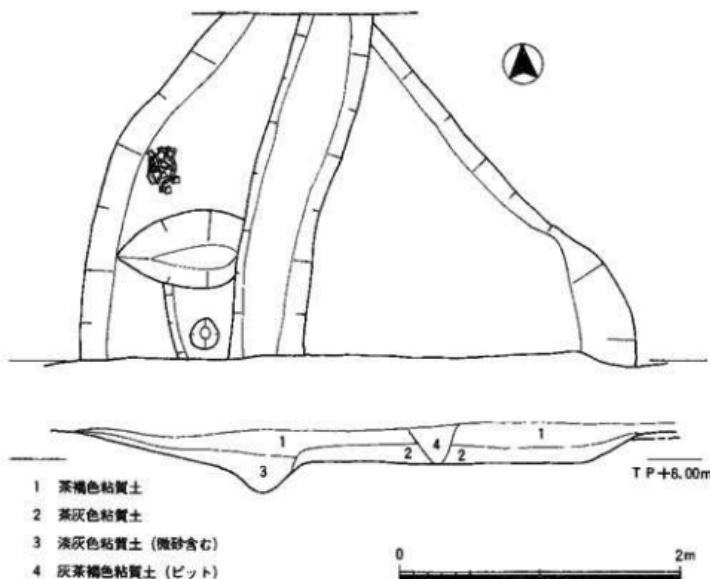
22k地区で検出した。南部は調査区外に至る。検出部は東西径3.3m、南北径2.9m、深さ0.1mを測る土坑である。平面は「ハ」の字形に南へ拡がる。断面形は浅い皿状形を呈し、基底面は平坦である。堆積土は茶褐色粘土の單一層である(第7図)。

#### 出土遺物

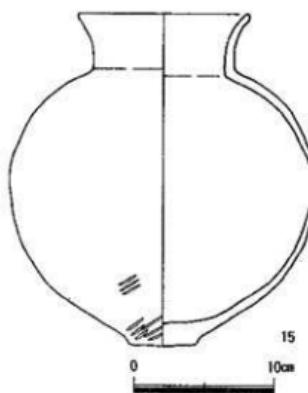
細片化した土器が北部の基底部付近で若干のまとまりで検出しているが、ほとんどの土器は堆積土内で散乱した状態で少量出土した。器種は畿内第V様式に類似する壺(6~14)が主体を占め、壺(3~5)・鉢・高杯等はごく少量である(第8図)。

#### S K 37

22f地区で検出した。南部と北部は調査区外に至る。検出部は東西径4.6m、南北径2.7m、深さ0.23mを測る土坑である。平面は「ハ」の字形に南へ拡がる。断面は若干の起伏がみられ



第9図 22k地区SK 37平面断面図



第10図 22k地区SK 37出土遺物実測図

る皿状形を成し、基底面中央部には幅0.4~0.5m、深さ0.2mを測る南北方向の溝が縱断する。土坑の堆積土は茶褐色粘土・淡灰色微砂混じり粘土の2層で構成される。この遺構とSK 36は、検出時に隅丸方形の竪穴式住居址のコーナー部ではないかと考えられるため、南部に約1mの拡張を行なったが柱穴や炉跡等の住居址に関連するものがないため土坑として取り扱った(第9図)。

#### 出土遺物

西部基底面で完形近くまで復元できた壺(15)1点が土圧によって押し潰されて出土した。他には堆積土内より畿内第V様式に類似する壺・甕等の細片がごく少量出土した(第10図)。

### ピット (S P 31・S P 41~58)

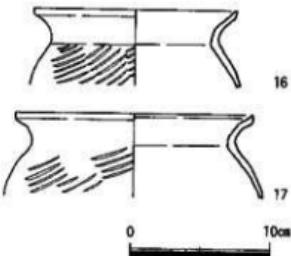
A-III地区で検出した。径0.41~0.4mを測る小形で浅いもの (S P 31・41~45・47~49・52・53・55・56) と径0.56~0.95mを測る大形のもの (S P 50・51・54・57・58) に分かれ、前者が圧倒的に多い。平面は全般的に円形及び稍円形を呈す。堆積土は暗茶褐色シルト混じり粘土の單一層であるが若干の相違はある。これらのピットは住居址に開通する柱穴と考えるものもあるが、限定された調査区域内であるため規則性のある配列が認め第11図 A-III d地区 S P 31出土遺物実測図られなかった。遺物は畿内第V様式に類似する土器の細片がごく少量出土しているが、多くのピットは無遺物であった。また S P 59・S P 60は22地区で検出した。

S P 31の出土遺物は、畿内第V様式に類似する要 (16・17) を出土した (第11図)。

なお、個々のピットの規模・平面形等については、下記の第1表にまとめた。

第1表 弥生時代後期のピット一覧表

地 区	造構番号	規 模 (cm) 長径×短径	深 さ (cm)	形 状		柱 根 残 (cm)	柱 根 残存	出 土 遺 物	備 考
				平 面 形	斜 面 形				
A-III c	S P 31	41~28	10	楕 円 形	逆 台 形	—	—		
A-III d	S P 41	21~20	11	円 形	逆 台 形	—	—		
A-III d	S P 42	30~24	10	楕 円 形	逆 台 形	—	—		
A-III d	S P 43	20~19	16	楕 円 形	逆 台 形	—	—		
A-III d	S P 44	29	22	円 形	逆 台 形	—	—		
A-III d	S P 45	26~23	13	楕 円 形	逆 台 形	—	—		
A-III d	S P 46	14	14	円 形	逆 台 形	—	—	土師器の細片	
A-III d	S P 47	33~25	16	楕 円 形	逆 台 形	—	—		
A-III d	S P 48	28~26	16	楕 円 形	逆 台 形	—	—		
A-III d	S P 49	36~26	23	楕 円 形	U 字 形	—	—	土師器の細片	
A-III d	S P 50	77~58	25	楕 円 形	逆 台 形	—	—		
A-III d	S P 51	93~70	27	楕 円 形	逆 台 形	—	—	土師器の細片	
A-III e	S P 52	22~20	8	楕 円 形	逆 台 形	—	—		
A-III e	S P 53	25~22	14	円 形	逆 台 形	—	—		
A-III e	S P 54	56~20	49	楕 円 形	U 字 形	—	—		
A-III e	S P 55	25~21	13	楕 円 形	逆 台 形	—	—		
A-III e	S P 56	25~20	8	楕 円 形	逆 台 形	—	—		
A-III e	S P 57	68~63	48	楕 円 形	逆 台 形	—	—	土師器の細片	
A-III e	S P 58	85~78	20	楕 円 形	逆 台 形	—	—		
221	S P 59	43~36	20	楕 円 形	逆 台 形	—	—		
221	S P 60	64~57	37	楕 円 形	逆 台 形	—	—		



## 溝

### S D 22

A - Ⅲe地区で検出した。幅0.23~0.45m、深さ0.05mを測る東西方向の溝で、北に中心をもつ緩やかな円弧を描き両端部は途切れる。断面は浅い皿状形を呈す。堆積土は暗灰茶色砂粘土の單一層である。

遺物は畿内第V様式に類似する土器の細片をごく少量出土した。

### S D 23

A - Ⅲf地区で検出した。幅0.3~0.64m、深さ0.05~0.1mを測る東西方向の溝である。東部はS D 24と切り合う関係にあり、西部は現在の擾乱により切断される。断面は浅い皿状形を呈す。堆積土はS D 22・S D 24と同一土層である。

遺物は畿内第V様式に類似する土器の細片をごく少量出土した。

### S D 24

A - Ⅲf地区で検出した。幅0.4~0.55m、深さ0.05~0.15mを測る南北方向に至る溝である。断面は浅い皿状形を呈す。S D 23と切り合う関係にある。溝の中央部は現在の擾乱によって切断されている。堆積土はS D 23と同一土層である。

遺物は畿内第V様式に類似する甕等の土器の細片がごく少量出土した程度である。

### S D 25

A - Ⅲf地区で検出した。幅0.6~1m、深さ0.15mを測る南北方向に至る溝で、S D 24と平行に走る。断面は皿状形を呈す。堆積土は淡灰褐色粘土の單一層である。

遺物は畿内第V様式に類似する甕等の土器の細片をごく少量出土した。

### S D 26

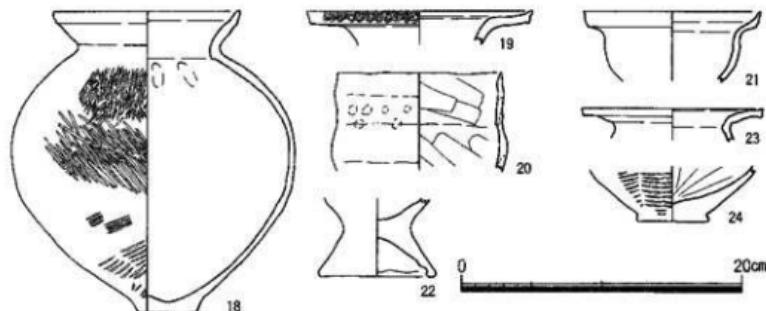
A - Ⅲg地区で検出した。幅3.2~3.68mを測る南北方向に至る溝で、北方に若干の拡がりをみる。中央部は幅0.9mの堤防状を呈す高まりがあり、両端部は深さ0.1mを測る2条の溝に分流している。堆積土は暗灰茶褐色シルト混じり粘土（わずかに粗砂を含む）の單一層である。

#### 出土遺物

北部の西溝基底面より畿内第V様式に類似する壺（18）が、横向きのまま上圧によって押し潰された状態で出土した。この壺は完形近くまで復元することができた。他には堆積土内から壺・鉢（19~22）・甕（23・24）等の土器の細片を少量出土した（第12図）。

### S D 27

A - Ⅲg地区で検出した。幅1.48~2.42m、深さ0.2mを測る南北方向に至る溝で、南側に若干の拡がりがある。この溝は北部の東肩でS D 30を切っている。堆積土は暗灰茶色シルト混じり粘土である。遺物は畿内第V様式に類似する鉢・甕等の土器片をごく少量出土した。



第12図 A-III g 地区 S D 26出土遺物実測図

**S D 28**

A-III g・h 地区北壁で検出した。北半部と東半部は調査区外に至る。検出部は東西5.5m、南北1.2m、深さ0.2mを測る溝状遺構である。南肩は東にS D 29、西にS D 31と切り合う関係にある。堆積土は暗灰色細砂混じり粘土の單一層である。

遺物は畿内第V様式に類似する甕の底部(25・26)等の細片をごく少量出土した(第14図)。

**S D 29**

A-III h 地区で検出した。幅0.28~0.85m、深さ0.14~0.24mを測る南北方向の溝である。北部はS D 28と切り合う関係にある。南部は脹らみをもちらながら調査区外に至る。堆積土はS D 28と同一土層である。

遺物は畿内第V様式に類似する土器の細片を少量出土した。

**S D 30**

A-III g・h 地区で検出した。幅0.25~0.85m、深さ0.05~0.1mを測る東西方向の溝である。中央部はS D 31に切られ、S D 27と合流する。東部はS D 31から約3mの所で途切れる。また、西部の南肩は土坑状に平面半円形の脹らみがある。堆積土は暗灰茶色砂粘土の單一層である。

遺物は出土していないが、S D 27・S D 28・S D 29の溝と同時期であると考える。

**S D 31**

A-III h 地区で検出した。幅0.37~0.9m、深さ0.25mを測る南北方向の溝である。南部は攪乱によって切断される。北部はS D 28と中央部はS D 30と切り合う関係にある。堆積土はS D 28・S D 30と同一土層である。

遺物は出土していないが、S D 28・S D 30等の溝と同時期であると考える。

**S D 32**

A-III g 地区で検出した。幅0.55m、深さ0.14mを測る東西方向の溝である。東部はS D 26

と切り合う関係にある。西部は途切れる。堆積土はSD28・SD30と同一土層である。

遺物は出土していないが、SD28・SD30等の溝と同時期であると考える。

#### SD107

22i地区で検出した。幅0.8~0.99m、深さ0.33mを測る南北方向に至る溝である。断面は皿状形を呈す。堆積土は淡灰色粘土の單一層である。

遺物は出土していないが、SD109・SD110の溝と同時期であると考える。

#### SD108

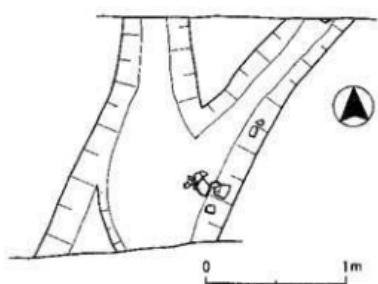
22j地区で検出した。幅0.5~0.77m、深さ0.39mを測る南東ー北西の方向に至る溝である。断面は皿状形を呈す。堆積土は暗灰褐色疊砂混じり粘土・淡灰色粘土の2層に分かれる。

遺物は出土していないが、SD109・SD110の溝と同時期であると考える。

#### SD109

22j地区で検出した。幅0.75~0.87m、深さ0.11mを測る南東ー北西の方向に至る溝である。南部はSD110によって切られる。断面は皿状形を呈す。堆積土は淡灰褐色疊砂混じり粘土・淡灰色粘土の2層に分かれる(第13図)。

遺物は畿内第V様式に類似する壺(27・28)・甕等の土器細片を少量出土した(第14図)。

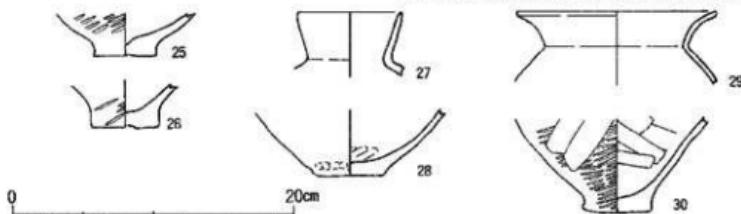


第13図 22j地区 SD109・SD110平面図

#### SD110

22j地区で検出した。幅0.75~0.87m、深さ0.11mを測る南西ー北東の方向に至る溝である。南部はSD109を切っている。断面は逆台形を呈す。南部の基底面は中央に堤防状の高まりがある。堆積土は灰褐色シルト混じり粘土・暗灰褐色シルト混じり粘土の2層に分かれる(第13図)。

遺物は畿内第V様式に類似する壺(29・30)等の土器の細片を少量出土した(第14図)。



第14図 A-III地区 SD28・22j地区 SD109・SD110出土遺物実測図

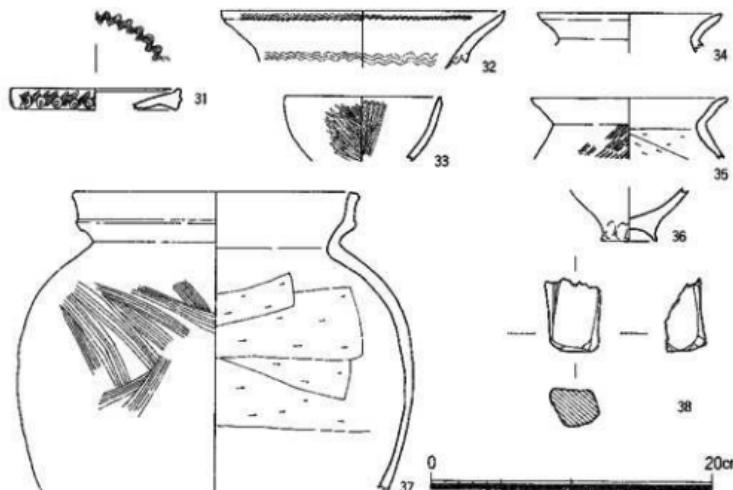
### 落ち込み状遺構

#### 落ち込み11

22 I 地区で検出した。幅5.8~6.1m、深さ0.2~0.44mを測る南北方向に至る落ち込み状遺構である。東部は2段に落ち込んで南北方向の溝状となっている。堆積土は暗灰色シルトの単一層である。

#### 出土遺物

畿内第V様式に類似する壺(31)・高杯(32・33)・鉢(36)・甕(34・35・37)等の土器の細片と砥石(38)が出土した。砥石は径4×5cmを測る白灰色の砂岩で、四面の使用痕が認められる(第15図)。



第15図 22 I 地区落ち込み11出土遺物実測図

#### 第4節 古墳時代前期の遺構・遺物（第2調査面）

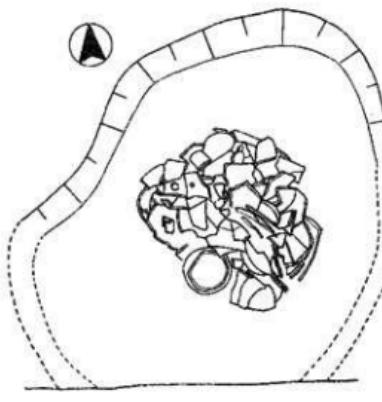
この時代の遺構は、A-I地区で弥生時代後期頃に埋没した河川跡の堆積土が安定した黄褐色粘土の上面（TP +7.6m）を構築面として土坑・木枠を設置した井戸・落ち込み状遺構を検出した。また、A-II地区は自然堤防を形成した微高地の西端部で、TP +8.3mを測る淡茶灰色砂粘土の上面より切り込む落ち込み状遺構が検出した。この遺構の堆積土内からは庄内期新相～布留期古相に比定される土器が多量に出土している。

以下、検出した遺構とそれに伴う遺物について各遺構ごとに記述する。

##### 土坑

###### S K 2

A-I b地区の南壁で検出した。南部の一部は調査区外に至る。検出部は東西径1m、南北径1.2m、深さ0.1mを測る土坑状遺構である。この遺構は落ち込みIの埋没した後に切り込まれている。堆積土は淡灰褐色粘土の単一層である（第16図）。



第16図 A-I b地区SK 2平面図

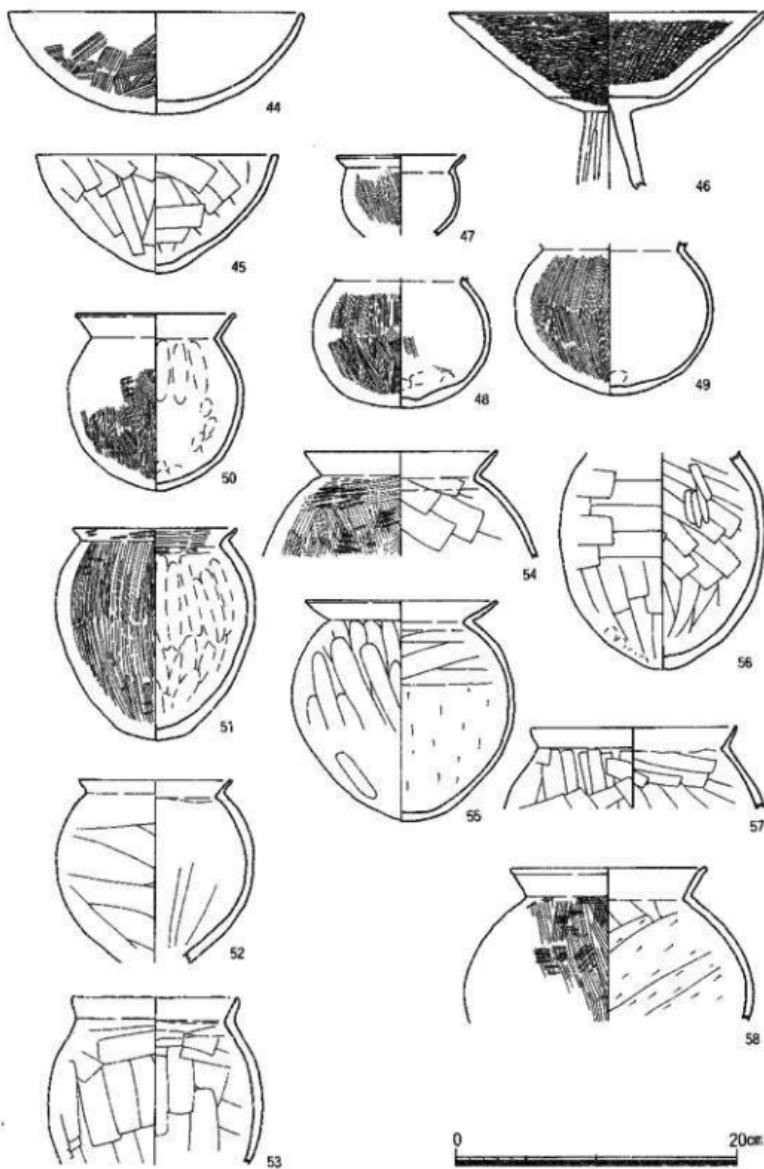
遺物は基底面中央部に径0.6m、厚み0.2mを測る土器の集積が検出された。土器の集積は細かく碎けて半球形に盛り上った状態であった。また、これらの土器を取り上げて復元作業を行ったが、完形近くまで復元できる土器がごくわずかであったことは、使用不能になった土器を廃棄したのではないかと推測される。土器の器種は鉢（44・45）・高杯（46）・小型丸底鉢（47～49）・壺（50～58）等である。（第17図）。

##### 井戸

###### S E 1

A-I c地区の中央部付近で検出した木枠を伴う井戸である。規模は径約1.8m、深さ0.8mを測る掘形で、平面はほぼ円形を呈す。断面は上部皿状形、下部は逆台

形を成し、南側の一部は抉られている。これは構築時に豊富な湧水があったことを示すものと推測できる。掘形の堆積土は上方から茶灰色粘土・灰褐色粘土・淡灰黄色粘土・灰色粘土である。井戸枠は掘形の検出面（TP +8.3m）より第1層約0.2mの下面で井戸枠の上部先端部が

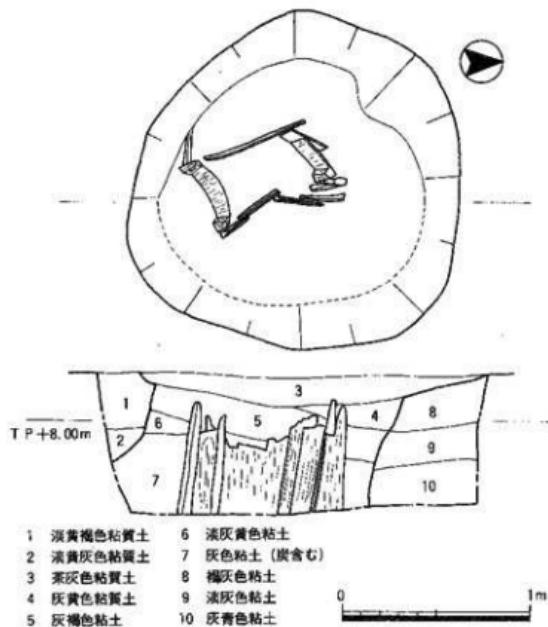


第17図 A-I b 地区 SK 2出土遺物実測図

発露し、これを掘り下げるに因って東西辺0.4m、南北辺0.8mを測る平面長方形の木枠が発見した。木枠は土圧に因って内側に若干押し曲げられた状態であった。木枠の組合せは東に4点(4・8・10・11)、西に1点(12)、南に2点(1・9)、北に3点(2・3・6)とそれと木枠内より木枠が破損したと考えられる木枠材2点(5・7)の合計12点である。これらの木枠の上部は腐触しているが、下部は工具による加工痕を明瞭に残している(第19図~第24図)。

板材の形態は、両端部を方形の角材状に残し内側を薄く板状に加工するもの(1)とこれと同形のものを縦半分に切断したもの(2・3)、さらに角材部を削り取り板状にしたもの(4・6・8・9・11)で、これらは井戸枠を設ける為に下部の先端部を尖らして、湧水層(淡灰色細砂層)に差し込んでいた。また、幅広い板材で下部のコーナー部の1ヶ所に長方形の穿孔があるもの(12)、下部に角材部を残す板材のもの(5)、薄く板状にしたもの(7・10)が使用されている。

これらの板材は、井戸枠として使用する前の用途は不明であるが井戸の木枠として再利用するに二次加工を施している。なお、個々の木材枠は第2表に表わした(第18図)。



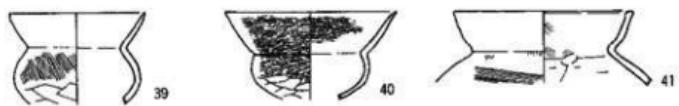
第18図 A—I c 地区 S E 1 平断面図

### 出土遺物

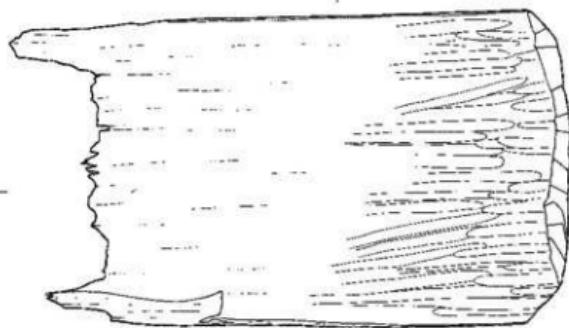
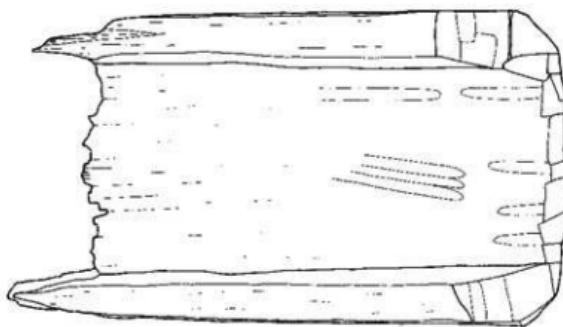
井戸枠内の上層より布留期古相に類似する土器の細片がごく少量出土した。器種は小型丸底壺(39・40)・高杯・壺(41)等である(第19図)。

第2表 SE1木枠観察表

通査番号 同種番号	(cm) 全長 幅 厚さ(高さ)	形 態	技 法	備 考
1 五十三	全長 76.0 幅 45.2 厚さ 2.4~2.8 角材部 4.8×5.6	長方形の形を成し、両端に角材部を残して中央部を薄い板状に削り、下部は鋭く尖らす。 上部は直線。	工具で丁寧に削る。 下部は鍬に削る。	転用材(用途不明)
2 五十四	全長 92.0 幅 30.0 厚さ 2.8 角材部 6.8×5.6	Iと同形のものをたて半分に切断したものである。	工具で丁寧に削る。 下部は鍬に削る。	転用材(用途不明)
3 五十五	全長 91.2 幅 14.8 厚さ 2.0~2.4 角材部 5.2×6.0	Iと同形のものをたて半分に切断したものである。	工具で丁寧に削る。 下部は鍬に削る。	転用材(用途不明)
4 五十五	全長 77.2 幅 23.2 厚さ 2.0~3.0	2と同形のものを角材部を削りとて板状にしたものである。	工具で丁寧に削る。 下部は鍬に削る。	転用材(用途不明)
5 五十五	全長 69.2 幅 9.4 厚さ 2.0	下部に角材部をもつ細い板で、焼けているため表面は灰となる。	不明。	転用材(用途不明)
6 五十六	全長 66.8 幅 20.8 厚さ 1.2~2.8	4と同形。	工具で丁寧に削る。 下部は鍬に削る。	転用材(用途不明)
7 五十六	全長 57.6 幅 9.2 厚さ 1.6	細い板で、下部は鋭く尖らす。 上部は直線。	工具で丁寧に削る。 下部は鍬に削る。	転用材(用途不明)
8 五十七	全長 64.8 幅 25.6 厚さ 2.0~2.8	4と同形。	工具で丁寧に削る。 下部は鍬に削る。	転用材(用途不明)
9 五十七	全長 63.7 幅 18.2 厚さ 2.0~3.2	4と同形。	工具で丁寧に削る。 下部は鍬に削る。	転用材(用途不明)
10 五十八	全長 74.8 幅 14.4 厚さ 1.2~2.4	7と同形。	工具で丁寧に削る。 下部は鍬に削る。	転用材(用途不明)
11 五十八	全長 62.0 幅 14.2 厚さ 1.2~2.4	4と同形。	工具で丁寧に削る。 下部は鍬に削る。	転用材(用途不明)
12 五十八	全長 72.0 幅 65.6 厚さ 2.0~2.8	板の広い板で、両端部は丸く加工されている。 下部付近に長方形の穿孔を有す。 上部は直線。	工具で丁寧に削る。 下部は鍬に削る。	転用材(用途不明)

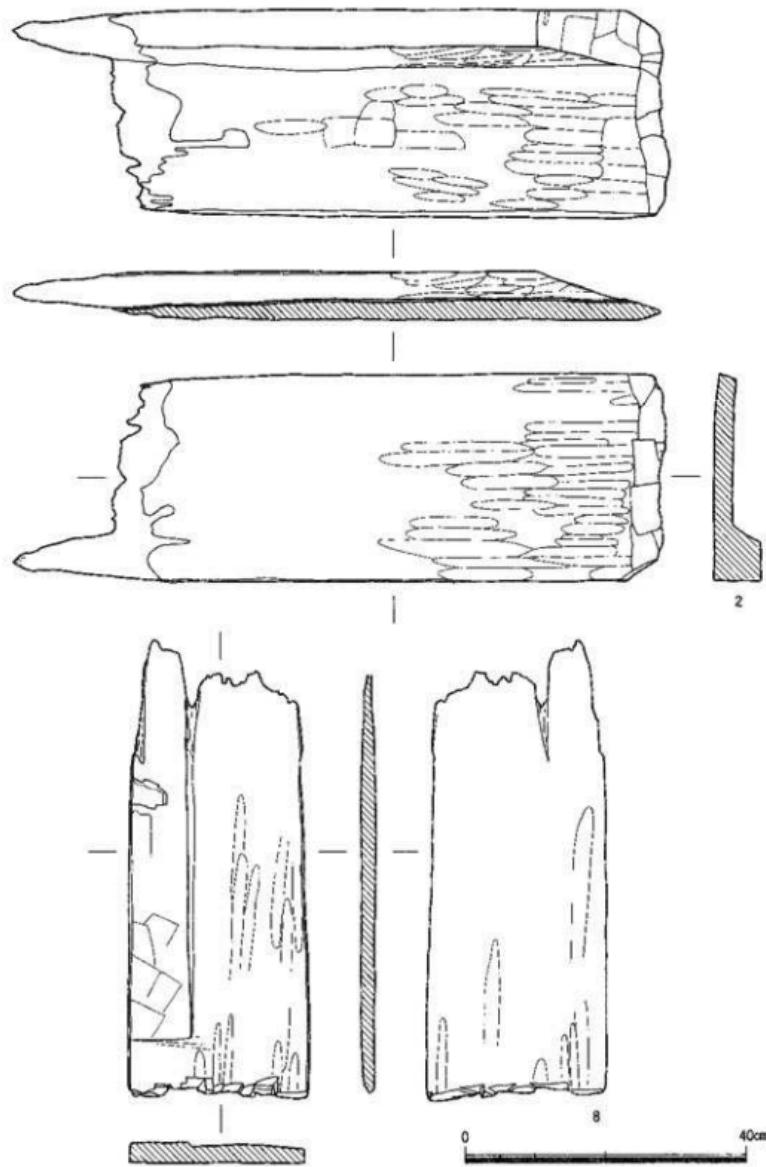


0 20cm

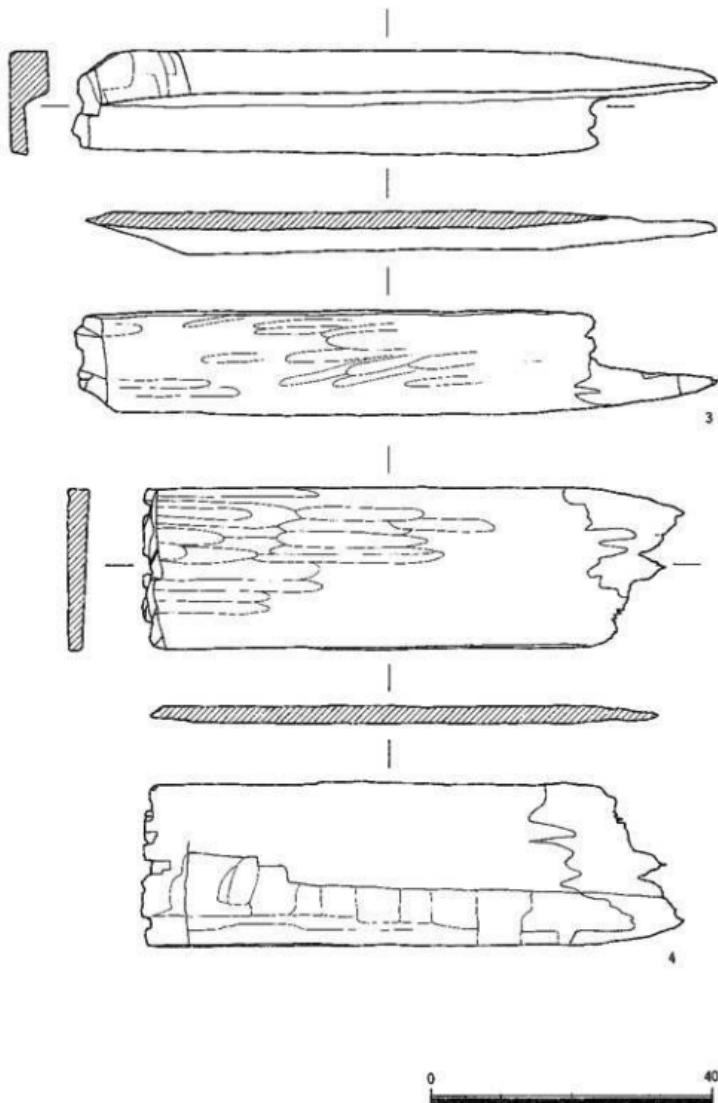


0 40cm

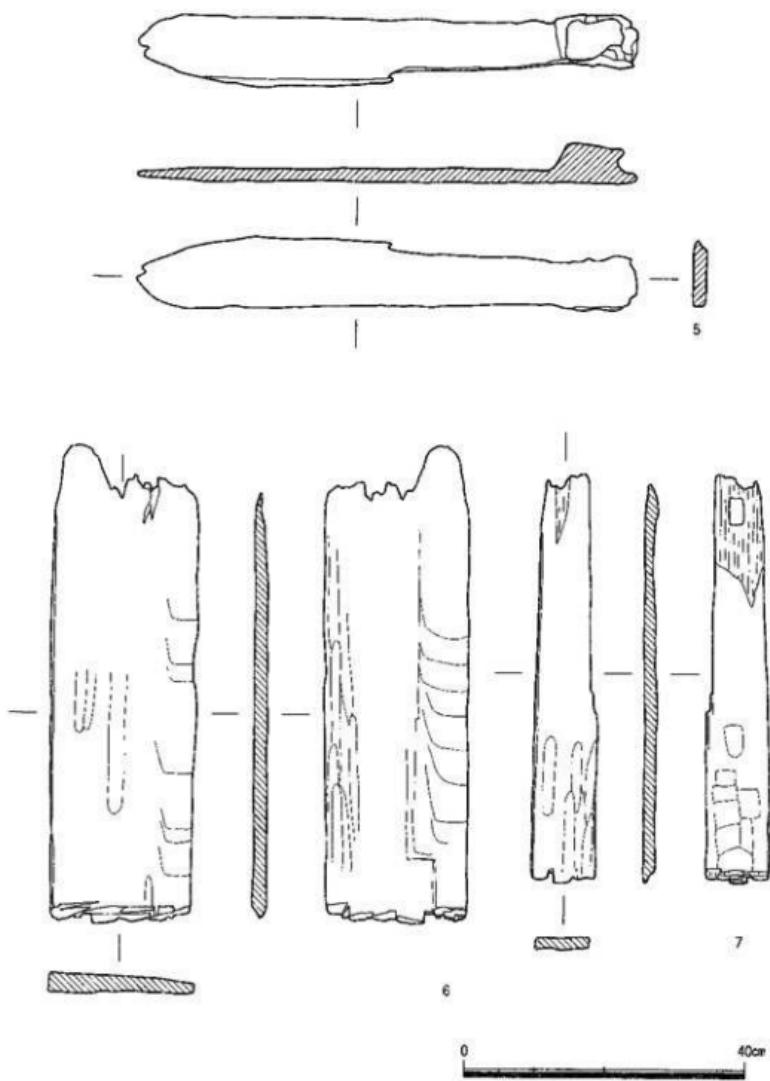
第19圖 A-I c 地區 S E 1 出土遺物・木粹實測圖 1



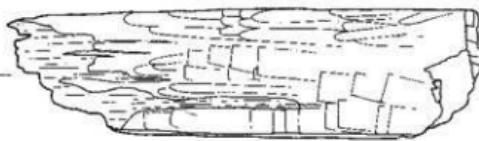
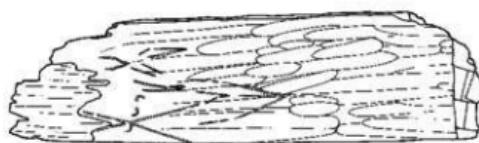
第20圖 A-Ic 地區 S E 1 木桿實測圖2

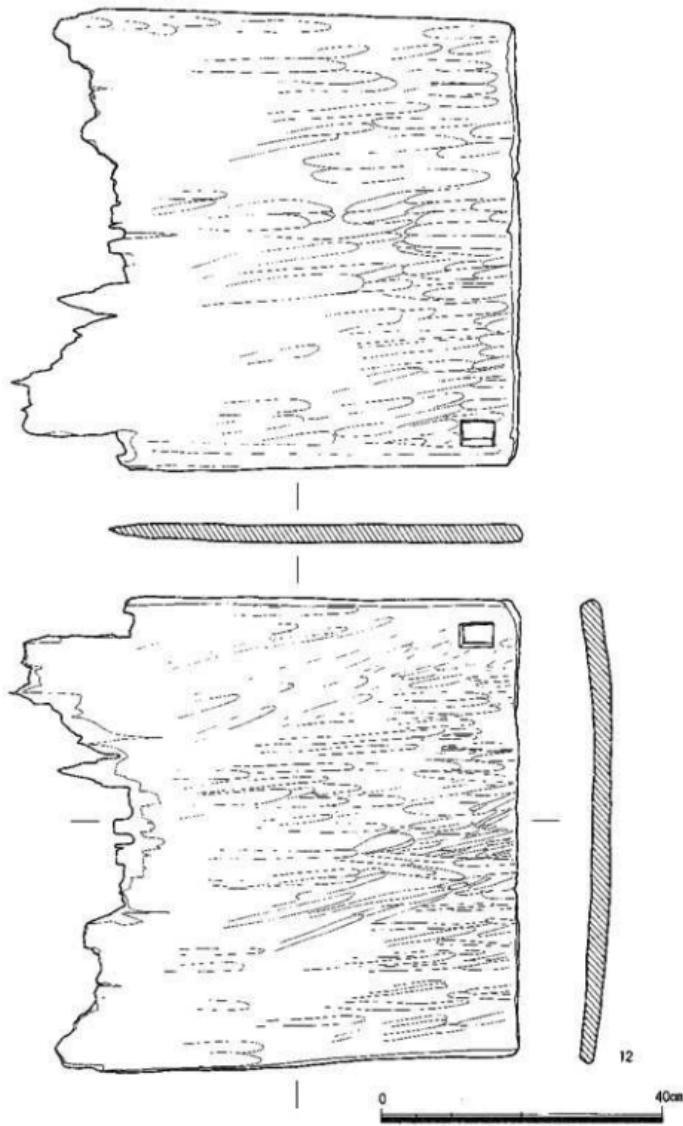


第21図 A-Ic地区SE1木枠実測図3



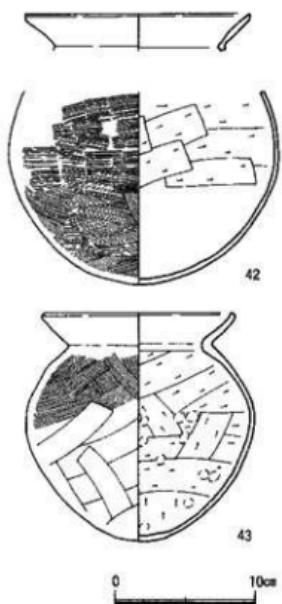
第22図 A-Ic地区 S-E 1木棒実測図4





第24図 A—Ic地区SE1木枠実測図6

### 落ち込み状遺構



第25図 A—I b 地区落ち込み 1  
出土遺物実測図

### 落ち込み 1

A—I b 地区で検出した。検出部は幅10m前後、深さ0.33mを測る南東—北西に至る落ち込み状遺構である。断面は皿形状を呈す。堆積土は黄灰褐色粘土・灰青色粘土の2層に分かれる。この遺構が埋没したのちにSK2が切り込まれている。また、平安時代以降と考えられるSD2・SD3が横断する。

### 出土遺物（第25図）

南部の基底面付近で庄内式の甕（42・43）2点が、完形に近い状態で出土した。この庄内式の甕は「八尾南遺跡」の古墳時代前期の土器編年によるⅢ期に類似する。

### 落ち込み 7

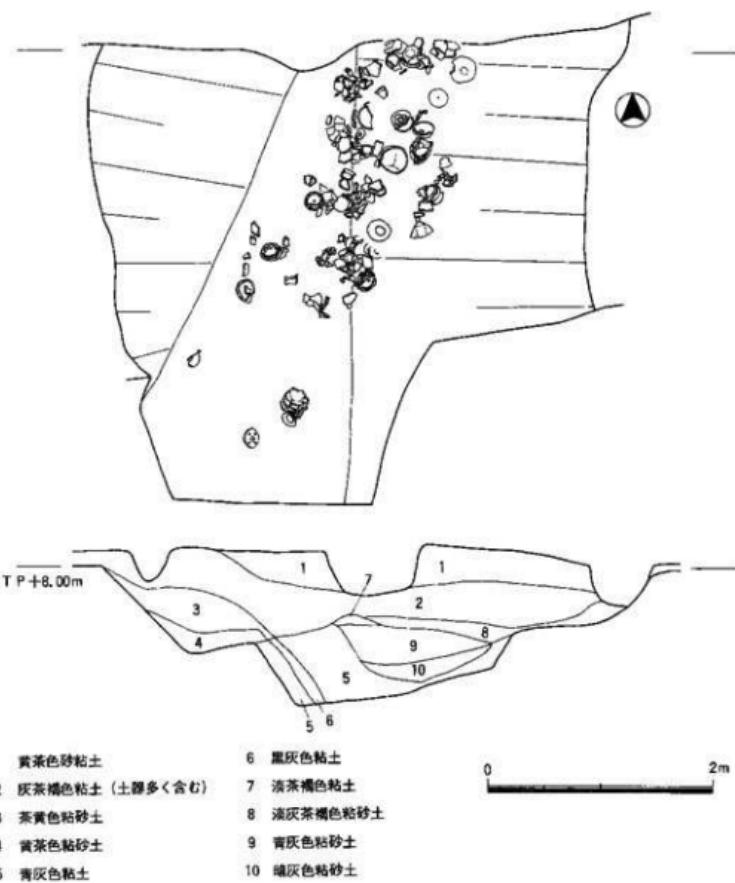
A—I a・b 地区で検出した。検出部は幅4.9m、深さ1.2mを測る南北方向に至る落ち込み状遺構である。断面は2段に成る逆台形を呈す。堆積土は上方から第1層黄茶色砂粘土・第2層灰茶褐色粘土・第3層茶黄色粘砂土・第4層黄茶色粘砂土・第5層青灰色粘土・第6層黒灰色粘土・第7層淡茶褐色粘土・第8層淡灰茶褐色粘砂土・第9層青灰色粘砂土・第10層暗灰色粘砂土である。下層は堆積状況からみて、一定時期に帶水状態であったと考えられる。なお、この遺構は性格・規模等を把握するため、南部と北部にそれぞれ約1mの拡張を実施したが変化はなく南北方向に延びる。また、南部約50mに位置する22地区においても認められなかった（第26図）。

### 出土遺物（第27図～第37図）

遺物は、第2層・第5層を主として庄内期～布留期古相に比定される土器が多量に混入していた。この量はコンテナにして約40箱を数え、調査区全体で出土した遺物の約半分を占める。

出土状況は東側より人為的に投げ棄てられた状態で東傾面上に積み重なり合っていた。特に北部は竹ベラ等の発掘用具で差し入れできない程の土器片が集積して出土した。それらの出土した土器は大半が壊れ細片化した状態で、完形又は完形に近い形で出土したのはごく少量であった。

土器の器種は壺（59～78）・鉢（79～95）・鼓形器台（96）・器台（97～102）・高杯（103～117）・製塩土器（118・119）・甕（120～252）でバラエティーに富んでいる。このうち甕が大半を占め、



第26図 A-Ill a地区落ち込み7平面面図

他の器種はそれぞれ少量であった。以下、各器種ごとについて簡単に分類し記述する。なお、胎土分析による結果の類型分類も記載した（分析の詳細は第5章胎土分析を参照）。

壺(59~78) 出土した土器の約3割を占める。実測できたものは29点を数える。形態の特徴は15分類に大別できる。

壺A類(59)：球形の体部から屈曲して上外方する口縁部に至り、端部は丸く終わる。底部は丸底である。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ、下位ヘラナデ、内面ヘラナデを施す。胎土分析はⅣ類型。

壺B類(60)：口縁部は上外方へ外反し、端部は上につまみ外に平坦な面をもつ。体部は欠損して不明である。調整は口縁部内外面ヨコナデを施す。胎土分析はⅣ類型。

壺C類(61・67)：肩部から一旦上外方した後、外上方へ外反する口縁部に至る。端部は外傾する凹面をもつ。調整は口縁部・体部外面ヘラミガキ、内面は摩滅の為不明である。胎土分析は61がⅥ類型、67がⅡ b類型。

壺D型(62)：外傾する頸部から外上方へなだらかに伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。口縁部外面に波状文が施されている。他はヨコナデである。胎土分析はⅣ類型。

壺E類(63)：外上方へ外反する頸部から上外方へ外反気味に伸びる複合口縁となる。端部はややつまみ外に面をもつ。体部は欠損して不明。調整は内外面ともにヨコナデ。胎土分析はⅡ a類型。

壺F類(64)：外上方へ外反する頸部から上外方して複合口縁となる。口縁部外面に緩やかな凹線が幾つかみられる。端部は面をもつ。体部は欠損して不明。調整は頸部外面ハケナデ、他はヨコナデ。複合口縁の形態は山陰系土器の特徴をもつ。胎土分析はⅣ類型。

壺G類(65・66)：体部から丸く屈曲し、外上方へ外反する頸部よりさらに斜上方へ伸びる複合口縁となる。端部は丸く終わる。口縁部内外面上位に波状文を施す。調整は体部外面・口縁部ハケナデ後ヘラミガキ、体部内面ヘラナデ。胎土分析は65がⅤ類型、66がⅦ類型。

壺H類(68・72)：上内方へ外反する頸部からやや鋭く屈曲し、外上方する口縁部に至る。端部は外傾し、凹面をもつ。口縁部内面上位に竹管円形押正文を有す。調整は口縁部外面ヨコナデ、一部ハケナデ。体部内面ヘラケズリ、胎土分析は68がⅡ a類型、72がⅦ類型。

壺I類(69・74)：球形の体部から丸く屈曲して上外方へ外反する口縁部に至り、端部は丸く終わる。底部は欠損して不明。調整は口縁部外面ハケナデ、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面上位指ナデ、下位ヘラナデ後ハケナデ。胎土分析は69がⅤ類型、74がⅦ類型。

壺J類(70)：最大径をやや下位にもつ球形の体部から丸く屈曲し、上外方へ外反する口縁部に至る。底部は突出氣味の平底。端部は欠損して不明。調整は体部上位外面ヘラミガキ、下位は摩滅の為不明、内面ハケナデ後ヘラナデ。胎土分析はⅤ類型。

- 壹K類(71)：丸底の底部から球形の体部に至る。口縁部は欠損する。調整は体部外面上位タタキ、中位ハケナデ後ヘラミガキ、内面ハケナデ。胎土分析はVI類型。
- 壹J類(73)：体部から直立気味に伸び、屈曲して斜上方する口縁部に至る。端部は外に凹面をもつ。体部は欠損して不明。調整は摩滅の為不明。胎土分析はVII類型。
- 壹M類(74)：口縁部は外上方へ外反し、端部は外にやや肥厚する。体部は欠損して不明。調整は口縁部外面ヨコナデ後ヘラミガキ、内面ヨコナデ。胎土分析はVI類型。
- 壹N類(75・76)：口縁部は上外方へ長く伸び、端部は外傾し平坦な面をもつ。体部は欠損して不明。調整は口縁部外側ヘラナデ、内面ヨコナデ。胎土分析は75がIIc類型、76がIa類型。
- 壹O類(77・78)：平坦な底部から球形に近い体部に至る。口縁部は欠損して不明。調整は体部内外面ヘラナデ、底部外側ヘラケズリ。胎土分析はIV類型。
- 鉢(79～95) 出土した土器の約1割を占める。実測できたものは16点を数える。形態の特徴は6分類に大別できる。
- 鉢A類(79)：半球形の体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反する口縁部に至る。端部は丸く終わる。底部は欠損して不明。調整は外面タタキ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。胎土分析は79がVI類型。
- 鉢A1類(80～85)：半球形の体部から緩やかに屈曲し、上外方へ内側気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は丸底。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外側ナデ、内面ヘラナデ。胎土分析は80・85がIV類型、81がVI類型、82～84は分析不能。
- 鉢A2類(86)：鉢A1類の形態で、杯体部に比べ口縁部が短い。胎土分析はIV類型。
- 鉢A3類(87)：半球形の体部から屈曲し、斜上方へ長く伸びる。端部は丸く終わる。底部は丸底。調整は口縁部外側ヨコナデ後ヨコナデ、体部外側ヨコナデ、内面ヘラナデ、胎土分析はIIa類型。
- 鉢B類(88・89)：丸底の底部から楕円形の体部に至り屈曲し、内側気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。調整は口縁部内外面ヨコナデ後ヘラミガキ、体部外側ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文。胎土分析は88がIIc類型、89がIV類型。
- 鉢C類(90)：丸底の底部から楕円形の体部に至り、口縁部付近で緩やかな稜をもち、そのまま上外方する口縁部に至る。端部は丸く終わる。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外側ヘラケズリ、内面ヘラナデ。胎土分析はIV類型。
- 鉢C1類(91)：鉢C類の形態で、浅い鉢である。胎土分析はIId類型。
- 鉢D類(92)：深い半球形の体部から、そのまま内側する口縁部に至る。端部は内側に鈍く尖る。底部は欠損して不明。調整は外面ナデ、内面ヘラナデ。胎土分析はV類型。

鉢 D 1類(95)：鉢 D 類の形態で、器形がやや大きい。調整は体部内外面ハケナデ。胎土分析

はⅠ b 類型。

鉢 E 類(93)：最大径を上位にもつ扁平な球形の体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。

端部は外傾し平坦な面をもつ。底部は丸底。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ヘラナデ、内面ヘラケズリ。

鉢 F 類(94)：半球形の体部から僅かに屈曲し、上外方へ内彎気味の口縁部に至る。端部は外傾し、平坦な面をもつ。底部は丸底。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ヘラナデ、内面ヘラケズリ、底部外面ヘラケズリ。

器台(96~102) 出土した土器の約0.5割を占める。実測できたものは6点を数える。形態の特徴は3分類に大別できる。

器台 A 類(96)：頸部から上に外反する鼓形である。口縁部は斜上方へ伸び、端部は内傾する平坦な面をもつ。裾端部は内傾する平坦な面をもつ。頸部の上下には凸帯が一条ずつ巡る。調整は外面ヨコナデ、内面は摩滅の為不明。形態は山陰地方の特徴をもつ。胎土分析はⅣ 類型。

器台 B 類(97・99・101)：平坦な受部底部から外上方へ緩やかに内彎して口縁部に至る。端部は鈍く尖る。脚部は斜下方に直線的に伸び、端部は鈍く尖る。脚部の中位に四方の円孔をもつ。調整は受部外面と脚部外面ヘラミガキ、脚部内面上位ナデ、下位ヨコナデ、胎土分析は97・101がⅥ 類型、99がⅡ e 類型。

器台 B 1類(98・100)：器台 B 類の形態で、受部端部は上につまむ。胎土分析は98がⅣ 類型、100がⅡ c 類型。

器台 C 類(102)：脚部は斜下方に外反気味に伸び、裾端部は平坦な面をもつ。受部は欠損するが、受部と脚部は貫通する。脚部中位に三方の円孔をもつ。調整は脚部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面ハケナデ後ヘラナデ。胎土分析はⅡ b 類型。

高环(103~117) 出土した土器の約1割を占める。実測できたものは14点を数える。形態の特徴は5分類に大別できる。

高环 A 類(103~107)：橢形の环部から上外方に内彎する口縁部に至り、端部は丸く終わる。脚部は短く下外方する中空の柱状部から屈曲し、大きく外下方に伸び、环部の径を凌ぐ裾部をもつ。裾端部は鈍く尖る。脚部中位に四方の円孔をもつ。調整は口縁部外面ヨコナデ後ヘラミガキ、内面ヨコナデ後放射状暗文、环部外面ハケナデ後ヘラミガキ。胎土分析は104がⅡ a 類型、105・107がⅥ 類型、103が分析不能。

高环 B 類(108)：深い椭形の环部から斜上方へ緩やかに内彎する口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。柱状部は环部から下外方に裾部まで伸び、中空である。裾部は欠損する。調

整は内外面ナデ。胎土分析はⅥ類型。

高坏C類(109~113)：平坦な坏底部から斜上方へ緩やかに内轉する口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。柱状部は坏部から下外方に裾部まで伸び、中空である。裾部は欠損する。調整は外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文。胎土分析は109・110がⅦ類型、111・112がⅡc類型、113がⅣ類型。

高坏D類(114)：椀形気味の坏底部から屈曲し、斜上方へ外反する口縁部に至る。端部は丸く終わる。脚部は緩やかな綾をもつ中空の柱状部から大きく広がる裾部に至り、端部は鋭く尖る。裾部上位に四方の円孔をもつ。調整は坏部柱状部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文、脚部外面ハケナデ後ヘラミガキ、脚部内面くりぬき・ハケナデ。胎土分析はⅡb類型。

高坏E類(115~117)：平坦な坏底部から斜上方へ伸びる口縁部に至り、端部は外傾し、凹面をもつ。脚部は直立気味の柱状部から屈曲し、外下方へ外反気味に伸びる裾部に至り、裾端部は鋭く尖る。裾部中位に四方の円孔をもつ。調整は坏部内外面ハケナデ後ヘラミガキ、坏底部外面ヘラナデ後ヘラミガキ、柱状部外面ヘラナデ後ハケナデ。胎土分析は115がⅡb類型、116がⅣ類型、117がⅥ類型。

製塙土器(118・119) 出土した土器の極僅かで、実測できたものは2点を数える。

製塙土器A類(118)：下外方に外反する脚台から半梢円形の体部に至る。脚台端部は面をもつ。調整は体部外面タタキ、内面ヘラナデ、脚台部ナデ。脚台<sub>上</sub>1式に類似する。胎土分析はⅣ類型。

製塙土器A1類(119)：製塙土器A類の形態で、脚台端部は丸く終わる。胎土分析はⅥ類型。

甕(120~252) 出土した土器の約5割を占める。実測できたものは132点を数える。形態的特徴は大きく畿内第V様式系・庄内式土器・布留式土器・他地方の形態をもつ土器に分れ、これらをさらに細分すると19分類できる。

甕A類(120・133・134)：畿内第V様式系の形態的特徴にはほ類似する。最大径をやや上位にもつ梢円形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は突出(気味)の平底。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面粗いタタキ(後ハケナデ)、内面ヘラ(ハケ)ナデ、底部ナデ。胎土分析は120がⅥ類型、133がⅡe類型、134がⅡc類型。

甕A1類(121・124)：体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾し、凹面をもつ。体部は不明。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面粗いタタキ、内面ヘラナデ。胎土分析は121がⅡe類型、124がⅡb類型。

甕A2類(122)：口縁部の形態や調整は甕A1類である。端部は丸く終わる。

- 壺A3類(123)：壺A類の形態で、口縁部が外上方へ短く外反した後、さらにもう一度外反する口縁部に至る。端部は面をもつ。胎土分析はⅣ類型。
- 壺A4類(125)：壺A1類の形態と特徴で、端部が外に凹面をもつ。胎土分析はⅣ類型。
- 壺A5類(126・130)：壺A1類の形態と特徴で端部は外傾する平坦な面をもつ。胎土分析は126がⅥ類型、130がⅢ類型。
- 壺A6類(127)：壺A1類の形態と特徴で、端部は軽くつまみ上げる。胎土分析はⅤ類型。
- 壺A7類(128)：橢円形の体部から鋭く屈曲し、外上方へ外反する口縁部に至る。胎土分析はⅡc類型。
- 壺A8類(129)：壺A7類で、体部が球形に近い。胎土分析はⅣ類型。
- 壺A9類(131)：壺A類で、球形な体部に丸い底部をもつ。胎土分析はⅣ類型。
- 壺B類(132)：小型で球形の体部から丸く屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。胎土分析はⅣ類型。
- 壺C類(135～137・142・146・147・150・152～155・157～159・162～199)：小型で庄内式の形態的特徴をもつ。球形の体部から屈曲し、上外方(斜上方)へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ(つまみ上げる)。底部は丸底。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ハケナデ、内面ヘラケズリ。胎土分析は136・142・146・153～155・162・163・165・166・168・169・171・172・174～177・180・182～187・192～194・197・198がⅠa類型、135・137・147・150・152・158・159・164・167・170・173・178・179・189～191・195・196がⅠb類型、181がⅣ類型、199がⅡc類型。
- 壺C1類(138)：壺C類の形態で、調整が体部外面粗雑なハケナデ。胎土分析はⅣ類型。
- 壺C2類(139)：壺C類の形態で、下位に張りをもつ橢円形の体部。調整は体部外面上位ハケナデ、下位ヘラナデ。胎土分析はⅠb類型。
- 壺C3類(140・145・151・159)：壺C類の形態で、調整が体部外面に從横の細かいハケナデを施す。胎土分析は140・159がⅠb類型、145がⅣ類型、151がⅥ類型。
- 壺C4類(141・149・156)：壺C類の形態で、調整が体部外面上位タタキ後ハケナデ、下位ヘラナデ。胎土分析は141・156がⅠa類型、149がⅠb類型。
- 壺C5類(143)：壺C類の形態で、器体は中型で、底部が尖り底。胎土分析はⅠa類型。
- 壺C6類(144)：壺C類の形態で、体部外面のタタキの方向が他のものと逆の右下り。胎土分析はⅣ類型。
- 壺C7類(148)：壺C類の形態で、体部外面タタキ後ヘラナデ。胎土分析はⅠb類型。
- 壺D類(200・201)：偏平な球形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。器体は小型。底部は欠損。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面

ヘラケズリ、胎土分析は200がⅡ b類型。201が分析不能。

甕E類(202・204・207)：橢円形と思われる体部から丸く屈曲し、外上方に外反する口縁部に至る。端部は丸く終わる。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラケズリ。胎土分析は202・207がⅠ b類型、204がⅠ a類型。

甕E 1類(203)：甕E類の形態で、体部外面ハケナデ。胎土分析はⅣ類型。

甕E 2類(205・208)：甕E類の形態で、口縁部端部が外傾する面をもつ。調整は体部外面ハケナデ。胎土分析は205・208がⅣ類型。

甕E 3類(206)：甕E類の形態で、調整が体部外面ナデ後ヘラナデ。胎土分析は分析不能。

甕F類(209)：半球形の体部から斜上方へ内彎する口縁部に至る。端部は丸く終わる。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラケズリ。胎土分析はⅡ c類型。

甕G類(210)：偏平な半球形の体部から屈曲し、斜上方した後短く外上方へ外反する口縁部に至る。端部は上につまむ。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ後ハケナデ、下位ヘラナデ、内面ヘラケズリ。胎土分析はⅠ a類型。

甕H類(211)：肩部に張りのない球形の体部から屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。口縁部は端部付近で器張れし、端部は外傾する面をもつ。調整は口縁部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部内外面ハケナデ。胎土分析はⅤ類型。

甕I類(213・214・216・217・219・224・225)：球形と思われる体部からやや鋭く屈曲し、外上方(斜上方)へ内彎(気味)に伸びる口縁部に至る。端部は肥厚する(外傾する凹面をもつ)。胎土分析は213・216・217がⅣ類型、214・224・225がⅥ類型、219がⅡ b類型。

甕J類(218・220)：丸底の底部から球形の体部に至る。口縁部は斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。胎土分析は218がⅣ類型、220がⅥ類型。

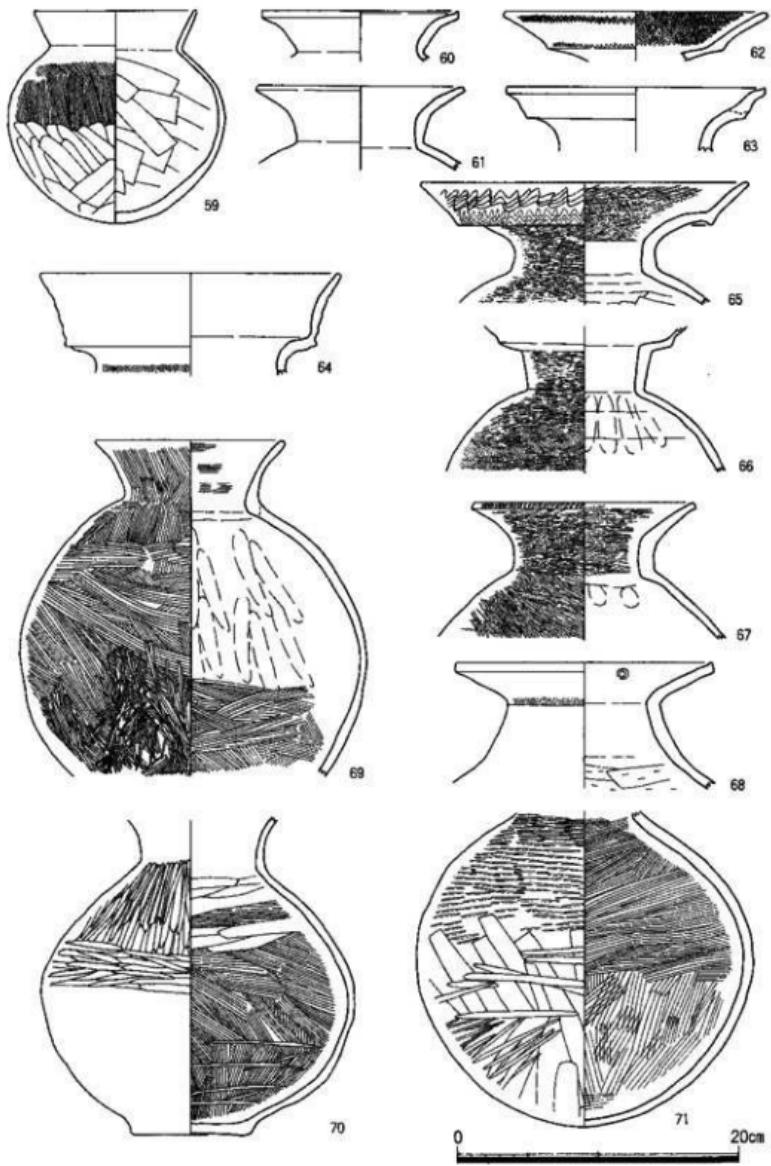
甕K類(221)：体部からやや鋭く屈曲し、外上方へ外反(気味)の口縁部に至る。端部は丸く終わる。胎土分析はⅠ b類型。

甕L類(222)：半球形と思われる体部から屈曲し、外上方へ外反する口縁部に至る。端部は上下に肥厚し面をもつ。胎土分析はⅠ a類型。

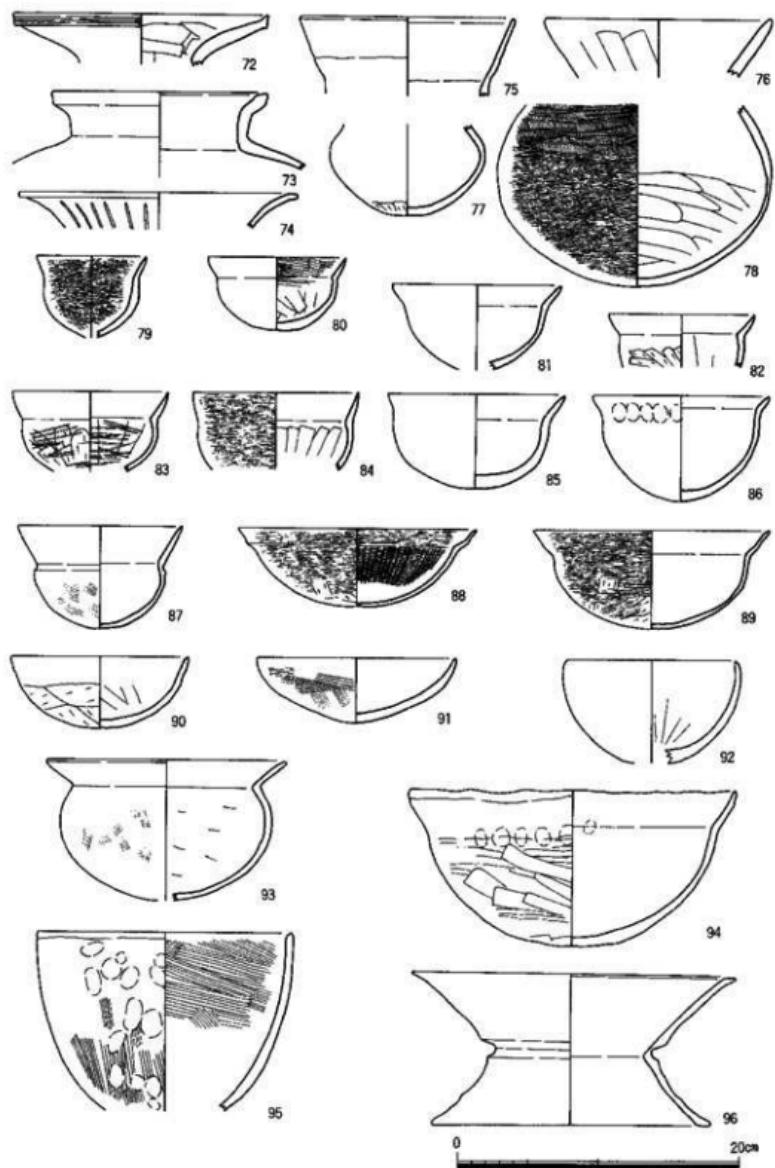
甕M類(226～230)：直線的に上外方する体部から鋭く屈曲し、水平気味に外反する口縁部に至る。端部は上につまみ、鋭く尖る。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヘラケズリ。東部瀬戸内系の形態をもつ。胎土分析は228・229がⅡ d類型、他が分析不能。

甕N類(231)：体部から丸く屈曲し、短く弯曲する(S字状)口縁部に至る。端部は鋭く尖る。中部東海系(尾張系)の形態をもつ。胎土分析はⅣ類型。

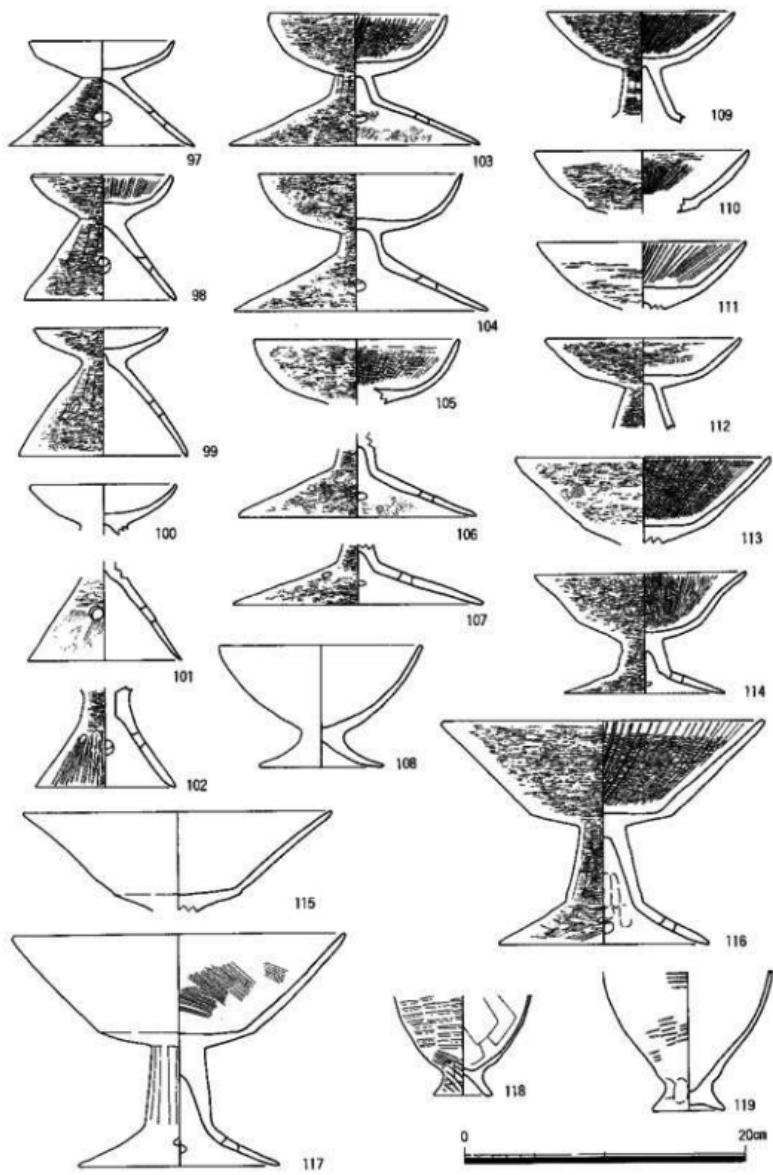
甕O類(233)：口縁部は水平(気味)に外反し、端部は長くつまみ上げる。胎土は分析不能。



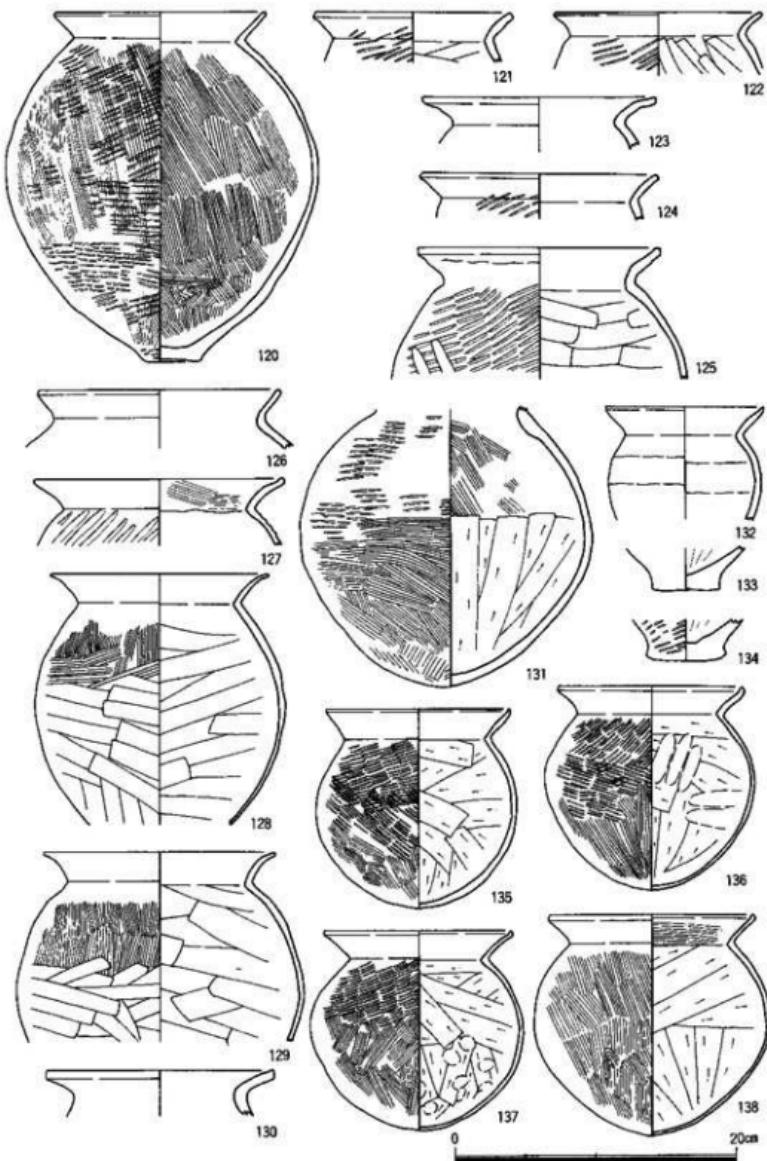
第27図 A-III-a地区落ち込み7出土遺物実測図1



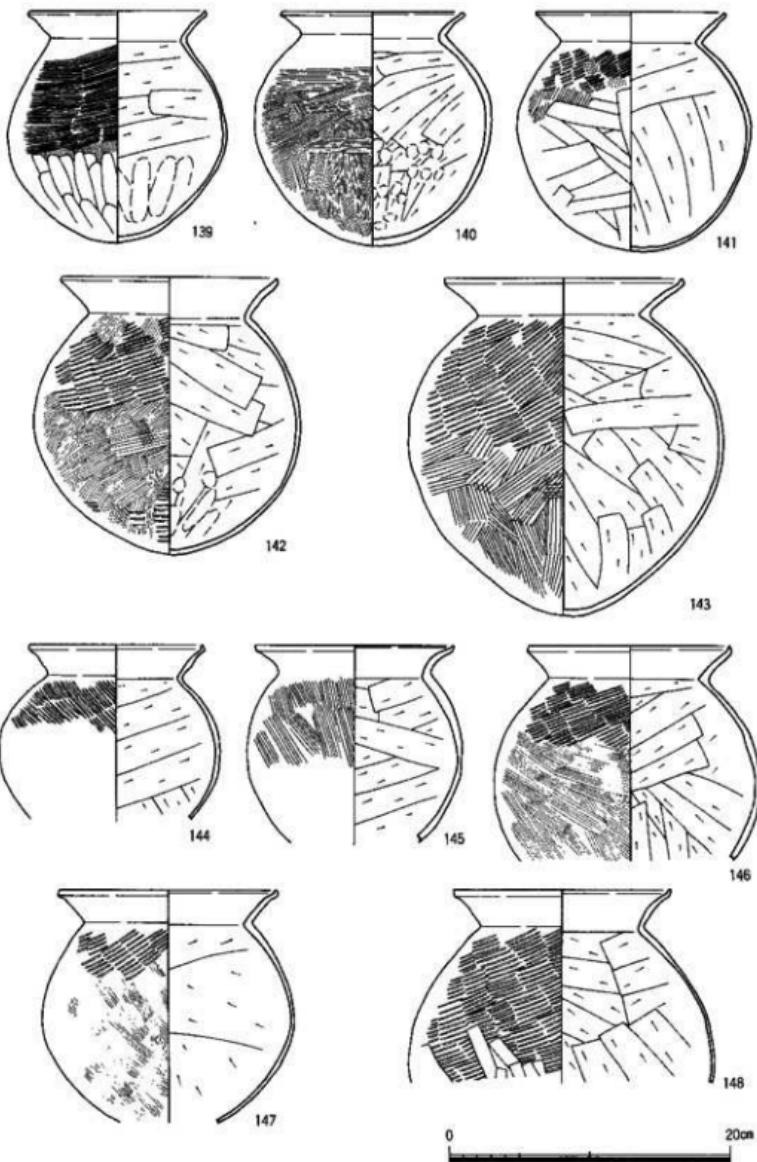
第26図 A-III a地区落ち込み7出土遺物実測図2



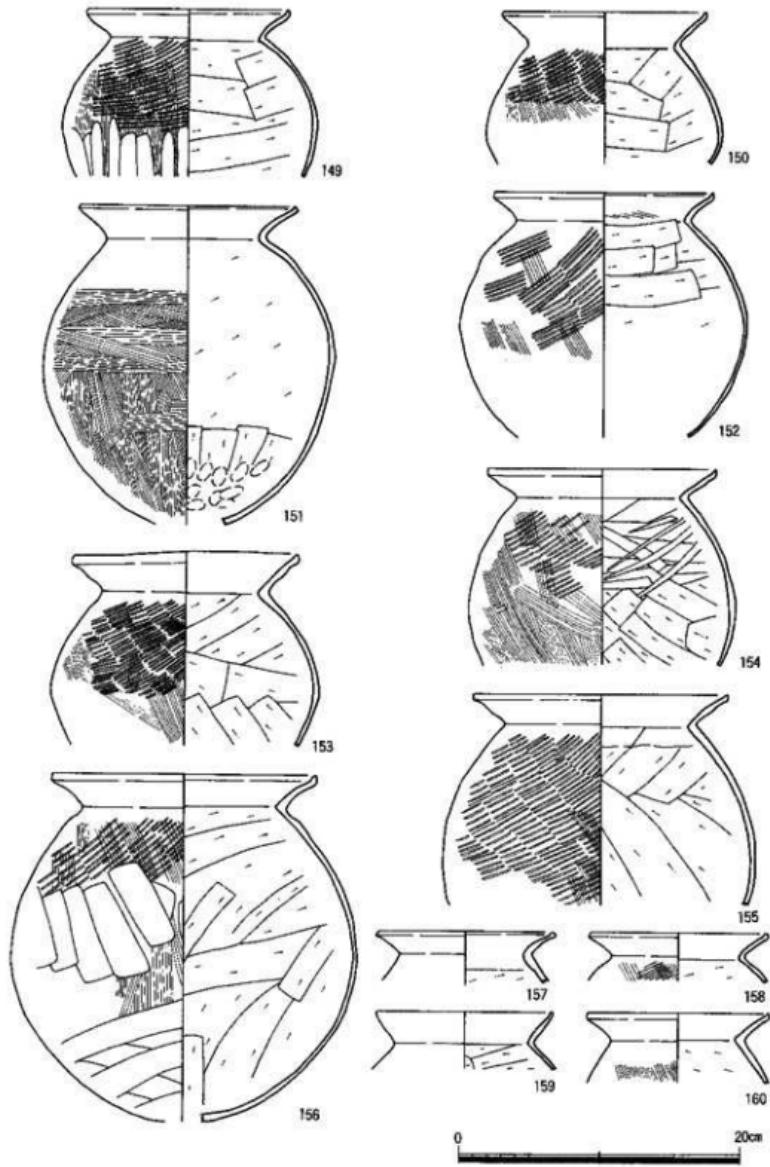
第29図 A-III a 地区落ち込み7出土遺物実測図3



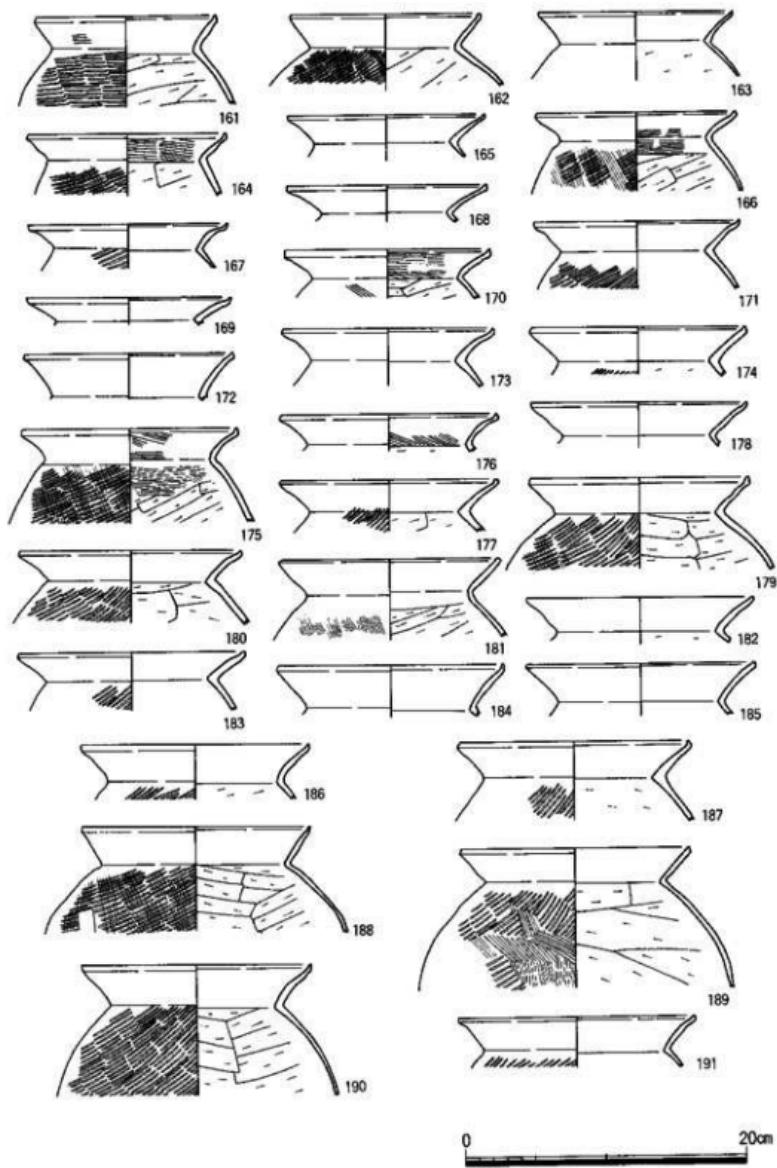
第30図 A-III a 地区落ち込み7出土遺物実測図4



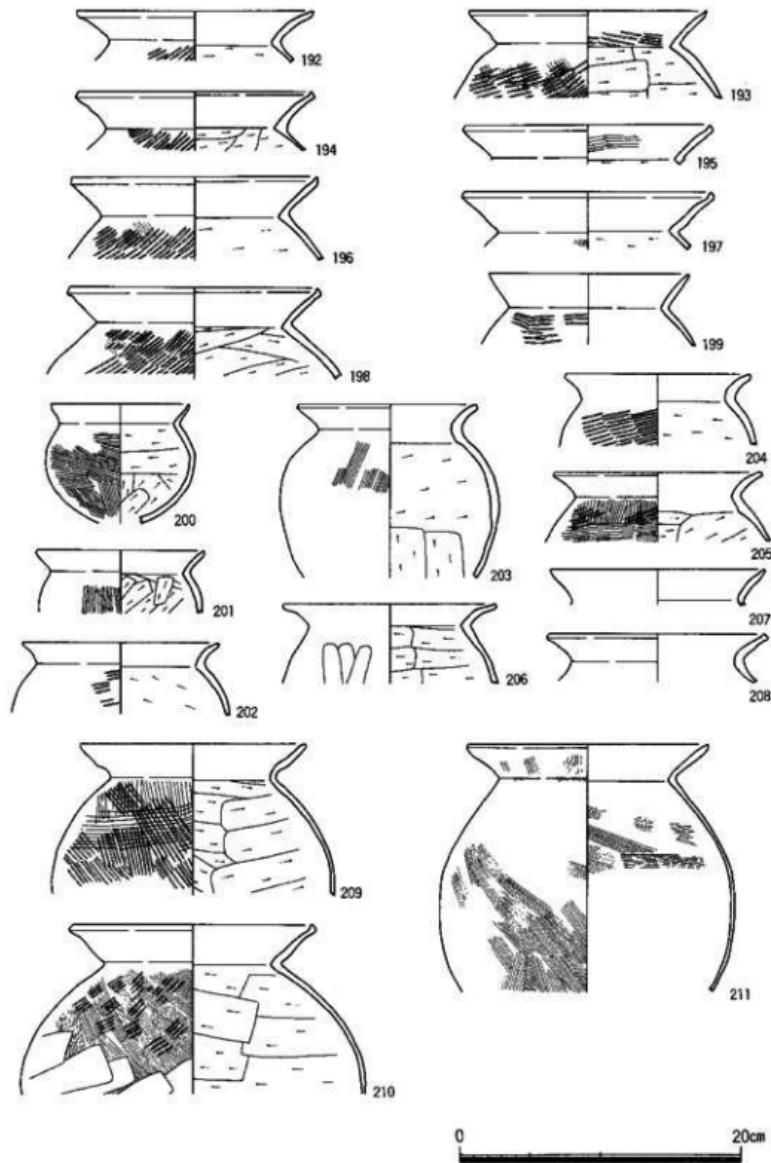
第31図 A-III a地区落ち込み7出土遺物実測図5



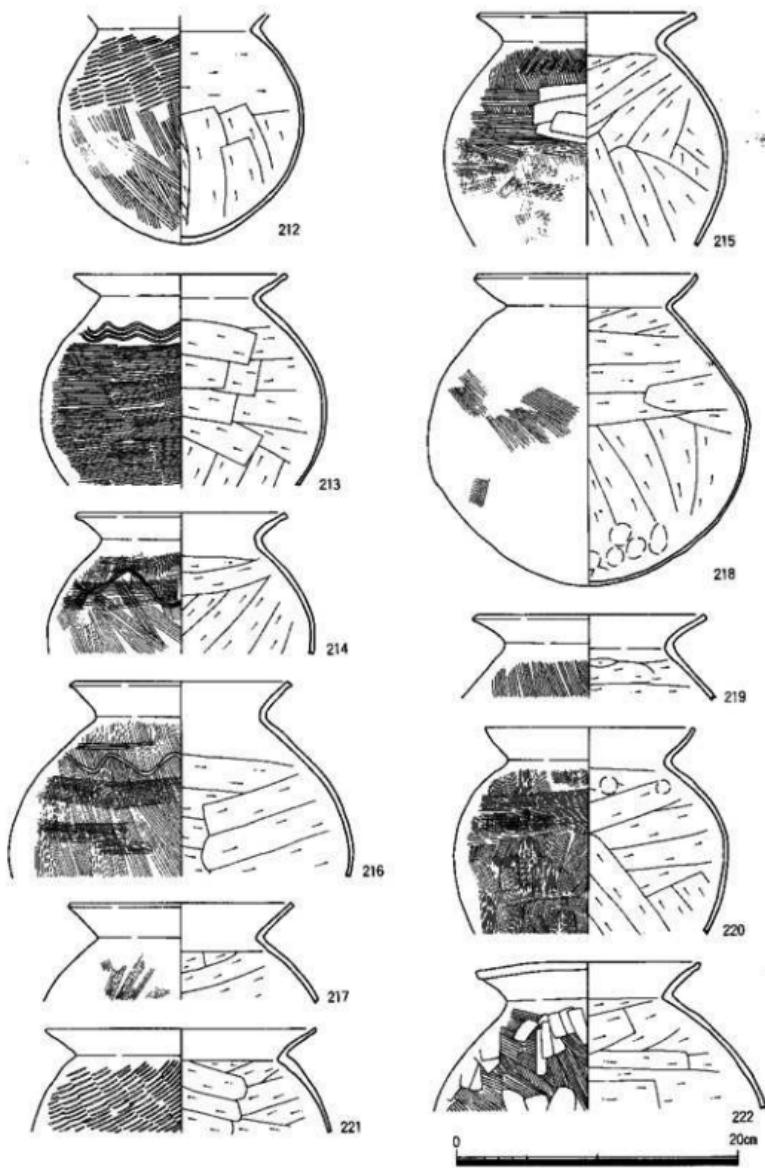
第32図 A-III-a地区落ち込み7出土遺物実測図6



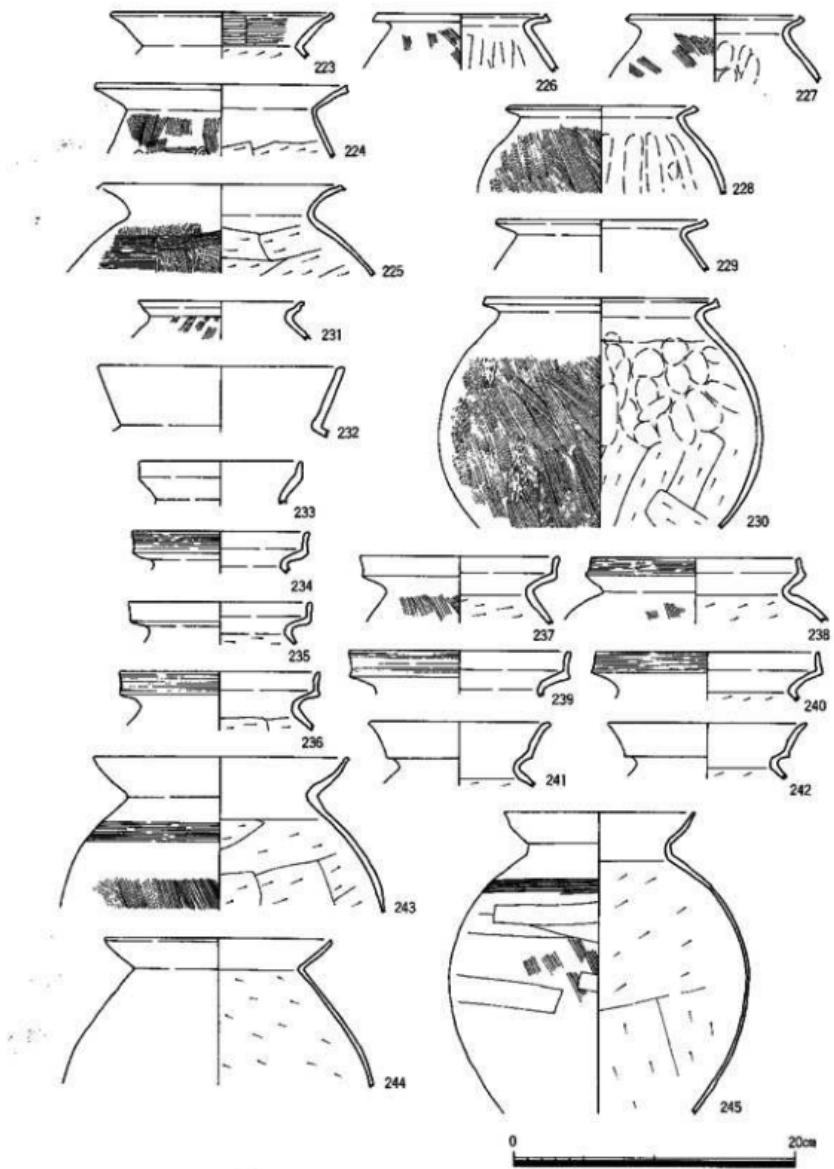
第33図 A-Ill a地区落ち込み7出土遺物実測図7



第34図 A-III a 地区落ち込み7出土遺物実測図8



第35図 A-IIIa地区落ち込み7出土遺物実測図9



第36図 A-III-a地区落ち込み7出土遺物実測図10

甕P類(234~240)：口縁部は水平（気味）に外反し、端部は長くつまみ上げ、外面に沈線を有す。岡山県吉備地方の酒津式土器の特徴をもつ。胎土分析はⅡa類型。

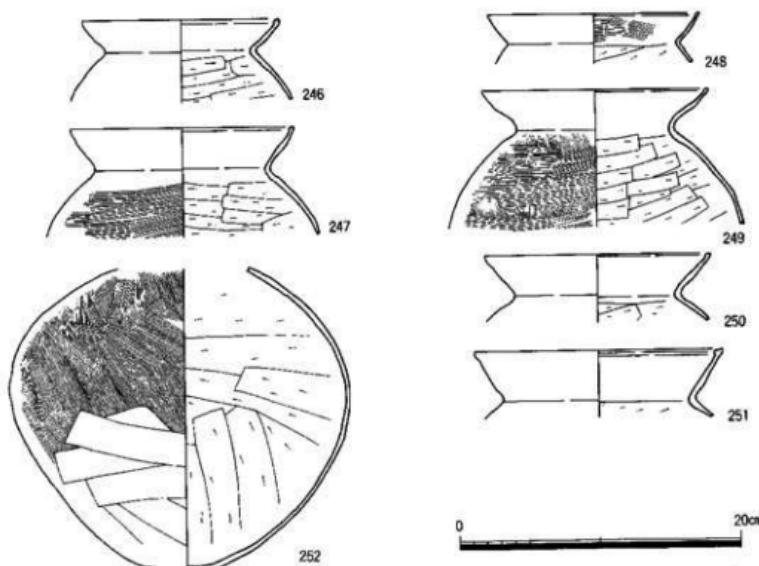
甕Q類(241・242)：体部から丸く屈曲し、斜上方へ短く外反した後上外方へ外反する複合口縁部となる。端部は丸く終わる。調整は口縁部外面ヨコナデ、体部内面ヘラケズリ、山陰地方の形態的特徴をもつ。胎土分析は241がⅢd類型、242がⅢ類型。

甕R類(243・244・245)：半球形の体部から屈曲し、斜上方へ内彎する口縁部に至る。端部は外に肥厚し、面をもつ。体部外面上位に数本の沈線を有す。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ヨコナデ、中位ハケナデ、内面ヘラケズリ。布留式土器の形態的特徴をもつ。胎土分析は243がⅡc類型、244・245がⅣ類型。

甕S類(246・247)：体部から屈曲し、斜上方へ内彎する口縁部に至る。端部は内側に肥厚する。調整は口縁部外面ヨコナデ、体部内面ヘラケズリ、布留式土器の形態的な特徴をもつ。胎土分析は246がⅥ類型、247がⅤ類型。

甕S1類(248~252)：甕S類の形態で口縁部端部が内傾する平坦な面をもつ。胎土分析は248がⅣ類型、249・250がⅢb類型、251がⅥ類型、252がⅠa類型。

註1 大阪府教育委員会「小島東遺跡」「岬町遺跡群発掘調査概要」 1978



第37図 A-I地区落ち込み7出土遺物実測図11

## 第5節 古墳時代中期の遺構・遺物(第1調査面)

この時代は、A-Ⅲ地区の微高地上に位置する第6層の弥生時代後期～古墳時代前期の遺物包含層上面(TP+8.3m位)より切り込む土坑・ビット等の検出とA-Ⅱ地区・22地区の砂質層の堆積する弥生時代後期に埋没したと推測される河川跡の上面に粘土の堆積を基調とする土坑・落ち込み状遺構・溝が検出した。遺物は各遺構により異なるが「陶邑」の中村浩氏編年によるI型式2～3段階の須恵器とI型式5段階～II型式1段階に類似する須恵器が出土した。以下、各遺構について記述する。

### 土坑

#### S K 3

A-Ⅱ地区の南壁で検出した。検出部は東西径1.1m、南北径0.44m、深さ0.2～0.33を測る土坑である。南半部は調査区外に至る。平面は検出部で不定形を呈す。断面は皿状形を成す。堆積土は上方から灰色微砂土・淡黄灰色シルト・黄灰褐色シルト混じり粘土・灰色粘質微砂土である。

遺物は、須恵器・土師器の細片をごく少量出土した。

#### S K 4

A-Ⅱ地区の南壁で検出した。検出部は東西径1.14m、南北径0.5m、深さ0.2mを測る土坑である。南部は調査区外に至る。平面は検出部で稍円形を呈す。断面は皿状形を成す。堆積土は灰色微砂土の單一層である。遺物は出土していないがSK3と同一時期と考える。

#### S K 7

A-Ⅱd地区の南部で検出した。検出部は東西径0.92m、南北径1.36m以上、深さ0.14mを測る土坑である。南部は調査区外に至る。堆積土は灰褐色砂粘土(炭をわずかに含む)の單一層である。遺物は出土していない。

#### S K 8

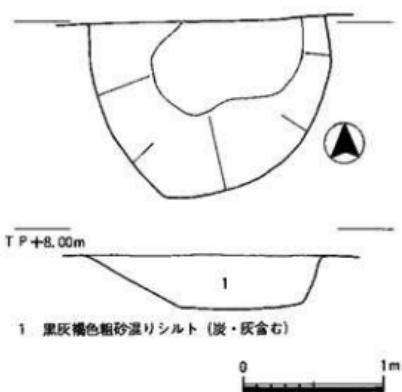
A-Ⅱf地区で検出した。検出部は径0.64～0.7m、深さ0.18を測る土坑である。平面は円形を呈す。断面は浅い皿状形を成す。堆積土は灰褐色砂混じり粘土の單一層である。遺物は出土していない。

#### S K 9

A-Ⅱf地区のSK8北側に隣接して検出した。検出部は最大径1.2m、最小径0.46m、深さ0.1mを測る土坑である。平面は不定形を呈す。断面は浅い皿状形を成す。堆積土はSK8と同一層である。遺物は出土していない。

#### S K 10

A-Ⅱg地区で検出した。西部はSD15に切られ、北部は調査区外に至る。検出部は東西径



第38図 A-Ill c 地区 SK 12平面断面図

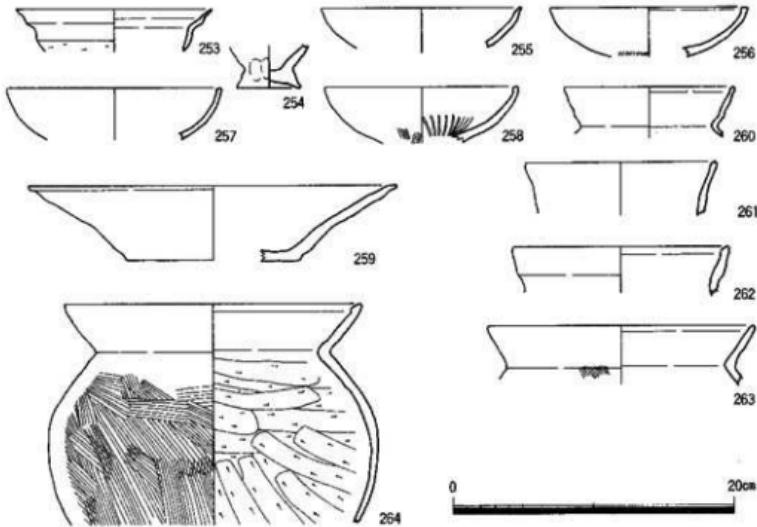
1.3m、南北径2m、深さ0.34mを測る土坑である。堆積土は茶灰色砂混じり粘土の單一層である。遺物は出土していない。

#### S K 12

A-Ill c 地区の北壁で検出した。検出部は東西径1.7m、南北径1.2m以上、深さ0.36mを測る土坑である。北半部は調査区外に至る。検出部の平面は半円形を呈す。断面は椀状形を成す。堆積土は黒灰褐色粗砂混じりシルトの單一層で、細かく碎けた炭が多量に混入している。これは焼土坑か炭などの廃棄場が考えられる(第38図)。

#### 出土遺物

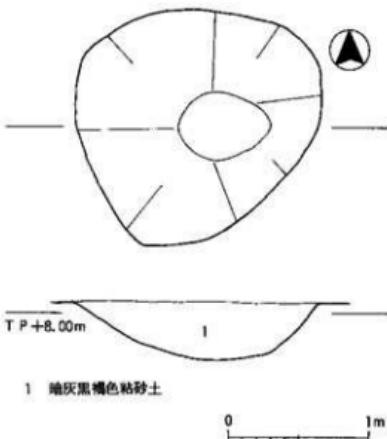
遺物は土師器の鉢(253・254)・高杯(255~259)・瓶・壺(260~264)・須恵器の壺等の土器の細片を少量出土した。時期は5世紀中ごろに比定されるものと考える(第39図)。



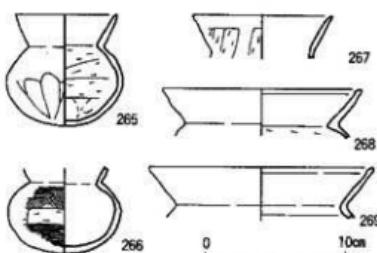
第39図 A-Ill c 地区 SK 12出土遺物実測図

### S K 13

A-III d 地区で検出した。検出部は最大径1.9m、最小径1.6m、深さ0.4mを測る土坑である。平面はやや橢円形を呈す。断面は掘り鉢形である。堆積土は暗灰褐色砂粘土・灰黑色砂粘土の2層に分かれる。土層内には炭・灰を多量に含んでいる。この土坑はS K 12と同様の性格をもつ遺構と考えられる(第40図)。



第40図 A-III d 地区 S K 13 平断面図



第41図 A-III d 地区 S K 13 出土遺物実測図

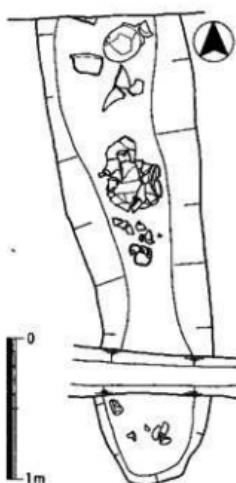
### S K 14

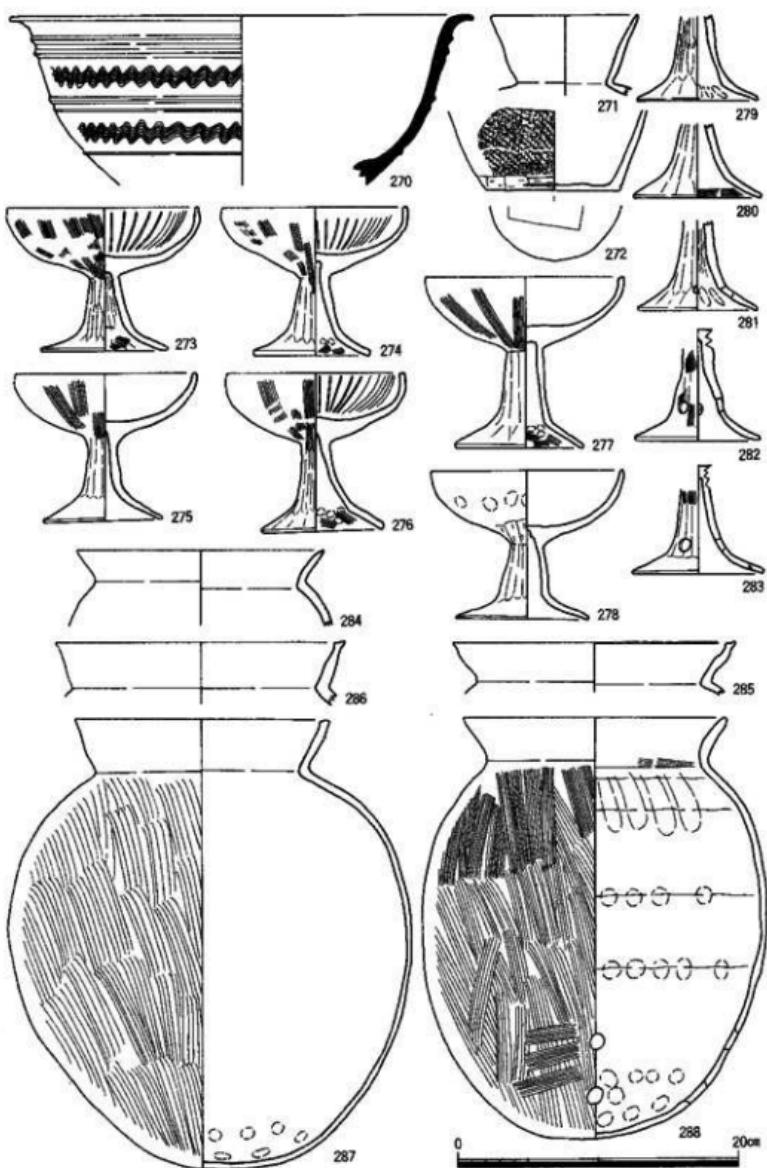
A-III d 地区の北壁で検出した。平面は南北の方向に細長い溝状形を呈す土坑で、北部は調査区外に至る。検出部の規模は東西径1m、南北径3.8m以上、深さ0.38mを測る。断面は椀状形を呈す。堆積土は暗茶灰色粘質シルトの単一層である(第42図)。

#### 出土遺物

この遺構の検出は、構築面より上半部の浮き出した逆向きの状態になった甕(288)によって発現した。この周囲を掘り下げるところの遺構が切り込まれている構築面が検出された。

遺構内部からは古式須恵器と考えられる大型器台の坏部片 第42図 A-III d 地区 S K 14 平面図





第43図 A-IId地区SK14出土遺物実測図

(270)、土圧によって押し潰された状態で出土した壺(287)、基底面の南端部付近で集結した高杯(273~283)、その他には須恵器の壺の体部片、土師器の壺(271)・壺(284~286)の破片、製塙土器の細片とともに韓式系土器と考えられる平底鉢の底部片(272)を出土した。時期は5世紀中葉と考えられる(第43図)。

#### S K 15

A-III f 地区の南壁で検出した。南部は調査区外に至る。検出部は東西径1.45m、南北径1m、深さ0.7mを測る土坑である。断面はU字形を呈す。堆積土は灰黄色シルト・淡灰褐色シルト混じり粘土の2層に分かれる。

遺物は、I型式5段階～II型式1段階に類似する須恵器の壺・壺と土師器の壺・高杯・壺等の土器細片を少量出土した。

#### S K 16

A-III f 地区で検出した。検出部は東西径0.96m、南北径1.96m、深さ0.19mを測る土坑である。平面は南北の方向に長い椭円形を呈す。断面は皿状形を成す。堆積土は暗灰褐色砂粘土の單一層である。

遺物は、須恵器の蓋杯と土師器の壺・壺等の細片を少量出土した。時期はS K 15と同時期と考えられる。

#### S K 17

A-III f 地区の北壁で検出した。北半部は調査区外に至る。南部の一部は現在の擾乱に切られている。検出部は東西径0.9m、南北径1.9m以上、深さ0.19mを測る土坑である。検出部の平面は南北の方向に長い半椭円形を呈す。断面は皿状形を成す。堆積土は暗灰褐色砂粘土の單一層である。

遺物は、須恵器と土師器の壺・高杯・壺等の細片を少量出土した。時期はS K 15・S K 16と同時期と考えられる。

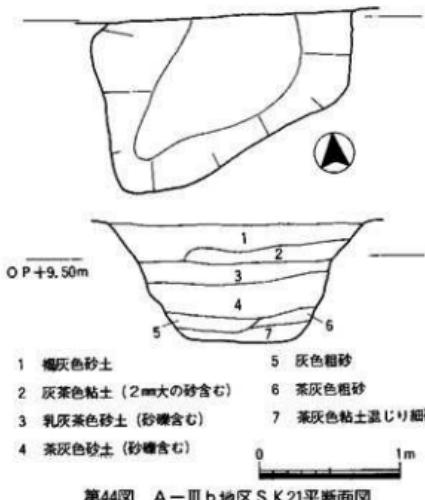
#### S K 18

A-III g 地区で検出した。検出部は東西径4m、南北径2m、深さ0.15mを測る土坑である。平面は東西の方向に長い隅丸長方形を呈す。断面形は浅い皿状形を成す。堆積土は暗灰茶色砂粘土の單一層である。

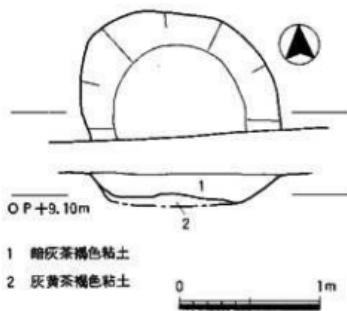
遺物は、土師器の壺等の細片をごく少量出土した。時期はS K 15・S K 16と同時期と考えられる。

#### S K 21

A-III b 地区の北壁で検出した。北半部は調査区外に至る。検出部は東西径1.8m、南北径1.2m以上、深さ0.8mを測る土坑である。断面は逆台形を呈す。堆積土は上方から褐灰色砂土・灰



第44図 A-III b 地区 SK 21 平断面図



第45図 A-III d 地区 SK 22 平断面図

茶色粘土 (2mm大の砂を含む)・乳灰茶色粘土 (砂礫を含む)・茶灰色砂土 (砂礫を含む)・灰色粗砂・茶灰色粗砂・茶灰色粘土混じり細砂で構成されている (第44図)。

遺物は、土師器の壺等の細片をごく少量出土した。時期はSK 12他の前記の土坑と同時期と考えられる。

#### SK 22

A-III d 地区の南壁で検出した。南半部は調査区外に至る。検出部は東西径1.4m、南北径1.2m、深さ0.23mを測る土坑である。検出部の平面は半円形を呈す。

断面は皿状形を成す。堆積土は暗灰茶褐色粘土の單一層である (第45図)。

遺物は、須恵器の蓋坏と土師器の壺・高坏等の細片を少量出土した。時期はI型式5段階～II型式1段階に比定できると考えられる。

#### SK 28

A-III f 地区で検出した。東半部は現在の機乱によって切られる。検出部は東西径0.6m以上、南北径1.2m、深さ0.24mを測る土坑である。断面は皿状形を呈す。堆積土は暗灰茶褐色粘土の單一層である。

遺物は、須恵器の蓋坏と土師器の壺・甕等の細片を少量出土した。時期はSK 22と同時期であると考えられる。

#### SK 35

22c 地区で検出した。南部と北部は調査区外に至る。検出部は東西径2.3m、南北径2.1m以上、深さ0.15mを測る土坑である。平面は検出部の東側に半円形の脹らみをもち、西側は直線的に延びている。堆積土は暗灰色粘土の單一層である。

遺物は、土師器の壺・甕等の細片をごく少量出土した。時期は5世紀中葉～後半に比定されると考えられる。

### 落ち込み状遺構

#### 落ち込み 3

A-II b・c 地区で検出した。検出部は幅1m、深さ0.2mを測る南北方向に至る落ち込み状遺構である。西側の基底面は緩やかな起伏を呈す。堆積土は灰褐色粘土(礫をわずかに含む)・淡灰色礫混じり粗砂である。

遺物は、須恵器の壺と土師器の高杯・甕等の細片を少量出土した。

#### 落ち込み 4

A-II e 地区で検出した。検出部は幅2~3.5m、深さ0.3mを測る南北方向に至る落ち込み状遺構である。平面は検出部で不定形を呈す。断面は皿状形を成す。堆積土は灰褐色砂混じり粘土の單一層である。

遺物は、土師器の高杯(289)・甕(290)の布留式土器を図化したが、古墳時代中期頃に比定できる土器の細片を少量出土している(第46図)。

#### 落ち込み 5

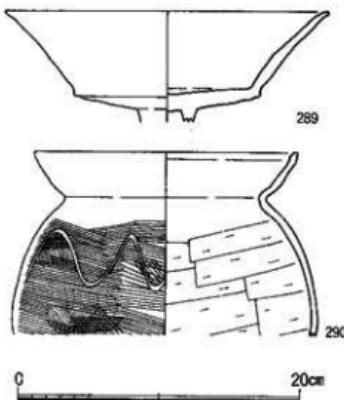
A-II f・g 地区で検出した。南北とともに調査区外に至る。検出部は幅5.8~8.5m、深さ0.26mを測る落ち込み状遺構である。断面は皿状形を呈し、基底面は若干の起伏がみられる。堆積土は茶褐色粘土・灰色粗砂土・灰色シルト混じり粘土である。

#### 出土遺物

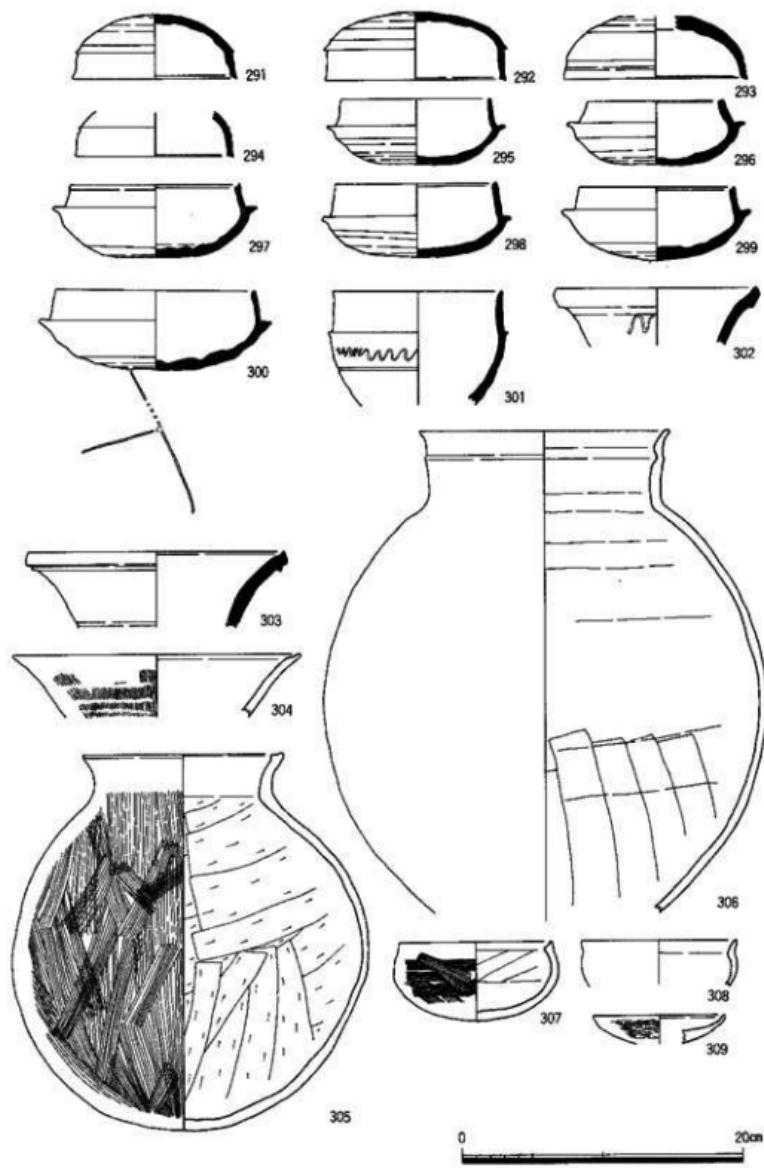
遺物は、須恵器の坏蓋(291~294)・坏身(295~300)・鉢(301)・壺(302)・甕(303)と土師器の壺(304~306)・坏(307)・鉢(308)・器台(309)・高杯(310~321)・甕(322~334)等の土器片をコンテナにして約3箱分出土した。時期は古墳時代前期に比定される布留式土器をわずかに出土しているが、大半の土器は古墳時代中期(I型式5段階~II型式1段階)に比定されると考えられる(第47図・第48図)。

#### 落ち込み 6

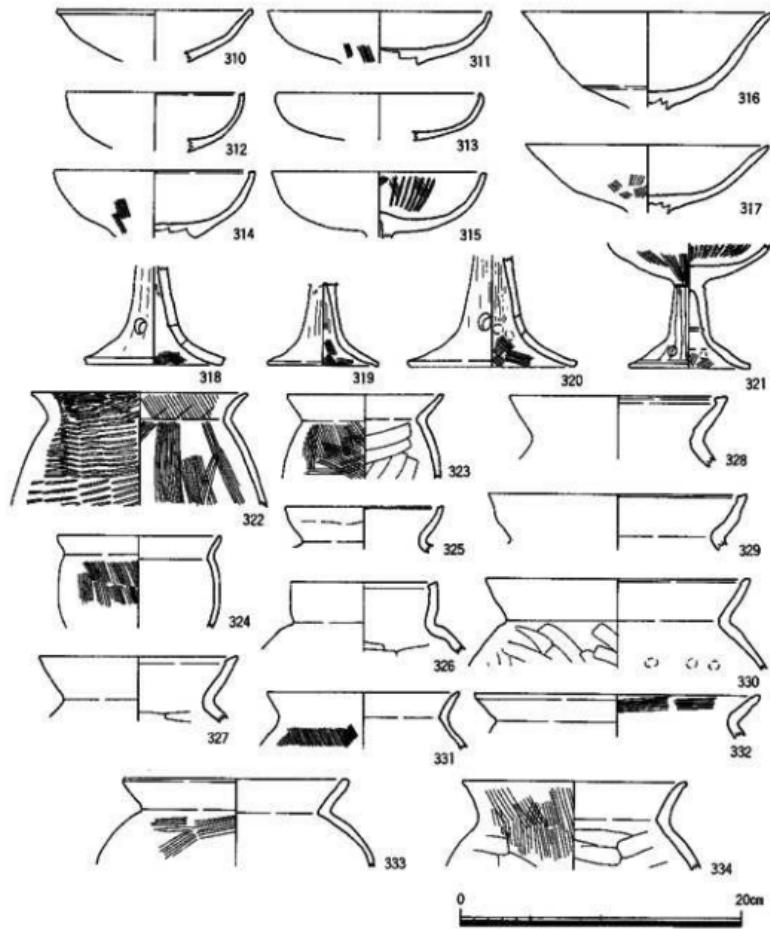
A-II d・e 地区で検出した。南北ともに調査区外に至る。検出部は幅7~9m、深さ0.2~0.4mを測る落ち込み状遺構である。中央部はSD13と切り合う関係にある。断面は皿状形を呈



第46図 A-II e 地区落ち込み4出土遺物実測図

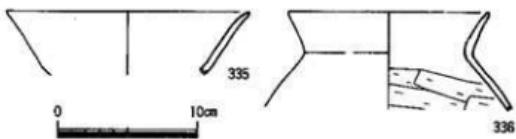


第47図 A-II f 地区落ち込み5出土遺物実測図



第48図 A-II f 地区落ち込み5出土遺物実測図

し、基底面は若干の起伏がみられる。堆積土は灰褐色シルト混じり粘土、灰色粘土混じり砂土の2層に分かれている。

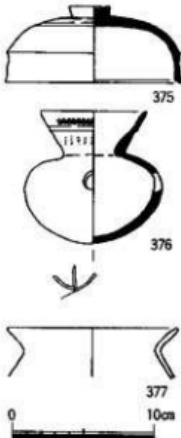


第49図 A-II d・e 地区落ち込み6出土遺物実測図

## 出土遺物

遺物は、土師器の高杯(335)・甕(336)等の細片を少量出土した。時期は遺構の検出状況からみて落ち込み5などと同時期であると考えられる(第49図)。

## 落ち込み9



第50図 22g・h地区落ち込み9出土遺物実測図

22g・h地区で検出した。南北ともに調査区外に至る。検出部は幅約12m、深さ0.25~0.4mを測る落ち込み状遺構である。断面は皿状形を呈し、基底面は緩やかに起伏している。堆積土は上方から暗灰色粘砂土・暗灰色細砂・淡灰色細砂・淡灰黄色砂土・暗灰色微砂・灰色粘土・暗灰色粘土で構成されている。この遺構は落ち込み3~落ち込み6の遺構と同様の遺構と考えられる。

## 出土遺物

遺物は、須恵器のつまみ杯蓋(375)・甕(376)の完形品が東肩の傾斜面上で出土した。他には堆積土内から須恵器の蓋杯・甕と土師器の鉢・高杯・甕(377)等の細片を少量出土した。時期はⅠ型式5段階~Ⅱ型式1段階に比定されると考えられる(第50図)。

## 溝

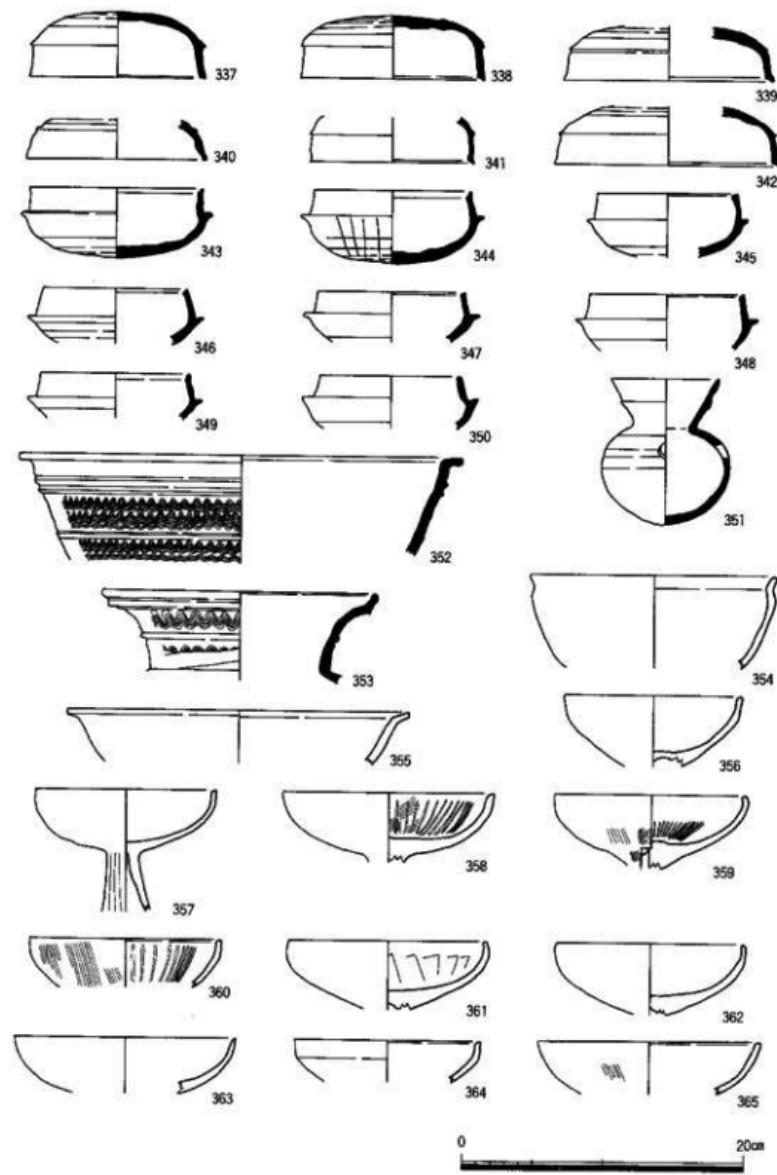
### S D 13

A-Ⅱd地区で検出した。南西部は途切れ、北西部は調査区外に至る。検出部は幅0.65~0.8m、深さ0.15~0.28mを測る南西~北東の方向の溝状遺構である。断面は掘り鉢形を呈す。堆積土は淡灰褐色粘土混じり砂土の單一層である。

遺物は出土していないが、落ち込み6と切り合う関係にあることから、時期は古墳時代中期頃に比定されると考えられる。

### S D 17・S D 18

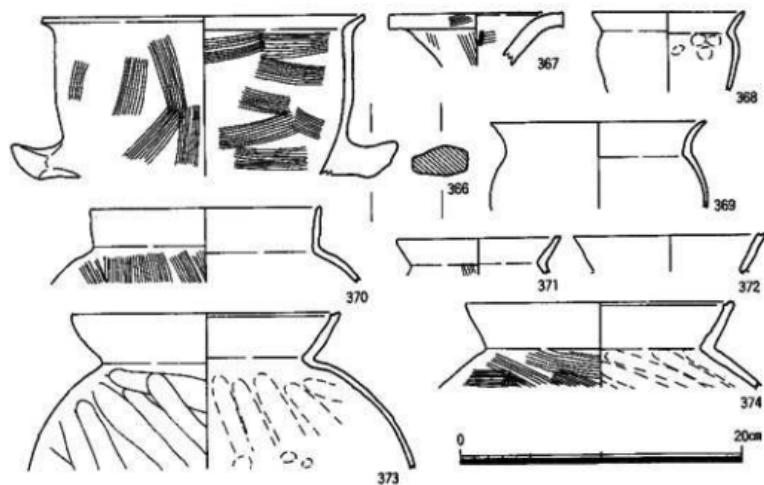
A-Ⅱg・h地区で検出した。検出部は幅5.4m以上、深さ0.1~0.15mを測る溝状遺構である。東部と南北部は調査区外に至るため全体の形状は不明であるが、基底面には3条の溝を呈す。西部に位置するS D 17は幅1.3~0.6m、深さ0.15~0.25mを測る南西~北東の方向に走る溝と幅0.37~0.5m、深さ0.2mを測る南東~北西の方向に走る溝の2条、東部に位置する幅1.6m以上、深さ0.13mを測る南北の方向に走る溝で構成されている。堆積土は上方から黒褐色粘砂土・黒灰褐色粘土・暗茶灰色シルト粘土で、S D 17は淡灰褐色細砂土・灰色シルト・灰色泥粘土、S D 18は灰色細砂混じり粘土である。この溝状遺構は落ち込み3~落ち込み6の遺構と性格的に同じものではないかと考えられる。



第51図 A-II g・h地区 S D17・S D18出土遺物実測図1

### 出土遺物

遺物はほとんど上層からの出土で流れ込みと考えられる。土器は完形に復元できるものはなく大半が細片化している。また、SD17下層からは自然の流木を1点出土している。出土した土器は須恵器の杯蓋(337~342)・杯身(343~350)・甌(351)・大形器台(352)・壺(353)と土師器の鉢(354~355)・高杯(356~365)・瓶(366)・壺(367)・甌(368~374)等である。時期はI型式5段階~II型式1段階に比定できるものと考えられる(第51図・第52図)。



第52図 A-II g-h地区 SD17・SD18出土遺物実測図2

## 第6節 奈良～平安時代の遺構・遺物(第1調査面)

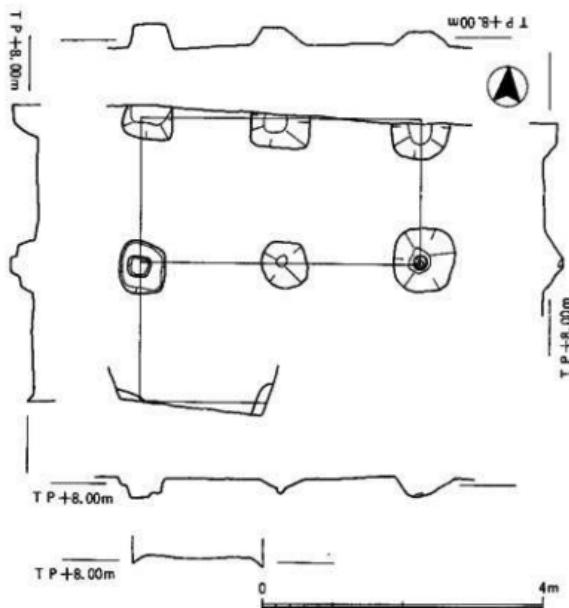
A-I地区の微高地上に位置し、TP +8.2m位の第6層をベースとして奈良時代と思われる掘立柱建物2棟(SB1・SB2)・木枠を伴う井戸(SE2)・河川跡(河川3)と概ね奈良時代～平安時代に位置づけられる井戸(SE3)・土坑6基・ピット40個・落ち込み状遺構(落ち込み8)・溝12条・河川跡(河川2)が各地区で検出した。

以上、これらの検出した遺構とそれに伴う遺物について各遺構ごとに記述する。

### 掘立柱建物

#### SB1

A-Ia地区で検出した。検出部は東西2間約4m、南北約4m以上を測る総柱の掘立柱建物である。南北は調査区の幅が限定されているため全体の規模は不明である。検出部の柱間は東西・南北ともに約2mを測る等間隔である。建物の方向はほぼ南北を指す。柱穴は検出面でいずれも平面隅丸形を呈す。個々の柱穴の規模は、SP2は径0.7m、深さ0.33m、SP3は径0.8m、深さ0.42m、SP4は径0.8m、深さ0.4m、SP5は径0.64～0.7m、深さ0.3m、SP6は径0.64m、深さ0.22m、SP7は径0.88m、深さ0.26m、SP8は径0.6m、深さ0.3m、SP9は径0.5m、深さ0.35mをそれぞれ測る。また、柱穴の中には径0.32mを測る平面方形の柱痕が残在するSP5や長径12cm、短径9cm、厚み5cmを測る材質擬灰岩砂岩と思われる根石が検出している。この建物の検出部の推定床面積は約16m<sup>2</sup>を測る。柱穴の堆積土は灰茶色砂粘土で、柱痕部

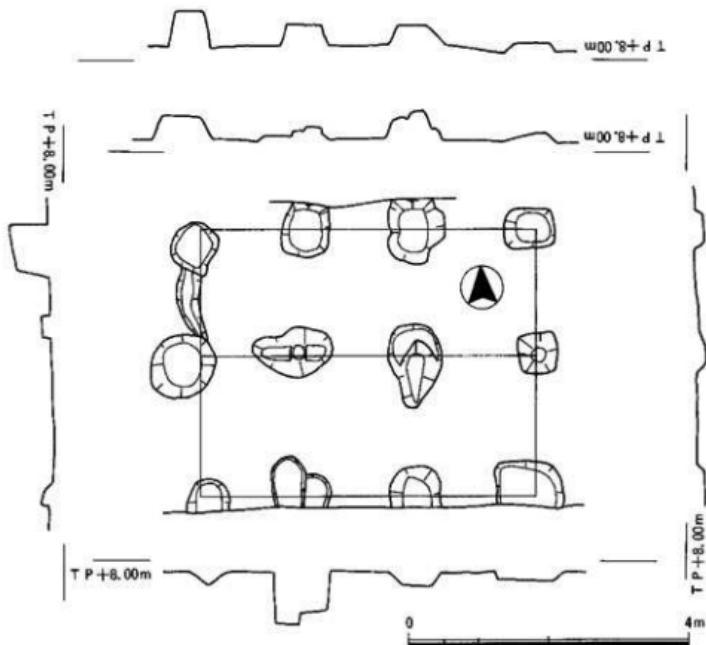


第53図 A-Ia地区SB1平断面図

は暗灰茶色砂粘土である。建物の時期は柱穴からわずかに出土した土器の細片のみで時期を決定づけるものはないが、東部に隣接する奈良時代に比定される井戸（S E 2）があり、それに伴う建物の可能性が強いものと推測される（第53図）。

### S B 2

A-IIIe地区で検出した。検出部は東西3間約5m、南北2間約3.7mを測る総柱の掘立柱建物である。南北部は調査区の範囲が限られているために全体の規模は不明である。検出部の柱間は東西で西より1.6m・1.6m・1.5mを測る。南北は北より2m・1.8mを測る。建物の方向はS B 1と同一方向である南北方向を指す。柱穴の平面は隅丸方形のもの S P 13～S P 17・S P 21～S P 23、楕円形に近いもの S P 18～S P 20・S P 24である。個々の柱穴の規模は、S P 13は径0.98m、深さ0.3m、S P 14は径0.5m、深さ0.4m、S P 15は径0.4m以上、深さ0.56m、S P 16は径0.6m、深さ0.4m、S P 17は径0.5m以上、深さ0.3m、S P 18は東西径0.78m、南北径1.2m、深さ0.42m、S P 19は東西径1.1m、南北径0.7m、深さ0.32m、S P 20は東西径



第54図 A-IIIe地区 S B 2 平断面図

0.53m、南北径0.78m、深さ0.53m、S P 21は東西径0.6m、南北径0.54m、深さ0.3m、S P 22は東西径0.9m、南北径1.2m、深さ0.63m、S P 23は東西径0.7m、南北径0.9m、深さ0.5m、S P 24は東西径0.65m、南北0.72m、深さ0.6mをそれぞれ測る。柱穴の堆積土は茶灰褐色砂粘土の單一層であるが、S P 18・S P 19・S P 21で径1~4mを測る小石が多量に混入していた。また、S P 21は長径15cm、短径10cm、厚み10cmを測る巖灰岩砂岩と思われる根石を検出している。柱穴の断面はほとんどU字形を呈す。検出部の復元床面積は約18.5m<sup>2</sup>である。

遺物は須恵器・土師器の細片をわずかに出土した程度でS B 1と同様に時期を決定づけるものはないが、層位的にみてS B 1の建物と同じことやS E 1と隣接することなどから同一時期であると推察される(第54図)。

#### 井戸

##### S E 2

A-I b 地区の南壁で検出した。木枠を備えた井戸で、南半部は調査区外に至る。掘形は東西径約3.5m、南北径約2.5m以上を測る。平面は検出面で半円形を呈す。深さは約1.2mを測りほぼ垂直に掘られている。掘形の検出面はT P +8.2mを測る淡黄茶色砂質土の上面をベースとして、約1mを測る粘土層を掘り込み基底部近くは湧水の砂土層まで達している。

井戸の木枠は、掘形のはば中央部に設置している。平面はほぼ方形を呈し、内側の一辺は約0.75mを測るが土圧により内側に倒れた状態で検出した。木枠は内側の四方隅に角材を立て、中段位(木枠の底から上部へ約56cmを測る)には強固にするため横に板材を組み合せ、その周囲に板材を張り付けている。東辺は4枚、西辺は5枚、南辺は3枚、北辺は12枚の計24枚を数える板材を使用している。また、これらの板材はみんな転用材と考えられる。たとえば、北辺で使用していた板材(21)は大木を半切又は三ツ切して削り抜いたもので、昔では刳船であったと思われる。また、東辺の板材(33)は薄く横幅の広い板材で、両端部に4ヶ所と下位端部に7ヶ所の小孔がみられ、この小孔には歟骨と思われる釘が1ヶ所認められ、板材面に黒色の朱塗りを施した家具材の一體ではないかと考えられるもの、その他の板材にも方形の穿孔を施した建築材と推測できるものが認められ、この井戸の木枠材料は廃物利用した転用材で設けられたものと考えられる。木枠内の堆積土は暗灰色粘砂土の單一層である(第55図)。

なお、個々の木枠材の形態・規模等は次頁の第3表・第4表に記載した。また個々の木枠材の実測図も作成して第56図~第68図に図示したので参照されたい。

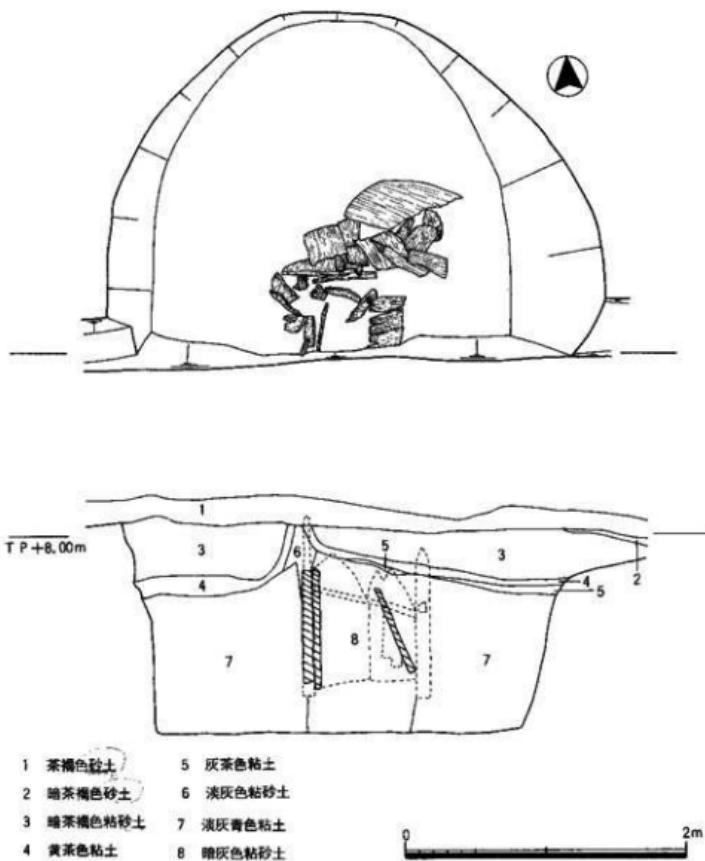
#### 出土遺物

遺物は、須恵器の壺(378・379)・蓋壺・甕と土師器の壺・鉢(382)・皿(380・381)・甕(383~387)等の土器片を少量出土した。これらの土器は木枠内に堆積した下部より出土している。時期は7世紀中葉に比定されると考えられる(第56図)。

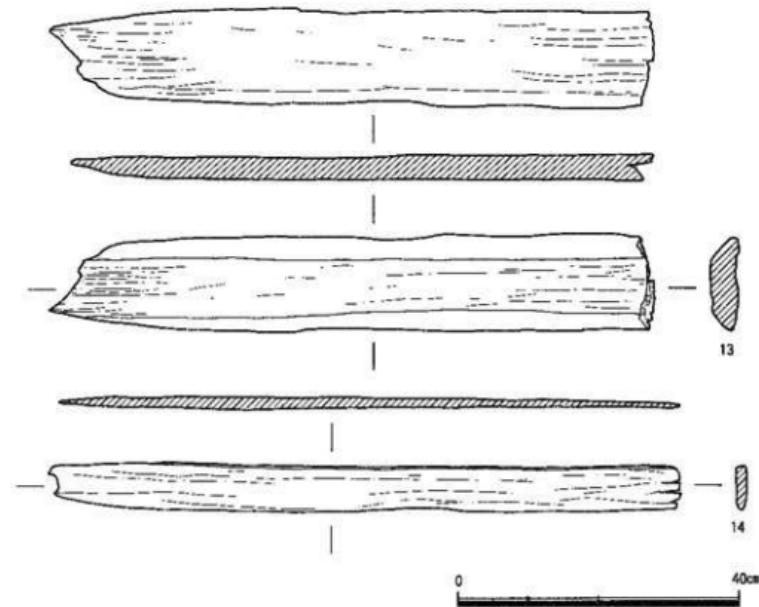
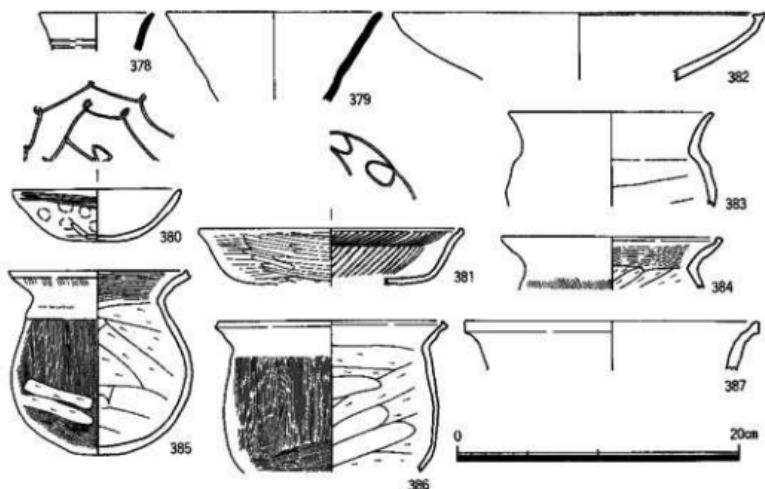
第3表 SE 2木棒観察表

遺構番号 図版番号	(cm) 全長 幅 法量 厚さ(高さ)	形 態	技 法	備 考
13 五十九	全長 86.0 幅 14.0 厚さ 3.6	細い板状で、両端部は自然面を残す。 上部は腐敗。		
14 五十九	全長 90.0 幅 6.4 厚さ 1.4	細く薄い板である。 上部は腐敗。		
15 五十九	全長 93.2 幅 10.0 厚さ 5.2	細く厚い板である。 上部は腐敗。		
16 五十九	全長 106.0 幅 18.4 厚さ 4.2~4.8	細く厚い板で下部は凸状を成す。 上部は腐敗。		
17 六十	全長 90.4 幅 13.2 厚さ 4.4~5.2	片面に方穴をもつ板であろう。 腐敗がはげしい。		
18 六十	全長 89.2 幅 35.2 厚さ 4.4~5.6	幅の広い板で、下部は一部直角に削りとる。 上部は腐敗。		
19 六十	全長 82.4 幅 36.6 厚さ 4.6~6.4	幅の広い板で、片面に浅い穴式を2ヶ所もつ。 上部は腐敗。		
20 六十一	全長 88.8 幅 10.4 厚さ 2.8	細く薄い板である。 上部は腐敗。		
21 六十	全長 110.8 幅 58.4 厚さ 4.4~10.6	幅の広い厚い板である。		
22 六十一	全長 104.0 幅 42.4 厚さ 2.4~2.7	幅の広い板で、下部は凹状を成し、中央部に横円形の穿孔をもち、中央部上位両端部は三角に削りとる。 上部は腐敗。		
23 六十二	全長 78.8 幅 22.0 厚さ 4.8~5.2	厚い板である。		
24 六十二	全長 107.4 幅 24.0 厚さ 3.2~4.0	下位に方形の穿孔を1ヶ所、上位に横円形の穿孔を2ヶ所もつ。 上部は腐敗。	工具で丁寧に削る。	
25 六十五	全長 42.8 幅 12.8 厚さ 2.4~2.8	薄い板で中部以下両端面わずかに削りとる。 上部は腐敗。		
26 六十二	全長 106.8 幅 41.6 厚さ 4.8~6.8	下部は凸状をなす。一部欠損。 上部は腐敗。		
27 六十二	全長 106.4 幅 26.4 厚さ 3.6~8.4	厚い板で、下部は鈍く丸らす。 上部は腐敗。	下部は錐に削る。	

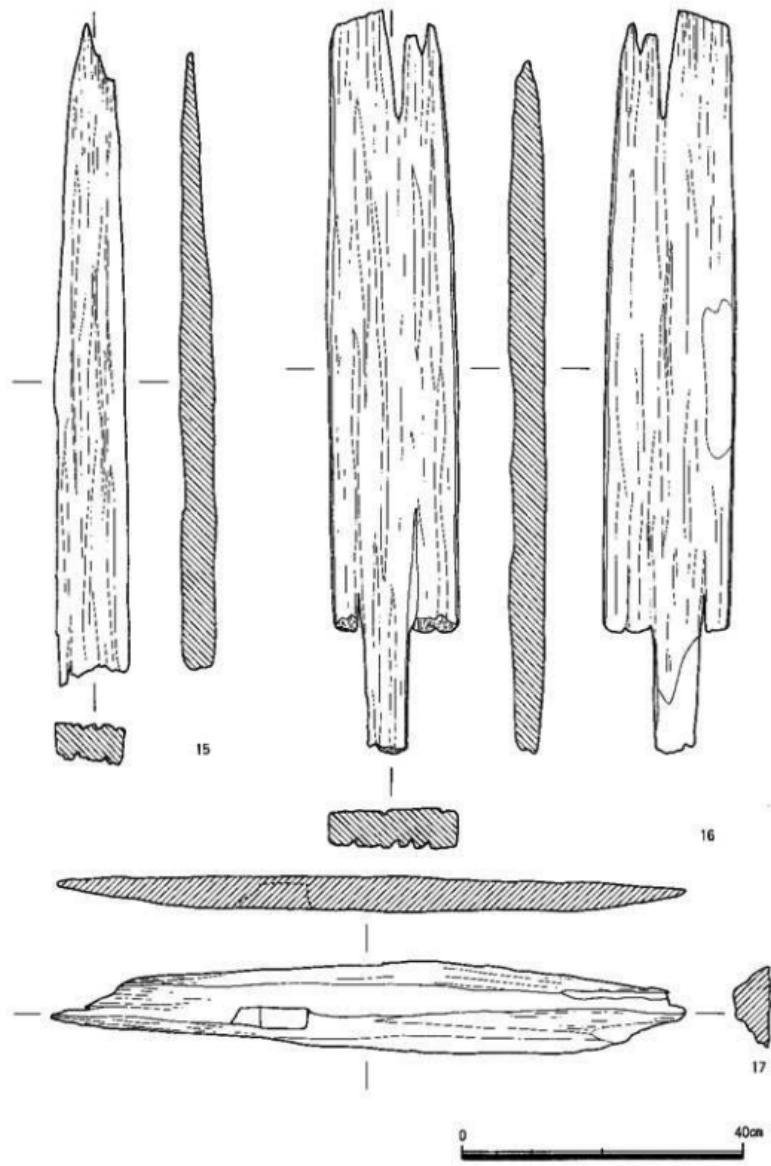
遺構番号 図版番号	(cm) 全長 幅 法量 厚さ(高さ)	形 態	技 法	備 考
28 六十二	全 長 94.4 幅 12.4 厚 さ 0.8~2.2	細く薄い板である。 上部は腐敗。		
29 六十二	全 長 92.8 幅 27.2 厚 さ 4.8~6.4	厚い板である。 下部に粗い切削痕を有す。 上部は腐敗。		
30 六十二	全 長 95.2 幅 26.2 厚 さ 5.2~5.6	29と同形。		
31 六十四	全 長 90.4 幅 27.6 厚 さ 3.6~4.4	下部は凸状を成す。 上部は腐敗。		
32 六十四	全 長 82.8 幅 19.2 厚 さ 4.8	中位片面端1ヶ所に方穴をもち、上位側面1ヶ所に6.8×1.8の深い方穴をもつ。		
33 六十四	全 長 71.2 幅 66.8 厚 さ 1.6~2.4	幅が広く、薄い板で、全体に漆をぬられたと思われる。 下位端部に7ヶ所、両側端部にそれぞれ4ヶ所穿孔をもち、釘がわりに用いられたと思われる動物の骨が1ヶ所認められた。		
34 六十五	全 長 52.8 幅 8.0 厚 さ 5.2	角材状である。 下部は一面斜めに削る。 上部は切削痕が認められる。		
35 六十五	全 長 49.6 幅 6.8 厚 さ 4.4	33と同形。		
36 六十五	全 長 94.4 幅 6.8 厚 さ 5.2	細く厚い板である。 上部は腐敗。		
37 六十五	全 長 110.6 幅 10.8	丸木で、3ヶ所に方形の納穴(5.6×3.6)を有す。 上部は腐敗。		
38 六十六	全 長 135.2 幅 11.2	丸木で、2ヶ所に方形の納穴(6.0×5.6)を有す。 上部は腐敗。		
39 六十六	全 長 122.0 幅 10.0	丸木で、上位に1ヶ所(6.0×3.2×2.0)、下位に1ヶ所(2.0×2.0×1.6)の方形の納穴を有す。 上部は腐敗。		
40 六十六	全 長 138.4 幅 15.6	六角形状の角材で、上位に1ヶ所(6.0×4.0×5.5.6)、下位に1ヶ所(4.0×3.6×2.8)の方形の納穴を有す。 上部は腐敗。		
41 六十六	全 長 112.0 幅 13.6	丸木で、上位2ヶ所に方形の納穴(6.0×6.0×3.6)を有し、下位は逆台形状に後の2ほど削りとする。 上部は腐敗。		
42 六十六	全 長 121.6 幅 11.6	丸木で、上位2ヶ所に方形の納穴(6.8×4.8×4.0)を有し、下位は逆台形状に後の2ほど削りとする。 上部は腐敗。		



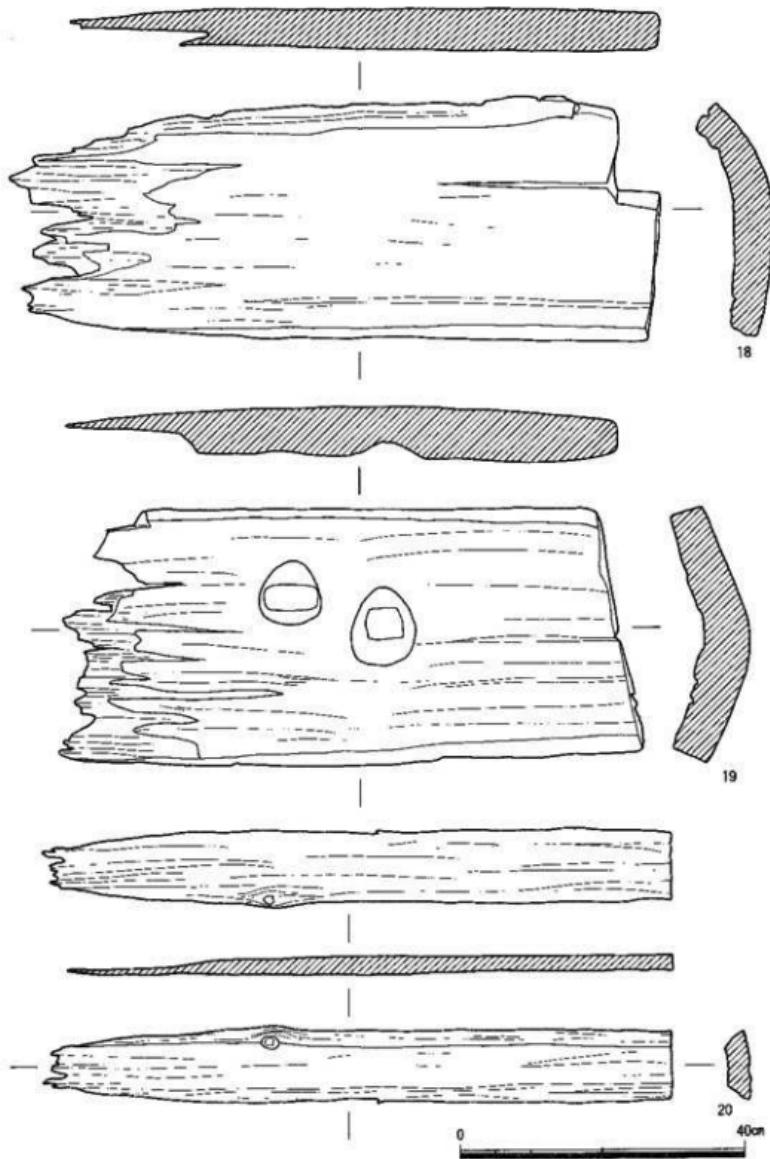
第55圖 A-III b 地區 S E 2 平斷面圖



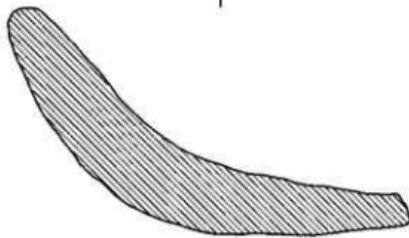
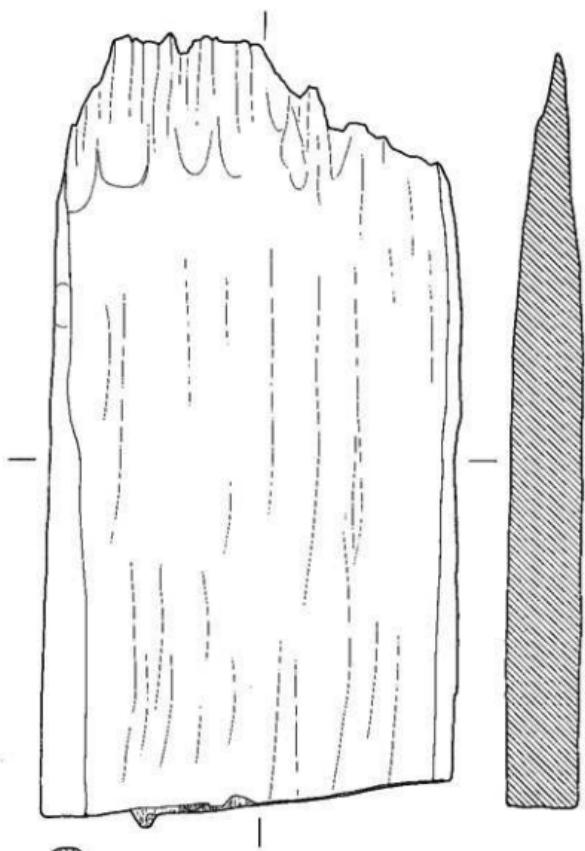
第56図 A-III b地区SE2出土遺物・木枠実測図1



第57図 A-I**b**地区 S E 2木枠実測図2



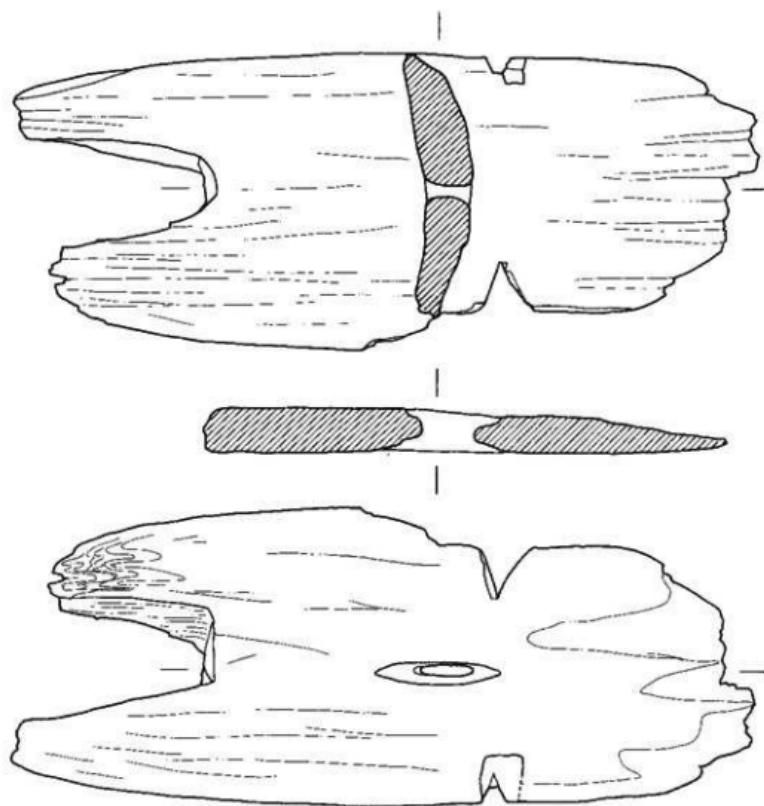
第58図 A-III b地区 S E 2木枠実測図3



21



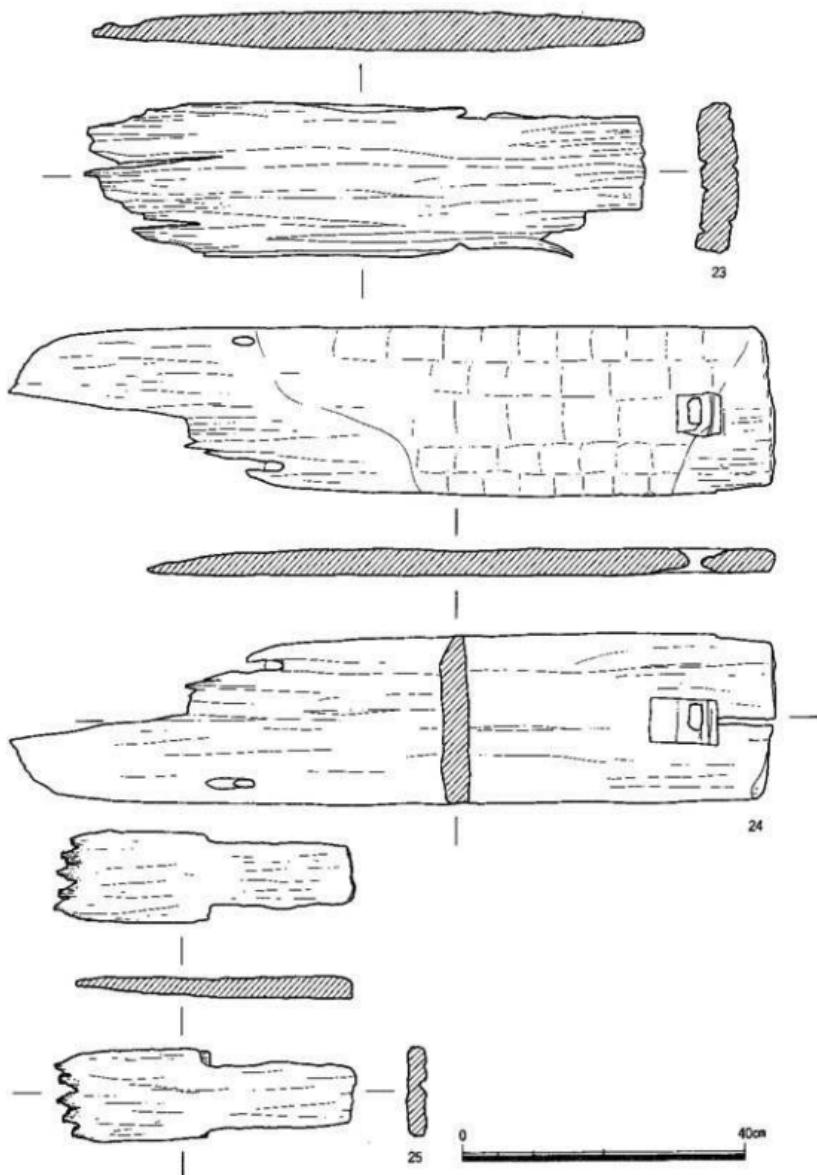
第59圖 A—III b 地區 S E 2木桿實測圖4



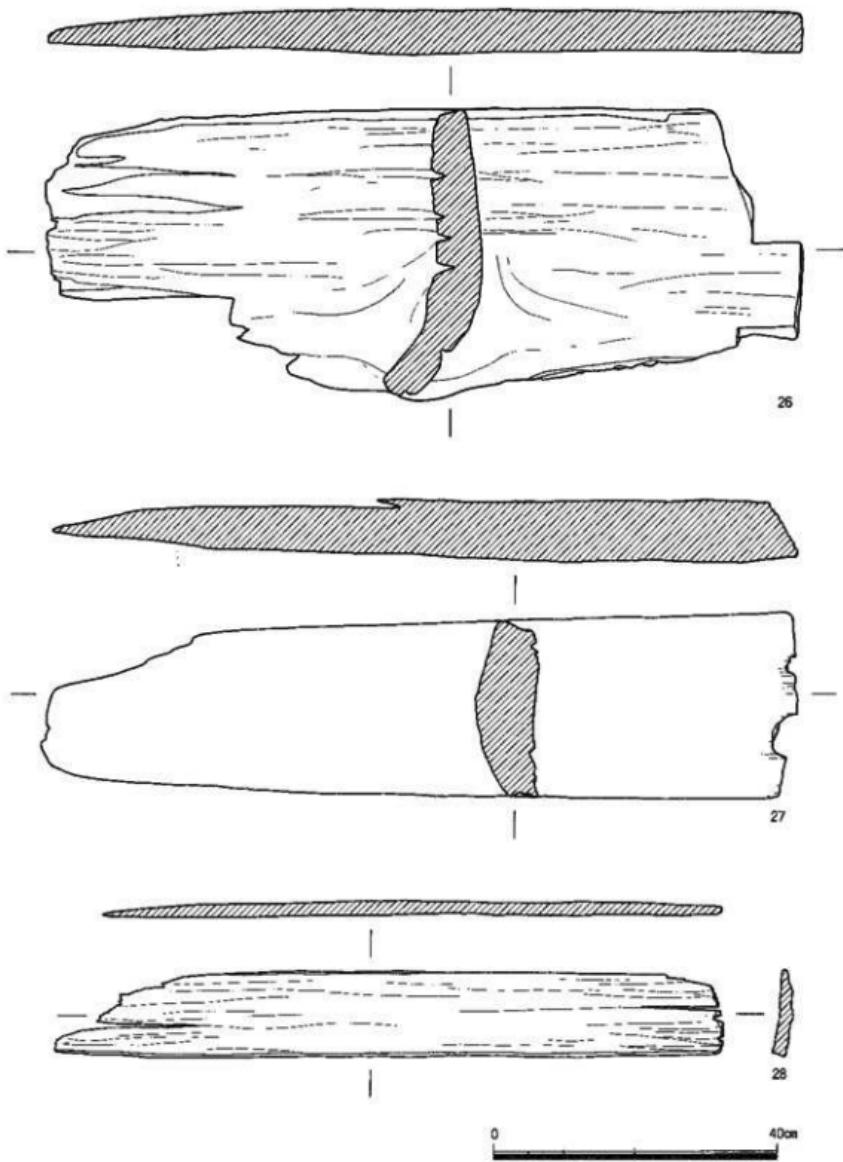
22



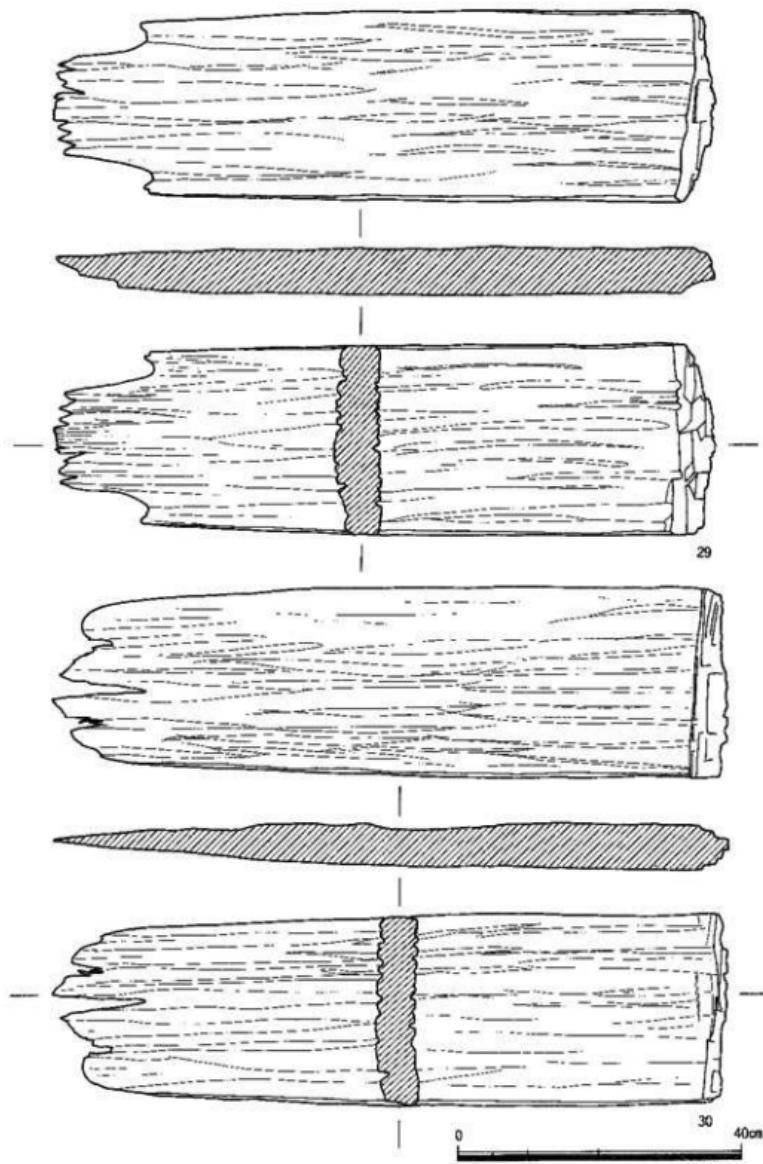
第60圖 A-III b 地區 S E 2 木枠實測圖5



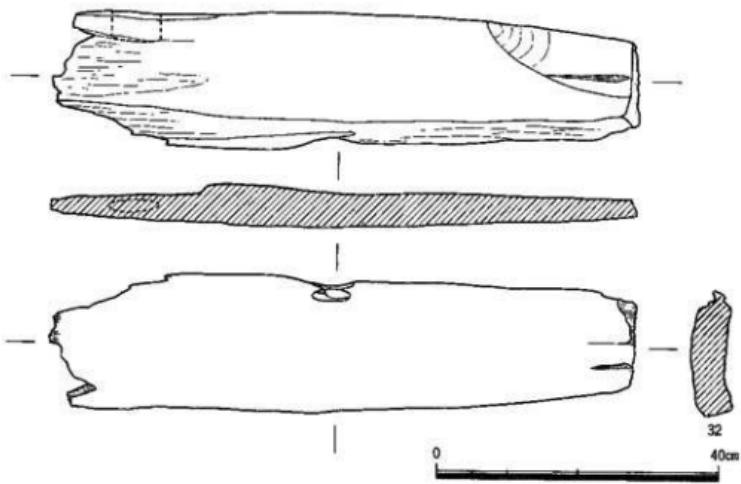
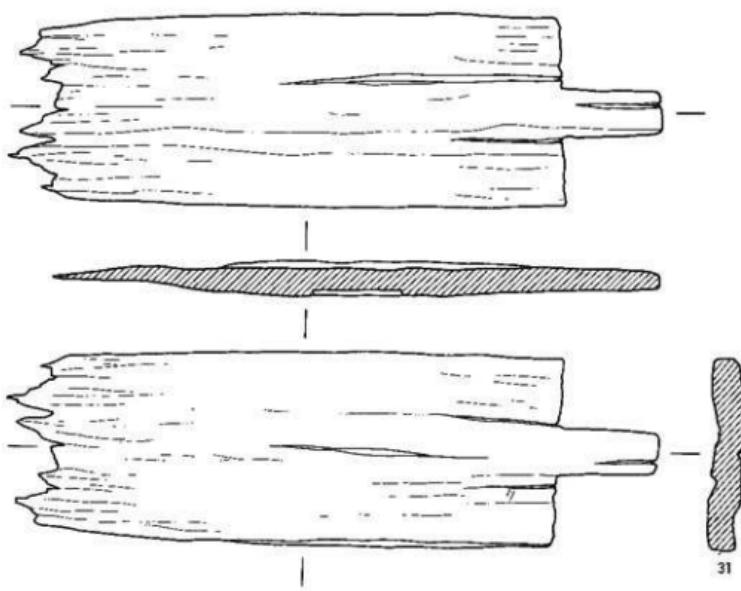
第61図 A-III b 地区SE 2木柾実測図6



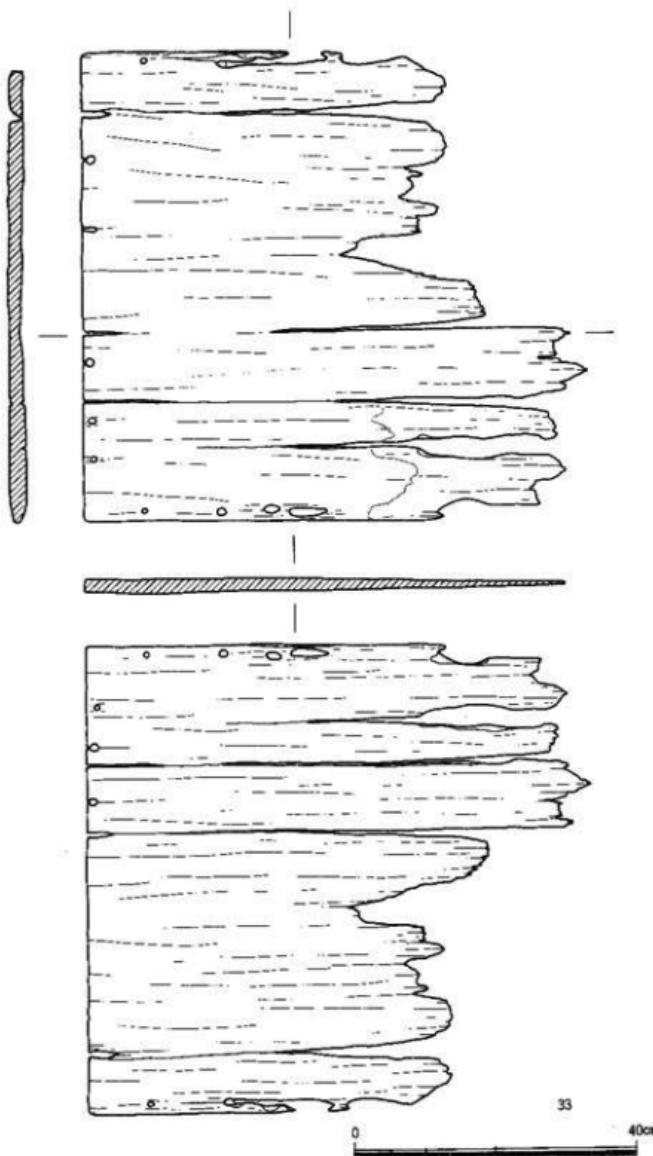
第62図 A-III b 地区 S E 2木枠実測図7



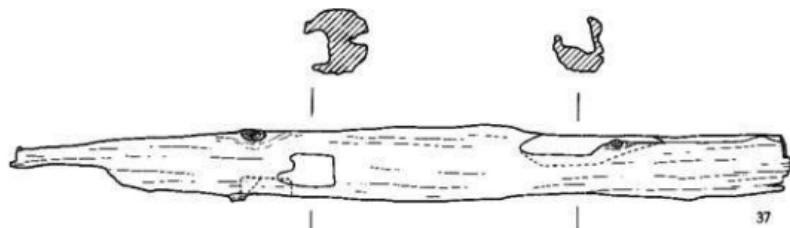
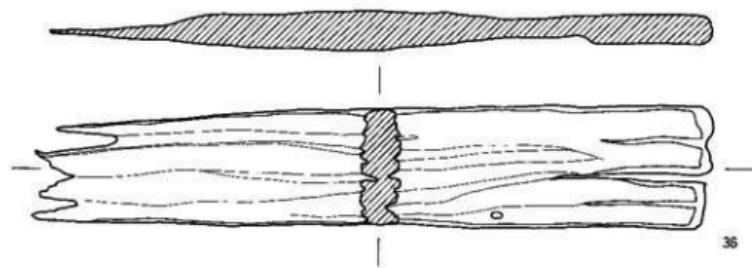
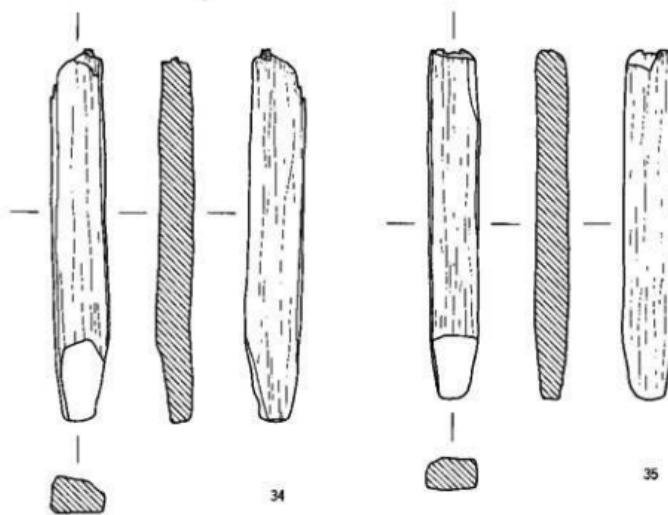
第63図 A-III b 地区 S E 2木棒実測図8



第64図 A-Ⅱ b 地区 S E 2 木棒実測図9

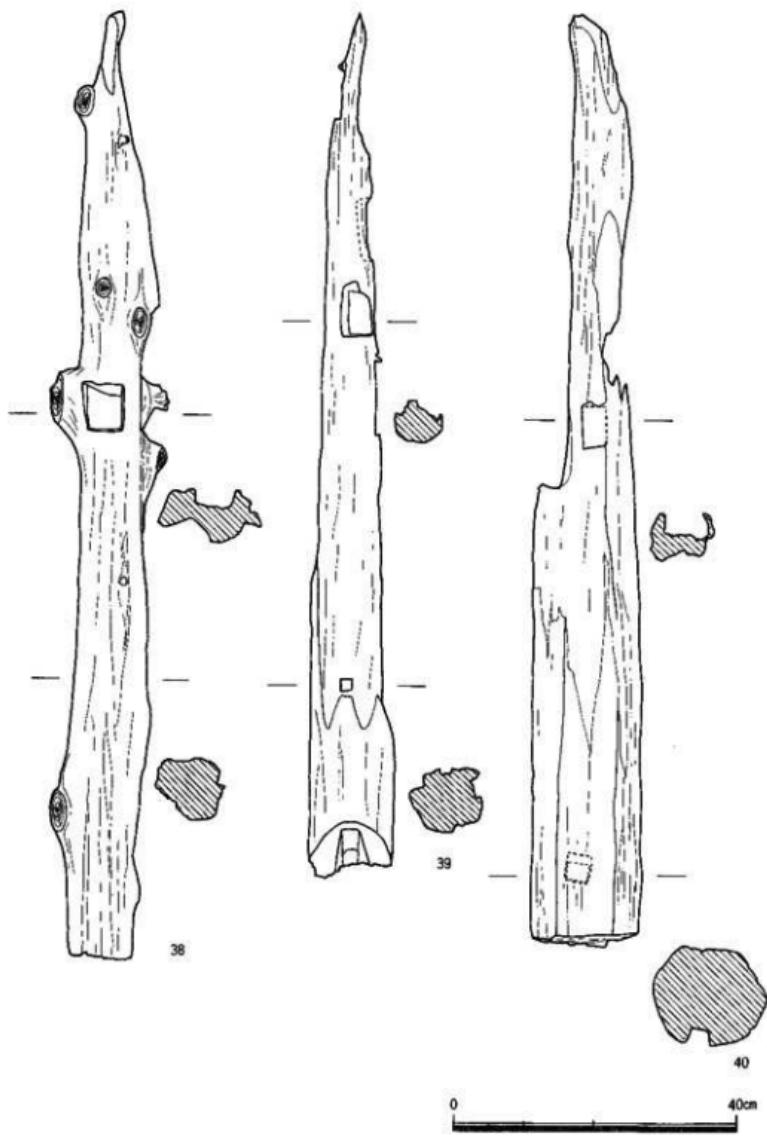


第65図 A-III b地区 S E 2木枠実測図10

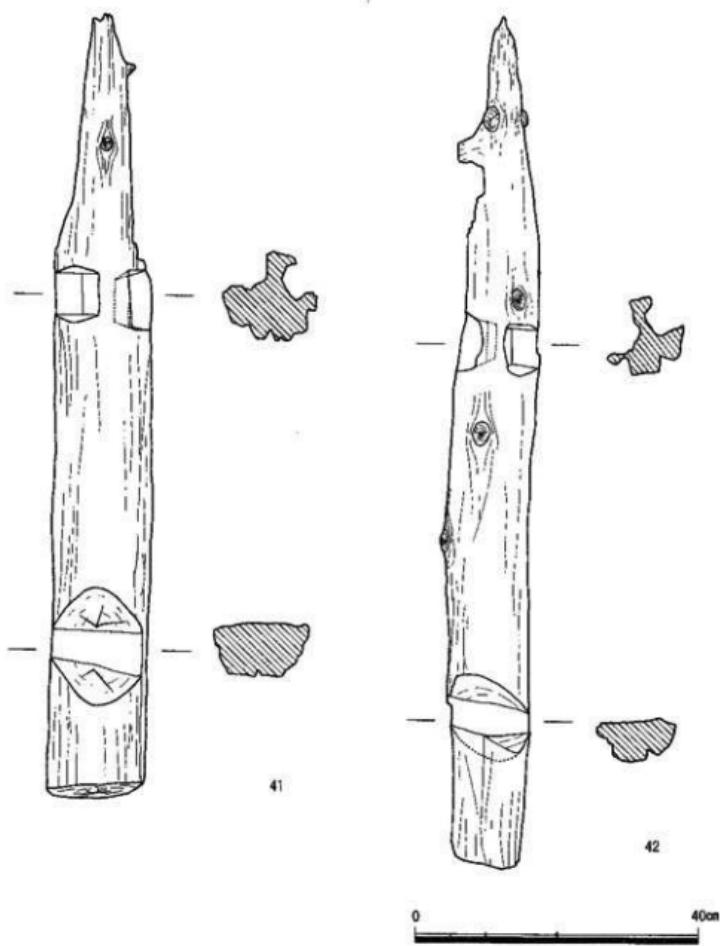


0 40cm

第66図 A-I II b 地区 S E 2木枠実測図11



第67図 A-III b 地区 S E 2木棒実測図12



第68圖 A-III b 地區 S E 2 木棒實測圖13

### S E 3

A-IIIc 地区の落ち込み 8 の基底面で検出した。検出部は東西径 0.92m、南北径 1.1m、深さ 0.85m を測る素掘りの井戸と考えられる。平面はやや梢円形を呈す。断面は U 字形を成す。堆積土は暗灰色シルトと淡黄灰色シルト粘土のブロック土・青灰色シルトと黒灰色粘土のブロック土の 2 層に分かれる。この造構は堆積状況からみると帶水による沈殿土層が認められないことや築造後すぐに埋め戻している土層であることから、井戸としての機能を果たしていなかつたと推測でき、何かの理由により築造を中止して埋めたものと考えられる。

遺物は、土師器の細片をごく少量出土しただけで時期を決定づけるものはないが、落ち込み 8 の基底面より切り込まれていることから、平安時代かそれより若干遅る時期に位置づけられるであろう。

### 土坑

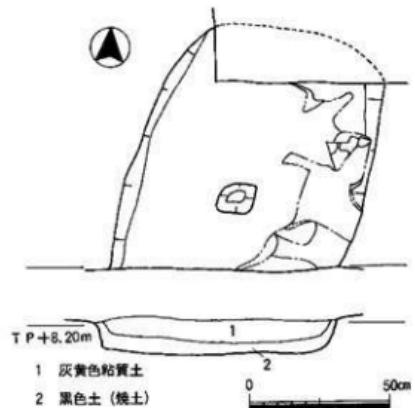
#### SK 1

A-Ic 地区で検出した。SD 3 に切られる。検出部は径 0.9m、深さ 0.3m を測る土坑である。平面は円形を呈す。断面は逆台形を成す。堆積土は茶灰色粘土の単一層である。

遺物は出土していないが、層位的にみて平安時代頃に比定されると推測できる。

#### SK 5

22c 地区の南壁で検出した。南部は調査区外に至る。検出状況は TP +8.25m を測る黄灰色シルトの上面で赤褐色に変色した幅 3 ~ 5 cm を測る帯状に廻らした状態で検出した。検出部の規模は東西径 0.8m、南北径 0.9m を測る。内部には深さ 0.1m を測る黄灰色粘土が堆積している。これを除去すると輪郭に廻らした帯状の赤褐色土が基底面にも廻っていた。これは高熱によって変色したと考えられ、住居址に伴う炉跡・焼土坑や土器などを焼く窯跡等が



第69図 22c 地区 SK 5 平断面図

推察できるが、完掘していないため全体の様相は不明である。

遺物は出土していないが、時期は層位的にみて平安時代頃に位置づけられるものと考えられる(第69図)。

### S K 31

A-N d 地区で検出した。検出部は東西径1.65m、南北径1.1m、深さ0.2mを測る土坑である。平面は梢円形を呈す。断面は逆台形を成す。堆積土は淡黄茶褐色粘土の單一層である。

遺物は出土していないが、層位的にみて奈良～平安時代の時期に比定されるであろう。

### S K 32

A-N d 地区で検出した。検出部は東西径1m、南北径2.1m、深さ0.1mを測る土坑である。平面はほぼ長方形を呈す。断面は浅い皿状形を成す。堆積土はS K 31と同一層である。

遺物は出土していない。時期はS K 31と同時期と考えられる。

### S K 33

A-N d 地区の南壁で検出した。南半部は調査区外に至る。検出部は東西径2.5m、南北径0.9m以上、深さ0.2mを測る土坑である。断面は皿状形を呈す。堆積土はS K 31・S K 32等と同一層である。

遺物は出土していない。時期はS K 31等と同時期と考えられる。

### S K 34

A-N f 地区の南壁で検出した。南半部は調査区外に至る。検出部は東西径4.8m以上、南北径0.6m以上、深さ0.1mを測る土坑である。断面は皿状形を呈す。堆積土はS K 31等と同一層である。

遺物は出土していない。時期はS K 31等と同時期と考えられる。

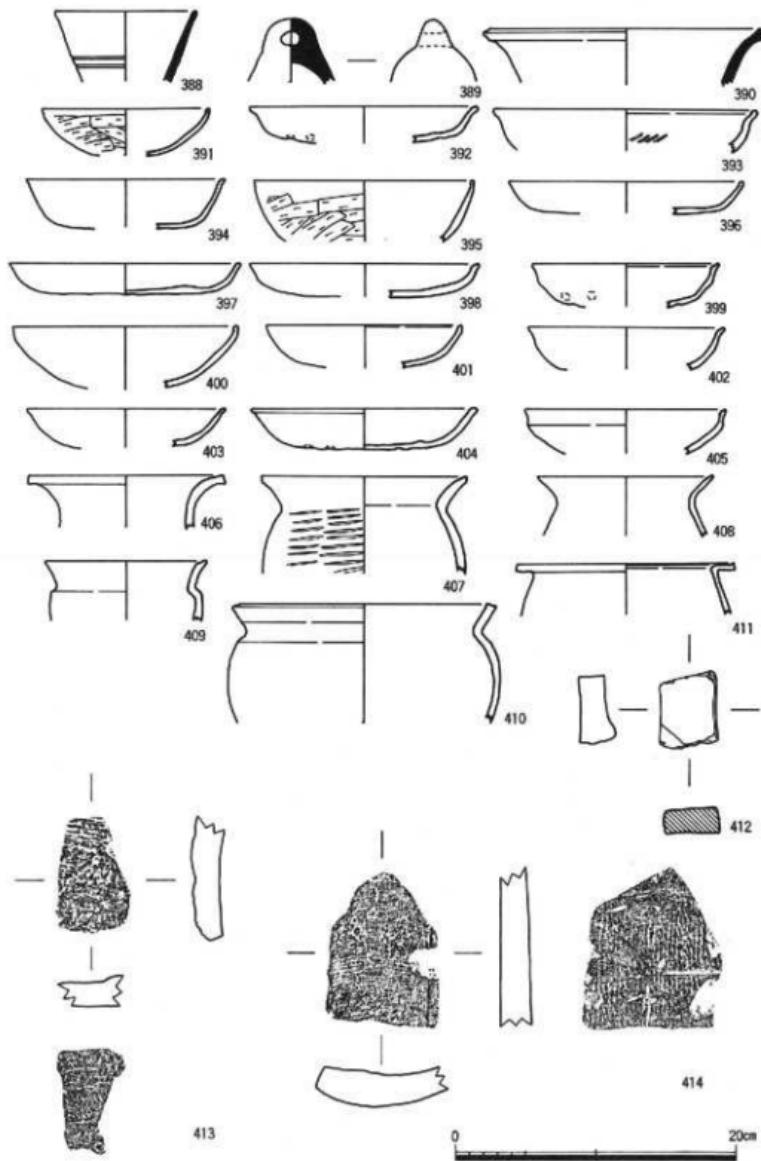
### 落ち込み状遺構

#### 落ち込み 8

A-III c 地区で検出した。南北ともに調査区外に至る。検出部は東西幅6.5m、深さ0.3mを測る南北の方向に至る落ち込み状遺構である。北壁の西部はS K 12を切っている。堆積土は暗灰茶色細砂混じリシルトの單一層である。基底面は起伏してピット状の浅い凹みが数ヶ所みられる。また、S E 3 が検出された。

#### 出土遺物

遺物は、奈良～平安時代に類似する須恵器の蓋壺・壺（388）・壺（389）・壺（390）と土師器の皿（391～405）・壺（409・410）・瓦（413・414）等の土器と弥生時代後期～古墳時代前期に類似する壺（406）・壺（407・408・411）等の土器の細片が混入していた。その他に、縦6.2cm以上×横41cm×厚み2～4cmを測り、4面の使用痕が認められる半分欠損した砥石（412）1点を出土した。材質は砂岩石である（第70図）。



第70図 A-IIIc地区落ち込み8出土遺物実測図

## 溝

### SD 6

A - II C 地区で検出した。検出部は幅0.26~0.62m、深さ0.14~0.22mを測る南東一北西の方向に至る溝である。南東部はSD 7を切る。堆積土は黄褐色シルト混じり粘土・黄灰色シルトの2層に分かれれる。

遺物は出土していないが層位的にみて、時期は奈良~平安時代に比定されると考えられる。

### SD 7・SD 8

A - II c・d 地区で検出した。検出部は幅1.9~3.95m、深さ0.05mを測る南から北方に拡がりをみせる溝である。基底面の中央部付近には径0.6~1mを測る山状の高まりが3ヶ所認められた。また、この溝はSD 6・SD 9に切られ、SD 10と切り合う関係にある。堆積土は灰褐色粘土の單一層である。

遺物は出土していないが層位的にみて、SD 6と同一時期と考えられる。

### SD 9

A - II d 地区で検出した。検出部は幅0.33~0.5m、深さ0.13~0.18mを測る溝である。方向はN-22°-Wを示す。南北ともに調査区外に至る。この溝はSD 8を切り、SD 10と切り合う関係にある。堆積土は灰色砂混じり粘土・灰色粘土の2層に分かれれる。

遺物は出土していないが、SD 6等の溝と若干の時期差は認められるもののはば同一時期と考えられる。

### SD 10

A - II d ~ g 地区で検出した。検出部は幅0.13~0.32m、深さ0.05~0.15mを測る東西方向に至る溝である。東部はSD 15、西部はSD 8と合流し、SD 9・SD 11・SD 12・SD 14と切り合う関係にある。堆積土は灰色砂混じり粘土の單一層である。

遺物は出土していないが、SD 9等の溝とほぼ同一時期と考えられる。

### SD 11

A - II d 地区で検出した。検出部は幅0.18~0.5m、深さ0.08~0.14mを測る溝である。方向はN-22°-Wを示す。この溝はSD 10・SD 14と切り合う関係にある。堆積土は灰色砂混じり粘土の單一層である。

遺物は出土していないが、SD 9等の溝とほぼ同一時期と考えられる。

### SD 12

A - II e 地区で検出した。検出部は幅0.26~0.4m、深さ0.05~0.1mを測る溝である。方向はSD 9・SD 11と同一方向を示す。この溝はSD 10と切り合う関係にあり、南北部は調査区外に至る。堆積土は灰色砂混じり粘土の單一層である。

遺物は出土していないが、S D 9等の溝とはほぼ同一時期であると考えられる。

#### S D 14

A - II d 地区で検出した。検出部は幅0.32~0.5m、深さ0.15mを測る溝である。方向はS D 10・S D 11と交わって土坑状になった部分より北東の方向に至る。堆積土は灰色砂混じり粘土の單一層である。

遺物は出土していないが、S D 10等の溝とはほぼ同一時期であると考えられる。

#### S D 15

A - II g 地区で検出した。検出部は幅0.28~0.4m、深さ0.1mを測る溝である。方向はS D 9・S D 11・S D 12・S D 16と同一方向で、東西方向のS D 10と合流する。堆積土は灰色砂混じり粘土の單一層である。

遺物は出土していないが、S D 9等の溝とはほぼ同一時期であると考えられる。

#### S D 16

A - II e 地区で検出した。検出部は幅0.3~0.43m、深さ0.16~0.26mを測る溝である。方向はS D 9・S D 11・S D 12・S D 15と同一方向で、S D 10と交差する。断面は逆台形を呈し、上記の溝より若干深い。堆積土は灰色砂混じり粘土の單一層である。

遺物は出土していないが、S D 9等の溝とはほぼ同一時期であると考えられる。

#### S D 54

A - IV f・g 地区で検出した。検出部は幅0.28~0.4m、深さ0.1mを測る東西方向の溝である。断面は皿状形を呈す。堆積土は淡灰褐色砂混じり粘土の單一層である。

遺物は出土していないが、層位的にみて奈良～平安時代の時期に比定されると考えられる。

#### S D 55

A - IV f～h 地区で検出した。検出部は幅0.2~0.3m、深さ0.05~0.1mを測る溝である。方向は東西方向を示す。断面は皿状形を呈す。東部はS D 56と切り合う関係にある。堆積土はS D 54と同一層である。

遺物は出土していない。時期はS D 54の溝とはほぼ同一時期と考えられる。

#### S D 56

A - IV h 地区で検出した。検出部は幅2.3~3.2m、深さ0.18~0.22mを測る溝である。方向は北上したのち屈曲し北東に至る。S D 55と切り合う関係にある。堆積土はS D 54と同一層である。

遺物は出土していない。時期はS D 54等の溝とはほぼ同一時期と考えられる。

## ビット

A-I・A-II地区で検出した。径0.26~0.4mを測る小形のものと径0.45~1.1mを測る大形のものに大別できるビットである。平面は円形ないし梢円形を呈す。これらのビットは住居址に関する柱穴などの遺構と考えられるものもある。しかし、限定された調査区であるため規則性のある配列は前述したSB1・SB2の掘立柱建物2棟のみで、その他は明確に認められなかった。なお、個々のビットの規模・形状等については下記の第4表に表わした。

第4表 奈良～平安時代のビット一覧表

地 区	遺構番号	規 模 (cm) 長径×短径	深 さ (cm)	形 状		柱 岩 (cm)	柱 根 残存	出 土 遺 物	備 考
				平 面 形	断 面 形				
A-Ia	SP1	34~27	4	円 形	逆 台 形	8~12	—	土師器高杯細片	
A-IIa	SP2	78~46	33	隅丸方形	逆 台 形	—	—	須恵器細片	
A-IIa	SP3	89~46	25	隅丸方形	逆 台 形	—	—	土師器と須恵器細片	
A-IIb	SP4	82~50	21	隅丸方形	逆 台 形	—	—	土師器と須恵器細片	
A-IIa	SP5	84~27	30	隅丸方形	逆 台 形	10~15	—	土師器と須恵器細片	
A-IIb	SP6	74~60	22	円 形	逆 台 形	—	—	土師器の細片	
A-IIb	SP7	96~27	27	円 形	逆 台 形	12~16	—	土師器細片	根石
A-IIa	SP8	14以上	10	円 形	逆 台 形	—	—		
A-IIb	SP9	20以上	15	円 形	逆 台 形	—	—		
A-IIc	SP10	40~36	22	横 円 形	U 字 形	—	—	土師器の細片	
A-IIc	SP11	31~26	21	横 円 形	逆 台 形	—	—	土師器細片	
A-IId	SP12	34~26	8	横 円 形	逆 台 形	—	—		
A-IId	SP13	110~68	12	隅丸方形	逆 台 形	—	—	土師器細片	
A-IIe	SP14	73~47	18	隅丸方形	逆 台 形	—	—	土師器細片	
A-IIe	SP15	52~28	60	隅丸方形	U 字 形	—	—		
A-IIe	SP16	58~35	17	隅丸方形	逆 台 形	—	—	土師器細片	
A-IIe	SP17	72~48	15	隅丸方形	逆 台 形	—	—	土師器と須恵器細片	
A-IIe	SP18	116~50	47	横 円 形	逆 台 形	—	—	土師器の細片	
A-IIe	SP19	114~70	20	横 円 形	逆 台 形	—	—	土師器と須恵器細片	
A-IIe	SP20	78~49	18	横 円 形	逆 台 形	—	—	土師器と須恵器細片	
A-IId	SP21	64~44	15	隅丸方形	逆 台 形	—	—	土師器細片	根石
A-IIe	SP22	95~62	27	横 円 形	逆 台 形	—	—	土師器細片	
A-IIe	SP23	88~67	37	横 円 形	逆 台 形	—	—	土師器と須恵器細片	
A-IIe	SP24	74~63	55	円 形	逆 台 形	—	—	土師器と須恵器細片	
A-IIb	SP25	70~58	54	隅丸方形	逆 台 形	—	—	土師器細片	
A-IIb	SP26	35~23	32	横 円 形	逆 台 形	—	—		
A-IIb	SP27	32~26	26	横 円 形	逆 台 形	—	—		
A-IIb	SP28	44~38	23	横 円 形	逆 台 形	—	—		
A-IIb	SP29	44~38	19	円 形	逆 台 形	—	—		
A-IIc	SP30	68~28	43	横 円 形	逆 台 形	—	—	土師器高杯・斐片	
A-IIc	SP32	47~31	8	横 円 形	逆 台 形	—	—	土師器細片	
A-IIc	SP33	39~26	10	横 円 形	逆 台 形	—	—		
A-IIc	SP34	37~28	11	円 形	逆 台 形	—	—		
A-IIc	SP35	54~34	22	横 円 形	逆 台 形	—	—		
A-IIc	SP36	33~22	11	横 円 形	逆 台 形	—	—		
A-IIc	SP37	52~26	22	横 円 形	逆 台 形	—	—		
A-IIc	SP38	39~35	11	円 形	逆 台 形	—	—		
A-IIc	SP39	23~22	11	横 円 形	逆 台 形	—	—		
A-IIc	SP40	78~28	11	横 円 形	逆 台 形	—	—		

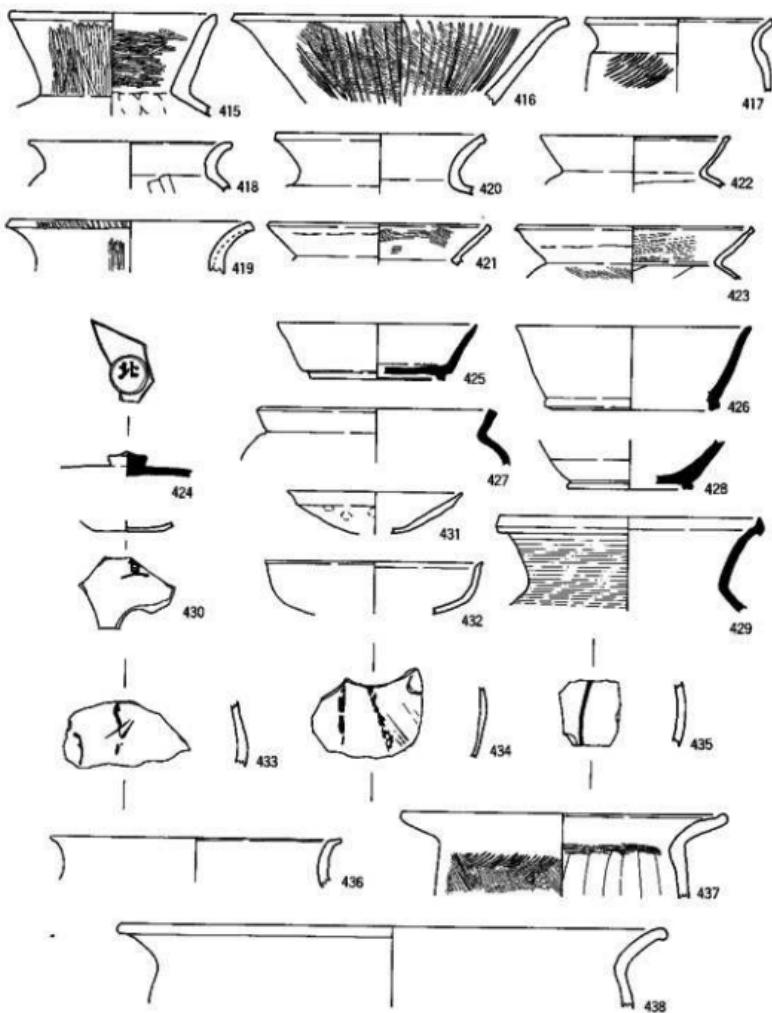
## 自然河川

### 河川 3

A-N a～c 地区で検出した。検出部は幅25m以上を測る自然河川である。深さは0.1～0.6mを測り、基底面は東側に幅約1.5mで北東の方向の流路がある。西側は不定形土坑状の窪みがみられる。また基底部の全面には径0.1～0.3m、深さ0.03～0.15mを測る平面円形及び橢円形の足跡状の凹みが無数に検出した。この凹みは人・動物等の足跡痕ではないかと考えられる。堆積土は砂質を基調として黄灰色砂土・白灰色粗砂・灰色砂土・暗灰褐色粘砂土（酸化鉄を含む）・白灰色細砂等で構成している。時期は遺物から奈良時代に埋没したと考えられる。

### 出土遺物

弥生時代後期～奈良時代に至る遺物がコンテナ3箱分出土した。特に基底面の凹みに多く混入していた。また、これらの遺物は流れ込みと思われ、大半がローリングを受けて細片化した土器である。器種は弥生時代後期に比定される壺・高杯・甕(417～420)、古墳時代前期に比定される壺(415・416)・高杯・甕(421～423)、古墳時代後期～奈良時代に比定される須恵器の蓋杯・つまみ付蓋(424)・高台付杯(425・426)・壺(427・428)・甕(429)・土師器の皿(430～432)・墨書き土器(433～435)・甕(436～438)等である。つまみ付蓋(424)はつまみ上面に「北」と言う墨書きが書かれている。土師器の皿(430)は皿の底部外面に「▲」と墨書きが書かれている(第71図)。



0 20cm

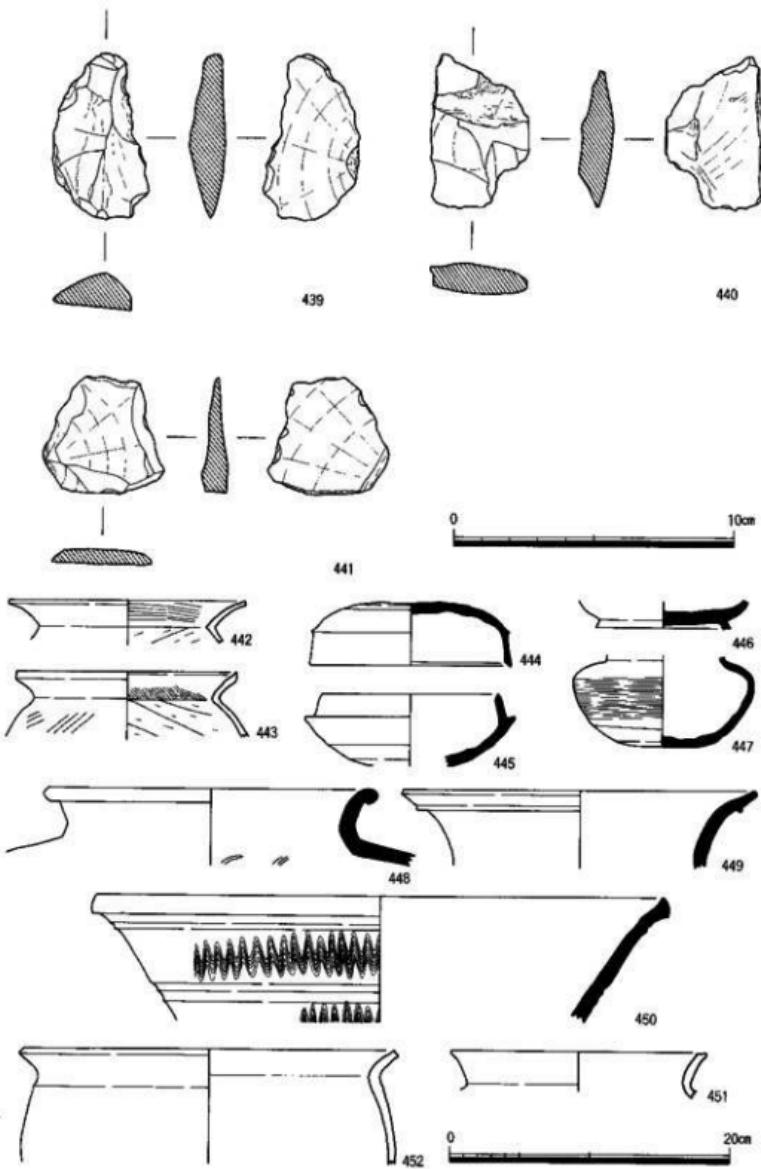
第71図 A-IV a~c 地区河川3出土遺物実測図

## 河川 1

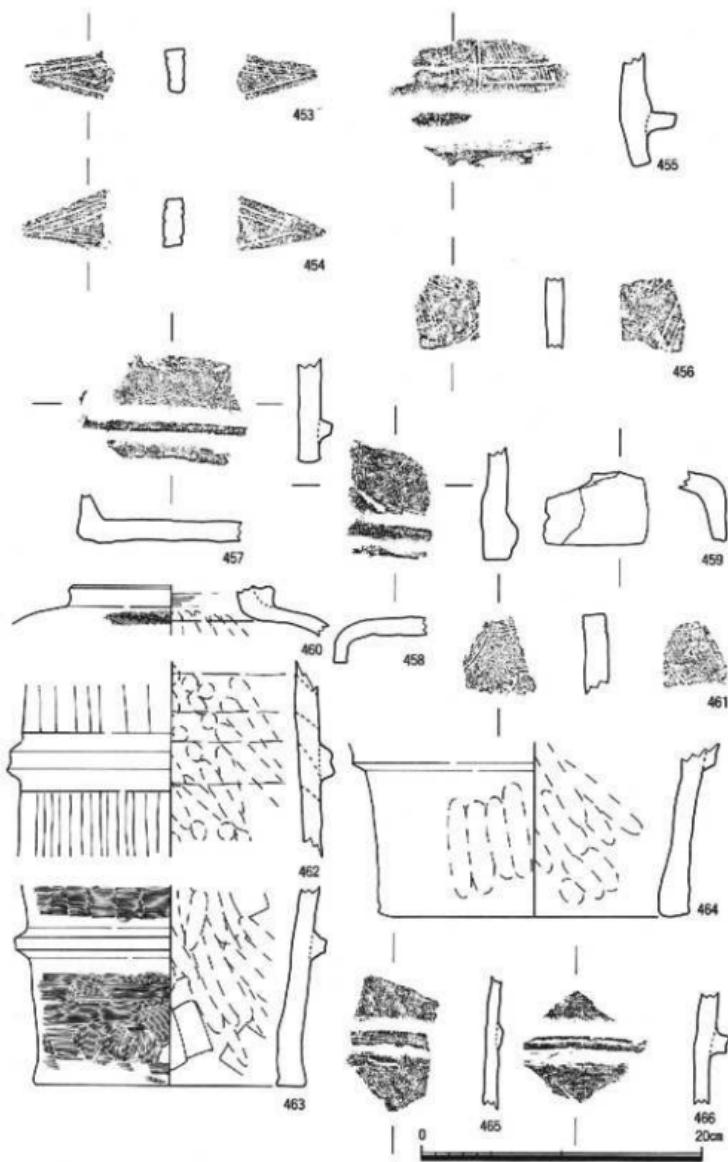
A-Ⅰe 地区・A-IIa 地区・21 地区・22a 地区で検出した。検出部は幅約 14m を測る自然河川跡である。この河川は弥生時代後期に埋没した自然河川の堆積した砂土層の上面より切り込んで北流する。河川の基底面は調査区の幅が狭く、地下水位が高く湧水の激増で調査区の壁面の保守にも支障を来たし、危険な状態であるために調査を断念した。A-IIa 地区・22a 地区は河川の右岸を確認した。右岸の肩は約 45 度の傾斜で落ち込んでいる。検出部の堆積土は疊砂土を基調とし、灰青色粘土・灰褐色散砂土がサンド状に積み重なっている。

### 出土遺物

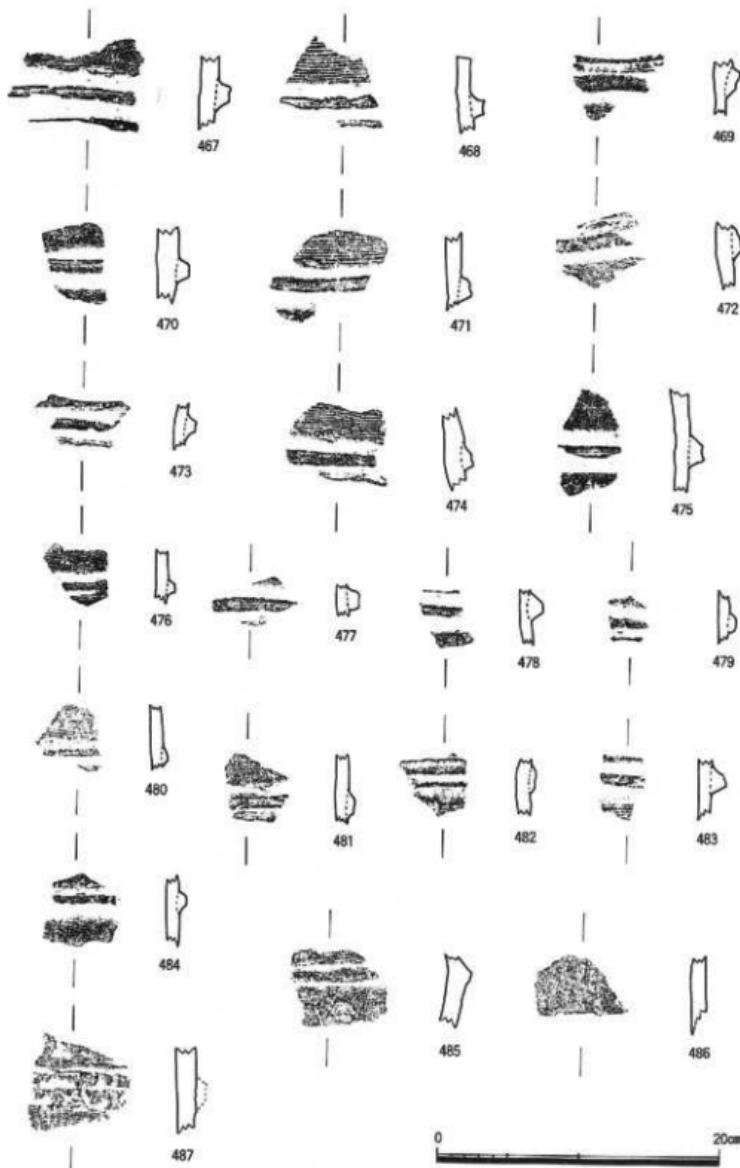
この河川の堆積土からは弥生～平安時代に至る遺物をコンテナ 3 箱分出土した。これらの遺物は河川 3 と同様にローリングを受け細片化した土器が大半であった。遺物は石器・土師器・須恵器・埴輪・瓦・木製品等である。時期別に分けると、弥生時代に比定されるサヌカイト製の剣片（439～441）、古墳時代前期に比定される庄内式甕（442・443）等の細片、古墳時代中期～後期に比定される須恵器・土師器・埴輪等である。須恵器はⅡ型式 1 ～ 2 段階に類似する蓋坏（444）・坏身（445）・足（447）・甕（448～450）、Ⅳ型式 1 ～ 5 段階に類似する高台のみの台付坏身（446）がある。土師器は 5 世紀中葉～後半に比定される甕（451）・瓶（505・506）、古墳時代後期に比定される甕（452）等である。埴輪はすべて細片化して出土している。時期は古墳時代中期に比定されるもののが大半である。埴輪には盾形埴輪（453・454・456・461）・家形埴輪（455・457・458・459）・朝顔形円筒埴輪（460）・円筒埴輪（462～490）等である。奈良時代は土師器の皿（494～496）・墨書き入面土器（502）・羽釜（507・508）・須恵器の台付坏身（501）等で、土師器の皿（496）は底部外面に「吉」の墨印が施されている。平安時代は黒色土器の碗（500）・土師器の皿（491～493・497・498）・猪口形土器（499）・土管（503・504）・鉢（509）・平瓦（510～513）等である。その他には時期の判別できない木製器が出土している。43 は斧の柄の形状をもつ木製品で、台部の先端と握部の一部が欠損する。残存部の規模は台部長 12.8cm 以上、台部幅 3.4cm、台部厚 1.6cm、握部長 7.2cm 以上、着柄角度 70° を測る。台部の断面はカマボコ形を呈す。握部の断面は橢円形を成し、径は 1.2 × 1.8cm を測る。44 は杭と思われる木製品で、上部先端は腐敗する。残存部の規模は長さ 43.6cm、最大径 5.2cm を測る。下部は工具による加工を施し、先端部を尖らしている（第 72 図～第 76 図）。



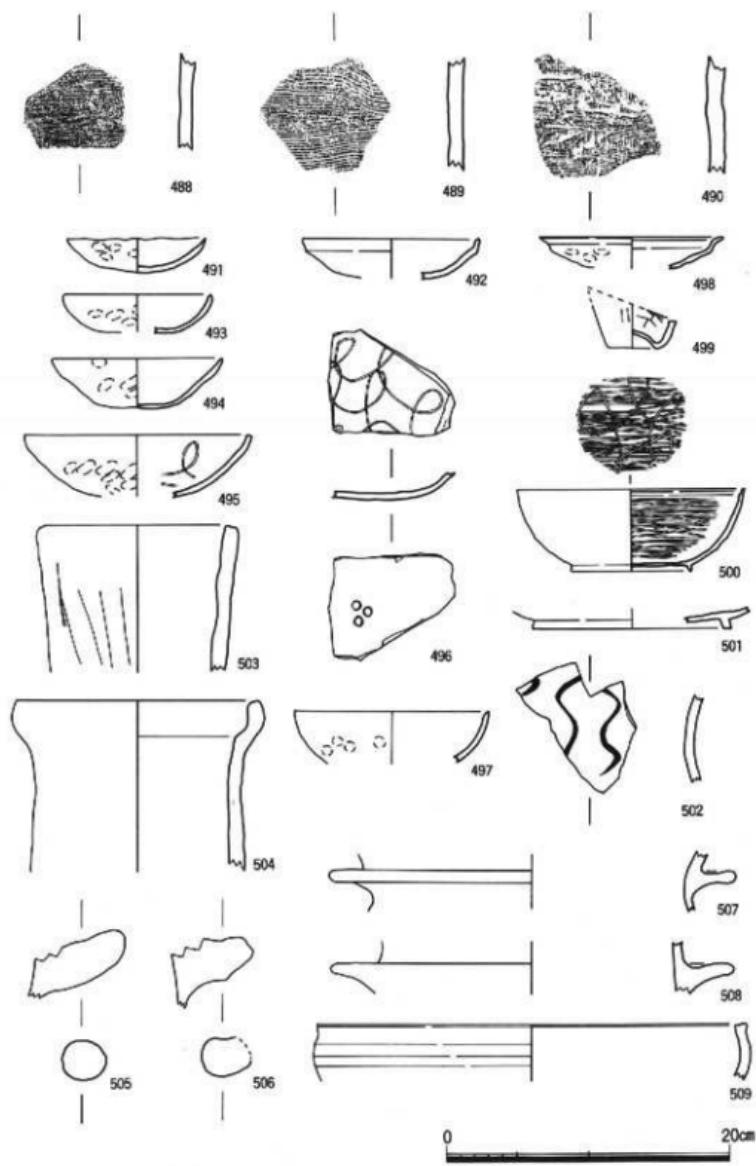
第72図 A-II a・21・22 a 地区河川1 出土遺物実測図1



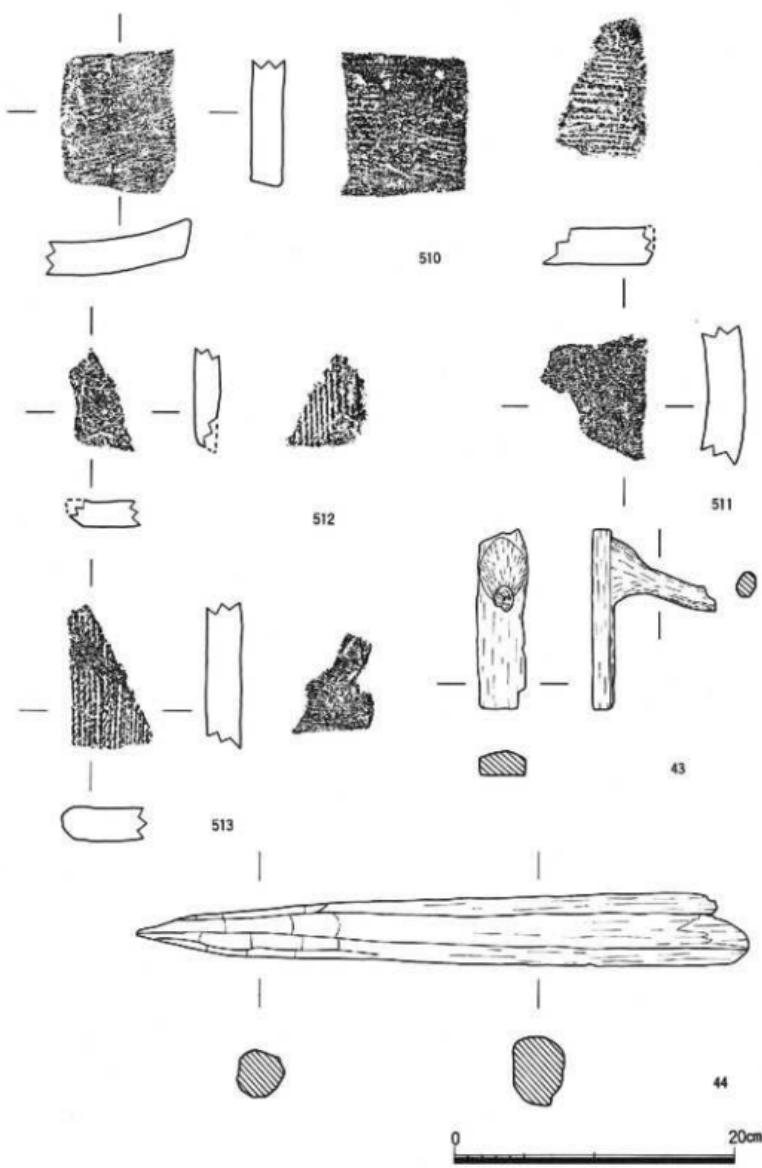
第73図 A-II a・21・22a地区河川1出土遺物実測図2



第74図 A-II a・21・22a地区河川1出土遺物実測図3



第75図 A-II a · 21 · 22 a 地区河川 1 出土遺物実測図4

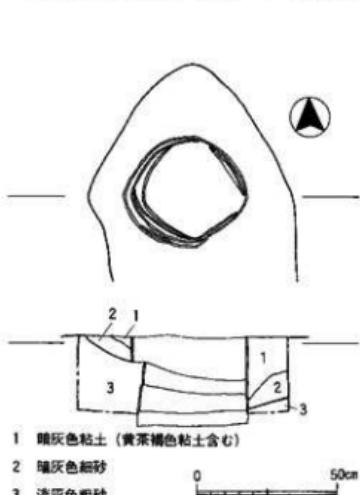


第76図 A-II a・21・22a地区河川1出土遺物実測図5

## 第7節 中世～近世の遺構・遺物(第1調査面)

この時代の遺構は、TP +8.0～8.2mを測る第4層灰褐色粗砂混じり粘土の上面で、曲物を備えた井戸1基・農耕に関連する溝48条が検出した。遺物はほとんどなく、第2層・第3層からローリングを受け、細片化した状態でごく少量出土しただけである。

以下、検出した遺構・遺物について概説する。



第77図 22a地区 S E 4 平断面図

### 井戸

#### S E 4 (第77図)

22a地区で検出した曲物を備えた井戸である。掘形は平安時代に比定される河川1の埋没した堆積土の上面より切り込まれている。掘形の規模は径0.75m、深さ0.6mを測る。平面は不定形を呈す。断面は逆台形を成す。井戸枠は掘形の検出面から約0.3mの下位で径0.4m、高さ0.15mを測る4段重ねの曲物が底部にずれ落ちた状態で検出した。掘形の堆積土は上方から暗灰色粘土と黄茶褐色粘土のブロック土・暗灰色細砂・淡灰色粗砂で、曲物内の堆積土は暗灰色砂砾である。

遺物は井戸枠内から古墳時代前期に比定される土器片を少量出土しただけで、この井戸の時期の遺物は出土していないが、平安時代

に比定される河川1の上面より掘られていることなどから鎌倉時代以降に比定されると考える。

### 溝

#### S D 1

A-I・A-II a～b地区で検出した。検出部は幅1.8m、深さ0.15mを測る東西方向に至る溝である。東部はS D 5と切り合う関係にある。断面は逆台形を呈す。堆積土は灰褐色砂粘土の単一層である。

遺物は、須恵器・土師器・瓦器碗・瓦・青磁碗等のローリングを受けた細片を少量出土した。時期は鎌倉時代以降に比定されると考えられる。

#### S D 5

A-II b地区で検出した。検出部は幅0.6m、深さ0.1～0.2mを測る南北方向の溝である。西部はS D 1と切り合う関係にある。断面は逆台形を呈す。堆積土はS D 1と同一層である。

遺物は出土していないが、時期は鎌倉時代以降に比定されると考えられる。

#### S D 19

A - III c 地区で検出した。検出部は幅0.25~0.35m、深さ0.1mを測る東西方向の溝である。東部は調査区外に至り、S D 20と切り合う関係にある。西部は途切れる。また径0.35mを測る平面半円形の脹らみがある。断面は椀状形を呈す。堆積土は灰色砂混じり粘土の単一層である。遺物は出土していないが、時期は S D 1 等と同一時期であると考えられる。

#### S D 20

A - III c 地区で検出した。検出部は幅0.35m、深さ0.1mを測る南北方向の溝である。北部は S D 19と切り合う関係があり、南へ2.5mで途切れる。断面は皿状形を呈す。堆積土は S D 19と同一土層である。

遺物は出土していないが、時期は S D 19等と同一時期である。

#### S D 21

A - III d 地区で検出した。検出部は幅0.26~0.42m、深さ0.1mを測る東西方向の溝である。断面は逆台形を呈す。堆積土は S D 19等と同一層である。

遺物は出土していないが、時期は S D 19等と同一時期である。

#### S D 32~S D 53

A - IV 地区で検出した。検出部は幅0.15~1m、深さ0.05~0.15mを測る溝である。S D 34~48は東西方向、S D 32・S D 33は南東一北西方向、S D 49~S D 53は南西一北東方向をそれぞれ示す。断面は逆台形及び皿状形を呈す。堆積土は灰褐色砂混じり粘土の単一層で、これらの溝は互いに切り合う関係にある。方向は現在の表土面である農地区画の方向にはほぼ一致する。

遺物は、須恵器・土師器・瓦器・瓦等のローリングを受けた細片をごく少量出土した。時期は中世以降に比定されると考えられる。なお、個々の溝の規模・形態は第5表に表示した。

#### S D 57

A - V g 地区で検出した。検出部は幅0.2m、深さ0.1mを測る南北方向の溝である。断面は皿状形を呈す。堆積土は灰褐色砂混じり粘土の単一層である。

遺物は出土していないが、時期は中世以降に比定されると考えられる。

#### S D 58~S D 105

22地区で検出した。検出部は幅0.1~1.8m、深さ0.1~0.27mを測る溝である。方向は S D 58~S D 78・S D 80・S D 82~S D 92・S D 94~S D 97・S D 100~S D 103が南北方向、S D 79・S D 93が東西方向、S D 81・S D 98・S D 99が南東一北西方向、S D 104・S D 105が南西一北東方向にそれぞれ示す。断面は逆台形及び皿状形を呈す。堆積土は灰褐色砂粘土の単一層である。これらの溝はA - IV 地区・A - V 地区で検出した溝と同様に、現在の農地の区画方向に一

第5表 中世～近世の溝一覧表

地 区	遺構番号	方 向	幅 (cm)	深さ (cm)	堆 積 土	備 考
A-IV a	SD-32	南 北	25~45	3~5	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV a	SD-33	南東-北西	17.5~50	4~5	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV a~b	SD-34	東 西	20~50	9.5~10	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV b~c	SD-35	東 西	17.5~25	2~4	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV a~e	SD-36	東 西	20~40	1.5~5	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV b	SD-37	東 西	17.5~22.5	3~4	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV a~i	SD-38	東 西	20.5~91	3~18	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV a~d	SD-39	東 西	27.5~75	4~12	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV a~i	SD-40	東 西	13~84	3.5~12.5	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV a~b	SD-41	北東-南西	20.5~80	4	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV c~i	SD-42	東 西	13~109	3~10	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV e~i	SD-43	東 西	14~20.5	6~8	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV c	SD-44	東 西	57以上	3~9	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV d~g	SD-45	東 西	1.5~79	1~12.5	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV d~e	SD-46	東 西	15~25	8.5~10	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV g~i	SD-47	東 西	48以上	4.5以上	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV g~i	SD-48	東 西	12~44	4.5~6	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV i	SD-49	南 北	40~83	4	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV i	SD-50	南西-北東	16~20	1.5	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV i	SD-51	南西-北東	28以上	2.5	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV i	SD-52	南 北	14~58	6~8.5	灰褐色砂混じり粘土	
A-IV i	SD-53	南 北	32以上	5~7	灰褐色砂混じり粘土	
A-V	SD-54	南 北	10~19	9~12	灰褐色砂混じり粘土	
22 a	SD-58	南 北	34~38	5.2~9.7	灰褐色砂粘土	
22 a	SD-59	南 北	25~27	4.3~5.8	灰褐色砂粘土	
22 a	SD-60	南 北	69~75	5.6~7.8	灰褐色砂粘土	
22 a	SD-61	南 北	97~103	6.8~19	灰褐色砂粘土	
22 a	SD-62	南 北	136~154	16.7~27.3	灰褐色砂粘土	
22 b	SD-63	南 北	43~47	0~8	灰褐色砂粘土	
22 b	SD-64	南 北	96~106	7.5~19.2	灰褐色砂粘土	
22 b	SD-65	南 北	69~79	4.1~24.7	灰褐色砂粘土	
22 c	SD-66	南 北	43~46	2.4~11.1	灰褐色砂粘土	
22 c	SD-67	南 北	35~40	8~9.2	灰褐色砂粘土	
22 c	SD-68	南 北	24~32	6.8~10.5	灰褐色砂粘土	
22 c	SD-69	南 北	22~37	3.3~12.1	灰褐色砂粘土	
22 c	SD-70	南 北	26~37	2.3~7.5	灰褐色砂粘土	
22 d	SD-71	南 北	10~100	9~20.8	灰褐色砂粘土	
22 e	SD-72	南 北	184以上	2.6~11.8	灰褐色砂粘土	
22 e	SD-73	南 北	24~157	3.4~16.2	灰褐色砂粘土	
22 e	SD-74	南 北	18~22	1.4~7.1	灰褐色砂粘土	
22 e	SD-75	南 北	26~30	3~10.1	灰褐色砂粘土	

致する。遺物は須恵器・七節器等のローリングを受けた細片をごく少量出土した程度である。時期は中世以降に比定されると考えられる。なお、個々の溝の規模・形態については第6表に表示したので参照されたい。

#### SD 113～SD 115

C-II地区で検出した。検出部は幅0.5～3.3m、深さ0.03～0.2mを測る東西方方向に至る溝である。断面は逆台形を呈す。堆積土は淡灰褐色砂混じり粘土の單一層である。遺物は出土していないが、A地区・22地区で検出している中世以降に比定される溝と同一のものであろう。なお、個々の溝の規模・形態等については第6表に表示した。

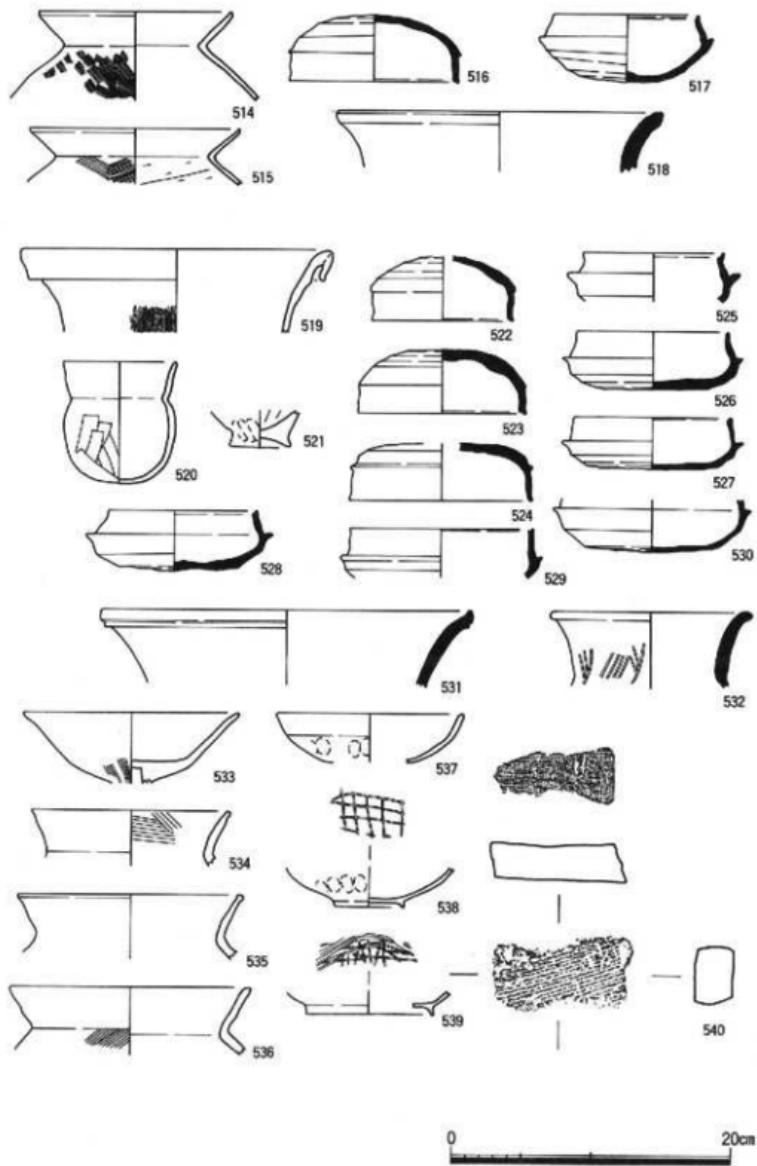
第6表 中世～近世の溝一覧表

地 区	遺構番号	方 向	幅 (cm)	深さ (cm)	堆 積 土	備 考
22 e	SD-76	南 北	56～64	1.7～13.3	灰褐色砂粘土	
22 e	SD-77	南 北	15～19	4.9～8.8	灰褐色砂粘土	
22 e	SD-78	南 北	24～45	11～15.4	灰褐色砂粘土	
22 f	SD-79	東 西	22～27	12.9～19.2	灰褐色砂粘土	
22 f	SD-80	南 北	29～60	13.1～21.5	灰褐色砂粘土	
22 f	SD-81	南東～北西	20～33	7.5～14.7	灰褐色砂粘土	
22 g	SD-82	南 北	210～221	6.9～24	灰褐色砂粘土	
22 g	SD-83	南 北	26～36	13.7～18.7	灰褐色砂粘土	
22 h	SD-84	南 北	34～40	7.9～16	灰褐色砂粘土	
22 h	SD-85	南 北	18～26	2.4～3.9	灰褐色砂粘土	
22 h	SD-86	南 北	17～22	3.9～12	灰褐色砂粘土	
22 h	SD-87	南 北	16～19	3.2～8.1	灰褐色砂粘土	
22 h	SD-88	南 北	23～27	10.2～13.1	灰褐色砂粘土	
22 h	SD-89	南 北	18～21	3.5～10.5	灰褐色砂粘土	
22 h	SD-90	南 北	22～29	6.4～9.8	灰褐色砂粘土	
22 h	SD-91	南 北	19～22	8.5～11.3	灰褐色砂粘土	
22 i	SD-92	南 北	32～35	9.7～40.8	灰褐色砂粘土	
22 i	SD-93	東 西	39～41	6.4～51.5	灰褐色砂粘土	
22 i	SD-94	南 北	23～33	7.7～11.6	灰褐色砂粘土	
22 j	SD-95	南 北	21～35	4.1～9.6	灰褐色砂粘土	
22 j	SD-96	南 北	19～27	6.3～8.5	灰褐色砂粘土	
22 j	SD-97	南 北	24～30	3.7～7	灰褐色砂粘土	
22 j	SD-98	南東～北西	11～17	1.1～2.7	灰褐色砂粘土	
22 j	SD-99	南東～北西	41～47	3.7～13.2	灰褐色砂粘土	
22 l	SD-100	南 北	64～71	13.3～19.8	灰褐色砂粘土	
22 l	SD-101	南 北	29～132	6.1～19.6	灰褐色砂粘土	
22 l	SD-102	南 北	16～19.5	6～15.7	灰褐色砂粘土	
22 l	SD-103	南 北	16.5～21.5	0.6～15.4	灰褐色砂粘土	
22 n	SD-104	南西～北東	16～28	2.7～6.4	灰褐色砂粘土	
22 n	SD-105	南西～北東	17～23	3.6～10.1	灰褐色砂粘土	
C-II	SD-113	東 西	73～116	7～20.5	淡褐色砂混じり粘土	
C-II	SD-114	東 西	223～331	3.5～16.5	淡褐色砂混じり粘土	
C-II	SD-115	東 西	53～73	4.5～12	淡褐色砂混じり粘土	

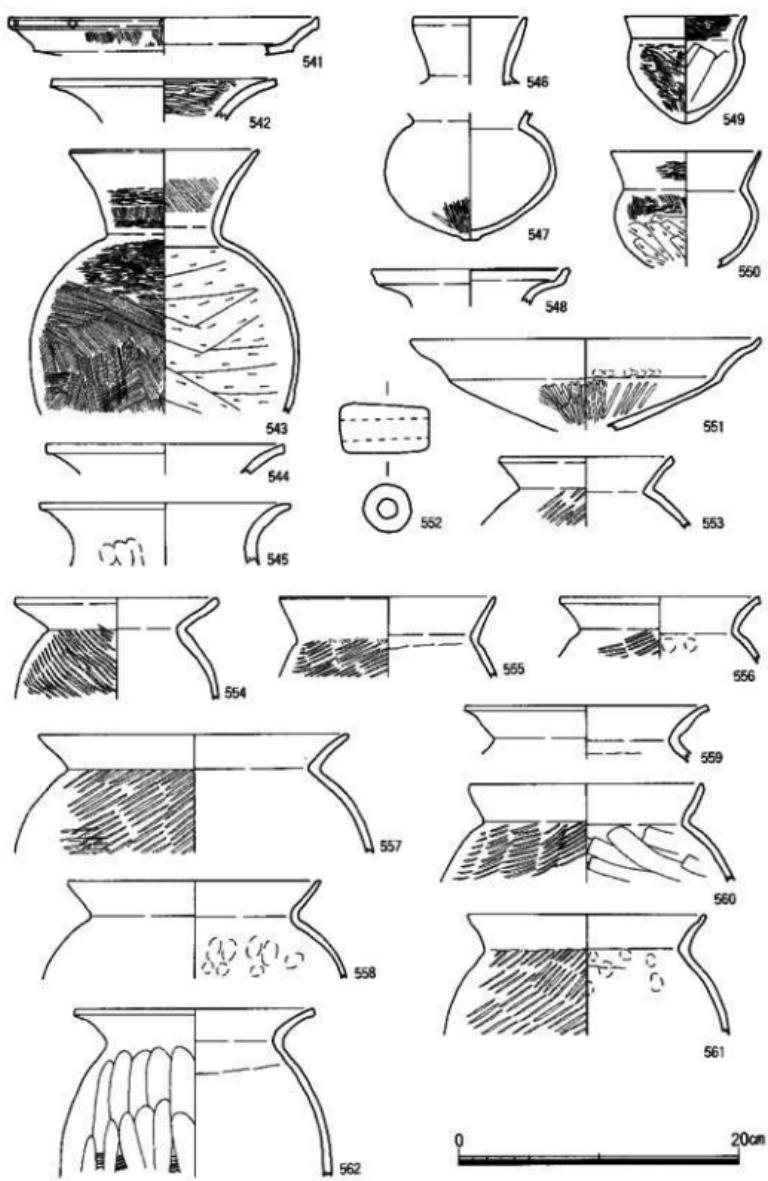
## 第8節 遺物包含層

遺物包含層は調査地区全体で検出した。時期は弥生時代中期～近世に至る多種の遺物がコンテナ7箱分出土した。これらの遺物は第1節基本層序でも述べたように、大雜把であるが土層によって時期区分することができる。まず第3層は中世～近世に至る時期、第4層は中世の時期と推測される。これらの土層は調査区全体で確認しているが包含する遺物がローリングを頻繁に受けて細片化しているし量的にもごく少量である。第5層は古墳時代中期～平安時代の時期と推測される。遺物はごく少量包含しているだけである。この土層はA地区と22地区で検出している。第6層は弥生時代後期～古墳時代前期の時期と推測される。この時期の遺物は前述した遺物包含層より若干多く包含している。またこの時期の土層はA-III・22地区で確認した自然堤防の微高地上を形成した東部で検出しただけである。

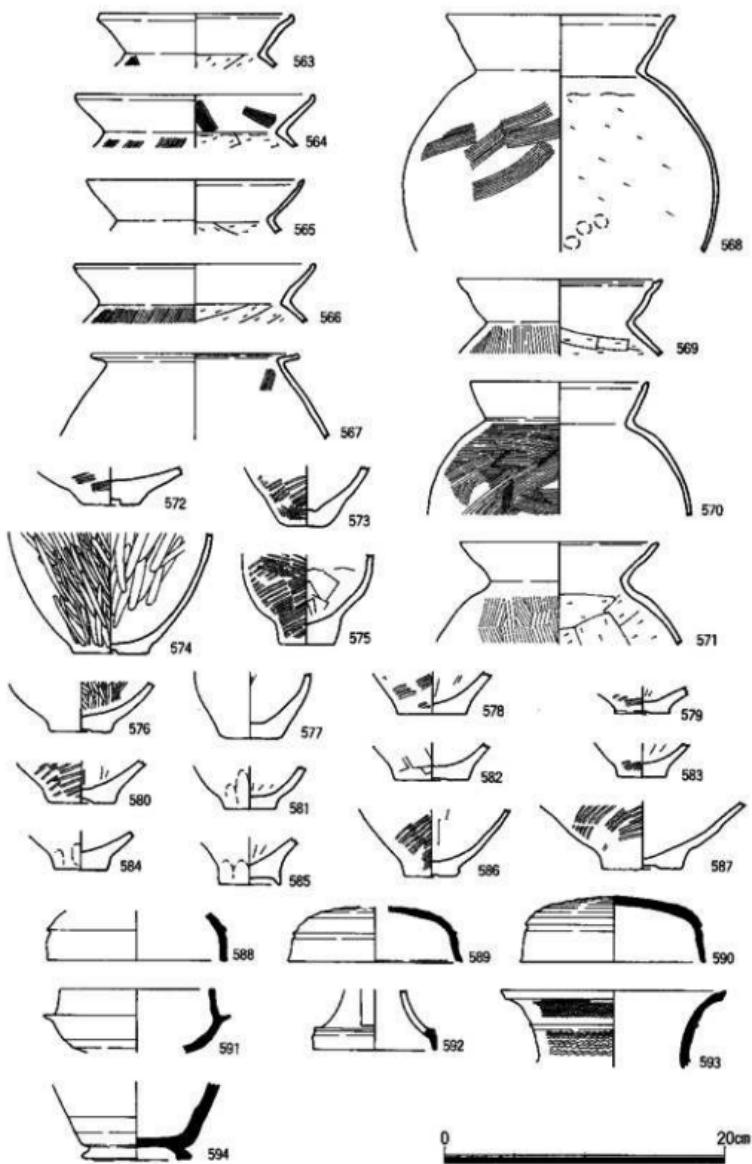
さて、各地区で出土した遺物をできるだけ図示した、これらの遺物について各地区ごとに概説してみる。A-I地区は古墳時代前期に比定される庄内式壺(514・515)、古墳時代中期に比定されるI型式5段階～II型式1段階に類似する須恵器の坏蓋(516)・坏身(517)・壺(518)等とそれ以降の時期の土師器壺・小皿・羽釜・壺・須恵器蓋坏・壺・青磁器等である細片を少量出土している(第78図)。A-II地区は調査区内で最も古い時期と考えられる弥生時代中期末(畿内第IV様式)に比定される壺片(549)1点が第5層より出土した。他には古墳時代前期～中期に比定される土師器小型壺(520)・壺・鉢(521)・高坏(533)・壺(534～536)、I型式2段階～II型式1段階に類似する須恵器坏蓋(522～524)・坏身(525～530)・壺(531・532)等である。第3層～第4層からは、平安時代以降に比定される土師器皿(537)・瓦器碗(538・539)・瓦(540)等の細片を少量出土した(第78図)。A-III地区は第6層より弥生時代後期～古墳時代前期に比定される壺(541～548)・小型壺(549・550)・高坏(551)・土埴(552)・畿内第V様式壺(553～562)・庄内式壺(563・564)・布留式壺(565・566・568～571)・壺か鉢と考えられる底部片(572～586)、第5層は古墳時代中期に比定される土師器壺(595～599)・高坏(600～605)・瓶(606)、I型式2段階～5段階に類似する須恵器坏蓋(587～589)・坏身(590・591)・高坏(592)・壺(593)等と奈良時代～平安時代に比定される土師器皿(607～612)・黒色土器(613)・須恵器台付壺(594)・瓦(614～619)・縦7.1cm以上×横3～4.5cm×厚み2～4.5cmを測る4面の使用痕がある半分欠損した砥石(620)を出土した(第79図～第82図)。A-IV地区は古墳時代前期に比定される壺(621)・近世のものと思われる陶磁器皿(622)を第2層～第5層で出土した(第82図)。A-V地区では遺物は出土していない。21地区は河川3上に堆積する第2層～第4層より古墳時代前期～近世に至る遺物を少量出土している。図示したものでは古墳時代中期頃に比定される形象埴輪(623・624)・円筒埴輪(625・626)、平安時代以降に比定される平瓦(629・630)、時期は明確ではないが、縦7.2cm以上×横3.5～6.5cm×厚み3～5cmを



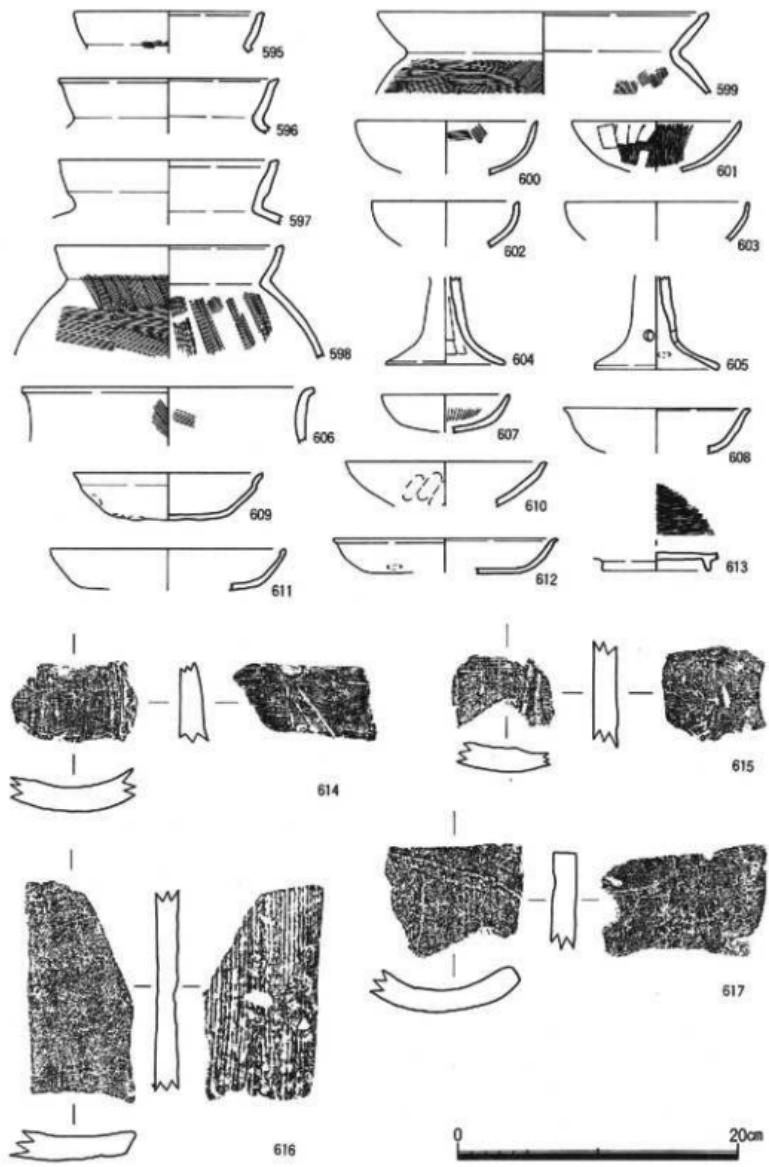
第78図 A-I・A-II地区遺物包含層出土遺物実測図



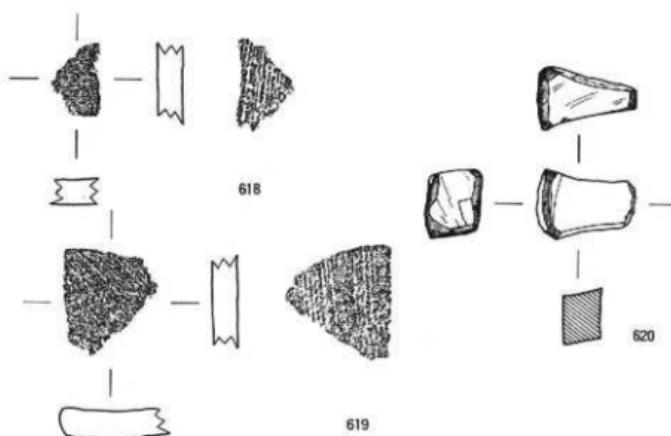
第79図 A-I地区遺物包含層出土遺物実測図1



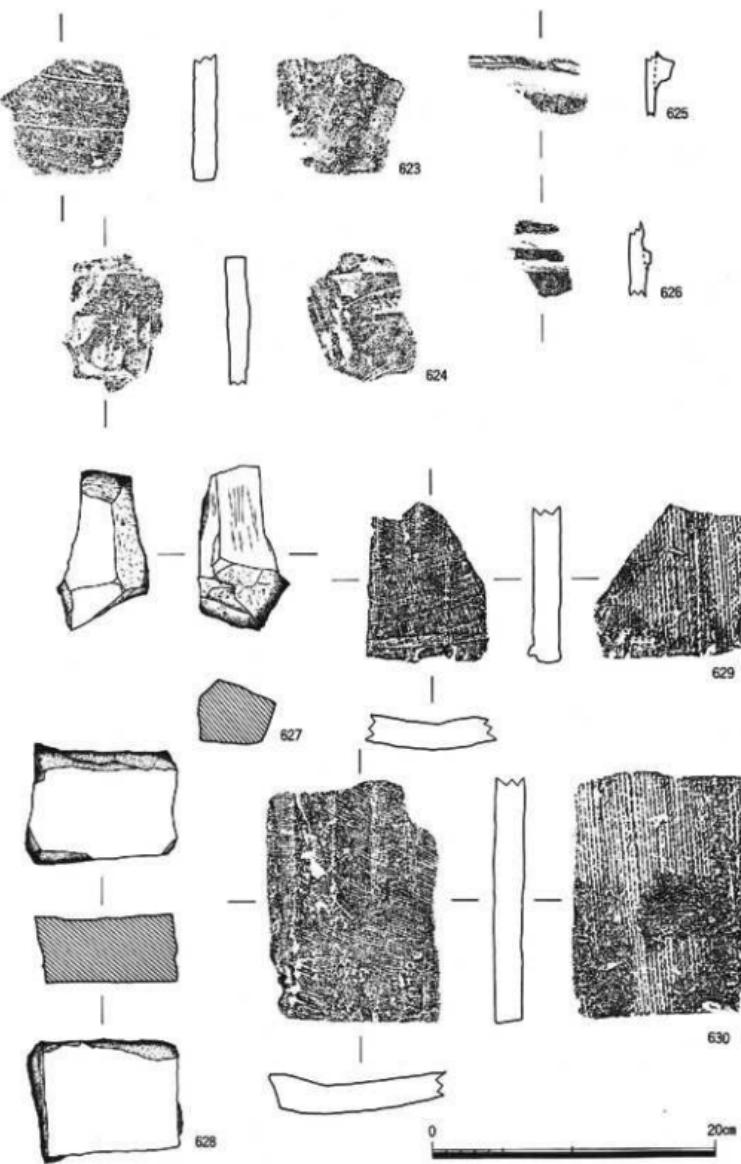
第80図 A-III地区遺物包含層出土遺物実測図2



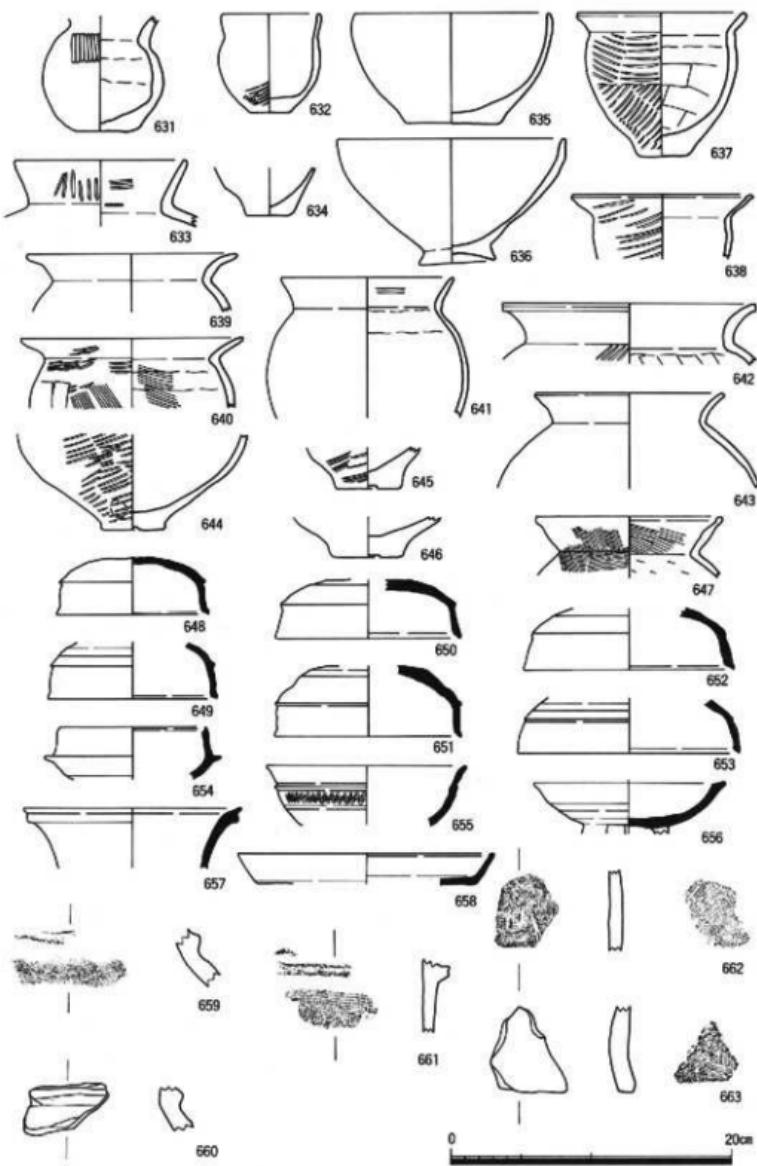
第81図 A-III地区遺物包含層出土遺物実測図3



第82图 A-III・A-IV地区遺物包含層出土遺物実測図

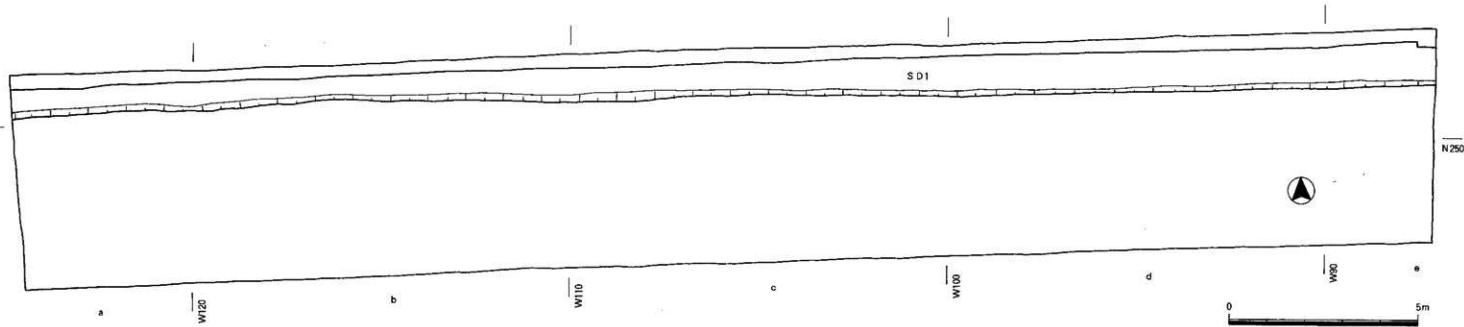


第83図 21地区遺物包含層出土遺物実測図1

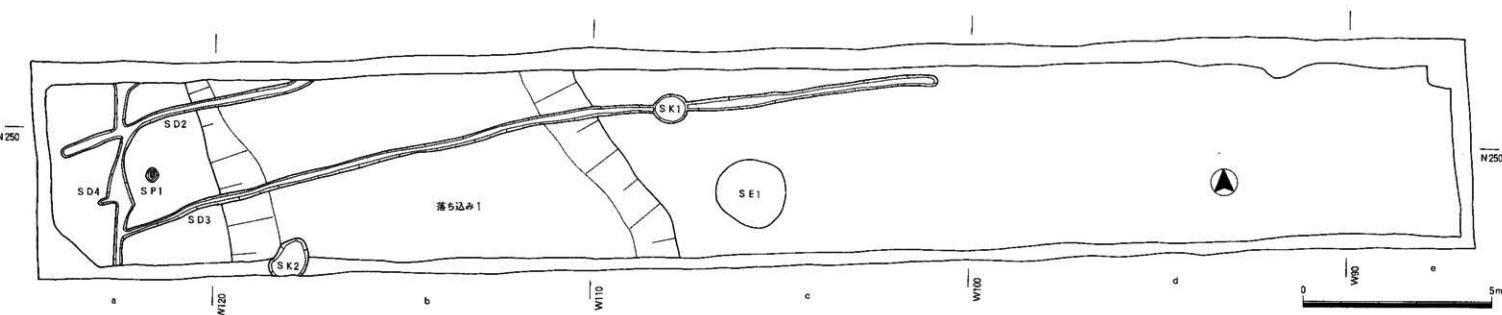


第84図 22地区遺物包含層出土遺物実測図2

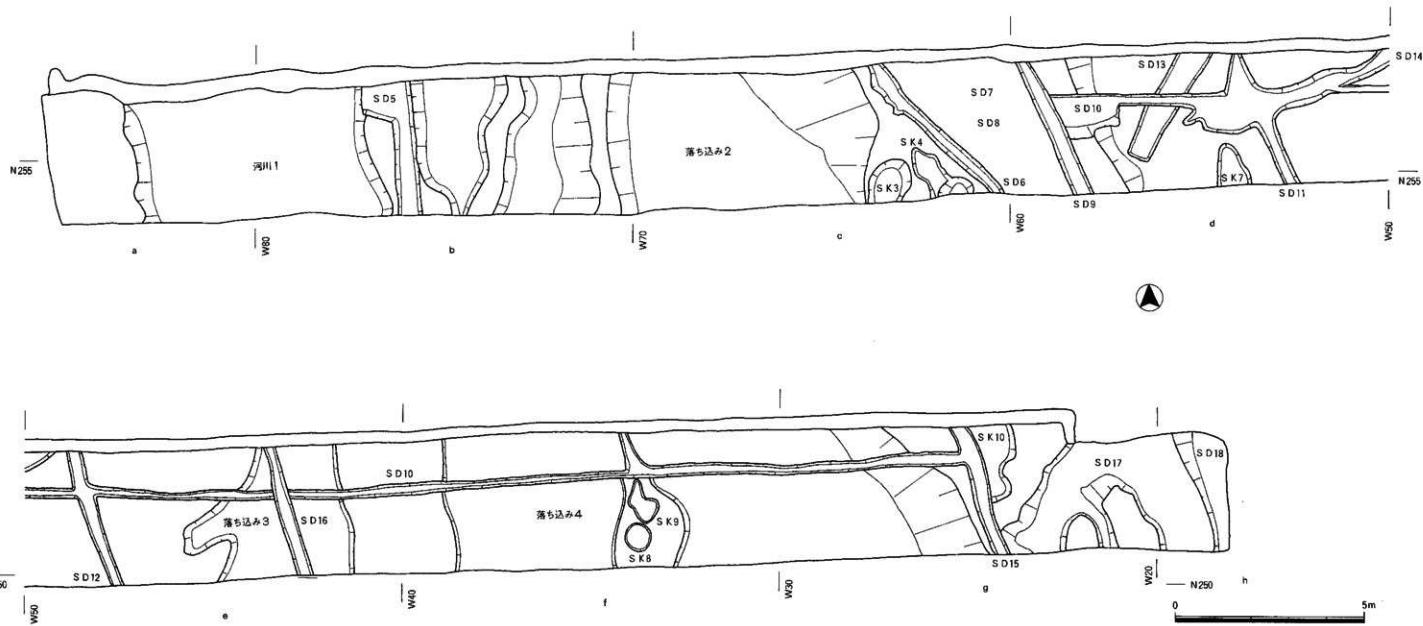
測る3面の使用痕がある半分欠損の砥石（627）と縦10cm以上×横6cm以上×厚み4.5cmを測る砂岩石で建物の根石か礎石に使われていたと推察する（第83図）。22地区は東側の第6層より弥生時代後期に比定されるミニチュア壺（631）・鉢（632・634～636）・壺（633）・甕（637～646）である。第4層～第5層からは古墳時代前期に比定される布留式甕（647）、古墳時代中期に比定されるI型式2段階～5段階に類似する須恵器の坏蓋（648～653）・坏身（654）・高坏（655・656）・壺（657）・朝顔形円筒埴輪（659・660）・円筒埴輪（661～663）等である。第3層は平安時代以降の土師器皿（658）・羽釜・瓦器碗・瓦等を少量出土した（第84図）。



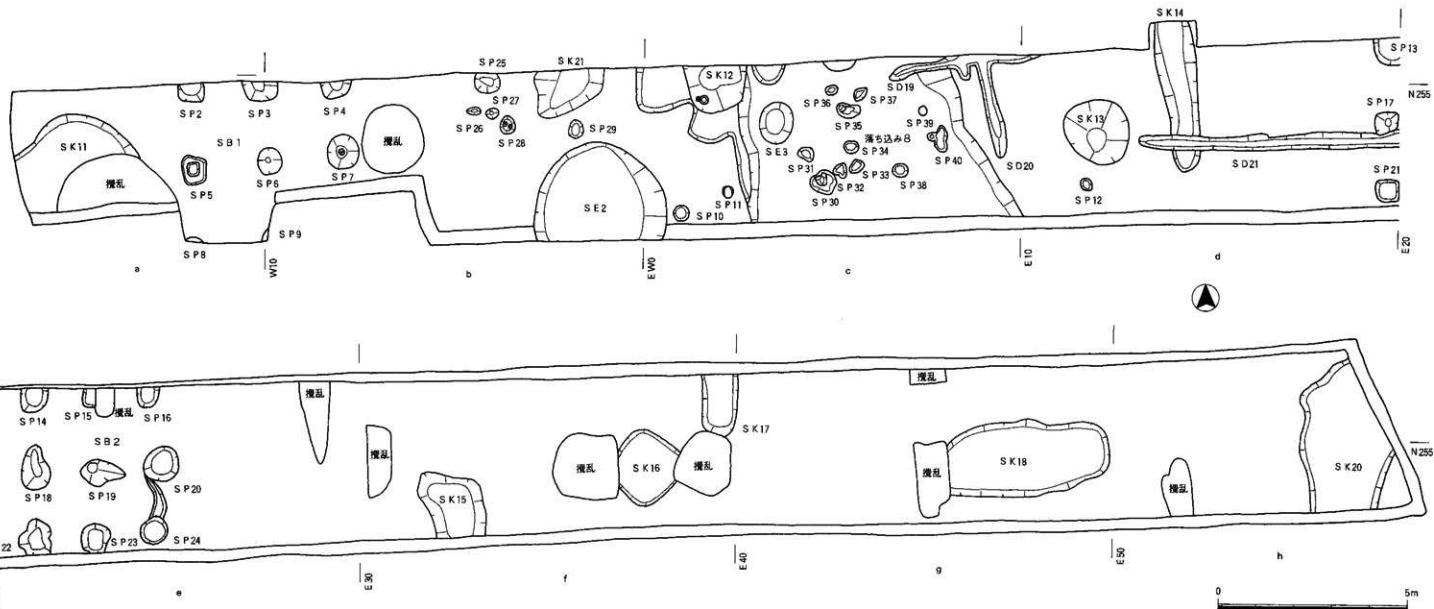
第85図 A-I地区第1調査面造構平面図



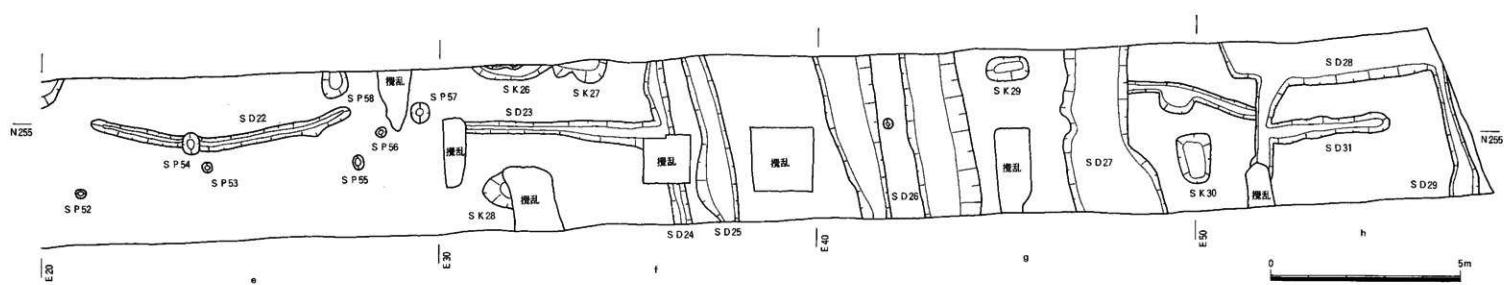
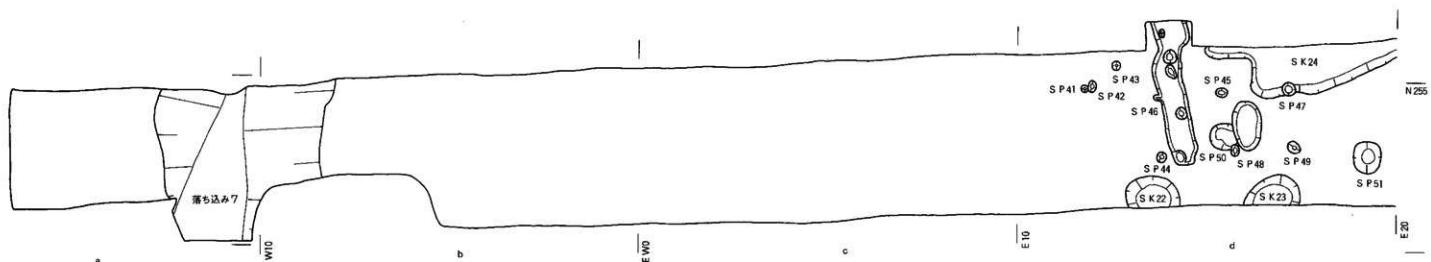
第86図 A-I地区第2調査面造構平面図



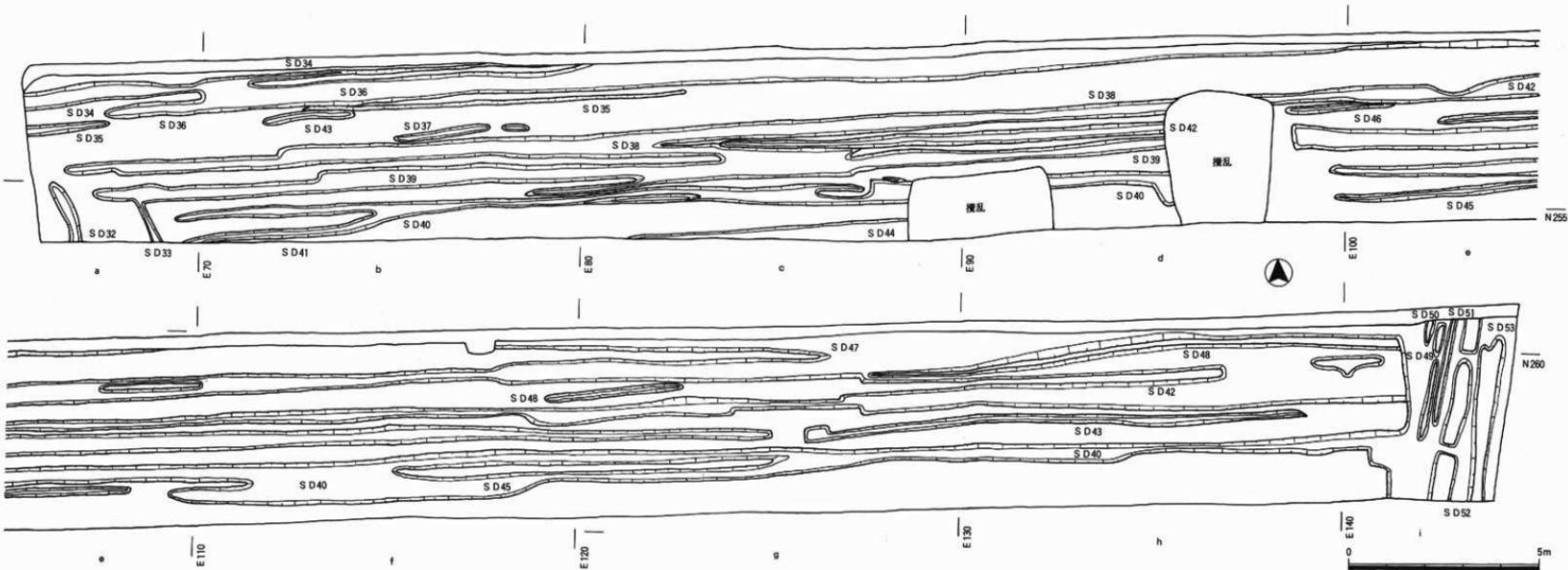
第87図 A-II地区第1調査面造構平面図



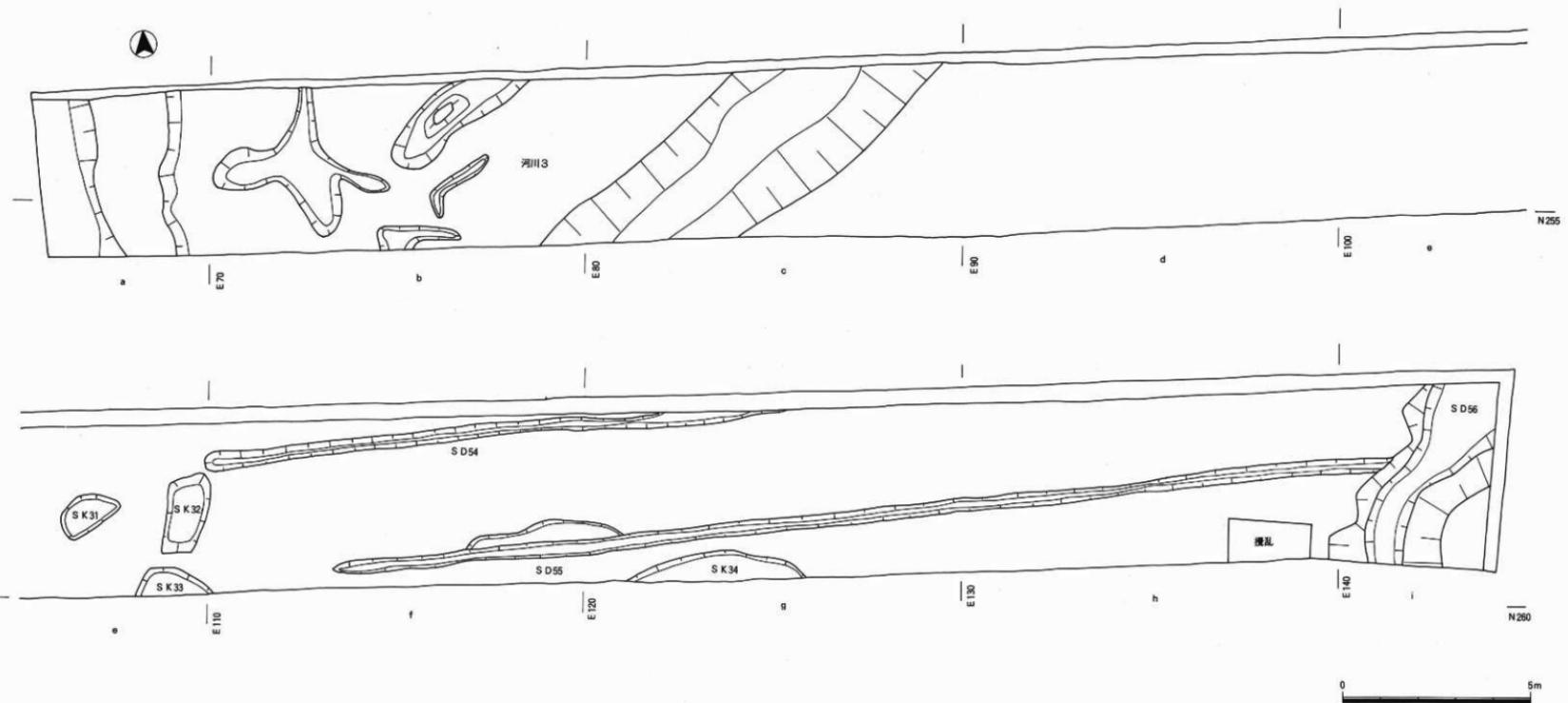
第88图 A—D地区第1调查面勘探平面图



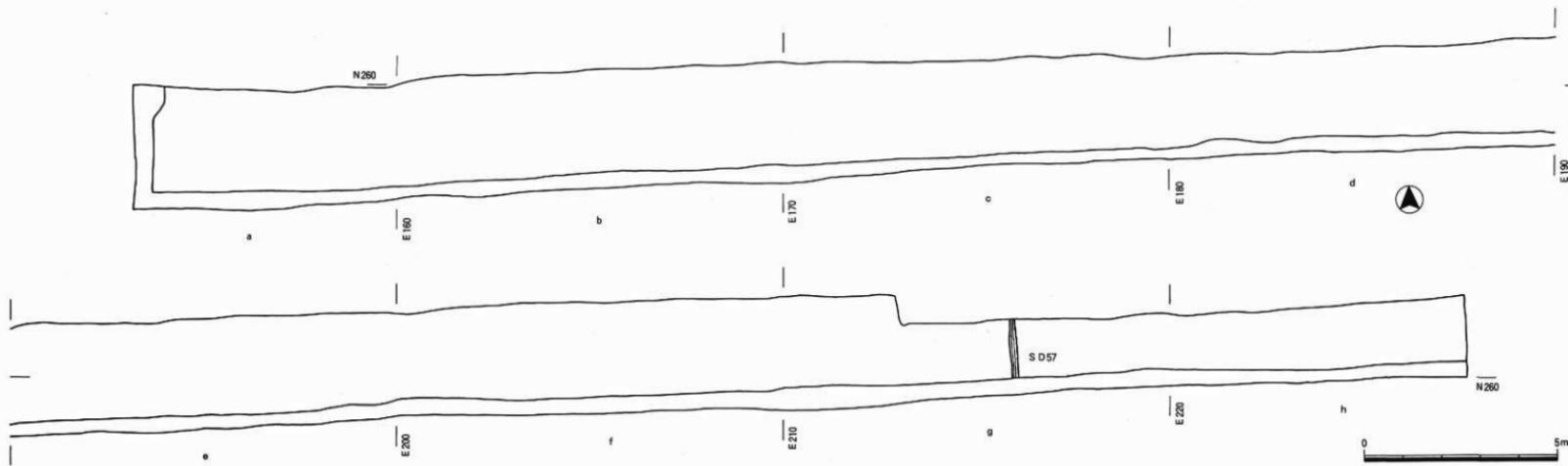
第89図 A-III地区第2調査面構造平面図



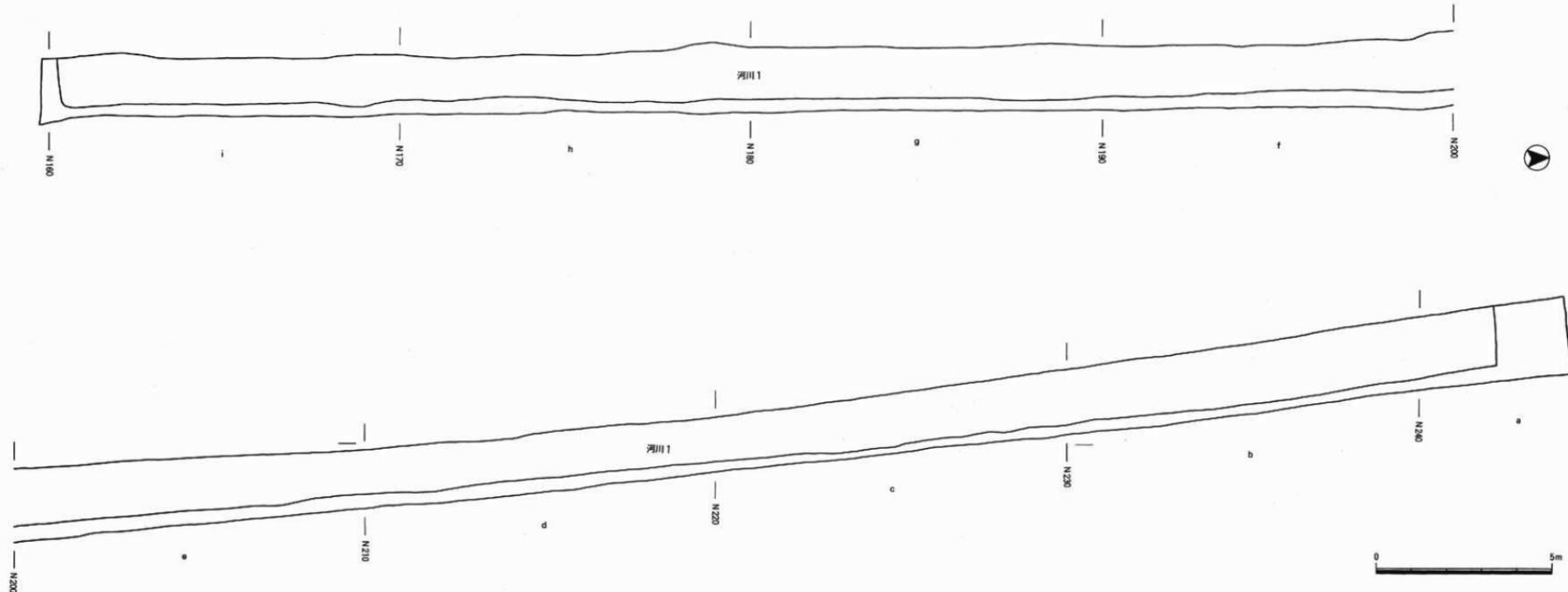
第90図 A-IV地区第1調査面造構平面図



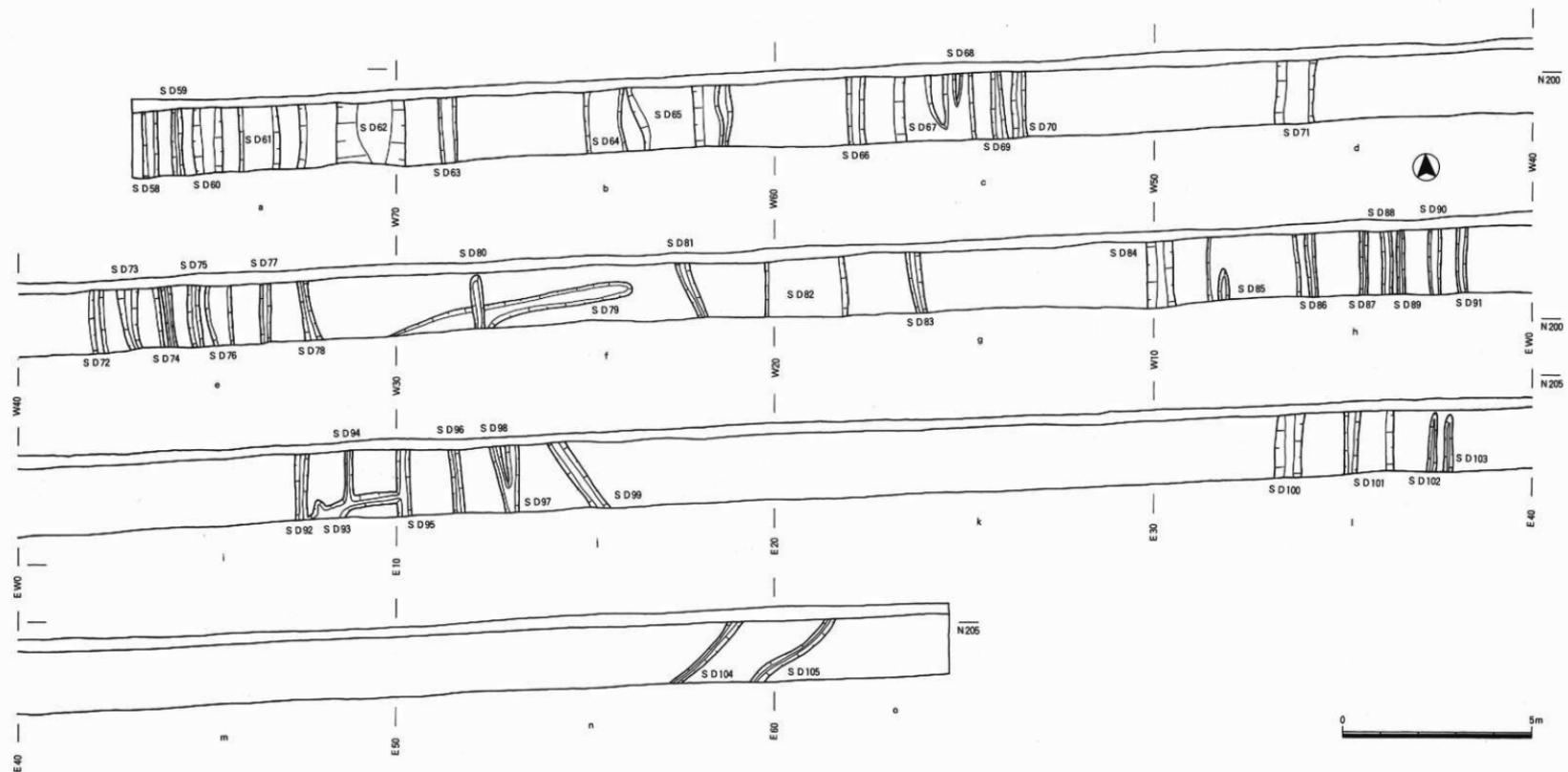
第91図 A—IV地区第2調査面構造平面図



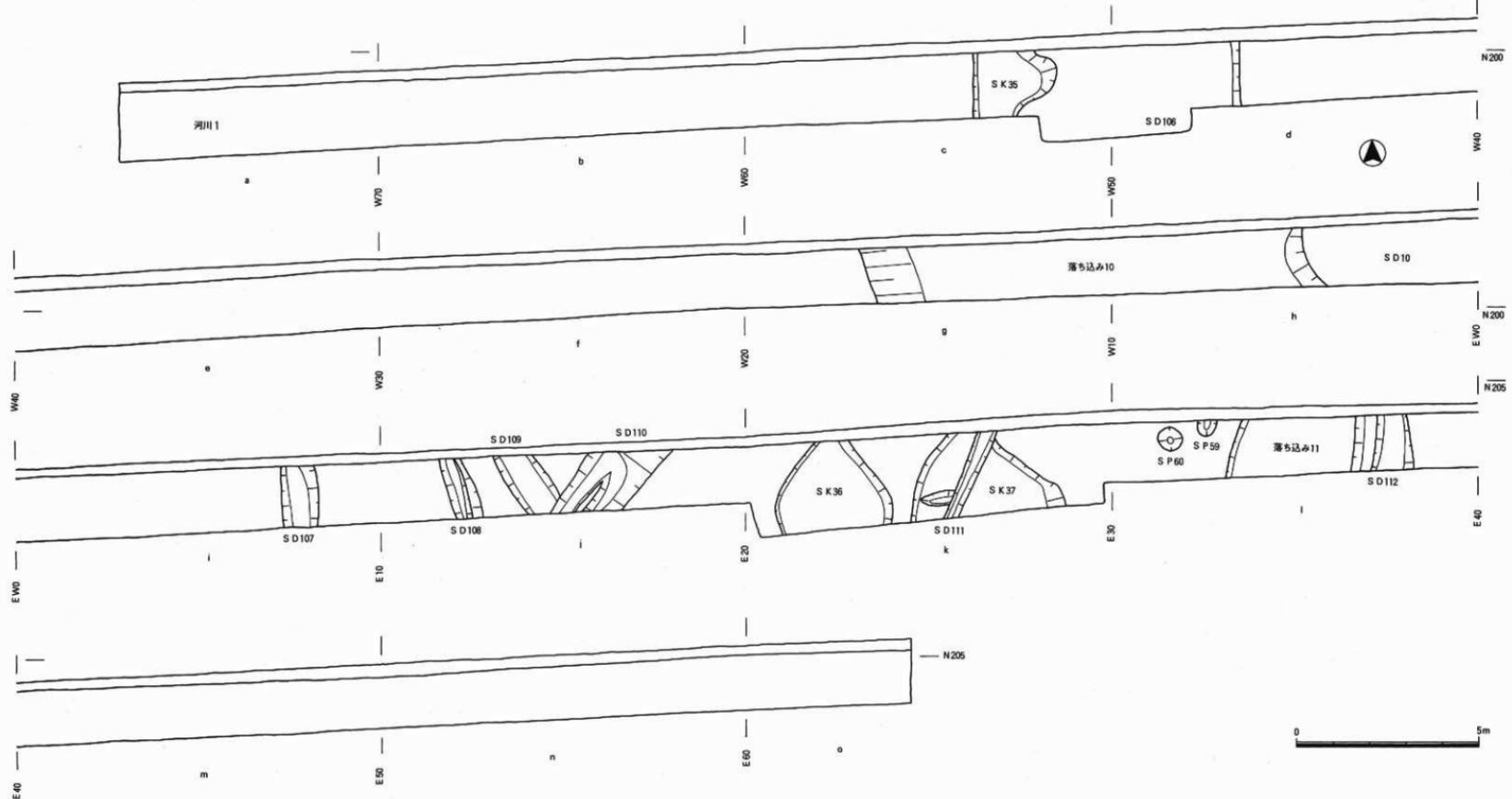
第92図 A-V地区第1調査面遺構平面図



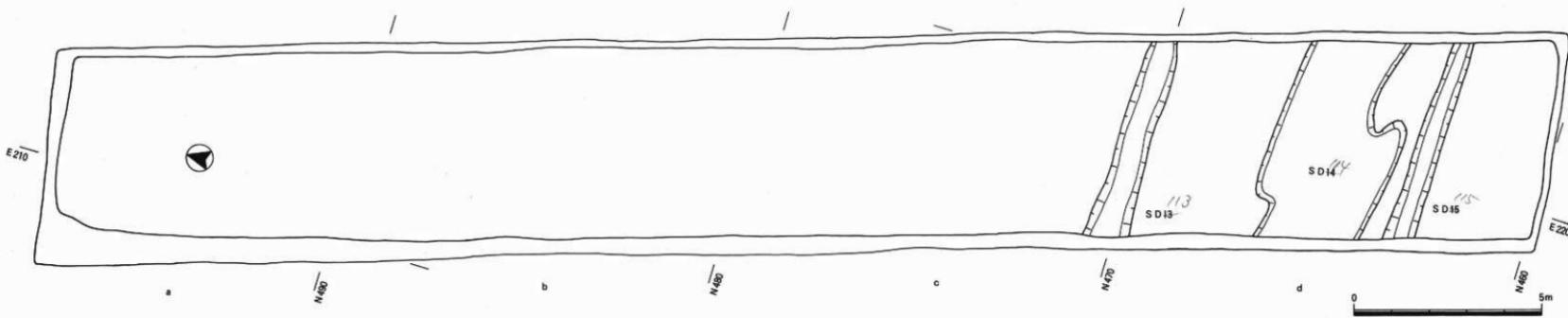
第93図 21地区第1調査面造構平面図



第94図 22地区第1調査面造構平面図



第95図 22地区第2階平面構造図



第36図 C-II地区第1調査面遺構平面図

## 第5章 出土遺物觀察表

茶タタキ・ハケ目の茶緑の数は1cmの値

植物名 同属群	登 出 地 点	(cm) 口徑 法量 器高	形 態 ・ 葉 質 等 の 特 徴	色 調	胎 土	燒 成	備 考
1	葉	口径 13.2  SK23	体部からやや屈曲し、上外方へ外反して伸びる口緑部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口緑部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 淡茶褐色 内 乳灰茶色	細砂粒を含む	良	
2	同 上	口径 12.6  SK23	体部から丸く屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口緑部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口緑部内外面ヨコナデ、体部外表面タタキ(4本)、内面ナデ。	外 乳灰茶色 内 淡灰褐色	3mm以下の砂礫粒を含む	良	
3	玄彩土器	口径 14.2  SK36	口緑部は外上方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口緑部内外面ヨコナデ。	暗茶褐色	6mm以下の砂礫粒を含む	良	
4	同 上	底径 3.9  SK36	底部は突出気味の平底。底部外面に疊合痕を有す。口緑部・体部は欠損。 底部内外面ナデ。	外 淡灰褐色 内 淡茶褐色	細砂粒を含む	良	温暖有
5	同 上	底径 2.8  SK36	底部はやや突出気味の平底。口緑部・体部は欠損。 底部内外面ヘラミガキ。	暗茶灰色	稍良	良好	
6	同 上	底径 3.0  SK36	底部はやや突出気味の平底。口緑部・体部は欠損。 底部外面上部ヘラミガキ、下部ナデ、底部内面ナデ。	茶灰褐色	3mm以下の砂礫粒を含む	良好	
7	鋸	口径 18.0  SK36	体部から縦やかに屈曲し、外上方へ伸びる口緑部に至る。端部は丸い。体部は突出気味の平底。 口緑部内外面ヨコナデ、体部外表面タタキ後ヘラナデ、内面ナデ、底部ナデ。	外 茶灰褐色 内 淡茶褐色	3mm以下の砂礫粒を多量含む	良	
8	葉	口径 12.9 器高 10.1 底径 4.0  SK36	球形の体部から縦曲し、上外方へ伸びる口緑部に至る。端部は丸い。底部は突出気味の平底。 口緑部内外面ヨコナデ、体部外表面タタキ後ヘラナデ、内面ナデ、底部ナデ。	外 茶灰褐色 内 茶灰色	4mm以下の砂礫粒を多量含む	良	

遺物番号 図版番号	登出地點	(cm) 口径 法星 底径	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
9	斐	口径 12.8	球形の体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縫部に至る。端部は丸い。腹部外面に接合痕を有す。 口縫部内外面ヨコナダ、体部外面タタキ後ヘラナダ、内面ヘラナダ。	外 淡茶黃色 内 暗灰褐色	5mm以下の 砂礫粒を含む	良好	
二十三	S K36						
10	岡上	口径 12.8	上内方へ緩やかに内側して伸びる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は丸い。体部中位以下欠損。 口縫部内外面ヨコナダ、体部外面タタキ、内面ナダ。	暗灰茶色	5mm以下の 砂礫粒を含む	良	
	S K36						
11	岡上	口径 14.2	半球形の体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は外方につまり上げ尖る。体部中位以下は欠損。 口縫部内外面ヨコナダ、体部外面タタキ(4本)、内面ナダ。	茶灰色	微砂粒を多量に含む	良	
	S K36						
12	岡上	口径 19.8	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部はやや上につむる。 体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナダ、体部外面表面の為不明、内面ナダ。	淡茶色	4.5 mm以下の 砂礫粒を多量に含む	良	
	S K36						
13	岡上	口径 16.0	体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縫部に至る。端部は钝く尖る。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナダ、体部外面タタキ、内面ナダ。	茶褐色	3mm以下の 砂礫粒を多量に含む	良	
	S K36						
14	岡上	口径 13.6	最大径を上位にもつ楕円形の体部から丸く屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縫部に至る。端部は上につまわる。底部は突出するやくぼみ底。 口縫部外面ナダ、内面ヨコナダ、体部外面タタキ、内面ナダ。底部内外面ナダ。	赤褐色	3mm以下の 砂礫粒を多量に含む	良	焼付着
二十三	S K36						
15	斐	口径 12.2 法星 25.1 底径 3.9	球形の体部から屈曲し、直立気味に上外方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は丸い。底部は突出気味の平底。体部中位に2本の接合痕を有す。 口縫部外面ヨコナダ、体部外面タタキ後ヘラナダ、内面ヘラナダ。底部内外面ヘラナダ。	灰褐色	8mm以下の 砂礫粒を多量に含む	良	焼付着
二十三	S K37						
16	斐	口径 14.4	上内方へ直線的に伸びる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は外に曲をもつ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナダ、体部外面タタキ(3本)、内面ナダ。	外 茶赤色 内 暗灰褐色	微砂粒を含む	良	
	S D31						

漁物番号 採取番号	標 種 出 土 地 点	(cm) 口徑 法量 基高	形 態 ・ 調 整 等 の 特 徴	色 調	粘 土	燒 成	備 考
17	斐	口径 16.9 SP31	上方に縦やかに内彎して伸びた後丸く屈曲し、外上方へ外反する口縫部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面痕滅の為不明。	茶褐色	微砂粒を多量含む	良	
18	斐	口径 13.2 基高 21.4 基径 4.0 SD26	最大径を上位にもつ球形に近い体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縫部に至る。端部はつまみ上げ、平坦な面をもつ。底部は突出するややくぼみ底。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、下位タタキ、内面ヘラナデ。上位指ナデ、底部内面ナデ。	外 灰茶色 内 灰褐色	4mm以下の 砂礫粒を含む	良	無付着
二十三							
19	同 上	口径 16.0 SD26	顎部から屈曲し、水平に伸びる口縫部に至る。端部は上方に肥厚し、外に凹面をもち、I帯6条の途状文を有す。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ。	乳灰褐色	微砂粒を少 量含む	良	
20	体	口径 11.0 SD26	直上する口縫部で、端部は鈍く尖る。体部は欠損。口縫部内外面中位に接合痕を有す。体部は欠損。 口縫部外面ナデ、中位に指頭痕、内面ヘラナデ。	灰茶色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良	
21	同 上	口径 12.6 SD26	半球形の体部から丸く屈曲し、外上方へ内彎して伸びる口縫部に至り凹凸面を有す。端部は鈍く尖る。体部下位は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面痕滅の為不明。	淡茶黄色	微砂粒を含む	良	
22	台付鉢?	底径 7.7 SD26	体部から丸く屈曲し、斜下方に直線的に伸びる脚部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 み底部内外面ナデ、脚部内外面ナデ。	灰茶色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良	
23	斐	口径 12.9 SD26	顎部から屈曲し、水平に伸びる口縫部に至る。端部はわざかにつまみ上げ、外に凸面をもつ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、頭部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り?	淡灰茶色	微砂粒を多 量含む	良	
24	同 上	底径 4.9 SD26	底部はやや突出気味の平底。体部は欠損。 底部外延タタキ(3本)、内面ヘラナデ。	乳灰色	微砂粒を少 量含む	良	黒斑有

遺物番号 図版番号	登 土 地 点	(cm) 口径 法算 高さ	形 態・調 整 等 の 特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
25	斐	底径 4.4 SD28	底部は突出する平底。体部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ。	赤茶褐色	細砂粒を含む	良	
26	岡 上	底径 4.6 SD28	底部は突出するややくぼみ底。体部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ。	暗灰茶色	5mm以下の 砂礫粒を含む	良	
27	斐	口径 7.4 SD109	体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は純く尖る。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ。	淡茶褐色	2mm以下の 細砂粒を含む	良	
28	岡 上	底径 4.8 SD109	体部からやや突出気味の平底に至る。体部は欠損。 体部外面ナデ、底部内外面ナデ・指痕類。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	微砂粒を多 量に含む	良好	
29	斐	口径 14.2 SD110	体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外に面をもつ。体部は欠損。 周辺の為不明。	外 暗灰褐色 内 茶褐色	2mm以下の 細砂粒を含む	良	
30	岡 上	底径 4.8 SD110	体部から突出する平底の底部に至る。体部は欠損。 体部外面タタキ(3本)後ヘラナデ、内面ヘラナデ、底部内外面ヘラナデ。	暗灰褐色	4mm以下の 砂礫粒を含む	良	
31	斐	口径 12.0 落ち込みII	口縁部は水平に伸び、端部はややつまみ上げ、上下に肥厚し、外に面をもち、1帯8条の波状文、竹管浮文を有す。頸部以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ。	暗茶褐色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良	
32	岡 上	口径 20.1 落ち込みII	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は上につまむ。波状文を底部内外面に1帯ずつ(各3条)、頸部外面に1帯(4条)、内面に1帯(3条)をそれぞれ有す。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ。	淡茶灰色	粗砂粒を含む	良	

遺物番号 同版番号	器 出土地点	(cm) 口径 底量 器高	形態・測定等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
33	高坏?	口径 11.0	半球形の縁部から上外方へ内壁気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部以下は欠損。 口縁部内外面ハラミガキ。	茶灰色	精良	良	
34	甕	口径 13.0	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は鋭く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	灰茶色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良	
35	陶上	口径 14.0	体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	外 茶褐色 内 淡茶色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良	
36	鉢	底径 3.9	底部は突出する上げ底。体部は欠損。 体部内外面ナデ、底部外面指痕痕・ナデ。	淡茶褐色	4mm以下の 砂礫粒を含む	良	
37	甕	口径 19.5	最大径を上位にもつ球形の体部から屈曲し、斜上方へ外反した後や直立気味に伸びる複合口縁部に至る。端部は外方に肥厚する。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ(6本)、下位ヘラナデ、内面ヘラ削り。	外 淡茶褐色 内 淡黄茶色	5mm以下の 砂礫粒を多量に含む	良好	
39	小型丸底甕	口径 9.6	橢円形の体部から屈曲し、やや上方に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ、下位ヘラナデ、内面ナデ。	淡茶褐色	精良、微砂 粒を少量含む	良	
二十四	S E 1						
40	陶上	口径 12.2	扁平な球形の体部から斜上方に内壁気味に伸びる口縁部に至る。端部は外反気味で鋭く尖る。体部は欠損(丸底と思われる)。 口縁部内外面ハラミガキ、体部外面ヘラ削り後ハラミガキ、内面ナデ。	淡茶褐色	精良、微砂 粒を少量含む	良	焼付着
二十四	S E 1						
41	甕	口径 12.6	体部から丸く屈曲し、上外方へ内寄して伸びる口縁部に至る。口縁部は外面上に紙やかな膜をもち、端部は内方に肥厚気味に内折し、膜をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、内面ヨコナデハケナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削り、底部内面に指痕痕。	乳白色	8mm以下の 砂礫粒を含む	良	焼付着
	S E 1						

遺物番号 出土地点	種類 (cm) 口径 器高	形態・構造等の特徴	色調	胎土	焼成 度	備考
42 落ち込み 1	甕 口径 16.0	口縁部は斜上方へ伸び、底部は上につまむ。体部は球形で、底部は丸底、体部上位は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(5本)、下位ハケナデ(6本)、内面上位ヘラ削り。下位ヘラ削り後ナデ。	淡灰色 底部灰褐色	細砂粒を含む	やや良	
43 二十四 落ち込み 1	圓上 口径 13.4	球形に近い体部から屈曲し、斜上方に内側氣味に伸びる口縁部に至る。底部はわざかに上につまむ。底部は尖り氣味の丸底。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ(6本)、内面上位ヘラ削り・指痕斑。	外 淡灰褐色 内 淡褐色	細砂粒を含む	良好	完形
44 二十四 SK 2	鉢 口径 20.8 器高 7.2	楕円形の体部から上方へ内側して伸びる口縁部に至る。底部は外傾する面をもつ。底部は丸底。 口縁部外面ヨコナデ、内面上位ハケナデ(7本)、内面上位ナデ、底部内面ナデ。	暗茶灰色	2mm以下の粗砂粒を含む	良	
45 二十四 SK 2	圓上 口径 17.1 器高 8.4	半球形に近い体部から上方へ内側して伸びる口縁部に至る。底部は凹面をもつ。底部は尖り底。 口縁部・体部内外面ヘラナデ。	淡茶灰色	2mm以下の粗砂粒を含む	良	
46 二十四 SK 2	高身 口径 22.3	平坦な底部から屈曲し、斜上方に伸びる口縁部に至る。底部は丸い柱状部は中空で、側部は欠損。 底部外側ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状紋文。柱状部外面ヘラナデ後ヘラミガキ、内面くりぬき。	乳茶灰色	粗良、細砂粒を少量含む	良好	
47 二十四 SK 2	小型鉢 口径 9.0	楕円形の体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。底部は外傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(10本)、内面上位ナデ。	暗褐色 口縁部 茶褐色	細砂粒を含む	良好	
48 二十四 SK 2	甕 最大径12.6	平坦な丸底の底部から、球形の体部に至る。口縁部は欠損。 体部外面ハケナデ(9本)、内面上位ナデ、底部外面ハケナデ後削痕斑。	外 淡灰茶色 内 淡黑色	4mm以下の砂礫粒を多量に含む	良好	
49 二十四 SK 2	圓上 最大径14.1	丸底の底部から、球形の体部に至る。口縁部は欠損。 体部外面ハケナデ(11本)、内面上位ナデ、底部外面ハケナデ後削痕斑。	外 淡灰褐色 内 淡灰茶色	4mm以下の砂礫粒を含む	良好	

造物番号 試験番号	出上地點	種類 (cm) 口径 法皇 器高	形態・構造等の特徴	色調	粒土	焼成	備考
50	蟹	口径 11.2 器高 12.5	縦やかに内側して伸びる雄部に近い体部から弧曲し、斜上方へ伸びる口締部に至る。端部は外側に肥厚する。底部は尖り気味。 口締部内外面ヨコナゲ、体部外側タタキ後ハケナダ(1本)、内面ナゲ後指ナゲ・指腹質。	乳灰褐色	細砂粒を含む	良	焼付着
	SK 2						
51	同上	口径 11.5 器高 15.1	最大径を上位にもつ横円形の体部から弧曲し、斜上方に内壁気味に伸びる口締部に至る。端部は丸い。底部はやや平坦な丸底。頭部内面に接合痕を有す。 口締部外側タタキ、内面ハケナダ、体部外側タタキ後ハケナダ(7本)、内面指ナゲ。	暗茶灰色	4mm以下の砂礫粒を含む	良	焼付着
二十五	SK 2						
52	同上	口径 10.8	雄形の体部から弧曲し、斜上方へ伸びる口締部に至る。端部は丸い。頭部内面上位に接合痕を有す。底部は欠損。 口締部内外面ヨコナゲ、体部外側面ヘラナゲ。	乳灰褐色	細砂粒を含む	良	
	SK 2						
53	同上	口径 11.6	横円形の体部から、縦やかに弧曲し、上外方へ内壁気味に伸びる口締部に至る。端部はやや上につまむ。頭部内面上位に接合痕を有す。体部下位は欠損。 口締部内外面ヨコナゲ、体部内外面ヘラナゲ。	乳灰褐色	細砂粒を含む	良	
	SK 2						
54	同上	口径 13.6	内側して上内方に伸びる体部から弧曲し、斜上方に伸びる口締部に至る。端部は鋸く丸る。頭部内面上位に接合痕を有す。体部中位以下は欠損。 口締部外側ヨコナゲ、内面磨滅の跡不明、体部外側タタキ(7本)後ハケナダ、内面ヘラナゲ。	乳灰褐色	粗砂粒を少 量含む	良	
	SK 2						
55	同上	口径 13.6 器高 15.7	雄形の体部から弧曲し、外上方へ伸びる口締部に至る。端部は丸い。底部はやや尖り気味。 口締部内外面ヨコナゲ、体部外側上位ヘラナゲ、下化ナゲ、内面上位ヘラナゲ、下位ヘラナゲ削り。	外 乳灰褐色 内 乳茶褐色	8mm以下の砂礫粒を含む	良	焼付着
二十五	SK 2						
56	同上	最大径14.6	小さい平底の底部から横円形の体部に至る。口締部は欠損。 体部外面上位ヘラナゲ、下位指ナゲ、内面ヘラナゲ。	乳灰褐色	6mm以下の砂礫粒を含む	良	
	SK 2						
57	同上	口径 14.6	縦やかに上内方に内側して伸びる体部から弧曲し、上外方へ内壁気味に伸びる口締部に至る。端部は丸い。 口締部内外面ヨコナゲ、体部内外面ヘラナゲ。	淡灰褐色	細砂粒を少 量含む	良	
	SK 2						

造物番号 回収番号	出土地点	(cm) 口径 法量 石高	形態・構造等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
58	東	口径 13.6	彫りのある体部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。縁部は外に肥厚気味に丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内面ヨコナダ、体部外表面タクを残ハケナダ(11本)、体部内面ヘラ削り、一部ヘラナダ。	乳茶褐色	粗砂粒を含む	良	
	SK 2						
59	東	口径 11.4 都高 15.2	球形の体部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。底部は丸底。 口縁部内面ヨコナダ、体部外表面ハケナダ(11本)、下位ヘラナダ、内面ヘラナダ。	灰褐色	砂礫粒を含む(V)	良好	
二十五	落ち込み 7						
60	同 上	口径 14.0	口縁部は外上方へ外反して伸び、縁部は上につまみ、外に平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内面ヨコナダ。	乳灰褐色	3mm以下の砂礫粒を含む(V)	良	
二十五	落ち込み 7						
61	同 上	口径 14.5	肩部から一旦上方へ外方した後、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。縁部は外傾し、凹面をもつ。肩部内面に複数窓をもつ。体部は欠損。 口縁部外表面ヘリミガキ。内面磨滅の跡不明。肩部外表面ラミガキ?、内面磨滅の跡不明。 落ち込み 7	乳灰褐色	微砂粒を含む(V)	良	
62	同 上	口径 18.6	外傾する頸部から外上方へならかに伸びる口縁部に至る。縁部は外傾する面をもつ。 口縁部外表面に1帯(4条)、下位に1帯(1条)の波状文、内面全体に上位から7条、5条、4条の3型の波状文を有す。体部は欠損。 口縁部内面中位ヨコナダ後波状文、頸部外表面ヨコナダ後波状文、内面ナダ。	淡灰褐色	良(V)	良	媒付省
	落ち込み 7						
63	同 上	口径 18.3	外上方へ外反して伸びる頸部から外上方へ外反して伸びる複合口縁となる。縁部はやや上につまみ、外に面をもつ。口縁部屈曲外縁に複数窓を有す。体部は欠損。 口縁部外表面ヨコナダ。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	5mm以下の砂礫粒を含む(V)	良	
	落ち込み 7						
64	同 上	口径 20.7	外上方へ外反して伸びる頸部から外上方へ外反して伸びる複合口縁となる。縁部はやや上につまみ、外に面をもつ。口縁部屈曲外縁に複数窓を有す。体部は欠損。 口縁部外表面ヨコナダ、頸部外表面ハケナダ(9本)。	外 淡茶灰色 内 淡灰茶色	5mm以下の砂礫粒を含む(V)	良	
	落ち込み 7						
65	東	口径 23.2	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる頸部よりさらに外上方へ伸びる複合口縁となる。縁部は丸い。口縁部外表面に1帯(4~5条)、下位に1帯(2条)の波状文を有す。体部は欠損。 口縁部外表面ヨコナダ、内面ヘラミガキ。体部外表面ハケナダ後ヘラミガキ。内面上位ヘラミガキ。下位ナダ、体部内面ヘラミガキ。	乳灰色	砂粒を多量に含む(V)	良好	
二十五	落ち込み 7						

漁物番号 出 収 取	基 地 点	(cm) 日本 法規 器高	形 態・構 造 等 の 特 徴	色 調	動 土	焼 成	備 考
66	臺		内側して上内方に伸びる体部から直立50mmに上外方へ伸びる端部に至り、屈曲して外上方へ内側して伸びる口縫部に至る。口縫部は欠損。肩部に2本の接合縫を有す。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナダ、頭部外面ヘラミガキ、内面ヨコナダ、体部外面ハケナダ後ヘラミガキ、内面指ナダ・ナダ。	外 淡灰茶 褐色 内 淡灰色	粗砂粒を含む (Ⅴ)	良	
二十五	落ち込み7						
67	同 上	口径 15.0	直線気味に細やかに内上方へ内側して伸びる体部から直立する頭部に至り、細やかに屈曲して外上方へ伸びる口縫部となる。端部は外側する面をもつ、削み口を有す。頭部内面に接合縫を有す。体部は欠損。 口縫部、体部外面ヘラミガキ、口縫部、頭部内面ヘラミガキ、胃部内面暗黒膜、体部内面暗黒膜の為不明。	乳白色	3mm以下の 砂糖粒を含む (Ⅲb)	良	
二十五	落ち込み7						
68	同 上	口径 18.2	上内方へ外反して伸びる頭部から、やや緩く屈曲し、外上方に伸びる口縫部に至る。端部は外側し、凹面をもつ。口縫部内面上位に竹管文吸付、頭部内面端部に接合縫を有す。 口縫部外面ヨコナダ、一部ハケナダ(10本)、内面ヨコナダ、頭部外面ヨコナダ、内面上位ヨコナダ、中位ナダ、下位ヘラ削り。	外 淡茶灰 色 内 乳灰色	微砂粒を少 量含む (Ⅲa)	良	
二十六	落ち込み7						
69	同 上	口径 13.1	球形の体部から丸く屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は丸い。頭部内面に接合縫を有す。底部は欠損。 口縫部外面ハケナダ(7本)、内面ヨコナダ、体部上面ハケナダ(5本～7本)、下位ハケナダ後ヘラミガキ、内面ハケナダ、下位ヘラミガキ、下位ハケナダ(6本)。	外 乳白色 褐色 内 黑灰色	2mm以下の 粗砂粒を含む	良	
二十六	落ち込み7						
70	同 上	底径 8.1	最大径をやや下位にもつ球形の体部から丸く屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は欠損。底部は完全気味の半球。 口縫部内外面暗黒膜の為不明、体部外面上位ヘラミガキ、下位暗黒膜の為不明、内面ハケナダ(7本)後ヘラナダ。	乳茶褐色	粗砂粒を少 量含む(Ⅳ)	良	
	落ち込み7						
71	同 上	最大径23.8	丸底の底部から、球形の体部に至る。口縫部は欠損。 体部外面上位タクナ(3本)、中位ハケナダ(7本)後ヘラナダ、下位ヘラナダ後ヘラミガキ、内面ハケナダ(上位7本、下位4本)。	淡灰褐色	粗砂粒を含 む(Ⅲ)	良	
二十六	落ち込み7						
72	同 上	口径 18.0	口縫部は外上方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。上下に肥厚し、沈縫を2本もつて前外側にもつ。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナダ、内面暗黒膜のヘラナダ。	外 黑灰色 内 乳茶色	5mm以下の 砂糖粒を含 む(Ⅴ)	良	
	落ち込み7						
73	同 上	口径 15.2	体部から上外方へ直立気味に伸び、屈曲して斜上方に伸びる口縫部に至る。端部は外に凹面をもつ。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナダ、内面暗黒膜のヘラナダ。	外 淡茶褐色 内 淡灰褐色	微砂粒を多 量に含む (Ⅴ)	良	
二十六	落ち込み7						

遺物番号 回収番号	器種 出土地点	(cm) 口径 底盤 高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
74	蓋	口径 19.6	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は外方にやや肥厚する。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナナ後ヘラミガキ、内面ヨコナナ。	淡乳灰褐色	微砂粒を多量に含む (IV)	良	
	落ち込み 7						
75	同 上	口径 15.0	口縁部は上外方へ長く伸び、端部は外傾し半球形をもつ。内面中位に縫合線を有す。体部は欠損。 口縁部内外面審査の為不明。	白灰褐色	微砂粒を含む (IIc)	やや不良	
	落ち込み 7						
76	同 上	口径 16.0	口縁部は斜上方に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヘラナダ、内面ヨコナナ。	外 内 灰褐色 灰灰褐色	微砂粒を含む	良	
	落ち込み 7						
77	同 上	最大径 11.0	平坦な底部から球形に近い体部に至る。口縁部は欠損。 体部内外面ヘラナダ、底部外面ヘラ削り。	乳灰褐色	細砂粒を含む (IV)	良	
	落ち込み 7						
78	同 上	最大径 19.2	丸底の底部から、最大径をやや下位にもつ球形に近い体部に至る。口縁部は欠損。 体部外面上位ハケナナ後ヘラミガキ、中位以下ヘラ削り後ヘラミガキ、内面上位ナダ、中位以下ヘラナダ。	外 内 乳褐色 乳灰色	細砂粒を含む (IV)	良	
	落ち込み 7						
79	鉢	口径 7.7	半球形の体部から緩やかに屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損(尖り乳突感と思われる)。 体部外壁タタキ(3本)後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。	外 内 乳灰褐色 淡乳灰褐色	細砂粒を含む (IV)	良	標付有
二十六	落ち込み 7						
80	同 上	口径 9.8 器高 5.2	半球形の体部から屈曲し、斜上方へ内壁気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は丸底。 口縁部外面ヨコナナ。一部粗陶質、内面ハケナナ(5本)、体部外面ナダ、内面ヘラナダ、底部外面ヘラ削り。	乳灰褐色	細砂粒を含む (IV)	良	
二十六	落ち込み 7						
81	同 上	口径 12.0	半球形の体部から緩やかに屈曲し、斜上方へ内壁気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は欠損。 口縁部外面ナダ、内面ヨコナナ、体部外面ハケナナ後ナダ、内面ナダ。	外 内 淡茶褐色 乳灰褐色	細砂粒を含む (II)	良	
二十六	落ち込み 7						

遺物番号 試収番号	器種 出土地点	(cm) 口径 器高	形態・開闢等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
82	鉢	口径 10.4  落ち込み 7	体部から屈曲し、斜上方へ内側気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナダ。	乳茶灰色	精良、微砂粒を少含む	良	
83	同上	口径 11.0  落ち込み 7	半球形の体部から屈曲し、上外方へ内側気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外面ヘラ削り後ヘラミガキ、内面ヘラナダ後ヘラミガキ。	乳灰褐色	細砂粒を含む	良	縦付着
84	同上	口径 11.8  二十七 落ち込み 7	半球形と思われる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ内側気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は丸底。 口縁部外面ヘラ削り後ヘラミガキ、内面ヨコナダ、体部外面ヘラ削り後ヘラミガキ。	乳褐色	精良	良	
85	同上	口径 12.6 器高 6.7	扁平な半球形の体部から緩やかに屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は丸底。 外面タキ?、内面磨滅の跡不明。	乳赤茶色	粗砂粒を含む(青)	良	
二十七	落ち込み 7						
86	同上	口径 12.4 器高 7.5  落ち込み 7	半球形の体部から屈曲し、短く斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は丸底。 口縁部外面粗面感、ナダ、内面ヘラナダ後ナダ、体部外面上位ナダ、下位ヘラナダ、内面上位ヘラナダ後ナダ、下位ヘラナダ。	外赤茶褐色 内乳灰褐色	4mm以下の 砂礫粒を含む(白)	良	
87	同上	口径 11.8 器高 7.3  二十七 落ち込み 7	半球形の体部から屈曲し、斜上方へ長く伸びる口縁部に至る。端部は丸底。 口縁部内外面ハケナダ後ヨコナダ、体部外面ハケナダ、内面ヘラナダ。	淡白灰褐色	微砂粒を含む(白)	良	
88	同上	口径 16.9 器高 5.5  二十七 落ち込み 7	丸底の底部から橢円形の体部に至り屈曲し、上外方へ内側気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸底。 口縁部内外面ヨコナダ後ヘラミガキ、体部外面ヘラ削り後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後残文、底部磨滅の跡不明。	茶褐色	精良(白)	良	
89	同上	口径 16.8 器高 7.0  二十七 落ち込み 7	丸底の底部から、扁平な半球形の体部に至り、屈曲して斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は丸底。 口縁部外面ヨコナダ、内面ヨコナダ、体部外面ヘラ削り後ヘラミガキ。内面磨滅の跡不明。	乳茶褐色	精良(白)	良	

遺物番号 回収番号	出 土 地 点	(cm) 口径 器高	形 態 ・ 調 整 等 の 特 徴	色 調	胎 土	被 收	備 考
90	林	口径 12.6 器高 5.1	丸底の底部から、橢形の体部に至り、口縫付近で緩やかな腹をもち、そのまま上方に伸びる口縫部に至る。端部は丸い。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面へう割り、内面ヘリナデ。	乳灰褐色	微砂粒を含む (青)	良	
二十七	落ち込み 7						
91	同 上	口径 14.0 器高 4.6	やや尖り底の底部から、浅い楕形の体部に至り、そのまま内側して伸びる口縫部に至る。端部は丸い。 口縫部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ナデ、体部外面タキ後ハケナデ、内面ナデ。	乳褐色	微砂粒を少 量含む (白)	良	
	落ち込み 7						
92	同 上	口径 12.0	深い半球形の体部から、そのまま内側して伸びる口縫部に至る。端部は内側に钝く尖がる。体部は欠損。 口縫部外面ナデ、内面ヘラナデ。	淡乳灰褐色	微砂粒を多 量に含む (V)	良	
二十七	落ち込み 7						
93	同 上	口径 16.8 器高 10.0	最大径を上位にもつ扁平な球形の体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縫部に至る。端部は外傾し、平坦な腹をもつ。底部は欠損（丸底と思われる）。 口縫部外面ヨコナデ、内面齊滅の為不明、体部外面タキ後ハケナデ、内面ヘラ削り。	淡白褐色	5mm以下の 砂礫粒を多 量に含む (N)	良	
二十七	落ち込み 7						
94	同 上	口径 23.0 器高 11.1	半球形の体部からわずかに屈曲し、上外方へ内側骨峰に伸びる口縫部に至る。端部は外傾し、平坦な腹をもつ。底部は丸底。頭部内外面に接合痕を有す。 口縫部内外面ヨコナデ、頭部外山所削痕、体部外面タキ後ヘラナデ、内面ヘラ削り？、底部外面ヘラ削り。	茶褐色	5mm以下の 砂礫粒を多 量に含む (Ia)	良	
二十七	落ち込み 7						
95	同 上	口径 18.0	半楕円形の深い体部から、そのまま直上する口縫部に至り、端部は丸い。底部は欠損。 口縫部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面上位ハケナデ後ナデ、下位ハケナデ、沿縫痕、内面ハケナデ(6本)。	茶褐色	微砂粒を含む (Ib)	良	
	落ち込み 7						
96	器 台	口径 22.8 器高 10.8 底径 19.6	頭部から上下に外反して伸びる蝶形器台である。口縫部は斜上方へ伸び、端部は内傾する半圓形の腹をもつ。椎端部は内傾する平坦な腹をもつ。頭部の上下には凸奇が1条ずつ巡る。 外圓ヨコナデ、内面齊滅の為不明。	受部 乳赤 茶色 脚部 乳灰 褐色	微砂粒を含む (青)	良	
二十八	落ち込み 7						
97	同 上	口径 10.2 器高 7.5 底径 13.2	平坦な受底部から外上方へ緩やかに内側して伸びた後斜上方へ立ち上がる口縫部に至る。端部は斜下方に直線的に伸び、端部は丸く尖る。四方に円孔をもつ。 受部内外面齊滅の為不明（ヘラミガキと思われる）、脚部外面ヘラミガキ、内面上位ナデ、下位ヨコナデ。	淡茶褐色	微砂粒を含む (青)	良	
二十八	落ち込み 7						

遺物番号 出土地点	器種 (cm)	口部 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
98 器台	口径 9.7 器高 8.9 底径 10.7		平底な受底部から内側して伸びた後、斜上方へ立ち上がる口縁部に至る。縁部は内方に肥厚し凹面をもつ。脚部は斜下方向へ直線的に伸び、縫端部は丸い。凹面に円孔をもつ。脚部内面にしばり目を有す。 受部外山ラミガキ、内面噴文、脚部外面上位ハラナデ後ヘラミガキ、下位ハラミガキ、内面ハケナデ後ナゲ。	乳灰色	細砂粒を含む (Ⅱ)	良	
二十八 落ち込み?							
99 圓上	口径 9.3 器高 9.1 底径 11.8		平底な受底部から緩やかに内側し、そのまま斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。縁部は外傾する面をもつ。脚部は斜下方方に緩やかに内側し、端部は外傾する面をもつ。二方に円孔をもつ。 口縁部外面ヘラミガキ、受部外面ハラナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ?、脚部外面上位ハラナデ後ヘラミガキ、下位ハケナデ後ヘラミガキ。内面上位ヘラミガキ、下位ナゲ。	乳灰色	細砂粒を含む (Ⅱc)	良	
二十八 落ち込み?							
100 圓上	口径 10.2		緩やかに内側して伸びる受部から上外方へ立ち上がる口縁部に至る。縁部は内方に肥厚する。脚部は欠損。 受部外面底面の当不明。内面噴文が見られる。	乳茶褐色	細砂粒を含む (Ⅲc)	良	
落ち込み?							
101 圓上	底径 11.0		斜下方に直線的に伸びる脚部で、縫端部は斜く尖る。三方?に円孔をもつ。受部は欠損。 受部外面上位ハラナデ後ヘラミガキ、下位ハケナデ(10本)後ヘラミガキ、内面ハケナデ後ナゲ。くりぬき。	乳茶褐色	細砂粒を含む (Ⅳ)	良	
落ち込み?							
102 圓上	底径 9.9		脚部は斜下方に外反気味に伸び、縫端部は平川な面をもつ。受部は欠損するが、受部と脚部は貫通する。三方に円孔をもつ。 柱状部外面ヘラミガキ。内面くりぬき、脚部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面ハケナデ後ヘラナデ。	外 乳茶灰 内 淡茶色	細砂粒を含む (Ⅴb)	良	
落ち込み?							
103 高杯	口径 12.6 器高 9.3 底径 17.9		楕形の浮底部から上方に内側して伸びる口縁部に至り、縁部は丸い。縁部は短く下方外する中空の柱状部から屈曲し、大きく下方に伸び、縫部の径を狭ぐ縫部をもつ。縫端部は斜く尖る。縫部中央の四方に円孔をもつ。 口縁部外面ヨコナデ後ヘラミガキ、内面ヨコナデ後噴文、柱状部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後暗文。柱状部外面ヘラミガキ、内面くりぬき、脚部外面ヘラミガキ、内面ハケナデ、縫端部内面ハケナデ後ヨコナデ。	淡乳褐色	精良	良	
二十八 落ち込み?							

遺物番号 図版番号	發出土地点	(cm) 口径 器高 底径	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
104	高杯	口径 14.5 器高 9.8 底径 17.9	平出な环底部から内側に、上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸く尖る。脚部は103に同じ。 环部・脚部外面ハケナデ後へラミガキ、柱状部外面へラミガキ、脚部内面へラミガキと思われる、脚部内面ナゲ。	淡茶褐色	微砂粒を含む (IIa)	良	
	落ち込み7						
105	同上	口径 14.6	椭円の杯部から上方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 环部外面へラミガキ、内面へラミガキ後暗文。	乳灰茶褐色	微砂粒を含む (II)	良	
	落ち込み7						
106	同上	底径 16.9	短い中空の柱状部から屈曲して外上方へ伸びる脚部に至り、脚部は丸く尖る。脚部下位の四方に円孔をもつ。脚部は欠損。 柱状部外面ハケナデ後ラミガキ、内面くりぬき、脚部外面ハケナデ後ラミガキ、内面上位脚部(ヒラの爪跡を残す)。下位ハケナデ。	外 喜乳灰色 内 赤茶褐色	微砂粒を含む (IV)	良	媒付有
	落ち込み7						
107	同上	底径 17.8	106と同様。 柱状部外面へラミガキ、脚部外面ハケナデ後へラミガキ、内面磨感の為不明。	外 乳灰茶褐色 内 乳茶褐色	微砂粒を含む (V)	良	
	落ち込み7						
108	同上	口径 14.2 器高 7.8 底径 8.5	深い椭円の杯部から斜上方へ内側して伸びる口縁部に至り、脚部は外傾する平坦な面をもつ。脚部は外下方へ短く外反し、脚部は丸い。 脚部・脚部内外面ナゲ。	乳赤褐色	細砂粒を含む (VI)	良	
二十八	落ち込み7						
109	同上	口径 13.4	平出な環底部から斜上方へ緩やかに内側して伸びる口縁部に至る。脚部は外傾する面をもつ。柱状部は杯部から下外方に脚部まで伸び、中空である。脚部は欠損。 脚部外面へラミガキ、内面へラミガキ後暗文、柱状部外面へラマ削り後へラミガキ、内面へラナゲ。	乳灰褐色	微砂粒を含む (VI)	良	
二十八	落ち込み7						
110	同上	口径 15.2	杯底部から斜上方へ緩やかに内側して伸びる口縁部に至る。脚部は外傾する面をもつ。口縁部内外面に接合痕を有す。环底部・脚部は欠損。 脚部外面へラミガキ、内面へラミガキ後暗文。	乳茶色	微砂粒を含む (VI)	良	
二十八	落ち込み7						
111	同上	口径 14.8	平坦な环底部から斜上方へ内轉気味に伸びる口縁部に至る。脚部は外傾する面をもつ。脚部は欠損。 环部外面へラミガキ、内面へラミガキ後暗文、环底部磨感の為不明。	茶褐色	微砂粒を含む (IIIc)	良	
	落ち込み7						

進物番号 国産番号	器種 出上地点	(cm) 口径 法量 国基	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
112	高杯	口径 13.8	109と同様。 杯部外面ハラミガキ、柱状部くりぬき。	外 乳茶褐色 内 乳灰褐色	精良 (Ⅱc)	良	
二十八	落ち込み7						
113	同上	口径 18.0	111と同様。 杯部外面ハケナデ後ハラミガキ、内面ハケナデ後ハラミガキ後暗文。	乳灰褐色	細砂粒を含む (Ⅲ)	良	
	落ち込み7						
114	同上	口径 15.1 器高 8.6 底径 11.4	内壁気味の杯底部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。縫部はない。縫部は緩やかな線をもつ中型の柱状部から大きく広がる縫部に至り、縫端部は鋭く尖る。縫部上面の四方に円孔をもつ。 縫部・柱状部外面ハラミガキ、内面ハラミガキ後暗文、縫部ハケナデ後ハラミガキ、暗文、脚部内面くりぬき・ハケナデ。	淡乳灰褐色	精良 (Ⅱb)	良	
二十九	落ち込み7						
115	同上	口径 21.8	平岡な杯底部から斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至り、縫部は外傾する線をもつ。縫部は欠損。 縫部外面ハラミガキ、内面磨減の為不明。	外 乳茶色 内 淡乳茶色	細砂粒を含む (Ⅲb)	良	
	落ち込み7						
116	同上	口径 22.7 器高 15.9 底径 14.8	平坦な杯底部から斜上方へ伸びる口縁部に至る。縫部は外傾し、圓面をもつ。縫部は直立気味の柱状部から屈曲し、外下へ外反気味に伸びる縫部に至り、縫端部は鋭く尖る。縫部上面の四方に円孔をもつ。 縫部外面ハケナデ後ハラミガキ、内面ハケナデ後ハラミガキ後暗文、杯部外面ヘラナデ後ハラミガキ、柱状部外面ハラナデ後ハラミガキ、内面くりぬき・縫ナデ、脚部外面ハケナデ後ハラミガキ、内面上位側縫痕・ハケナデ、下位ハケナデ後ナデ。	乳灰褐色	精良 (Ⅱ)	良	
二十九	落ち込み7						
117	同上	口径 23.5 器高 16.5 底径 14.4	116と同様。 縫部上位の四方に円孔をもつ。 縫部上面磨減の為不明、内面上位ヨコナデ、中位以下ハケナデ(7本)、柱状部外面・柱状部外面ヘラナデ、内面しばり目・くりぬき、脚部内外面ナデ。	外 淡乳茶色 内 乳茶色	精良 (Ⅱ)	良	
二十九	落ち込み7						
118	製盤上器	脚台径 4.2	脚台部は下外方に外反し、縫部は面をもつ。体部は内壁気味に上外方する。口縁部は欠損。 体部外面タキ(上位2本、下位3本~4本)、内面ヘラナデ・ナデ。	灰褐色	細砂粒を含む (Ⅲ)	良好	
二十九	落ち込み7						

遺物番号 同級番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
119	製麿上器	口径 5.0	脚部は下外方に外反し、端部は丸い。体部は半球形で、口縁部は欠損。 体部外側タタキ、内面ヘラナデ。脚部外側粗張、内面ナデ。	暗灰褐色	微砂粒を含む (M)	良	
二十九	落ち込み 7						
120	甕	口径 14.7 器高 24.9 底径 3.8	最大径をやや上方にもつ橢円形の体部から 短く屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。 端部は外傾する面をもつ。底部は突出気味の 半球。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ(3 本)後ハケナデ(5本)、内面ハケナデ(7本~ 10本)、底部ナデ。	外 乳白色 内 黑灰色	微砂粒を含む (M)	良	揮付有
二十九	落ち込み 7						
121	甕 上	口径 13.8	体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸び る口縁部に至る。端部は外傾し、凹面をもつ。 底部は欠損。 口縁部外側タタキ後ヨコナデ、内面ヨコナ デ、体部外側タタキ、内面ヘラナデ。	乳茶褐色	微砂粒を含む (II c)	良	
	落ち込み 7						
122	甕 上	口径 14.6	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反気味に 伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠 損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ、 内面ヘラナデ。	淡茶褐色	微砂粒を含む (II b)	良	
	落ち込み 7						
123	甕 上	口径 16.6	体部から丸く屈曲し、外上方へ短く外反して伸び た後、さらにもう一度外反して伸びる口縁部 に至る。端部は外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ、 内面ヨコナデ。	淡茶褐色	微砂粒を含む (IV)	良	
	落ち込み 7						
124	甕 上	口径 16.5	体部から外上方へ外反気味に伸びる口縁部 に至る。端部は外傾する半球な面をもつ。体 部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ、 内面ヨコナデ。	乳茶褐色	4mm以下の 砂糖粒を含む (IV)	良	
	落ち込み 7						
125	甕 上	口径 17.2	上内方へ傾きながら内側して伸びる体部から 屈曲し、斜上方に伸びる口縁部に至る。端部 は外に凹面をもつ。端部付近外側に接合痕を 有す。体部中段は以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ(3 本)後ヘラナデ、内面ヘラナデ。	乳茶褐色	3mm以下の 砂糖粒を含む (IV)	良好	
	落ち込み 7						
126	甕 上	口径 17.0	体部から丸く屈曲し、斜上方へ伸びる口縁 部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。 体部は欠損。 口縁部内外面磨滅の為不明。	淡茶褐色	2mm以下の 砂糖粒を多 量に含む (M)	良	
	落ち込み 7						

動物標名 出版番号	出 土 地 点	(cm) 口径 法 身 高	形 態 ・ 構 造 等 の 特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
127	横	口径 17.6	体部から弧曲し、外上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は軽くつまみ上げる。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナデ、内面ハケナテ後ヨコナデ、脇部外側一部ハナダ、内面指輪状、体部外面タキ、内面ナダ。	乳灰褐色	粗砂粒を含む(V)	良好	
	落ち込み 7						
128	同 上	口径 15.2	横円形の体部から弧く弧曲し、外上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、脇部外側上位ハケナデ(5本~10本)、中位以下ヘラナデ、内面ヘラナデ。	淡赤灰色	4mm以下の砂礫を多量に含む(IIe)	良	
三十	落ち込み 7						
129	同 上	口径 16.2	球形に近い体部から弧曲し、外上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部下位は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、脇部外側上位ハケナデ(5本)、中位以下ヘラナデ、内面ヘラナデ。	淡茶灰色	微砂粒を多量に含む(IV)	良	
三十	落ち込み 7						
130	同 上	口径 16.0	体部から丸く弧曲し、外上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ。	乳茶色	粗砂粒を含む(III)	良	
	落ち込み 7						
131	同 上	最大径20.7	丸底の底部から、球形の体部に至る。肩部内面に複合窓を有す。口縫部は欠損。 体部外側上位、下位タキ(3本)、中位ハケナデ(7本~10本)、内面上位ハケナデ(5本)、中位以下ヘラ削り、底部指輪状。	外 乳茶褐色 内 乳灰褐色	微砂粒を含む(IV)	良	
三十	落ち込み 7						
132	同 上	口径 11.2	球形と思われる体部から丸く弧曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縫部に至る。端部は鋸く尖る。体部外側に各2本ずつ接合窓を有す。体部下位は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部内外面ナダ。	外 淡褐色 内 暗灰色	粗砂粒を含む(IV)	良	煤付着
	落ち込み 7						
133	同 上	底径 4.8	底部は突出するややくぼみ底。体部は欠損。 体部外側ナダ、内面ヘラナデ、底部ナダ。	淡灰褐色	良(IIa)	良	
	落ち込み 7						
134	同 上	底径 5.6	底部は突出気味の平底。体部は欠損。 体部外側タキ(3本)、内面ヘラナデ、底部ナダ。	淡乳灰色	粗砂粒を含む(IIc)	良	
	落ち込み 7						

遺物番号 団板番号	發　　種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形　態　・　測　量　等　の　特　徴	色　調	胎　土	燒成	備　考
136	甕	口径 器高 12.9 14.1	球形の体部から屈曲し、斜上方へ内反気味に伸びる口縁部に至る。底部は上につまむ。 底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	褐色	微砂粒を含む (Ib)	良	焼付着
三十	落ち込み?						
136	同 上	口径 器高 13.0 14.5	135と同様。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(4本)、下位タタキ後ハケナデ(6本)、内面ヘラ削り、指ナデ。	茶褐色	微砂粒を含む (Ia)	良	
三十	落ち込み?						
137	同 上	口径 器高 13.3 14.2	球形の体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。底部ははつまみ上げる。 底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ(8本)後タタキ(5本)、中位以下ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り、指痕痕。	茶褐色	微砂粒を含む (Ib)	良	焼付着
三十	落ち込み?						
138	同 上	口径 器高 14.3 15.7	137と同様。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(6本)、体部外面ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	外 乳白色 内 乳灰色	微砂粒を少 量含む (Ia)	良	
三十一	落ち込み?						
139	同 上	口径 器高 10.8 16.5	下位に張りをもつ横円形の体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。底部は上につまむ。底部は丸底。 体部外面上位ハケナデ(7本)、下位ヘラナデ、内面上位ヘラ削り、下位指ナデ。	外 淡灰褐色 内 淡灰茶色	5mm以下の 砂礫を多 量含む (Ib)	良	焼付着
三十一	落ち込み?						
140	同 上	口径 器高 12.7 16.7	球形の体部から軽く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。底部は上につまむ。 底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(10本)、内面ヘラ削り、下位ヘラ削り後指痕痕。	乳褐色	微砂粒を含む (Ib)	良	
三十一	落ち込み?						
141	同 上	口径 器高 13.4 17.0	140と同じ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(4本)後ハケナデ(7本)、中位以下ハケナデ後ヘラナデ、内面ヘラ削り。	淡灰色	細砂粒を含む (Ia)	良	
三十一	落ち込み?						
142	同 上	口径 器高 15.2 19.7	140と同様。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)後ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り、下位ヘラ削り後指痕痕・指ナデ。	茶褐色	微砂粒を含む (Ia)	良	
	落ち込み?						

被物番号 同種番号	出土地点	標 高 (m) 法量 容積 m³	口係 高 度 m	形態・調整等の特徴	色調	胎 土	焼成	備考
143	墳	口徑 16.8 器高 24.0		球形の体部から緩く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縫部に至る。端部は上につまむ。底部は夷り放す。 口縫部内外面ヨコナゲ、体部外面上位タタキ(3本)、下位ハケナゲ(5本)、内面ヘラ削り。	暗灰褐色	粗砂粒を含む(Ia)	良	
三十一	落ち込み 7							
144	同 上	口徑 12.2		球形の体部から丸く屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縫部に至る。口縫部は中ほどで壊れ、端部はつまみ上げる。体部下位は欠損。 口縫部内外面ヨコナゲ、体部外面上位タタキ(7本)、中位以下磨滅の為不明。内面ヘラ削り。	乳茶灰色	砂礫粒を多量に含む(IV)	良	
三十一	落ち込み 7							
145	同 上	口徑 14.1		扁平な球形の体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部はつまみ上げる。底部は欠損。 口縫部内外面ヨコナゲ、体部外面上位ハケナゲ(3本)、下位磨滅の為不明。内面ヘラ削り。	乳茶灰色	3mm以下の砂礫粒を含む(V)	良	
三十二	落ち込み 7							
146	同 上	口徑 14.3		球形の体部からやや斜く屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縫部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縫部内外面ヨコナゲ、体部外面上位タタキ(6本)、中位以下ハケナゲ(7本)、内面ヘラ削り。	外 黑灰色 内 雜灰色	微砂粒を含む(Ia)	良	埋付書
三十二	落ち込み 7							
147	同 上	口徑 15.4		球形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縫部に至る。端部付近で外反して伸びる口縫部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縫部内外面ヨコナゲ、体部外面上位タタキ(6本)後ハケナゲ、下位ハケナゲ(10本)、内面ヘラ削り。	茶褐色	微砂粒を含む(Ib)	良	埋付書
三十二	落ち込み 7							
148	同 上	口徑 15.4		球形の体部から上内方へ傾やかに内側し、張りの強い肩部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縫部内外面ヨコナゲ、体部外面上位タタキ(7本)・ヘラナゲ、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	4mm以下の砂礫粒を含む(Ib)	良	
三十二	落ち込み 7							
149	同 上	口徑 14.2		球形の体部から緩く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縫部内外面ヨコナゲ、体部外面上位タタキ(6本)後ハケナゲ(9本)、中位ハケナゲ後ヘラナゲ、内面ヘラ削り。	灰茶色	5mm以下の砂礫粒を多量に含む(Ib)	良	
三十二	落ち込み 7							
150	同 上	口徑 14.4		最大径を中位にもつと思われ、張りのない様やかな体部から屈曲し、外上方に伸びる口縫部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縫部内外面ヨコナゲ、体部外面上位タタキ(6本)後ハケナゲ(7本)、中位は下部磨滅の為不明、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	7mm以下の砂礫粒を含む(Ib)	良	埋付書
三十二	落ち込み 7							

遺物番号 採取番号	基 地 地 点	(cm) 口径 法量 高	形 態・調 整 等 の 特 徴	色 調	胎 土	施成	備 考
151	變	口径 15.2	横円形の体部からやや覗く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、裏部外面磨滅の為不明、体部外面ハケナダ(9本)、内面ヘラ削り、下位指頭痕。	乳赤茶褐色	微砂粒を含む (VI)	良	
三十二	落ち込み 7						
152	同 上	口径 15.5	球形の体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は欠型。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(7本)後ハケナダ、下位ハケナダ、内面上位ヘラ削り、下位磨滅の為不明。	乳灰褐色	3mm以下の 砂礫粒を含む (I b)	良	焼付着
	落ち込み 7						
153	同 上	口径 15.8	球形の体部から丸く屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。口縁部は中ほどで膨張し、端部は上につまむ。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナダ、体部外面上位タタキ(5本)後ハケナダ(7本)、下位ハケナダ(8本)後ナダ、内面ヘラ削り。	外 淡灰褐色 内 灰褐色	微砂粒を含む (I a)	良	焼付着
三十三	落ち込み 7						
154	同 上	口径 16.2	扁平な球形の体部からやや覗く屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナダ(6本)、内面ヘラ削り後ハケナダ。	外 黑灰褐色 内 淡褐色	8mm以下の 砂礫粒を含む (I a)	良	焼付着
三十三	落ち込み 7						
155	同 上	口径 18.3	扁平な球形の体部から覗く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。口縁部は中ほどで膨張し、端部は上につまむ。底部は下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(8本)後タタキ(6本)、内面ヘラ削り。	淡褐色	微砂粒を含む (I a)	良	焼付着
	落ち込み 7						
156	同 上	口径 18.6	球形の体部から一概外面が凹曲した後丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は上につまむ。底部は欠損(丸底と思われる)。 口縁部外面ヨコナデ、裏部外面タタキ(4本)後ハケナダ(8本)、体部外面タタキ後ハケナダ後ハラナダ、片部内面一部ヘラナダ、体部内面ヘラ削り。	外 淡灰褐色 内 淡灰褐色	4mm以下の 砂礫粒を含む (I a)	良	
	落ち込み 7						
157	同 上	口径 18.2	体部から覗く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	乳灰褐色	微砂粒を含む (IV)	良	
	落ち込み 7						
158	同 上	口径 12.4	体部から丸く屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ハケナダ、内面ヘラ削り。	乳淡茶色	2mm以下の 粗砂粒を含む (I b)	良	
	落ち込み 7						

遺物番号 回収番号	西 出上地 種 類	(cm) 直径 質量 最高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
159	甕	口径 12.5	体部から丸く屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は軽く上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナゲ、体部外面ハケナゲ、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	微砂粒を含む (I b)	良	
	落ち込み 7						
160	同 上	口径 12.8	体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナゲ、内面ヘラ削り後ヨコナゲ。体部外面タタキ後ハケナゲ、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	微砂粒を含む (I b)	良	
三十三	落ち込み 7						
161	同 上	口径 12.9	上内方へ緩やかに内擫して伸びる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ上げ、外に凹凸をもつ。体部は欠損。 口縁部外面タタキ後ヨコナゲ、内面ヨコナゲ、体部外面タタキ(6本)、内面ヘラ削り。	乳灰褐色	微砂粒を多量に含む (II e)	良	
	落ち込み 7						
162	同 上	口径 13.3	体部から屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は軽くつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナゲ、体部外面タタキ(6本)後ハケナゲ(8本)、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	微砂粒を少量含む (I a)	良	
	落ち込み 7						
163	同 上	口径 13.8	体部から丸く屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナゲ、体部外面磨減の為不明、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	微砂粒を少量含む (I a)	良	
	落ち込み 7						
164	同 上	口径 14.0	体部から外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。口縁部は中位で器取れこ、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナゲ、内面ハケナゲ(6本)後ヨコナゲ、体部外面タタキ(6本)後ハケナゲ(8本)、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	3mm以下の 砂礫粒を含む (I b)	良	
	落ち込み 7						
165	同 上	口径 14.0	体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	外 暗茶褐色 内 茶褐色	微砂粒を含む (I a)	良好	
	落ち込み 7						
166	同 上	口径 14.2	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ(内面一部ハケナゲ)、体部外面タタキ(5本)後ハケナゲ(6本)、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	微砂粒を含む (I a)	良	
	落ち込み 7						

治癒番号 固有番号	種 出上地點	(cm) 口経 法量 器高	形態・病歴等の特徴	色 調	新 土	施成	備 考
167	斐	口径 14.2	体部からやや屈曲し、外上方に伸びた後外反する口縫部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	外 暗茶灰色 内 茶灰色	2mm以下の粗砂粒を含む(1b)	良	
	落ち込み 7						
168	周 上	口径 14.2	体部からよく屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縫部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡灰褐色	微砂粒を少 量含む (1a)	良	
	落ち込み 7						
169	周 上	口径 14.6	口縫部は外上方へ外反気味に伸び、端部は斜上につまむ。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナデ。	灰褐色	微砂粒を含 む (1a)	良	煤付着
	落ち込み 7						
170	周 上	口径 14.6	体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナデ、内面ハケナア後ヨコナデ、体部外面ハケナア後ヨコナデ、内面ヘラ削り。	外 黑灰色 内 灰褐色	微砂粒を少 量含む	良好	煤付着
	落ち込み 7						
171	周 上	口径 14.6	体部から丸く屈曲し、外上方に伸びる口縫部に至る。端部は上につまみ、端部付近は認められる。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ、内面黒滅の為不明。	外 灰褐色 内 灰褐色	微砂粒を含 む (1a)	良	
	落ち込み 7						
172	周 上	口径 14.8	口縫部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナデ。	淡灰褐色	微砂粒を含 む (1a)	良	
	落ち込み 7						
173	周 上	口径 15.0	体部からやや屈曲し、外上方に伸びた後外反する口縫部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナデ、体部外面黒滅の為不明。内面ヨコナデ。	乳灰褐色	微砂粒を含 む (1b)	良	
	落ち込み 7						
174	周 上	口径 15.2	体部から丸く屈曲し、外上方に伸びる口縫部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	茶褐色	微砂粒を含 む (1a)	良	
	落ち込み 7						

遺物番号 四面番分	器 出土地点	(cm) 口径 底径 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
175	甕	口径 15.3	上内方へ傾やかに内側して伸びる体部から 丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部 に至る。頸部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナギ、内面ハケナナ後ヨコ ナギ、体部外面タタキ(6本)後ハケナナ(6 本)、内面上面ヨコナギ(8本)、下部へラ削り。 落ち込み7	淡灰茶色	微砂粒を少 量含む (Ia)	良	
176	同 上	口径 15.3	175と同様。(口縁部のみ) 体部は欠損。 口縁部外面ヨコナギ、内面ハケナナ後ヨコ ナギ、体部内面ヘラ削り。 落ち込み7	淡灰茶色	微砂粒を少 量含む (Ia)	良好	焼付着
177	同 上	口径 15.4	体部から丸く屈曲し、外上方に伸びる口縁 部に至る。頸部は内側に肥厚する。体部は欠 損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面タタキ、 内面へラ削り。 落ち込み7	外 黒灰褐色 内 淡灰茶色	微砂粒を含 む (Ia)	良	焼付着
178	同 上	口径 15.4	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反時に 伸びる口縁部に至る。頸部は上につまむ。体 部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ヨコナギ、 内面へラ削り。 落ち込み7	外 淡灰茶色 内 淡灰茶色	微砂粒を含 む (Ib)	良	焼付着
179	同 上	口径 15.5	内上方へ傾やかに内側して伸びる体部から 屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。口縁 部内外面に凹凸面をもつ。頸部はつまみ上げ る。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナギ、内面ハケナナ後ヨコ ナギ、体部外面タタキ(5本)後ハケナナ、内 面へラ削り。 落ち込み7	乳茶褐色	3mm以下の 砂礫粒を含 む (Ib)	良好	
180	同 上	口径 15.6	体部から丸く屈曲し、斜上方へ伸びる口縁 部に至る。頸部は外傾する平坦な面をもつ。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ハケナナ 後タタキ(4本)、内面へラ削り。 落ち込み7	灰褐色	微砂粒を含 む (Ia)	良	
181	同 上	口径 15.8	体部から丸く屈曲し、斜上方へ伸びる口縁 部に至る。頸部は外傾する平坦な面をもつ。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ヨコナギ 後ハケナナ(9本)、内面へラ削り。 落ち込み7	淡茶褐色	微砂粒を含 む (IV)	良	
182	同 上	口径 16.0	口縁部は外上方へ外反して伸び、頸部はや や上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ヨコナギ、 内面へラ削り。 落ち込み7	茶褐色	微砂粒を含 む (Ia)	良	

魚物番号 出水番号	基準点	種類	(cm) 口径 法量 高さ	形態・調整等の特徴	色調	底土	焼成	備考
183	裏	口径 16.0		体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縫部に至る。端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナギ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	茶灰褐色	微砂粒を含む	良	
	落ち込み 7							
184	同上	口径 16.0		口縫部は斜上方へ外反して伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナギ、体部外面ヨコナギ、内面ヘラナギ。	暗茶褐色	微砂粒を含む (Ia)	良	
	落ち込み 7							
185	同上	口径 16.2		体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部はやや上につまみ、外に平凹な面をもつ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナギ、体部外面ヨコナギ、内面ヘラ削り。	茶灰色	微砂粒を含む (Ia)	良	
	落ち込み 7							
186	同上	口径 16.2		体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナギ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	茶灰色	4mm以下の 砂礫粒を含む (Ia)	良	
	落ち込み 7							
187	同上	口径 16.2		体部から丸く屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縫部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナギ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	微砂粒を含む (Ia)	良	
	落ち込み 7							
188	同上	口径 16.2		内上方へ傾やかに内摺して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縫部に至る。端部は上につまみ上げる。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナギ、体部外面タタキ(7本)後ハケナギ(4本)、一部ヘラナギ、内面ヘラ削り。	乳灰茶色	微砂粒を多量に含む (II)	良	
三十三	落ち込み 7							
189	同上	口径 16.2		半球形の体部からやや鋭く屈曲し、斜上方へ伸びる口縫部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縫部内外面ヨコナギ、体部外面タタキ(7本)後ハケナギ(7本)、内面ヘラ削り。	外 暗茶褐色 内 茶褐色	5mm以下の 砂礫粒を含む (Ib)	良	焼付着
	落ち込み 7							
190	同上	口径 16.3		半球形の体部から鋭く屈曲し、斜上方した後上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縫部内外面ヨコナギ、体部外面タタキ(9本)、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	5mm以下の 砂礫粒を含む (Ib)	良	
	落ち込み 7							

漁物番号 固有番号	器 地 点	種 (mm) 口径 法量 最高	形 态・調 整 等 の 特 徴	色 調	胎 上	熟 成	備 考
191	腹	口径 16.8	体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ヘラ削り。	外 淡茶褐色 内 淡灰褐色	微砂粒を含む (Ib)	良	
	落ち込み?						
192	同 上	口径 16.8	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	灰褐色	微砂粒を含む (Ia)	良	
	落ち込み?						
193	同 上	口径 16.8	体部から丸く屈曲し、斜上方へ伸びる口縫部に至る。端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ、一部タタキ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	淡褐色	微砂粒を含む (Ia)	良	
	落ち込み?						
194	同 上	口径 17.0	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は上につまむ、外に平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	微砂粒を含む (Ia)	良	
	落ち込み?						
195	同 上	口径 17.4	口縫部は外上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縫部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ、体部内面ヘラ削り。	外 黒茶色 内 灰茶色	微砂粒を少量含む (Ib)	良好	
	落ち込み?						
196	同 上	口径 17.4	体部から丸く屈曲し、斜上方へ伸びる口縫部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ、内面ヘラ削り。	灰褐色	3mm以下の砂糖粒を含む(Ib)	良	
	落ち込み?						
197	同 上	口径 17.6	体部から丸く屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削り。	外 灰褐色 内 灰褐色	微砂粒を含む (Ia)	良	
	落ち込み?						
198	同 上	口径 17.6	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縫部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ、内面ヘラ削り。	外 灰茶褐色 内 灰褐色	微砂粒を含む (Ia)	良	爆付着
	落ち込み?						

骨の番号 採取部位	種 類 出 上 地 点	(cm) 口径 法量 器高	形 態 ・ 調 査 等 の 特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
199	櫻	口径 14.2	体部から丸く屈曲し、上方へ伸びる口縫部に至る。端部は鋸く尖る。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナゲ、体部外面タタキ後ハケナダ、内面磨滅の為不明。	淡白灰褐色	微砂粒を含む (IIc)	良	
	落ち込み 7						
200	小型櫻?	口径 9.8	扁平な蝶形の体部から屈曲し、上方へ内彎気味に伸びる口縫部に至る。端部は鋸く尖る。底部は欠損。 口縫部内外面ヨコナゲ、体部外面ハケナダ(11本)、内面ヘラ削り。	外 乳灰褐色 内 乳赤灰褐色	微砂粒を含む (IIi)	良	
三十三	落ち込み 7						
201	櫻	口径 11.8	体部から丸く屈曲し、斜上方へ伸びる口縫部に至る。端部は鋸く尖る。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナゲ、体部外面ハケナダ、内面ヘラ削り。	乳茶色	粗砂粒を含む	良	
	落ち込み 7						
202	同 上	口径 13.8	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナゲ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	微砂粒を含む (Ib)	良	保付着
	落ち込み 7						
203	同 上	口径 12.6	櫻円形と思われる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縫部内外面ヨコナゲ、体部外面上位ハケナダ、中径以下磨滅の為不明、内面ヘラ削り。	乳白褐色	微砂粒を含む (N)	良	保付着
三十三	落ち込み 7						
204	同 上	口径 13.0	203と同様。 体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナゲ、体部外面タタキ(6本)、内面ヘラ削り。	外 淡灰褐色 内 灰褐色	微砂粒を含む (Ia)	良	
	落ち込み 7						
205	同 上	口径 14.3	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は外傾する瘤をもつ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナゲ、体部外面ハケナダ(7本)、内面ヘラ削り。	乳灰褐色	微砂粒を多量に含む (IV)	良好	
三十三	落ち込み 7						
206	同 上	口径 15.1	体部から屈曲し、斜上方へ伸びた後上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナゲ、体部外面タタキ後ハナダ、内面ヘラ削り。	外 淡灰褐色 内 淡灰色	4mm以下の砂粒を含む	良好	
	落ち込み 7						

遺物番号 団版番号	器種 種類	(cm) 口径 法螺 番号	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
207	甌	口径 15.2	口縁部は上方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ。	茶灰褐色	微砂粒を含む (I b)	良	
		落ち込み 7					
208	同 上	口径 15.4	端部からくねじ、外上方へ外反して伸びる口縁部に毛。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、腹部内面ヘラナギ。	外 茶褐色 内 乳茶褐色	微砂粒を含む (N)	良	焼付釉
		落ち込み 7					
209	同 上	口径 16.0	半球形の体部から斜上方へ内傾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外側タタキ(5本)後ハケナギ(5本)、内面ヘラ削り。	乳茶褐色	粗砂粒を多量に含む (II c)	良好	
		落ち込み 7					
210	同 上	口径 17.0	扁平な半球形の体部から屈曲し、斜上方した後近く外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はヒツコマリ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外側上面タタキ後ハケナギ(10本)、中位ハケナギヘラナギ、内面ヘラ削り。	淡褐灰色	微砂粒を含む (I a)	良	-
		落ち込み 7					
211	同 上	口径 17.0	肩部に張りのない球形の体部から屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。口縁部は端部附近で膨脹れ、端部は外傾する面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部外面ハケナギ後ヨコナギ、内面ヨコナギ、体部外面ハケナギ(11本)、底底の為不明瞭、内面ヒ位ハケナギ(9本)、中位以下摩滅の為不明。	淡乳褐色	粗砂粒を含む (V)	良	
		落ち込み 7					
212	同 上	最大径17.4	球形の体部から屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部外側上位タタキ(5本)、中位以下ハケナギ(6本)後ナギ、内面ヘラ削り。	乳茶褐色	微砂粒を含む (I a)	良	
		落ち込み 7					
213	同 上	口径 14.9	球形と思われる体部からやや鋸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は肥厚する。体部外側上位1帯(3条)の波状文を有す。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ハラナギ、内面ヘラ削り。	乳茶褐色	微砂粒を多量に含む (V)	良	
		落ち込み 7					
214	同 上	口径 14.4	半球形に近い体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部外側上位に1帯(2本)の波状文を有す。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ハケナギ(11本)、内面ヘラ削り。	外 淡茶褐色 内 乳茶褐色	微砂粒を多量に含む (VI)	良	
三十四	落ち込み 7						

遺物番号 国際番号	部 種 出 土地点	(cm) 口径 法量 器底	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
215	縦	口径 15.1	蝶形と思われる体部から丸く屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部外上面にヘラ削みを有す。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ハケナギ(11本)後一部ヘラナギ、内面ヘラ削り。	乳茶色	微砂粒を含む (II c)	良	焼付着
三十四	落ち込み 7						
216	同 上	口径 15.0	中位に張りをもつ体部から丸く屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾し凹面をもつ。体部前面上位に1巻(1条)の捺状文を有す。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ハケナギ(7本)、内面ヘラ削り。	乳灰色	微砂粒を多量に含む (IV)	良好	焼付着
三十四	落ち込み 7						
217	同 上	口径 15.6	上内方へ緩やかに内傾して伸びる体部から丸く屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ヨコナギ(2本)後ハケナギ、内面ヘラ削り。	外 内 乳灰色 乳灰褐色	微砂粒を含む (IV)	良	焼付着
	落ち込み 7						
218	同 上	口径 16.1	蝶形の体部から屈曲し、斜上方へ内傾して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。底部は丸い。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面上位・下位ハケナギ、中位ヘラナギ(10本)、内面ヘラ削り、下位指頭鉗。	淡灰茶色	3mm以下の 砂礫粒を含む(II)	良	焼付着
	落ち込み 7						
219	同 上	口径 16.1	体部から丸く屈曲し、斜上方に外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ハケナギ(13本)、内面ヘラ削り。	淡乳灰褐色	細砂粒を含む (II b)	良	
三十四	落ち込み 7						
220	同 上	口径 14.8	半梢円形の体部から丸く屈曲し、斜上方へ内傾して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ハケナギ(11本)、内面ヘラ削り、上位指頭鉗。	乳茶色	微砂粒を多量に含む (VI)	良	
三十四	落ち込み 7						
221	同 上	口径 19.0	体部からやや弧く屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	黑灰色	3mm以下の 砂礫粒を含む(I b)	良好	
	落ち込み 7						
222	同 上	口径 15.8	半球形と思われる体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上下に肥厚した面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ハケナギ(7本)後ヘラナギ、内面ヘラ削り。	外 内 深灰色 淡灰褐色	6mm以下の 砂礫粒を含む(I a)	良	焼付着
三十四	落ち込み 7						

遺物番号 出土地点	標 種 出上地點	(cm) 口径 法量 筋高	形態・調査等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
223	甕	口径 15.4	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は内方に肥厚する。作部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(5本)後ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	外 黒灰褐色 内 茶灰褐色	微砂粒を少 量含む (I)	良	
	落ち込み 7						
224	同 上	口径 17.8	体部からやや鋭く屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に毛る。端部は肥厚し、凹面をもつ。作部上位に波状文を有す。体部は欠損。 口縁部内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(7本)後ヨコナデ、内面ヘラ削り。	乳灰褐色	微砂粒を少 量含む (II)	良好	保存性
	落ち込み 7						
225	同 上	口径 16.8	内上方へ端やかに内側して伸びる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(13本)、内面ヘラ削り。	乳灰色	微砂粒を多 量に含む (III)	良好	
	落ち込み 7						
226	同 上	口径 12.0	直線的に内上方へ伸びる体部から丸く屈曲し、水平気味に外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、鋭く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	精良	良	
三十回	落ち込み 7						
227	同 上	口径 12.0	上内方へ内壁気味に伸びる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、鋭く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削り・指痕底。	外 乳赤褐色 内 暗灰褐色	微砂粒を含 む	良	
三十四	落ち込み 7						
228	同 上	口径 13.0	227とはほぼ同様。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(12本)、内面ハケナデ・指痕底。	乳灰褐色	精良 (II d)	良	
三十四	落ち込み 7						
229	同 上	口径 14.8	226とはほぼ同様。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ?、内面ナデ。	外 暗茶灰色 内 茶褐色	微砂粒を含 む (II d)	良好	
	落ち込み 7						
230	同 上	口径 16.6	蝶形と思われる侈部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。端部外面に2本の沈窓、体部内面上面に接合痕を有す。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ後ヨコナデ、中位以下ハケナデ(10本)、内面上位ヘラ削り・後接ナデ、中位以下ヘラ削り。	暗灰褐色	微砂粒を含 む	良好	保存性
三十五	落ち込み 7						

遺物番号 回収番号	出土地点	種類 (cm)	口径 法及 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
231	斐	口径 11.8		体部から丸く屈曲し、短く内側して伸びる 口縁部に至る。端部は鋸く尖る。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、 内面ヘラ削り?。	乳白色	微砂粒を含む (IV)	良	
三十五	落ち込み?							
232	岡上	口径 17.2		口縁部は上方方へ伸び、端部は内折する平 坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面磨滅の為不明。	乳茶色	粗砂粒を含む (II)	良	
	落ち込み?							
233	岡上	口径 11.4		口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は長くつ まみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ。	乳茶色	稍良	良	
三十五	落ち込み?							
234	岡上	口径 12.4		口縁部は水平気味に外反し、端部は長くつ まみ上げる。外面に9本の沈線を有す。体部 は欠損。吉備地方の酒津式土器の特徴をもつ。 口縁部外面ヨコナデ。	乳褐色	粗砂粒を含む (IIa)	良	煤付着
三十五	落ち込み?							
235	岡上	口径 12.8		234と同様。 外面上に6本の沈線を有す。体部は欠損。吉備 地方の酒津式土器の特徴をもつ。 口縁部外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡赤茶褐色	微砂粒を含む (IIa)	良	
三十五	落ち込み?							
236	岡上	口径 14.0		234と同様。 外面上に6本の沈線を有す。体部は欠損。吉備 地方の酒津式土器の特徴をもつ。 口縁部外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	黒灰色	粗砂粒を含む (IIa)	良	煤付着
三十五	落ち込み?							
237	岡上	口径 14.0		234とはほぼ同様。 体部は欠損。吉備地方の酒津式土器の特徴を もつ。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、 内面ヘラ削り。	乳茶色	微砂粒を含む (IIa)	良	
三十五	落ち込み?							
238	岡上	口径 14.9		234とはほぼ同様。 外面上に8本の沈線を有す。体部は欠損。吉備 地方の酒津式土器の特徴をもつ。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、 内面ヘラ削り。	外 乳茶色 内 暗灰色	粗砂粒を含む (IIa)	良	
三十五	落ち込み?							

遺物番号 団体番号	基 種 出 土 地 点	(cm) 口径 法量 器底	形 態・調 整 等 の 特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
239	模	口径 15.6	234と同様。 外腹に8本の沈縫を有す。体部は欠損。吉備地方の酒津式土器の特徴をもつ。 口縁部内外面ヨコナダ。	淡乳褐色 微砂粒を含む (II a)		良	
三十五	落ち込み 7						
240	同 上	口径 15.8	234と同様。 外腹に6本の沈縫を有す。体部は欠損。吉備地方の酒津式土器の特徴をもつ。 口縁部内外面ヨコナダ、体部内面ヘラ削り。	淡褐色 微砂粒を含む (II a)		良	
三十五	落ち込み 7						
241	同 上	口径 12.6	体部から丸く肩曲し、斜上方へ短く外反し た後上方へ外反して伸びる複合口縁部とな る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部内面ヘラ削り。	淡乳褐色 微砂粒を含む (II d)		良	
三十五	落ち込み 7						
242	同 上	口径 14.0	241と同様。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部内面ヘラ削り。	乳茶褐色 微砂粒を含む (Ⅲ)		良	
三十五	落ち込み 7						
243	同 上	口径 17.7	平球形の体部から屈曲し、斜上方へ内寄し て伸びる口縁部に至る。端部は外方に肥厚し てをもつ。体部外腹上位に5本の沈縫を有す。 体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外腹上位ヨコ ナダ、中位ハケナダ(9本)、内面ヘラ削り。	淡乳褐色 5mm以下の 砂礫粒を含む		良	
	落ち込み 7						
244	同 上	口径 16.0	上内方へ内寄気味に伸びる体部からやや起 く屈曲し、斜上方へ外寄気味に伸びる口縁部に 至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体 部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外腹面の為 不明、内面ヘラ削り。	淡茶褐色 4mm以下の 砂礫粒を含む(IV)		良	埋付着
三十五	落ち込み 7						
245	同 上	口径 13.6	楕円形の体部から屈曲した短い縦部をもち、 斜上方へ内寄して伸びる口縁部に至る。端部 は平坦な面をもつ。体部外腹上位に5本の沈 縫を有す。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外腹上位ヨコ ナダ、中位ハケナダ後ヘラナダ、下位懸垂の為不明、 内面ヘラ削り。	淡乳褐色 微砂粒を含む (V)		良	埋付着
三十五	落ち込み 7						
246	同 上	口径 13.9	体部から屈曲し、斜上方へ内寄して伸びる 口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部 は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外腹面の為 不明。内面ヘラ削り。	外 淡茶褐色 内 淡茶色	5mm以下の 砂礫粒を含む(VI)	良	
	落ち込み 7						

遺物番号 河原番付	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	成形	質者
247	甕	口径 15.8	246とほぼ同様。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ(7本)、内面へラ削り。	乳茶褐色	細砂粒を含む(V)	良	
	落ち込み 7						
248	同上	口径 15.0	246とほぼ同様。 体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ、体部内面へラ削り。	乳茶色	微砂粒を含む(V)	良好	
	落ち込み 7						
249	同上	口径 16.0	半球形の体部から丸く屈曲し、斜上方へ内寄して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は大崩。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ(9本)、内面へラ削り。	乳茶褐色	微砂粒を少量含む(IIb)	良	
	落ち込み 7						
250	同上	口径 16.0	体部から丸く屈曲し、斜上方へ内寄気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ、内面へラ削り。	乳茶褐色	微砂粒を含む(IIb)	良	
	落ち込み 7						
251	同上	口径 17.6	体部から丸く屈曲し、上方へ内寄気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面へラ削り。	淡乳赤茶色	微砂粒を含む(V)	良	
	落ち込み 7						
252	同上	最大径24.1	丸底の底部から、突りのある半球形の体部に至る。口縁部は欠損。 体部外面上位ハケナデ後ヨコナデ、中位ハケナデ(11本)、下位ハケナデ後へラナデ。内面へラ削り。	淡灰褐色	細砂粒を含む(Ia)	良	算付
	落ち込み 7						
253	鉢	口径 14.0	上方へ内寄気味に伸びる体部から屈曲し、上方へやや外反して伸びる口縁部に至る。端部は強く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側へラ削り。	淡青茶色	1.5 mm以下 の細砂粒を含む	良	
三十六	SK12						
254	鉢 ?	底径 4.6	底部は突出する上げ底で、端部は丸い。体部は欠損。 体部外側ハケナデ後ハナデ、内面ナデ、底部ナデ。	淡茶褐色	細砂粒を少量含む	良	
	SK12						

植物標号 固有番号	種 化上 地点	(cm) 口径 法量 厚さ	形態・調査等の特徴	色 調	植 土	成 熟	備 考
255	环 (土解剖)	口径 14.2	口縁部は斜上方へ内側して伸び、端部はつまみ上げる。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶色	微砂粒を少 量含む	良	
	S K12						
256	高 环	口径 14.0	浅い楕円の環部から、上外方へ内側して伸びる口縁部による。端部は内方へ肥厚し平坦な面をもつ。脚部は欠損。 环部外面上位ヨコナデ、下位ハケナデ、内面ナデ。	茶褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	S K12						
257	同 上	口径 15.1	256とはほぼ同様。 口縁部は上外方へ内側して伸び、端部は凹面をもつ。脚部は欠損。 环部内外面ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	S K12						
258	同 上	口径 13.7	256と同様。 环部外面上位ヨコナデ、下位ハケナデ、内面ナデ後噴火。	外 淡茶灰 色 内 茶褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	S K12						
259	同 上	口径 26.2	平坦な环底部から弧曲し、大きく外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外方へつまみ、丸い。脚部は欠損。 环部外面上位、下位ヨコナデ、他磨滅の跡不明。	外 茶褐色 内 乳茶褐色	微砂粒を含 む	良	
	S K12						
260	同 上	口径 12.0	体部から弧曲し、上外方に伸びる口縁部が生る。端部は内へ肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡灰褐色	微砂粒を含 む	良	
	S K12						
261	同 上	口径 13.4	口縁部は外上方へ直線的に長く伸び、端部は肥厚気味で肥厚気味に丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	S K12						
262	同 上	口径 15.2	口縁部は上外方に伸び、端部は肥厚気味で内側する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 淡灰褐色 内 茶褐色	稍良、微砂 粒を含む	良	
	S K12						

遺物番号 出発番号	器種 出土地点	(cm) 口径 口径	形態・隔壁等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
263	甕	口径 18.8	体部から丸く屈曲し、斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部外面ハケナデ後ヨコナゲ、内面ヨコナゲ。	灰褐色	微砂粒を含む	良	
			S K12				
264	同上	口径 21.0	球形と思われる体部からやや鋸く屈曲し、斜上方へ内側気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾し平坦な面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部外面ヨコナゲ、体部外面ハケナデ(3本)、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	2mm以下の粗砂粒を含む	良	
			S K12				
265	小型丸底甕	口径 器高 7.2 7.9	扁平な球形の体部からやや鋸く屈曲し、斜上方へ長く伸びる口縁部に至る。端部は鋸く尖る。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部外面ヘラナダ、内面上位・中位ヘラ削り、下位指ナゲ。内面ヘラナダ。	乳灰褐色	微砂粒を含む	良	高麗有
			S K13				
266	同上	最大径 8.0	扁平な球形の体部から鋸く屈曲し、上外方に伸びると思われる口縁部に至るが、口縁部は半ばで欠損。底部はやや丸底。 口縁部外面ヨコナゲ、体部上面ハケナデ後ヘラミガキ、中位ヘラ削り、下位ヘラ削り後ヘラミガキ。	外 内 乳灰色 乳灰茶 色	微砂粒を含む	良	
			S K12				
267	小型甕	口径 9.8	口縁部は上外方に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナゲ、一部ヘラ削り、内面ヨコナゲ。	茶灰色	微砂粒を少量含む	良	
			S K13				
268	甕	口径 14.0	体部から丸く屈曲し、斜上方へ内側気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部内面ヘラ削り。	乳灰褐色	微砂粒を含む	良	
			S K13				
269	同上	口径 15.8	体部から頸曲し、斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナゲ。	乳灰茶色	微砂粒を含む	良	
			S K13				
270	大型器台 (追想器)	口径 36.2	楕円形の受部をもち、口縁部は水平に外反し、端部は鋸く尖る。受部外面上位・中位に凸縫をそれぞれ2条、下位に1条並らし、その間に1条10条の凹状文を2帯有す。 受部内外面ヨコナゲ。	外 内 灰青色 淡灰青 色	微砂粒を含む	良	
			S K14				
三十六							

遺物番号 出典番号	標 本 出 上 地 点	(cm) 口徑 法 高	形 態 ・ 調 整 等 の 特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
271	小型素	口径 10.4	体部から鋸く屈曲し、上外方へ長く直線的に伸びる口縫部に至る。端部は鋸く尖る。体部は欠損。 口縫部外延脛底の為不明瞭（ヘラミガキと思われる）。内面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ナデ。	淡茶褐色	細砂粒を含む	良	
三十六	SK14						
272	平底鉢	底径 9.5	平坦で大きな平底の底部から屈曲し、上外方に直線的に伸びる体部に至る。底部に方形の固定痕が認められる。上部は欠損。 体部外面中位横ナタキ、下位ハラ削り、内面中位ナデ、下位ヨコナデ、底部ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	微砂粒を少 量含む	良	輪式粘土器
三十六	SK14						
273	高 环	口径 13.5 器高 10.2 底径 8.9	橢形の环部から鋸く直立氣味に立つ口縫部に至る。端部は長い中空の柱状部から外反する短い環部に至り、柱状部は外傾する平滑な面をもつ。环部と柱状部間に接合痕がある。 口縫部外延ヨコナデ、内面ヨコナデ後縫文、环部外延ハケナナデ（9本）後ヨコナデ、内面ナデ後縫文、柱状部外延ヘラナデ、内面しばり目、脚部外延ヘラナデ、内面ハケナナデ、指ナデ。	外 茶褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を少 量含む	良	
三十六	SK14						
274	肩 上	口径 12.1 器高 10.5 底径 8.2	273とはほぼ同様。 口縫部内外面ヨコナデ、环部外延ハケナナデ、内面ナデ後縫文、柱状部外延ヘラ削り、脚部外延ヘラナデ、内面指屈痕後ハケナナデ。	外 乳灰茶色 内 乳水茶色	5mm以下の 砂糖粒を少 量含む	良	完形 黒腹有
三十六	SK14						
275	肩 上	口径 12.8 器高 10.5 底径 8.1	273とはほぼ同様。 脚部は丸い。 口縫部内外面剥離の為不明、环部外延ハケナナデ（8本）、内面剥離の為不明、柱状部外延ヘラ削り、内面くりぬき、脚部内外面剥離の為不明。	淡茶褐色	7mm以下の 砂糖粒を含む	良	
三十六	SK14						
276	肩 上	口径 12.6 器高 11.3 底径 8.5	273とはほぼ同様。 口縫部端部はやや水平な面をもつ。 口縫部外延ヨコナデ後ハケナナデ、内面ヨコナデ、柱状部外延ハケナナデ（8本）、内面ナデ後縫文、柱状部外延ヘラナデ、内面くりぬき、脚部外延剥離の為不明、内面指屈痕後ハケナナデ。	淡乳茶色	細砂粒を含む	良好	
三十七	SK14						
277	肩 ヒ	口径 14.0 器高 12.2 底径 9.0	273とはほぼ同様。 口縫部外延ヨコナデ、环部外延ハケナナデ、内面ヨコナデ、ナデ、柱状部外延ヘラ削り、内面くりぬき、脚部外面ナナデ、内面ハケナナデ後縫痕。	外 淡茶褐色 内 乳灰茶色	細砂粒を少 量含む	良	
三十七	SK14						

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量	底径 高さ	形態・調査等の特徴	色調	繪土	焼成	備考
278	高井	口径 13.6 基高 10.5 底径 9.5		273とはほぼ同様。 柱状部中段はややふくらむ。 口縁部外側ヨコナダ。环部外面中性指輪痕 後ナダ、下段へ前ナダ、内面ナダ、柱状部外 面ヘラナダ、内面しづり目、脚部内外面ナダ。	外 淡茶褐色 内 乳白色	微砂粒を少 量含む	良	
三十七	S K14							
279	14 上	底径 8.5		下外力へ伸びる柱状部から緩やかに屈曲し て外下方へ底曲する傾部に主る。傾曲 部は丸い。环部は欠損。 柱状部外面ヘラナダ、内面くりぬき、脚部 外面ヘラナダ、内面地ナダ。	外 淡茶褐色 内 乳白色	微砂粒を少 量含む	良	
	S K14							
280	同上	底径 9.0		279とはほぼ同様。 傾曲部は外傾する面をもつ。环部は欠損。 柱状部外面ヘラナダ、内面しづり目、脚部 外面ヘラナダ、内面ハケナダ。	外 乳白色 内 乳茶色	3mm以下の 砂礫粒を含 む	良	
	S K14							
281	同上	底径 8.4		279とはほぼ同様。 傾曲部上位二方に円孔を有す。 柱状部外側ヘラナダ、内面しづり目後ヘラ 前ナダ、脚部外面ヘラナダ、内面指輪ナダ。	淡茶赤色	微砂粒を少 量含む	良好	
	S K14							
282	同上	底径 8.8		279とはほぼ同様。 柱状部下位三方に円孔を有す。 柱状部外側ヘラナダ前後ハケナダ、内面ヘラナ ダ、脚部内外面ナダ。	外 淡乳灰 内 勃起色 淡茶褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	S K14							
283	同上	底径 9.2		279とはほぼ同様。 柱状部下位二方に円孔を有す。 柱状部上位ハケナダ、下段ヘラナダ、内面 しづり目、脚部内外面ナダ。	外 淡茶灰 内 淡茶褐色	砂礫粒を少 量含む	良	
	S K14							
284	變	口径 17.5		体部から丸く屈曲し、上外方へ外反して伸 びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部は 欠損。 口縁部の外側ヨコナダ、体部内外面指輪の 跡不明。	淡茶灰色	3mm以下の 砂礫粒を含 む	良	
	S K14							
285	同上	口径 20.0		体部から屈曲し、斜上方に伸びる口縁部に 至り、中ほどで肥厚する。端部は内傾し凹面 をもつ。端部内面に接合痕を有す。体部は欠 損。 口縁部の外側ヨコナダ、体部内外面ナダ。	淡茶灰色	微砂粒を多 量に含む	良	
	S K14							

遺物番号 器皿名	器種 出土地点	(cm) 口径 法身 高さ	形態・創製 等 の 特徴	色 調	胎 土	施成	備 考
286	櫻	口径 20.5  SK14	体部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部はわずかに内傾し凹面をもつ。全体は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ナゲ。	淡茶褐色	無砂粒を含む	良	
287	同 上	口径 18.0 高さ 31.8	横円形の体部から丸く屈曲し、上外方へ外傾して伸びる口縁部に至る。端部は平坦な面をもつ。底部は丸底。 口縁部外面ヨコナギ、体部外面ヘラナギ、内面ヘラ削り、底部内面指痕。	外 乳褐色 内 灰色	細砂粒を多量に含む	良	
三十七	SK14	口径 18.6 高さ 29.5	横円形の体部から丸く屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸底。体部外面上位に焼成後の穿孔を複数有す。体部内面に4ヶ所接合痕を有す。 口縁部外面ヨコナギ、内面ハケナギ後ヨコナギ、体部外面ヘラナギハケナギ(9本)、内面ナギ、接合痕上指痕痕、底部内面指痕。	外 乳灰色 内 淡茶褐色	4mm以下の 砂礫粒を多量に含む	良	
288	同 上	口径 18.6 高さ 29.5	横円形の体部から丸く屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸底。体部外面上位に焼成後の穿孔を複数有す。 口縁部外面ヨコナギ、内面ハケナギ後ヨコナギ、体部外面ヘラナギハケナギ(9本)、内面ナギ、接合痕上指痕痕、底部内面指痕。	外 乳灰色 内 淡茶褐色	4mm以下の 砂礫粒を多量に含む	良	
三十七	SK14	口径 22.9	平底な环状部から屈曲し、斜上方へ長く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。全体は欠損。 环状部外面ヨコナギ、内面剥離の跡不明。	乳白色	微砂粒を多量に含む	良	黒斑有
289	高 环	口径 18.6	平底な环状部から屈曲し、斜上方へ長く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。全体は欠損。 环状部外面ヨコナギ、内面剥離の跡不明。	乳白色	微砂粒を多量に含む	良	
落ち込み 4	櫻	口径 18.6	扁平な半球形と思われる体部から屈曲し、斜上方へ内側気味に伸びる口縁部に至る。端部には丸底気味。体部外面上位に1帯1条の浅吹きを有す。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ハケナギ(4~8本)、内面ヘラ削り。	外 暗茶褐色 内 淡灰褐色	5mm以下の 砂礫粒を含む	良	
290	櫻 (須恵器)	口径 11.6 高さ 4.6 横径 11.2 天井部高 2.8	丸い天井部から丸く外反して続いた様に至り、下外方に下る口縁部に至る。端部は内傾し、凹面をもち外側で接地する。 口縁部外面ヨコナギ、天井部外表面回転ヘラ削り、内面回転ナギ。	外 暗茶褐色 内 淡灰褐色	粗砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 左方向
三十八	落ち込み 5	口径 12.8 高さ 4.8 横径 13.1 天井部高 2.6	丸味をもつ天井部から穂の痕跡有りと思われる縁を生じ、下外方に下る口縁部に至る。端部は内傾し、凹面をもち外側で接地する。 口縁部内外面回転ナギ、天井部外表面回転ヘラ削り、内面回転ナギ。	青灰色	微砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 左方向
291	同 上	口径 12.8 高さ 4.8 横径 13.1 天井部高 2.6	丸味をもつ天井部から穂の痕跡有りと思われる縁を生じ、下外方に下る口縁部に至る。端部は内傾し、凹面をもち外側で接地する。 口縁部外面ヨコナギ、天井部外表面回転ヘラ削り、内面回転ナギ。	青灰色	微砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 左方向
三十八	落ち込み 5	口径 13.0	丸味をもつ天井部から穂の痕跡有りと思われる縁を生じ、下外方に下る口縁部に至る。端部は内傾し、凹面をもち外側で接地する。天井部外表面回転ヘラ削り、内面回転ナギ。	淡青灰色	微砂粒を少 量含む	良	ロクロ 左方向
293	同 上	口径 13.0	丸味をもつ天井部から穂の痕跡有りと思われる縁を生じ、下外方に下る口縁部に至る。端部は内傾し、凹面をもち外側で接地する。天井部外表面回転ヘラ削り、内面回転ナギ。	淡青灰色	微砂粒を少 量含む	良	ロクロ 左方向
落ち込み 5							

遺物番号 内版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
294	耳型 (須恵器)	口径 11.2 器高 10.7	純い縁から垂直気味に下る口縁部に至る。 端部は内傾し凹面をもち外側で接地する。天井部は欠損。 口縁部内外面回転ナダ。	外 淡灰褐色 内 淡白灰青色	粗砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 底がぶり
	落ち込み 5						
295	耳身 (須恵器)	口径 10.6 器高 4.6 立ち上り高 2.0 受部径 12.7 底体部高 2.7	平坦に近い底体部から斜上方へ外反して伸びる受部に至る。受部は外上方し、立ち上りは内傾して伸びた後直立し、端部は丸い。 口縁部内外面回転ナダ、底体部外面汚面転ヘラ削り、内面不定方向ナダ。	外 淡茶灰色 内 淡茶色	粗砂粒を含む	良	ロクロ 未方向
三十八	落ち込み 5						
296	同 上	口径 9.6 器高 4.6 立ち上り高 1.7 受部径 12.7 底体部高 3.0	丸味をもつ底体部から斜上方へ外反して伸びる受部に至る。受部は水平気味で、立ち上りは内傾して伸び、端部はやや内傾し凹面をもつ。 底体部外表面回転ヘラ削り、内面回転ナダ、立ち上り外表面回転ナダ。	淡灰褐色	粗砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 右方向
三十八	落ち込み 5						
297	同 上	口径 12.0 器高 5.1 立ち上り高 1.7 受部径 14.4 底体部高 3.6	平坦気味で凹凸のある内面の底体部から外反して伸びる受部に至る。受部は水平方向に伸び、立ち上りは内傾して伸び、端部は内傾し凹面をもつ。 底体部外表面回転ヘラ削り、内面回転ナダ、立ち上り外表面回転ナダ。	外 淡灰褐色 内 淡灰青色	粗砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 左方向
三十八	落ち込み 5						
298	同 上	口径 11.4 器高 5.2 立ち上り高 1.7 受部径 13.5 底体部高 3.6	丸味をもつ底体部から外上方へ外反して伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、上面に凹面を有す。立ち上りは内傾して伸び、端部は強く尖る。 底体部外表面回転ヘラ削り、内面回転ナダ、底体部内面汚面転ヘラ削り、内面不定方向ナダ、立ち上り内外面回転ナダ。	淡灰青色	7mm以下の 砂礫粒を含む	良好	ロクロ 左方向
三十八	落ち込み 5						
299	同 上	口径 11.0 器高 5.2 立ち上り高 1.7 受部径 13.5 底体部高 3.6	丸味をもつ底体部から外反して伸びる受部に至る。受部は外上方に伸び、立ち上りは内傾して伸び、端部は内傾し凹面をもつ。 底体部外表面回転ヘラ削り、内面回転ナダ、底体部内面汚面転ヘラ削り、立ち上り内外面回転ナダ。	淡灰青色	粗砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 左方向
三十八	落ち込み 5						
300	同 上	口径 14.0 器高 5.6 立ち上り高 2.2 受部径 16.4 底体部高 3.4	丸味をもち凹凸のある内面の底体部から外反して伸びる受部に至る。受部は水平方向に伸び、立ち上りは内傾して伸び、端部は肥厚気味に丸い。 底体部外表面回転ヘラ削り、内面回転ナダ、立ち上り内外面回転ナダ。	素灰褐色	粗砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 左方向 ヘラ削り有
三十八	落ち込み 5						
301	楕円錐 (須恵器)	口径 12.0	上方外へ緩やかに内傾して純い縁に至り、縁は短く水平方向に伸びる。立ち上りは直上して端部附近で外反し、端部は丸い。縁と沈縁の間に上帯と染の波状文を有す。底部は欠損。 内外面回転ナダ。	灰褐色	粗砂粒を少 量含む	良	ロクロ 一部 底かぶり
三十八	落ち込み 5						

通物番号 内版番号	出土地点	種類 (cm) 口径 法量 厚さ	形態・開閉等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
302	壺 (須恵器) 落ち込み 5	口径 14.2	口縁部は外反して伸び、壺部は外に肥厚し、外端面に緩やかな凸面をもつ。外側中位に 1 寸 1 緒の液状文を有す。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	淡灰青色	5mm以下の 砂礫粒を含む	良	ロクロ
303	同上	口径 18.0	口縁部は斜上方へ外反して伸び、壺部は上方に肥厚し、外端面は凸面をもち、下方に 1 寸の凸縁を造らす。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	乳白色	微砂粒を少 量含む	やや 不良	ロクロ
304	壺	口径 20.4	口縁部は斜上方へ外反気味に大きく開き、壺部は内締し両面をもつ。体部は欠損。 口縁部外側ハケナデ(9本)後ヨコナデ、内面ヨコナデ。	外 内 黒灰 淡灰褐色	微砂粒を含む	良	焼付着
三十九	落ち込み 5						
305	同上	口径 14.3 基高 26.7	球形の体部から丸く屈曲し、上方へ外反して伸びて後後に立ち上る口縁部に至る。壺部は内締し平坦な面をもつ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ。体部外側ハケナデ(3本)、内側ヘラ削り。	外 内 淡乳灰 淡乳灰色	4mm以下の 砂礫粒を含む	良	黒斑有
三十九	落ち込み 5						
306	同上	口径 17.8	横円形の体部から屈曲し、上方に外反した後わざかに扁屈して外反する口縁部に至る。壺部は丸い。腹部から体部上位の内面にかけて 5 本所擦各綱を有す。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側ナデ、内面上位ナデ、下位ヘラナデ。	乳灰褐色	4mm以下の 砂礫粒を含む	良	
三十九	落ち込み 5						
307	壺	口径 10.8 基高 5.6	扁平な半球形の体部からそのまま内側して伸びる口縁部となる。壺部は内締し両面をもつ。底部は丸底。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り、壺部外側ハケナデ(10本)、内面上位ヘラ削り、下位ナデ。	外 内 系褐色 淡乳灰色	4mm以下の 砂礫粒を少 量含む	良	
三十九	落ち込み 5						
308	同上	口径 11.0	扁平な半球形と思われる体部から丸く屈曲し、近く上方に伸びる口縁部に至る。壺部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、壺部外側ナデ、内面ヨコナデ。	淡茶黄色	微砂粒を少 量含む	良	
	落ち込み 5						
309	器台	口径 9.4	扁形の受部をもち、壺部は内方へ肥厚気味に丸い。壺部は欠損。 受部外側ヘラミガキ、一部ナデ、内面ヨコナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	落ち込み 5						

遺物番号 図版番号	出土地点	種類 (cm) 口径 法量 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
310	高環	口径 13.8	浅い环部をもち、口縁部は外方に伸び、端部は外に平坦な面をもつ。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、环部内外面ヨコナゲ・ナゲ。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	微砂粒を含む	良	
	落ち込み 5						
311	同上	口径 15.8	浅い椭形の环部から、そのまま内側して伸びる口縁部に至る。端部は平坦な面をもつ。脚部は欠損。 环部外面上位ヨコナゲ、下位ハケナゲ、内面磨滅の為不明。	淡茶褐色	粗砂粒を含む	良	黒斑有
	落ち込み 5						
312	同上	口径 12.6	橢形の环部から直上する口縁部に至る。端部は凹面をもつ。 环部内外面磨滅の為不明。	外 淡茶褐色 内 茶褐色	微砂粒を含む	良	
	落ち込み 5						
313	同上	口径 14.4	浅い椭形の环部から内側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 环部内外面磨滅の為不明。	外 乳灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を含む	良	
	落ち込み 5						
314	同上	口径 14.2	橢形の环部から内側して伸びる口縁部に至り、端部は内傾する面をもつ。脚部は欠損。 口縁部外面上位ヨコナゲ、下位ハケナゲ、内面上位ヘラミガキ、下位ナゲ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	黒斑有
	落ち込み 5						
315	同上	口径 15.2	环底部が突出する椭形の环部から内側して伸びる口縁部に至る。端部は平坦な面をもつ。脚部は欠損。 口縁部外面ヨコナゲ、内面暗文・ハケナゲ、环部内外面ナゲ。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	微砂粒を少量含む	良	
	落ち込み 5						
316	同上	口径 17.8	平底を环底部をもつ浅い橢形の环底部から緩やかに屈曲し、そのまま長く斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 环部内外面ヨコナゲ、环部外面ナゲ後ハケナゲ、内面ヨコナゲ・ナゲ。	外 乳灰褐色 内 淡茶褐色	粗砂粒を少量含む	良	
	落ち込み 5						
317	同上	口径 17.2	平底を环底部をもつ浅い橢形の环底部から緩やかに屈曲し、そのまま長く斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸く尖る。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、环部外面ナゲ後ハケナゲ、内面ヨコナゲ・ナゲ。	茶褐色	3mm以下の砂粒を含む	良	
	落ち込み 5						

遺物番号 部類番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・測量等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
318	高 环	底径 9.6	長く外方に伸びる柱状部から屈曲し、大きく外下方に外反して伸びる長い颈部に生る。瓶端部は外傾し凹面をもつ。柱状部下位二方に円孔を有す。环部は欠損。 柱状部外面ヘラナゲ、内面上位しづり目、下位くりぬき、颈部内面ハケナゲ。	淡茶褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	落ち込み 5						
319	同 上	底径 7.8	318とはほぼ同様で、やや小型。 瓶端部は丸い。环部は欠損。 柱状部外面ヘラ削り後ナゲ、上位一部ハケナゲ、内面上位しづり目、颈部外面ナゲ、内面ハケナゲ。	乳淡茶褐色	微砂粒を含む	良	
	落ち込み 5						
320	同 上	底径 11.6	318とはほぼ同様。 瓶端部は外傾する面をもつ。柱状部下位二方に円孔を有す。环部は欠損。 柱状部外面ヘラナゲ、内面上位しづり目、下位指痕跡、颈部外面ナゲ、内面ハケナゲ。	外 淡灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を含む	良	
	落ち込み 5						
321	同 上	底径 8.5	平坦な环底部から屈曲し、緩やかに内側する楕円形の颈部と思われる。口端部は欠損。颈部は直線的に下外方する柱状部により、斜下方に内側側時に伸びた後近く水平方向する瓶底部に至る。瓶端部は外傾する平らな面をもつ。颈部中位一方に円孔を有す。柱状部と环部の境に1条の沈縫を認める。 柱部外面ハケナゲ(6本)後ヨコナゲ、内面ヨコナゲ後ハケナゲ・縫文、柱状部前面ヘラナゲ、内面上位しづり目・ヘラ削り、颈部前面ヘラナゲ、下位一部ヨコナゲ、内面ハケナゲ・ナゲ・指痕跡。	乳茶褐色	1cmの礫と 微砂粒を含む	良	
	落ち込み 5						
322	甌	口径 11.7	上内方へ瘤やかに内側して伸びる瘤のない体部から屈曲し、斜上方に外反して伸びる口端部に生る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口端部・体部外面タタキ(3本)、内面ハケナゲ(口端部4本、体部6本)。	乳灰褐色	5mm以下の 砂礫粒を含む	良好	底付着
	落ち込み 5						
323	小型甌	口径 11.0	張りのない体部から丸く屈曲し、斜上方に伸びる口端部に生る。颈部は丸い。体部中位以下は欠損。 口端部外面ヨコナゲ、体部外面ハケナゲ(7本)、内面ヘラ削り。	外 淡灰茶 内 淡灰茶	微砂粒を含む	良	
	落ち込み 5						
324	同 上	口径 11.4	張りがなく底上気味に内側して伸びる体部から丸く屈曲し、上外方に伸びる口端部に至る。端部は丸い。体部下段は欠損。 口端部外面ヨコナゲ、体部外面ハケナゲ(8本)、内面ヘラ削り。	黒灰色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良	
	落ち込み 5						

遺物番号 団体番号	出上地點	(cm) 口径 法量 器高	形態・質等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
325	斐	口径 11.2  落ち込み 5	体部から屈曲し、上外方へ内寄気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。口縁部外側中位に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナダ、体部内面ナダ。	暗灰褐色	微砂粒を含む	良	
326	同 上	口径 10.2  落ち込み 5	体部から屈曲し、短く上外方した後直上する口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナダ、体部外面ナダ、内面ナダ・ヘラナダ。	淡茶褐色	微砂粒を少々含む	良	
327	同 上	口径 14.0  落ち込み 5	体部から丸く屈曲し、斜上方へ内寄気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナダ、体部内面ヘリ削り。	外 淡茶褐色 内 淡灰褐色	微砂粒を含む	良	保付番
328	同 上	口径 15.3  落ち込み 5	327とほぼ同様。 体部は欠損。 口縁部外面ヨコナダ、体部内面ナダ。	外 乳灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を含む	良	
329	同 上	口径 18.2  落ち込み 5	体部から屈曲し、短く上外方した後上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナダ、体部内面ナダ。	淡灰褐色	微砂粒を含む	良	保付番
330	同 上	口径 18.6  落ち込み 5	体部から丸く屈曲し、上外方して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。端部内面に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナダ、内面ナダ、体部外面ヘラナダ、内面ナダ・指痕留。	淡灰茶色	砂礫粒を多量に含む	良	
331	同 上	口径 13.5  落ち込み 5	体部から丸く屈曲し、斜上方して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナダ、体部外側ハケナダ(10本)、内面ナダ。	外 淡灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を含む	良	
332	同 上	口径 20.2  落ち込み 5	体部から屈曲して斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外側ヨコナダ、内面ヨコナダ後ハケナダ、ヨコナダ。	淡灰茶色	微砂粒を含む	良	

蟲物番号 同族番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・異常等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
333	甕	口径 15.4	側りのある体部から頸曲し、斜上方に伸びる口縫部に至る。端部は外接する面をもつ。体部は欠損。 口縫部外圓ヨコナデ、体部外圓ハケナデ(6本)、内面刻離の為不明。	茶灰色	微砂粒を多量に含む	良	煤付着
三十九	落ち込み 5						
334	倒上	口径 15.8	体部から丸く膨出し、上外方へ外反気味に伸びる口縫部に至る。端部は外接する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縫部外圓ハケナデ(5本)後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外圓ハケナデ後ヘラナデ、内面ヘラ削り。	乳灰茶色	微砂粒を含む	良	
	落ち込み 5						
335	高坪	口径 17.2	端部は上外方に長く伸びた後そのまま外上方に外反して伸びる口縫部に至る。端部は丸く尖る。46底部・脚部は欠損。 口縫部外圓ヨコナデ、体部外圓ハケナデ後ヘラナデ、内面刻離の為不明。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
	落ち込み 5						
336	甕	口径 14.2	上内方へ緩やかに内傾して伸びる体部から丸く膨出し、上外方に伸びる口縫部に至る。端部は丸く尖る。体部は欠損。 口縫部外圓ヨコナデ、体部外圓ハケナデ、内面ヘラ削り。	淡灰茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
	落ち込み 5						
337	杯 (須恵器)	口径 12.4 器高 4.6 縁径 12.4 天井部高 2.3	丸味をもつ天井部から鈍い棱に至り、下外方に下る口縫部となる。端部は内傾し凹面をもち、外側で接続する。 天井部分回転ヘラ削り、他回転ナデ。	外 淡灰青 内 淡灰色	砂礫粒を少量含む	良好	ロクロ 右方向
	S D17						
338	同上	口径 13.0 器高 4.5 縁径 12.9 天井部高 2.3	上面平坦な天井部から鈍い棱に至り、下外方に下る口縫部となる。端部は内傾し凹面をもち、外側で接続する。棱の下方に沈線を有す。 口縫部内外面回転ナデ、天井部外圓外回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。	淡灰青色	微砂粒を含む	良	ロクロ 右方向
三十九	S D17						
339	同上	口径 14.9 縁径 13.9	平坦に近いと思われる天井部から鈍い棱に至り、下方に沈線を巡らす。口縫部は下外方に下り、端部は内傾し凹面をもち、外側で接続する。天井部は欠損。 天井部外圓外回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他回転ナデ。	乳灰色	微砂粒を少量含む	やや不良	ロクロ 左方向
	S D17						
340	同上	口径 12.8	棱の堅跡有りと思われるところから、下外方に下る口縫部に至り、端部は平頂をもつ。天井部は欠損。 天井部回転ヘラ削り。他回転ナデ。	淡灰色	微砂粒を少量含む	良	ロクロ 左方向
	S D17						

植物番号 同種番号	標 出 土 地 点	(cm) 口徑 法規 器高	形 態 ・ 調 整 等 の 特 徴	色 調	繪 土	地 成	備 考
341	球 茎 (根毛器)	口徑 11.6 器高 11.6	鈍い棱から直面に下る口縁部に至る。端部は内傾し段をもつ。外側で接地する。天井部は欠損。 口縁部内外面回転ナゲ。	外 暗灰色 内 灰青色	微妙粒を少 量含む	良	
	S D17						
342	同 上	口徑 16.0 器高 15.3	平坦に近いと思われる天井部から緩い棱に至り、下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾し段をもつ。外側で接地する。大井部は欠損。 天井部内外面回転ナゲ。	淡灰色	微妙粒を少 量含む	良	ロクロ 右方向
	S D17						
343	球 茎 (根毛器)	口徑 12.2 器高 5.0 立ち上り高 1.8 受部径 13.5 底体部高 5.3	丸味をもつ底体部から内傾して外上方に伸びる受部に至り、端部は円面をもつ。立ち上りは受部から内傾して伸び、端部は内傾し凹面をもつ。 底体部内外面回転ナゲ。	淡灰色	3mm以下の 砂礫粒を含 む	良好	ロクロ 左方向
	S D17						
344	同 上	口徑 11.2 器高 5.2 立ち上り高 1.8 受部径 13.1 底体部高 3.4	丸味をもつ底体部から内傾してやや外上方に伸びる受部に至り、端部は鋸く尖る。立ち上りは内傾して伸び、端部は内傾し凹面をもつ。 底体部内外面回転ナゲ。	青灰色	砂礫粒を含 む	良	ロクロ 左方向 ヘリ認有
三十九	S D17						
345	同 上	口徑 9.9 立ち上り高 1.9 受部径 11.4	底体部から斜上方へ内傾して水平方向気味に伸びる受部に至り、端部は鋸く尖る。立ち上りは上内方に内傾気味に伸び、端部は内傾し段をもつ。 底体部は欠損。	灰青色	微妙粒を少 量含む	良好	ロクロ 左方向
	S D17						
346	同 上	口徑 10.2 立ち上り高 2.1 受部径 12.4	底体部から斜上方へ内傾して外上方に伸びる受部に至り、端部は鋸く尖る。立ち上りは上内方に内傾気味に伸び、端部は内傾し段をもつ。 底体部は欠損。	淡青灰色	微妙粒を少 量含む	良	ロクロ 左方向 外面自然粒 付着。 発成時に口 縁部が受部 に付着。
	S D17						
347	同 上	口徑 10.4 立ち上り高 1.6 受部径 12.5	底体部から上外方へ内傾して水平方向に伸びる受部に至り、端部は丸い。立ち上りは内傾して伸び、端部は内傾する平坦な面をもつ。 底体部は欠損。	青灰色	微妙粒を少 量含む	良好	ロクロ 左方向
	S D17						
348	同 上	口徑 11.0 立ち上り高 1.8 受部径 13.0	底体部から上外方へ内傾して外上方に伸びる受部に至り、端部は鋸く尖る。立ち上りは内傾して伸び、端部は内傾する平坦な面をもつ。 底体部は欠損。	青灰色	微妙粒を含 む	良好	
	S D17						

遺物番号 同版番号	器 種 出 土 地 点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
349	邦 身 (須恵器)	口径 10.4 立ち上り高 1.8 受部径 12.4	底体部から斜上方へ内側し、外上方へ伸びる受部に毛り、端部は丸い。立ち上りは内傾して伸び、端部は平坦な面をもつ。底体部は欠損。 底体部回転ヘラ削り、他回転ナゲ。	淡灰色	微砂粒を少 量含む	良	灰かぶり
	S D17						
350	同 上	口径 10.0 立ち上り高 1.7 受部径 12.5	底体部から斜上方へ内側し、水平方向に伸びる受部に至り、端部は丸い。立ち上りは内傾して伸び、端部は平坦な面をもつ。底体部は欠損。 底体部回転ヘラ削り、他回転ナゲ。	青灰色	砂礫粒を少 量含む	良	ロクロ 左方向
	S D17						
351	小型壺 (須恵器)	口径 7.6 器高 10.3 最大径 9.2	扁平な球形の体部から、肩曲して上外方に伸びる口縁部に至る。口縁部中央に凸窓を1条造らし、端部は丸い。体部上位一方に穿孔を有す。底部は底座。 口縁部内外面回転ナゲ、体部外縁回転ヘラ削り、下位ナゲ、内面回転ナゲ。下位ナゲ。	淡灰色	4mm以下の 砂礫粒を含 む	良	ロクロ 左方向
三十九	S D17						
352	大型器台 (須恵器)	口径 21.4	楕円形の受部をもつと思われる。上外方へ内傾気味に伸びる受部上位から水平に伸びる口縁部に至る。端部は凸面をもつ。受部には凸窓を上位に2条、下位に1条造らし、その間に1条8角の状模文を2番ずつ計4番有す。受部下位以下は欠損。 受部内外面回転ナゲ。	淡灰色	微砂粒を含 む	良好	
	S D17						
353	壺 (須恵器)	口径 19.4	体部から屈曲し、上外方へ長く外反して伸びた後斜上へ短く伸びる口縁部に至る。端部は上方に肥厚し、下方に1条の凸窓を造らす。口縁部上位と下位に1条7条の波状文を1帯ずつ2帯を有す。その間に1条の凸窓を造らす。体部は欠損。 口縁部外面下位一部ヘラナゲ、他外側面回転ナゲ。	淡灰色	微砂粒を含 む	良好	ロクロ 左方向
四十	S D17						
354	鉢	口径 17.4	楕円形と思われる体部から緩やかに屈曲し、短く外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部・体部内外面剥離の為不明。	外 淡茶褐色 内 淡茶褐色	7mm以下の 砂礫粒を含 む	やや 不良	
	S D17						
355	同 上	口径 24.3	上内方へ内傾気味に伸びる体部から屈曲し、短く外方に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部内外面ナゲ。	外 淡茶灰 色 内 淡灰褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	S D17						
356	高 鉢	口径 12.5	平坦に近い球底部から斜上方へ内側して伸びる口部からそのまま直上気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、体部内外面ナゲ。	淡茶褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	S D17						

遺物番号 測定番号	器 出 土 地 点	(cm) 口径 法量	口 径 高	形 態 ・ 開 整 等 の 特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
357	高 环	口径 12.8		橢形の環部からそのまま直上気味に伸びる口縁部に至る。端部は平坦な面をもつ。环底部から凹曲して下外方に伸びる柱状部による。端部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、环部外面ナゲ、内面剥離の為不明。柱状部外面ヘラナゲ、内面しづり目後くりぬき。	外 茶褐色 内 淡灰茶色	3mm以下の 砂粒を含む	良	
四十一	S D17							
358	同 上	口径 15.0		357とはほぼ同様。 脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、环部外面ナゲ後ハケナゲ後暗文。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	微砂粒を含む	良	
四十一	S D17							
359	同 上	口径 13.5		橢形の環部から丸く凹曲し内側して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、环部外面ハケナゲ後ナゲ、内面暗文。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	微砂粒を少 量含む	良	
四十一	S D17							
360	同 上	口径 13.6		357とはほぼ同様。 环底部・脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、环部外面ハケナゲ(6本)後ナゲ、内面暗文。	外 淡茶褐色 内 乳茶褐色	微砂粒を含む	良	
	S D17							
361	同 上	口径 14.0		359とはほぼ同様。 脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、环部外面剥離の為不明、内面ヘラナゲ、ナゲ。	外 淡灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を含む	良	
四十一	S D17							
362	同 上	口径 13.2		357とはほぼ同様。 端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部外面ヨコナゲ、环部外面ナゲ、内面剥離の為不明。	外 淡茶褐色 内 淡灰褐色	微砂粒を少 量含む	良	
四十一	S D17							
363	同 上	口径 15.6		浅い橢形の環部からそのまま上方に伸びる口縁部に至る。端部は純く尖る。 环底部・脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、环部内外面剥離の為不明。	淡茶灰色	微砂粒を少 量含む	良	
	S D17							
364	同 上	口径 13.2		浅い脚部から直上気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。 环底部・脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、环部外面ヘラナゲ後ナゲ、内面ナゲ。	外 黑灰色 内 淡茶灰色	微砂粒を少 量含む	良	黒斑有
	S D17							

通物番号 内版番号	種 出 し 地 点	(cm) 口径 法盤 器高	形 態 ・ 調 整 等 の 特 徴	色 調	耐 土	焼 成	備 考
365	高 井	口径 15.8	363とほぼ同様。 端部は内傾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、环部外面ハケナデ後ナデ、内面剥離の為不明。	外 淡灰褐色 内 淡灰褐色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良	輝付着
	S D17						
366	高 井	口径 22.8	直上気味に伸びる筒形の体部から緩やかに 屈曲し、近く外方に伸びる口縁部に至る。端 部は外傾する平坦な面をもつ。体部中位に半 角形の把手を2箇有す。体部下位は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面剥離の為不明。 体部内外面ハケナデ(6本)。	乳茶色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良	
	S D17						
367	童	口径 12.4	口縁部は斜上方に伸びた後水平に伸びる。 端部は外に面をもち、上下に肥厚する。体部 は欠損。 口縁部内外面ハケナデ後ナデ。	外 淡灰褐色 内 乳灰褐色	細砂粒を含む	良	
	S D17						
368	鉢	口径 10.8	内側して上方に伸びる体部から屈曲し、斜 上方に外反外傾して伸びる口縁部に至る。端部 は強く尖る。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内 面上位指脱離。	外 灰褐色 内 灰色	4mm以下の 砂礫粒を含む	やや 不良	
	S D17						
369	塵	口径 15.4	上内方へ内側して伸びる体部から緩やかに 屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。 端部は強く尖る。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面磨滅の為 不明。内面ヘラ削り。	茶灰色	4mm以下の 砂礫粒を多 量に含む	やや 不良	
	S D17						
370	同 上	口径 16.4	体部から屈曲し、直上する口縁部に至る。 端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ (6本)、内面ナデ。	外 灰茶色 内 茶灰色	粗砂粒を含 む	良	
	S D17						
371	小型塵	口径 11.6	体部から屈曲して、上外方へ内側気味に伸 びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面 をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、 内面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	細砂粒を含 む	良	
	S D17						
372	塵	口径 13.6	口縁部は上外方に伸び、端部は凹面をもつ。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 茶灰色 内 淡茶灰 色	2mm以下の 粗砂粒を含 む	良	
	S D17						

遺物番号 同族番号	種類 出土地点	(cm) 口径 法星 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
373	甕	口径 19.0	内上方へ内側して伸びる部から鋸く屈曲し、斜上方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外周ハケナデ、内面指ナデ、指頭4D。	淡茶灰色	微砂粒を少 量含む	良	
374	筒 上	口径 19.0	体部から鋸く回曲し、上方方に伸びる口縁部に至る。端部は内傾し四面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外周ハケナデ(5本)、内面指ナデ。	外 淡茶灰色 内 淡灰褐色	微砂粒を含 む	良	
375	坪 瓢 (須恵器)	口径 12.4 器高 5.4 發径 12.3 天井部高 3.3 つまみ径 2.8	尖峰をもつ天井部から鋸く継ぎに至り、瓶底に下げる口縁部に至る。端部は内傾し凹凸をもち、外側で接続する。天井部中央に上面凹状のつまみをもつ。 天井部外周ハケナデ、他回転ナデ。	淡灰色	3mm以下の 砂礫粒を含 む	良好	ロクロ 右方向 鉄粉付着
四十	落ち込み10	口径 7.4 器高 9.4 最大径 9.7	扁平な球形の体部から鋸く屈曲し、斜上方へ内側気味に鋸く伸びる口縁部に至る。端部は鋸く丸める。口縁部の上位に波状文1巻(5条)、下位に刻文を有し、その間に凸線1条を巡らし、体部中位一方に穿孔を有す。底部は丸底。 口縁部、体部内外面回転ナデ、底部外周ナデ。	外 淡灰褐色 内 淡灰褐色	3mm以下の 砂礫粒を少 量含む	良好	ロクロ 左方向 ヘラ記号有 自然釉付着
376	小型壺	口径 7.4 器高 9.4 最大径 9.7	扁平な球形の体部から鋸く屈曲し、斜上方へ内側気味に鋸く伸びる口縁部に至る。端部は鋸く丸める。口縁部の上位に波状文1巻(5条)、下位に刻文を有し、その間に凸線1条を巡らし、体部中位一方に穿孔を有す。底部は丸底。 口縁部、体部内外面回転ナデ、底部外周ナデ。	外 淡灰褐色 内 淡灰褐色	3mm以下の 砂礫粒を少 量含む	良好	ロクロ 左方向 ヘラ記号有 自然釉付着
377	甕	口径 12.0	体部から丸く屈曲し、外上方に外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外周底の角不明、内面ナデ。	淡灰色	2mm以下の 粗砂粒を含 む	良	
378	小型壺 (須恵器)	口径 9.0	口縁部は上方に長く外反気味に伸び、端部は丸い。口縁部下位に2本の沈槽を巡らす。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	灰色	1mm以下の 粗砂粒を含 む	良好	ロクロ 自然釉 灰かぶり
379	壺 (須恵器)	口径 15.2	口縁部は上方に長く伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	灰色	細底 3mm以下の 砂礫粒を含 む	良好	ロクロ 自然釉 灰かぶり
380	J.師機	口径 11.9 器高 3.7	斜上方に内側して伸びる部からそのまま上方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外周ヘラミガキ、内面ヨコナデ、体部外周ナデ後指痕、内面ナデ後螺旋状崎文	乳灰褐色	微砂粒を少 量含む	良好	完形
四十一	S E 2						

品目番号 固形物番号	基　地　立	(cm) 口徑 法度 器高	形　態　・　網　盤　等　の　特　徴	色　調	胎　土	燒　成	備　考
381	上脚爪	口徑 18.7 器高 4.0	広い平坦な底部から屈曲し、外方へ外反 気味に立ち上る口縁部に至る。端部は内方へ 肥厚する。底部欠損。 口縁部外面ヒミガキ、内面放射状焼文・ 螺旋状暗文。	外 乳霧灰 内 淡霧灰色	微砂粒を含む	良好	
四十一	S E 2						
382	鉢	口径 26.4	浅い円形と思われる部から上方へ内側 して伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚 し、上に凹面をもつ。底部は欠損。 口縁部・体部外面ナガ、内面ハケナダ。	淡灰褐色	5mm以下の 砂粒を多 量に含む	良好	
四十一	S E 2						
383	甕	口径 14.4	丸味をもつ体部から穂やかに屈曲し、上外 方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸 い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外側ナダ、内 面ヘラナダ。	外 茶褐色 内 乳茶褐色	微砂粒を少 量含む	良好	屋付窯
四十一	S E 2						
384	同 上	口径 15.7	体部から丸く屈曲し、一旦短く斜上方した 後外上方へ内側氣味に伸びる口縁部に至る。 端部は内方へ肥厚する。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナダ、内面ハケナダ、体部 外側ハケナダ(8本)、内面ヘラ削り。	乳茶褐色	微砂粒を少 量含む	良好	
	S E 2						
385	同 上	口径 12.6 器高 13.1	下位に握りをもつ球形の体部から丸く屈曲 して外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。 端部は穂々に肥厚し、端部は外傾し凹面を もつ。底部は丸底。 口縁部外面ハケナダ後ヨコナダ、内面ハケ ナダ(7本)、体部外側ハケナダ(10本)、一部 ヘラ削り、内面上位ヘラ削り、下位ヘラナダ。	外 淡茶灰色 内 淡灰褐色	微砂粒を少 量含む	良好	
四十一	S E 2						
386	同 上	口径 17.0	長削形の体部から屈曲し、外上方へ外反氣 味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ る。底部は欠損。 口縁部外面ナダ、内面ヨコナダ、体部外面 ハケナダ(10本)、内面ヘラ削り後ヘラナダ。	灰褐色	微砂粒を少 量含む	良好	屋付窯
四十一	S E 2						
387	同 上 (須恵器)	口径 21.0	口縁部は上方へ外反して伸び、端部は外 傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面回転ナダ。	灰褐色	微砂粒を少 量含む	良好	
	S E 2						
388	壺 (須恵器) 落ち込み 8	口径 10.0	口縁部は長く上方に伸び、端部は丸い。 下位に 2 本の凹線をもつ。体部は欠損。 口縁部外面回転ナダ。	暗褐色	精良	良好	自然釉付着

遺物番号 団体番号	落出上地点	(cm) 口径 法差 板高	形態・構造等の特徴	色調	胎土	焼成 度	備考
399	タコ巣 (須恵器)		丸味部に半球形の肥厚をもち、円孔(径約1.2cm)を有す。体部は欠損。 外面ナデ、内面同軸ナデ。	外 暗灰色 内 淡灰色	微砂粒を少 量含む	やや 不良	
四十二	落ち込み 8						
390	雙 (須恵器)	口径 19.3	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上下に肥厚して外周部に凸面状をなす。体部は欠損。 口縁部外側面回転ナデ。	外 淡色 内 淡灰色	微砂粒を少 量含む	良好	
	落ち込み 8						
391	上部皿	口径 11.8 盤高 3.3?	丸味をもつと思われる環底部から斜上方へ内壁し、そのまま口縁部に至る。端部は外方に肥厚する。底部は欠損。 口縁部・环部外側面コナリ、口縁部内面ヨコナデ、环部内面ハケナデ後指痕、内面ナデ。	乳灰褐色	微砂粒を少 量含む	良	
四十二	落ち込み 8						
392	同 上	口径 16.2	平坦と思われる広い底部から斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外方に肥厚する。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ後指痕、内面ナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	落ち込み 8						
393	同 上	口径 18.6	口縁部は上外方へ内壁して伸び、端部は内方に肥厚する。底部は欠損。 口縁部外側面ヨコナリ、下位ヘラ削り、内面ヨコナデ後指痕。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	精良 微砂粒を少 量含む	良	
	落ち込み 8						
394	同 上	口径 14.0	平坦な底部から長く上外方に伸びる口縁部に至る。端部は外側へつまむ、底部一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	細砂粒を少 量含む	良	
	落ち込み 8						
395	同 上	口径 15.6	全体的に平滑円形容と思われる深い盤である。 口縁部は上外方へ長く内壁し、端部は丸い。底部は欠損。 体部外面ヘラ削り、内面ヨコナデ・ナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	落ち込み 8						
396	同 上	口径 16.6	平坦な底部から斜上方へ内壁気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は一部欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外側面ヘラ ミガキ、下位ヘラ削り、内面ナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	落ち込み 8						

通物番号 固版番号	出土地点	種類 (cm) 口径 法量 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
397	上岸風	口径 16.4 器高 2.2	396とはほぼ同様。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後壁底状突起。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	精良 微砂粒を少量含む	良	
四十二	落ち込み 8						
398	同上	口径 16.2	396とはほぼ同様。 端部は外につまむ。底部は一部欠損。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ。	外 乳灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
	落ち込み 8						
399	同上	口径 13.3	平坦と思われる底部から上方へ内傾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾し凸面をもつ。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ・指彫痕、内面ナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
	落ち込み 8						
400	同上	口径 16.0	板形の体部から斜上方へ内傾して伸びた後短く直上する口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ。	外 乳灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を含む	良	
	落ち込み 8						
401	同上	口径 14.0	平坦に近いと思われる底部から緩やかに内傾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾し凸面をもつ。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ。	外 乳灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
	落ち込み 8						
402	同上	口径 13.9	口縁部は斜上方に内傾し、端部は外へつまむ。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ。	外 乳灰褐色 内 乳灰褐色	微砂粒を少量含む	良	
	落ち込み 8						
403	同上	口径 14.0	平坦と思われる底部から斜上方へ内傾気味に伸びる口縁部に至る。端部は外につまむ。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ヨコナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
	落ち込み 8						
404	同上	口径 15.8 器高 2.9	平坦な底部から斜上方へ直線的に伸びる口縁部に至る。端部は外につまむ。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ・指彫痕、内面ナデ。	乳茶褐色	精良 微砂粒を少量含む	良	
四十二	落ち込み 8						

遺物番号 出典番号	落出地点	(cm) 口徑 法華基準	形態・構造等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
405	土師皿	口径 17.2	外上方へ縦やかに内彎し、そのまま上方へ器内を減じて内厚気味に強く伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	落ち込み 8						
406	甕 ?	口径 13.8	口縁部は上方方に大きく外反して伸び、端部は肥厚氣味で外傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰茶褐色	3mm以下の 砂礫粒を含 む	良	
	落ち込み 8						
407	甕	口径 14.6	上方へ縦やかに内彎して伸びる体部から丸く内曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は強く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(2本)、内面ナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	落ち込み 8						
408	同 上	口径 12.4	張りのない体部から丸く内曲し、斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は強く尖る。体部は欠損。 口縁部・体部外面ヨコナデ、内面剥離の為不明。	外 茶褐色 内 乳灰褐色	3mm以下の 砂礫粒を含 む	良	
	落ち込み 8						
409	同 上	口径 11.4	直上気味の体部から屈曲し、上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ。	外 磨灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	落ち込み 8						
410	同 上	口径 17.6	扁平な蝶形と思われる体部から丸く内曲し、上方方に伸びる口縁部に至る。端部は外傾し凹面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面剥離の為不明、内面ナデ。	外 茶褐色 内 乳灰褐色	微砂粒を含 む	良	
	落ち込み 8						
411	同 上	口径 15.4	上方へ直線的に伸びる体部から鋭く屈曲し、水平に伸びる口縁部に至る。端部は外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部・体部内外面剥離の為不明。	外 灰褐色 内 乳茶褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	落ち込み 8						
415	甕	口径 14.6	体部から丸く内曲し、上方方に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖り、外に面をもつ。體部内面に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ナデ、指鉛痕。	外 暗茶褐色 内 磨灰黑色	細砂粒を含 む	良	
	河川 3						

遺物番号 出典番号	種 出 土 地 点	(cm) 口径 法量 器品	形態・測定等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
416	高 隅	口径 23.4	端部は長く斜上方に伸びた後、端部付近で短く外反し、端部は外縁の平坦な面をもつ。内縫部・脚部は欠損。 口縁部外面ハケナダ(8本)後縁文、内面上位ハケナダ後ヨコナガ、他ハケナダ後放射状竪文。	外 淡灰茶色 内 淡灰褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	河川 3						
417	裏	口径 13.0	張りのない種やかな体部から丸く屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部下段は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外側タタキ(4本)、内面ナダ。	淡茶灰色	粗砂粒を少 量含む	良好	縫付跡
	河川 3						
418	岡 上	口径 14.5	体部から丸く屈曲し、上外方に外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部内面ヘラナダ。	外 茶赤褐色 内 淡茶灰色	3mm以下の 砂粒を含む	良	
	河川 3						
419	岡 上	口径 17.0	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は外縁の平坦な面をもつ。端部に刻み目を有す。体部は欠損。 口縁部外面ハラスガキ、内面ヨコナダ。	外 乳黄茶 灰褐色 内 乳灰褐色	細砂粒を含 む	良好	
	河川 3						
420	岡 上	口径 14.5	419とはほぼ同様。 端部は外縁に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ。	茶灰色	粗砂粒を含 む	良	
	河川 3						
421	岡 上	口径 15.4	口縁部は外上方に伸び、端部は上につまむ。外而上位に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナダ、内面ハケナダ後ヨコナダ。	灰茶色	1mm以下の 粗砂粒を含 む	良	
	河川 3						
422	岡 上	口径 13.5	体部から屈曲し、上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部内面ヘラ削り。	乳灰茶色	微砂粒を含 む	良	
	河川 3						
423	岡 上	口径 16.4	体部から観る屈曲し、斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。口縁部外面中位に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナダ、内面ハケナダ(6本)後ヨコナダ。体部外側ハナダ。内面ヘラ削り。	乳灰褐色	微砂粒を含 む	良	
	河川 3						

遺物番号 出版番号	種 出土地点	(cm) 口徑 法長 器高	形態・調査等の特徴	色 調	胎 土	状成	備考
424	つまみ付腹 (須恵器)	つまみ径 2.8 つまみ高 1.0	天井部中央に上面凸状のつまみを付す。上面に「北」と墨書き。口縁部は欠損。 天井部外面切転ナゲ、内面ナゲ。	淡灰色	精良 微砂粒を少 量含む	良	
四十三	河川 3						
425	台付杯 (須恵器)	口径 14.0 器高 4.0 高台径 9.4 高台高 0.4	平頭な底部から屈曲し、上外方へ外反気味 に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。高 台は断面方形で、内傾し凹面をもつ。 底部内面不完全向ナゲ、他凹転ナゲ。	灰白色	精良	良	
	河川 3						
426	同 上	口径 16.5 器高 5.9 高台径 11.4 高台高 0.8	口縁部は上外方へ内傾気味に伸びた後、短 く外反し、端部は丸い。高台は断面方形で、 端部は外傾し、凹面をもつ。 内外面回転ナゲ。	外 灰色 内 灰色	精良	良	
	河川 3						
427	甕 (須恵器)	口径 17.0	体部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に 至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。 口縁部内外面回転ナゲ。	淡青灰色	精良	良好	
	河川 3						
428	台付甕 (須恵器)	高台径 8.8 高台高 0.4	平頭と思われる底部から緩やかに屈曲して、 斜上方に伸びる口縁部に至るが、口縁部、底 部は欠損。高台は断面方形で、端部は外に肥 厚し、外端面は凹面をもつ。 体部外側下位回転ヘラ削り、他凹転ナゲ。	青灰色	精良	良好	
	河川 3						
429	甕 (須恵器)	口径 18.2	体部から屈曲し、上外方へ長く外反して伸 びる口縁部に至る。端部は短く直立し、下方 に肥厚し外端面は凸面状を成す。体部は欠損。 口縁部外面回転カキ目、内面回転ナゲ。	淡灰青色	精良	良好	
	河川 3						
430	土師甕		平頭な底部のみ残存。 底部外面に墨書き認められるが、解読不明。 底部外面指痕底、内面ヘラナゲ。	外 茶褐色 内 淡灰褐色	精良	良好	
四十三	河川 3						
431	同 上	口径 12.3	丸味をもつと思われる底部から外上方に伸 びる口縁部に至る。端部は器内を減じて外上 方へつまみ、丸い。底部は一部欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、底部外側ナゲ後指 痕底、内面ヨコナゲ。	淡茶褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	河川 3						

遺物番号 図版番号	出土地点	種類 (cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
432	土師皿 河川3	口径 15.2	底部から上外方へ内側気味に立ち上がる口縁部に至る。端部は外へつまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナゲ。	淡灰茶色	精良	良	
433	湯呑人面土器 河川3		体部外面に墨書き入曲が描かれていると思われる。 内外面ナゲ。	外 淡灰茶色 内 茶灰褐色	微砂粒を少量含む	良好	
四十三	河川3						
434	同上		433と同様。 外面ナゲ、内面ナゲ・ヘラナゲ。	灰茶色	微砂粒を少量含む	良	
四十三	河川3						
435	同上 河川3		433と同様。 内外面ナゲ。	淡茶灰褐色	精良 微砂粒を少量含む	良	
436	甕 河川3	口径 20.6	口縁部は上外方に外反して立ち上がり、端部は水平につまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶灰褐色	微砂粒を少量含む	良	
437	同上 河川3	口径 22.8	張りのない直線的に伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(7本)後ハケナゲ(10本)、内面銀部ハケナゲ、他ナゲ後ヘラ削り。	淡茶色	微砂粒を少量含む	良好	
438	同上 河川3	口径 38.4	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は下方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 地灰褐色 内 淡灰茶色	微砂粒を含む	良	
442	同上 河川1	口径 16.7	体部から軽く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナゲ、体部内面ヘラ削り。	外 灰茶色 内 淡灰褐色	微砂粒を含む	良好	

遺物番号 (国宝番号)	基 土 地 点	種 類	(cm) 口径 法盤 器高	形 態・開 整等の特 徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
443	斐	口徑 15.6		体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる 口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナギ、内面ハケナギ(5本) 後ヨコナギ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	淡茶色	微砂粒を少 量含む	良	煤付着
	河川 1							
444	坪 墓 (須恵器)	口径 14.2 高さ 4.4 縦径 14.2 天井部厚 2.0		上面凹状気味で丸味をもつ天井部から続いた 筋に至り、下外方に下る口縁部に至る。端部 は内傾し段をもち、外側で疊地する。 天井部外回転ヘラ削り、他内外面回転ナギ。	外 灰青色 内 青灰色	4mm以下の 砂礫を含む	良	ロクロ 左方向
	河川 1							
445	坪 釜 (須恵器)	口径 12.6 立ち上がり 高さ 1.7 受底部厚 15.0		丸味をもつと思われる底部から斜上方へ内 傾し、外上方へ伸びる受部に至る。端部は丸 い。立ち上がりは内傾し、底部は丸い。底体 部は一部欠損。 底体部外回転ヘラ削り、他内外面回転ナギ。	青灰色	微砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 左方向
	河川 1							
446	台付鉢 (須恵器)	高台径 9.6		高台は断面方形で、端部は凹面をもつ。口 縁部、体部は欠損。 底部内面ナギ、他内外面回転ナギ。	暗灰色	微砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 左方向
	河川 1							
447	鋸 (須恵器)	最大径 12.9		やや平時に近い丸底から上位に張りをもつ 体部に至る。口縁部は欠損。 体部外面上位回転ナギ、中位回転カキ目、 下位回転ヘラ削り、内面回転ナギ。	暗青灰色	微砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 左方向
	河川 1							
448	斐 (須恵器)	口径 23.0		口縁部は底部に張りをもつと思われる体部 から丸く屈曲し、上外方に外反して伸びる。 端部は下方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部・体部外面ハケナギ後回転ナギ、口 縁部内面回転ナギ、体部内面開心リタタキ。	墨灰色	微砂粒を少 量含む	良好	自然釉付着
	河川 1							
449	岡 上 (須恵器)	口径 25.1		口縁部は斜上方へ大きく外反し、端部は外 傾する平坦な面をもつ。下方に1条の凸線を 造らす。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナギ。	外 暗灰茶 色 内 淡灰茶 色	微砂粒を少 量含む	良	灰かぶり
	河川 1							
450	岡 上 (須恵器)	口径 40.4		口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は 上方に肥厚し、外端面は凸面を成す。口縁部 外面上位に1条、中位に3条の凸線を造らし、 その間と下位に1条8条の波状文を有す。 口縁部内外面回転ナギ。	外 灰紫褐色 内 灰綠茶色	微砂粒を少 量含む	良	自然釉付着
	河川 1							

遺物番号 図版番号	部 出 土 地 点	種 類 (cm)	口径 法盤 高さ 基部	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
451	甕	口径 18.2		口縁部は上方外へ反して伸び、端部は外方に肥厚し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ。	淡灰茶色	細砂粒を含む	良	
	河川 1							
452	同 上	口径 26.4		張りのない上内方へ緩やかに内側して伸びる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾し凹面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ナゲ、内面ヘラナギ。	淡灰褐色	細砂粒を含む	良好	焼付着
	河川 1							
453	透形埴輪			底の先端部のみ残存。 ヘラ先で沈線の模様を施す。 外面ハケナゲ、内面ナゲ、側面ヘラ切り。	淡茶褐色	細砂粒を含む	良好	
四十四	河川 1							
454	同 上			453と同様。 外面ハケナゲ、内面ナゲ、側面ヘラ切り。	淡孔褐色	4mm以下の 砂礫粒を含む	良好	
四十四	河川 1							
455	形象埴輪	タガ 上幅 0.9 下幅 1.0 高さ 1.7		底部の一部残存。下位から 3cm のところに高いタガ状をもち、底端部に半円状のスカシを有す。ヘラ先で沈線の模様を施す。 タガ部ヨコナギ、外面ハケナゲ、ナゲ、内面ナギ。	乳灰黄色	細砂粒を含む	良	
四十四	河川 1							
456	同 上			スカシが認められ、両面にヘラ先で沈線の模様を施す。 内外面ナギ。	乳灰茶色	細砂粒を含む	良	
四十四	河川 1							
457	同 上	タガ 上幅 0.8 下幅 1.6 高さ 0.7		「L」字形に彎がるタガをもち、四角と思われるスカシをもつ。ヘラ先で沈線を施す。 タガ部ヨコナギ、外面ハケナゲ、内面ナゲ、側面ヘラ切り後ナギ。	淡赤茶褐色	8mm~4mm の砂礫粒を含む。細砂 粒を多量に含む	良	
四十四	河川 1							
458	同 上	タガ 上幅 1.1 下幅 2.7 高さ 0.7		家形埴輪と思われる断片の一部と思われる。低いタガをもち、スカシ 2 ヶ所認められる。 内外面ナギ。	淡灰褐色	細砂粒を少 量含む	良	
四十四	河川 1							

遺物番号 回収番号	器種 出土地点	(cm) IT法 直立高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
459	形象埴輪		断片の一部と思われる。 内外面ハケナデ。	淡茶褐色	9mm以下の 砂礫粒を含む	良	
四十四	河川1						
460	頭顔形埴輪	タガ径14.8 上幅 0.6	脣部にタガをもつ。 タガ部ヨコナデ、外腹ハケナデ、腹部内面 ハケによるヨコナデ、施指ナデ。	乳黄茶色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良好	
四十五	河川1						
461	形象埴輪		断片の一部と思われる。ヘラ先で沈線の模様を施す。 内外面ハケナデ。	茶褐色	微砂粒を含む	良好	
四十五	河川1						
462	円筒埴輪	タガ 上幅 1.7 下幅 2.6 高さ 0.9 周径 21.5	タガ断面は台形を成し、側面は凹面である。 器壁は厚い。内面に4ヶ所接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、外腹ヘラナデ、内腹指ナデ、指頭痕。	乳灰黄色	微砂粒を多量に含む	良好	
四十五	河川1						
463	同 上	タガ 上幅 0.8 下幅 2.2 高さ 1.1 底径 19.0	タガ断面は台形を成し、側面はやや凹面をもつ。底部端部は内方に肥厚し、平坦な面をもつ。器壁は厚い。底部端部付近に接合痕を有す。 タガ部上面ヨコナデ、側面ハケナデ後ヨコナデ、外腹ハケナデ(11本)、内腹ヘラナデ後指ナデ。	外 淡茶黃色 内 細黃茶色	6mm以下の 砂礫粒を含む	良好	
四十五	河川1						
464	同 上	底径 19.0	タガ断面は台形を成し、側面は凹面をもつと思われる。底部端部は外傾気味で平坦な面をもつ。器壁は厚く、底部は肥厚氣味である。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、内外面糊ナデ。	赤茶色	5mm以下の 砂礫粒を多量に含む	良好	
四十五	河川1						
465	同 上	タガ 上幅 1.2 下幅 2.0 高さ 0.4	タガ断面は扁んだ台形を成し、側面は平坦な面をもち、低い。器壁は薄い。スカシが認められる。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、内外面ナデ。	淡灰褐色	微砂粒を含む	良	
四十五	河川1						
466	同 上	タガ 上幅 1.1 下幅 2.1 高さ 1.0	タガ断面は台形を成し、側面は凹面をもつ。スカシが認められる。ヘラ先で沈線の模様を施す。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、外腹ハケナデ、内腹ナデ。	淡赤茶褐色	微砂粒を含む	良好	
四十五	河川1						

遺物番号 図版番号	器 出 土 地 点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
467 四十五	円筒埴輪 河川1	タガ 上幅 1.2 下幅 2.0 高さ 0.9	タガ断面は台形を成し、側面は凹面をもつ。 接合痕を有す。 タガ部ヨコナゲ、外面ハケナゲ、内面ナゲ。	淡赤茶褐色	細砂粒を含む	良好	
468 四十五	同 上 河川1	タガ 上幅 1.0 下幅 1.8 高さ 0.9	タガ断面は台形を成し、側面は凹面をもつ。 スカシが認められる。器壁は薄い。 タガ部ヨコナゲ、外面ハケナゲ、内面ナゲ。	外 灰 色 内 茶 灰色	細砂粒を含む	良好	
469 四十五	同 上 河川1	タガ 上幅 1.2 下幅 2.2 高さ 0.7	タガ断面はなんだ台形を成し、側面は凹面をもつ。 接合痕を有す。 タガ部ヨコナゲ、外面ハケナゲ、内面ナゲ。	乳灰褐色	細砂粒を少 量含む	良好	
470 四十五	同 上 河川1	タガ 上幅 0.9 下幅 1.8 高さ 0.8	タガ断面は台形を成し、側面は平坦な面をもつ。 器壁は厚い。 外面ヨコナゲ、内面ナゲ。	乳灰褐色	5mm以下の 砂礫粒を含む	良好	
471 四十六	同 上 河川1	タガ 上幅 1.2 下幅 2.0 高さ 0.8	タガ断面はなんだ台形を成し、側面は凹面をもつ。 タガ部ヨコナゲ、外面ハケナゲ、内面ナゲ。	淡茶色	4mm以下の 砂礫粒を含む	良	
472 四十六	同 上 河川1	タガ 上幅 0.9 下幅 2.7 高さ 0.6	タガ断面は低く、端に広がりをもつ台形を成し、側面は平坦に近い面をもつ。接合痕有す。 タガ部ヨコナゲ、外面ハケナゲ、内面ナゲ。	乳灰褐色	細砂粒を含む	良	
473 四十六	同 上 河川1	タガ 上幅 0.8 下幅 2.2 高さ 0.7	タガ断面は台形を成し、側面は平坦に近い面をもつ。器壁は薄い。 外面ヨコナゲ、内面ナゲ。	乳灰褐色	細砂粒を少 量含む	良	
474 四十六	同 上 河川1	タガ 上幅 1.0 下幅 1.8 高さ 0.6	タガ断面は低く、台形を成し、側面は平坦に近い面をもつ。接合痕有す。 タガ部ヨコナゲ、外面ハケナゲ、内面ナゲ。	淡灰褐色	細砂粒を少 量含む	良	

遺物番号 出発番号	器種 出土地点	(cm) □径 高さ	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
475 四十六	円筒埴輪 河川1	タガ 上幅 1.2 下幅 2.4 高さ 1.0	タガ断面は台形を成し、側面は凹面をもつ。 内外面ヨコナデ。	茶褐色	粗砂粒を少 量含む	良好	
476 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 0.6 下幅 1.3 高さ 0.5	タガ断面は小さく台形を成し、側面は平坦な面をもつ。器壁は薄い。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、内外面ハケナデ。	外 淡茶色 内 淡灰茶 色	粗砂粒を少 量含む	良好	
477 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 1.1 下幅 1.8 高さ 0.9	タガ断面は台形を成し、側面は凹面をもつ。 器壁は薄い。接合痕を有す。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	淡灰茶色	粗砂粒を含 む	良好	
478 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 0.8 下幅 2.0 高さ 0.8	タガ断面は台形を成し、側面は平坦な面をもつ。器壁は薄い。接合痕を有す。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	淡灰褐色	5mm以下の 粗砂粒を少 量含む	良	
479 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 0.9 下幅 2.0 高さ 0.5	タガ断面は丸味をもつ台形を成し、側面はやや凸面をもつ。器壁は薄い。接合痕を有す。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	淡茶褐色	2mm以下の 粗砂粒を少 量含む	良	
480 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 0.6 下幅 1.3 高さ 0.4	タガ断面は低く、直んだ台形を成し、側面は平坦な面をもつ。器壁は薄い。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ。	乳茶褐色	粗砂粒を少 量含む	良	
481 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 1.1 下幅 2.0 高さ 0.5	タガ断面は低く、台形を成し、側面はやや凹面をもつ。器壁は薄い。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ。	淡灰褐色	2mm以下の 粗砂粒を含 む	良	
482 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 1.2 下幅 2.1 高さ 0.4	タガ断面は低く、緩やかな台形を成し、側面は凹面をもつ。器壁は薄い。 外面ヨコナデ、一部ハケナデ、内面ナデ。	淡灰茶色	2mm以下の 粗砂粒を少 量含む	良	

遺物番号 出典番号	出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調査等の特徴	色調	地土	焼成	備考
483	円筒埴輪	タガ 上幅 0.9 下幅 2.1 高さ 1.1	タガ断面は台形を成し、側面は平坦な面をもつ。器壁は薄い。接合痕を有す。 タガ部ヨコナギ、外面ハケナダ、内面ナダ。	乳茶褐色	4mm以下の 細砂粒を多 量に含む	良好	
四十六	河川1						
484	同上	タガ 上幅 0.5 下幅 1.3 高さ 0.5	タガ断面は台形を成し、側面は平坦な面をもつ。器壁は薄い。接合痕を有す。 外面ヨコナギ、内面ナダ。	淡灰褐色	2mm以下の 粗砂粒を含 む	良	
四十六	河川1						
485	同上		タガ断面は非常に低く、並んだ台形を成し、側面は平坦な面をもつ。 外面ヨコナギ、内面ナダ。	乳茶褐色	細砂粒を多 量に含む	良	
四十六	河川1						
486	同上		沿壁は薄く、中央に接合痕を有す。 外面ハケナダ、内面ナダ。	淡灰茶褐色	粗砂粒を含 む	良好	
	河川1						
487	同上		タガ部は欠損。 外面ハケナダ(タテ後ヨコ)、内面ナダ。	乳茶色	微砂粒を少 量含む	良好	
	河川1						
488	同上		器壁は薄い。 外面ハケナダ(タテ後ヨコ)、内面ナダ。	外 茶褐色 内 茶灰色	細砂粒を含 む	良好	
	河川1						
489	同上		器壁は薄い。 外面ハケナダ、内面ナダ。	淡灰褐色	細砂粒を少 量含む	良	
	河川1						
490	同上		タガ部は欠損。タガ部があったと思われる 器壁に接合痕を有す。 外面ハケナダ(タテ後ヨコ)、内面ナダ。	外 茶褐色 内 乳茶黃 色	細砂粒を少 量含む	良	
	河川1						

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 底高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
491 四十六	灯明皿 河川1	口径 9.7 底高 2.4	丸底の底盤から浅く内側して伸びる体部に至り、そのまま斜上方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は純く尖る。 外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	茶灰褐色	3mm以下の 砂粒を含む	良好	黒付着
492 四十六	土師皿 河川1	口径 13.0	平坦に近いと思われる底部から浅く内側して伸びる体部に至り、扁曲し短く外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヨコナデ。	淡灰茶色	微砂粒を少 量含む	良	
493 四十六	同上 河川1	口径 10.2	やや平坦と思われる底部から斜上方から上方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は外側する平坦な面をもつ。底部は欠損。 外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	淡茶灰色	精良 微砂粒を少 量含む	良好	
494 四十六	同上 河川1	口径 11.8 底高 3.6	ほぼ平坦な底部から緩やかに屈曲し、斜上方へ内側気味に伸びる体部に至り、上方方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外面ナデ・指頭痕、内面剥離の為不明。	乳灰褐色	細砂粒を含 む	良	
495 四十七	同上 河川1	口径 15.8	楕円形の体部から短く内側気味に伸びる口縁部に至る。端部は平坦な面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、外面指頭痕、内面ナデ後螺旋状縫合。	外 淡茶色 内 淡灰褐色	精良 微砂粒を少 量含む	良好	
496 四十七	同上 河川1		平坦な底部のみ残存。 底部内面に凹凸を有す。 底部外面ナデ、内面ヨコナデ後螺旋状縫合。	外 乳茶褐色 内 茶褐色	精良 微砂粒を少 量含む	良好	
497 四十六	同上 河川1	口径 13.8	楕円形の体部から中程で肥厚し短く内側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	外 淡灰色 内 黒茶褐色	細砂粒を少 量含む	良	
498 四十六	同上 河川1	口径 13.0	浅く外上方へ内側して伸びる体部から屈曲し、外上方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部は純く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	淡乳灰褐色	細砂粒を含 む	良	

通物番号 団体番号	種 類	(cm) 口径 基高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
499	小型陶	底径 3.2	上げ底の底部から丸く縦曲し、上外方に伸びる口縁部に至り、傾斜をもつ。端部は上面に平坦な面をもつ。 体部外面ヘラナダ後ナダ、内面ヘラナダ、底部内外面ナダ。	淡灰茶色	細良 微砂粒を少 量含む	良	
四十六	河川 1						
500	黑色土器	口径 16.1 基高 5.5 底径 8.6	平坦な底部から上外方へ内側して伸びる口 縁部に至り、端部は内傾し段をもつ。高台は 断面近二角形で、縁部は鈍く来る。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外表面ナダ、内 面ヘラミガキ後暗火、底部外表面ナダ。	外 内 茶褐色 黒色	微砂粒を少 量含む	良	
四十六	河川 1						
501	高台付? (須恵器)	底径 14.0	平底と思われる底部である。高台は方形で、 端部は平坦な面をもつ。高台のみ残存で上部・ 底部は欠損。 外表面粗粒ナダ。	淡灰色	2mm以下の 粗砂粒を含 む	良好	ロクロ 右方向
	河川 1						
502	黒色人面土器		体部外面に凹凸で人面が描かれていると思 われる。 外表面ナダ。	淡灰褐色	細砂粒を少 量含む	良好	
四十七	河川 1						
503	土 管	口径 12.6	体部はやや口縁部が上外方に伸びる長楕円 で、端部は外傾する平坦な面をもつ。 口縁部外表面ヨコナダ、内面ヨコナダ。	淡灰色	微砂粒を少 量含む	良好	
	河川 1						
504	同 上	口径 17.0	長楕円の体部から屈曲して内側して伸びる 口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外表面ヘラナダ、 内面ナダ。	淡灰色	稍良 細砂粒を少 量含む	良	
	河川 1						
505	瓶		牛角状の把手のみ残存。 外表面ナダ。	乳白色	細砂粒を含 む	良	
	河川 1						
506	同 上		牛角状の把手のみ残存。 外表面ナダ。	灰褐色	2mm以下の 砂礫粒を含 む	良好	煤付着
	河川 1						

遺物番号 内版番号	器種 地點	(cm) 口徑 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
507	羽釜 河川1	口径 26.6	縁部は水平気味で、端部は肥厚する。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	茶灰色	微砂粒を少 量含む	良	
508	同上 河川1	口径 28.4	縁部はやや外上方で、端部は丸い。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	灰茶色	微砂粒を少 量含む	良	灰付着
509	鉢? 河川1	口径 30.4?	口縁部は内唇し、縁部は近く直上気味に伸び、肥厚気味で上に平坦な面をもつ。体部は欠損。 縁部内外面ヨコナデ、口縁部外面へラ削り後ナデ、内面ヨコナデ。	淡灰褐色	稍良 微砂粒を少 量含む	良	
514	甕 包含層	口径 13.6	内上方へ直線的に伸びるやや張りをもつ作部から屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。 端部は口につまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面へラ削り。	灰白色	微砂粒を含 む	良好	
515	同上 包含層	口径 15.0	514と同様。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タキ後ハケナデ、内面へラ削り。	灰茶灰色	3mm以下の 砂礫粒を含 む	良	
516	坛蓋 (須恵器)	口径 12.0 器高 4.8 縦径 12.3 天井部高 2.8	丸い天井部から続いた縁に至り、縁から垂直に下る口縁部に至る。端部は内傾し凹面をもち、外側で段階する。 天井部外周部へラ削り、他回転ナデ。	青灰色	粗砂粒を少 量含む	良好 ロクロ 右方向	
四十九	包含層						
517	持身 (須恵器)	口径 10.4 器高 4.7 立ち上がり 高 1.8 受部径 12.4 底体部高 3.2	丸い延体部から外反気味に受部に至る。受部は外上方向へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾して伸び、端部は内傾し斜をもつ。 延体部外周部へラ削り、他回転ナデ。	青灰色	微砂粒を少 量含む	良好	強化灰付着 ロクロ 左方向
四十九	包含層						
518	甕 (須恵器)	口径 23.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上に凹面をもち、外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面回転ナデ。	淡灰色	微砂粒を少 量含む	良	
	包含層						

造物番号 開拓番号	出土地点	(cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
519	被	口径 22.0  包含層	口縁部は上外方へ外反して立ち上がり、縫部は長く垂下し、先端部は丸い。垂下する口縁部と口縁部の間に接合痕を有す。体部は鉢型。 縫部内外面ヨコナゲ、口縁部外面ヘラミガキ、内面ヨコナゲ。	暗灰褐色	微砂粒・細砂粒を多量に含む	良好	
520	小型鉢	口径 8.0 器高 8.7  包含層	球形の形態から屈曲し、上外方に長く伸びる口縁部に至る。縫部は丸い。底面は丸底、口縁部外面ナゲ、内面ヨコナゲ、体部外面ヘラ削り後ナゲ、内面ナゲ。	外 淡褐色 内 淡褐茶色	細砂粒を含む	良好	焼付着
521	鉢 ?	底径 4.3  包含層	上げ縁の底部のみ残存。 外面ナゲ、指痕模、内面ヘラナゲ、底部ナゲ。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	細砂粒を多量に含む	良	
522	坪 盆 (須恵器)	口径 10.1 器高 4.6 縫径 10.3 天井部高 2.5  包含層	丸い天井部から緩い痕跡有りと思われるところを至り、それより垂下する口縁部に至る。縫部は縫をもち、外側で接地する。 天井部回転ヘラ削り、他回転ナゲ。	外 灰褐色 内 青灰色	精良	良好	
523	同 上 (須恵器)	口径 12.0 器高 4.5 縫径 11.9 天井部高 2.5	丸い天井部から緩く下げる痕跡有りと思われるところを至り、それより垂下する口縁部に至る。縫部は外方へ肥厚し、内傾し凹面をもつ。 天井部回転ヘラ削り、他回転ナゲ。	淡灰色	微砂粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向
四十九	包含層						
524	同 上 (須恵器)	口径 13.0 器高 4.1 縫径 12.0 天井部高 1.7  包含層	平坦な天井部から緩く下げる縫跡に至り、それより垂下する口縁部に至る。縫部は丸い。 天井部回転ナギリ?、他回転ナゲ。	淡青色	微砂粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向
525	环 身 (須恵器)	口径 10.0 立ち上がり 高 1.7 受部径 12.2  包含層	底体部から外上方に伸びる受部に至る。縫部は丸い。立ち上がりは内上方に伸び、縫部は内傾し段をもつ。底体部は欠損。 底体部回転ヘラ削り、他回転ナゲ。	青灰色	4mm以下の 砂礫粒を少 量含む	良好	
526	同 上 (須恵器)	口径 10.8 器高 4.5 立ち上がり 高 1.9 受部径 12.8 底体部高 2.2  包含層	平坦な底体部から内傾して水平に伸びる受部に至る。縫部は緩く尖る。立ち上がりは受部から内上方して伸び、縫部は鋭く尖る。 底体部回転ヘラ削り、他回転ナゲ。	外 底青色 内 淡灰青色	微砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 左方向

遺物番号 図版番号	基 础 出 土 地 点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調査等の特徴	色 濃	胎 土	焼成	備 考
527	环身 (須恵器)	口径 11.4 器高 3.7 立ち上がり 高 1.8 受部径 12.8 底体部高 2.0 包含層	平底な底体部から内側して外上方へ伸びる受部に至る。端部は丸い。立ち上がりは受部から内側して伸び、端部は肥厚して内傾し平坦な面をもつ。 底体部外回転へり削り、他回転ナデ。	灰青色	精良 細砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 左方向
528	同 上 (須恵器)	口径 10.7 器高 4.3 立ち上がり 高 1.7 受部径 13.2 底体部高 2.6 包含層	平底に近い底体部から鋸やかに内側して外上方へ伸びる受部に至る。端部は丸い。立ち上がりは受部から内側して伸び、端部は内傾し凹面をもつ。 底体部外回転へり削り、他回転ナデ。	外 淡灰褐色 内 淡灰色	細砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 右方向
529	同 上 (須恵器)	口径 13.0 立ち上がり 高 2.0 受部径 14.3 包含層	底体部から鋸と方に伸びる受部に至る。端部は純く尖がる。立ち上がりは直上して伸び、端部は内傾し凹面をもつ。底体部は欠損。 内外面回転ナデ。	青灰色	精良	良好	ロクロ 右方向
530	同 上 (須恵器)	受部径 14.0 底体部高 3.0 包含層	平底な底体部から内側して水平に伸びる受部に至る。端部は純く尖る。立ち上がりは受部から内傾して伸びると並われるが欠損。 底体部外回転へり削り、他回転ナデ。	灰青色	精良	良好	ロクロ 左方向
531	甕 (須恵器)	口径 26.0 包含層	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は上に肥厚し、外縁面は平底な面をもつ。端部外縁面に1条の心臓を造らす。全体は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	灰白色	精良	不良	
532	甕 ? (須恵器) 排水槽		口縁部は斜上方へ外反して立ち上がり、端部は外方へ肥厚する。全体は欠損。外面にへり先で沈線の模様を残す。 口縁部外表面タキ後回転ナデ、内面回転ナデ。	灰色	精良	良好	ロクロ 左方向
533	尚 不 包含層	口径 15.2	平底な底体部から斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、環部外表面ハケナデ後ナデ、内面ナデ。	赤灰褐色	精良	良好	
534	甕	口径 14.0 包含層	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は器内を底に残す。口縁部外表面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ。	淡灰灰色	細砂粒を含 む	良	

遺物番号 回収番号	種 出土地点	(cm) 口径 法量 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎 土	焼成	備考
535	甕	口径 15.8	体部から丸く膨らみ、上外方へ外反味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、平折る面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	細砂粒を含む	良好	
	包含層						
536	同 上	口径 17.0	体部から細曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ナデ。	茶褐色	細砂粒を含む	良好	
	包含層						
537	土師皿	口径 13.2	浅い瓶形の体部から、上外方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	茶灰色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良好	
	包含層						
538	瓦器瓶	高台径 5.0 高台高 0.4	平坦に近い底部から外上方へ緩やかに内側して伸びる体部となるが、口縁部は欠損。高台は断面逆三角形で、その端部は平坦な面をもつ。 体部外表面粗面、内面ナデ・指頭痕、高台ヨコナデ。	外 淡灰褐色 内 黑褐色	精良	良好	鐵化鉄付帶
	包含層						
539	同 上	高台径 9.0 高台高 0.6	底部に垂直に下る高台は断面逆三角形で、その端部は丸い。体部は欠損。 底部外面ヨコナデ、内面暗文。	外 淡灰褐色 内 黑褐色	精良	良好	
	包含層						
541	甕	口径 21.9	口縁部は緩やかに膨らした後外上方に伸び、端部は上につまむ。外場面に竹竿押文を有す。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ・ハケナデ(10本)、内面ヨコナデ。	外 茶褐色 内 深茶色	細砂粒を含む	良	
	包含層						
542	同 上	口径 15.9	口縁部は外上方へ大きく外反して広がり、端部は外傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハラミガキ。	外 淡灰褐色 内 黑褐色	細砂粒を含む	良	
	包含層						
543	同 上	口径 13.3	瓶形と思われる体部から丸く膨らみ、斜上方へ長く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底面は欠損。 口縁部外面上位ヨコナデ、他ハケナデ(10本)後ハラミガキ、内面上位ヨコナデ、他ハケナデ(7本)後ヨコナデ、体部外表面上面へハラミガキ、他ハケナデ(10本)、内面頸部ナデ、他ヘラ削り。	淡茶色	1cmの砂礫 と微砂粒を含む	良好	
四十九	包含層						

植物番号 固有番号	器 出 土 地 点	種 類 (cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎 土	焼成	備 考
544	亞	口径 16.8  包含層	口縁部は外上方へ反して広がり、端部は外に凸面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面磨滅の為不明。	外 淡灰茶 内 淡茶灰 色	細砂粒を多 量に含む	良	
545	同 上	口径 17.8  包含層	口縁部は外上方へ大きく外反して広がり、端部は外に凸面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、下皮脂膜痕、内面ヨコナデ。	外 乳褐色 内 乳茶灰 色	3mm以下の 砂礫粒を多 量に含む	良	
546	同 上	口径 8.0  包含層	口縁部は外上方へ強く伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 乳褐色 内 淡茶褐色	細砂粒を少 量含む	やや 不良	
547	同 上	最大径12.1 底径 1.2  包含層	小さな突出する平底の底部から、扁平な球形の体部に至る。口縁部は欠損。 体部内外面磨滅の為不明、底部外側へラミガキ。	外 赤茶褐色 内 茶褐色	4mm以下の 砂礫粒を含 む	良	
548	同 上	口径 14.0  包含層	口縁部は外上方に外反して伸びた後立ち上がり、端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。	乳茶褐色	細砂粒を含 む	良	
549	小型鉢  四十九 包含層	口径 8.6 器高 7.6	予期円形の体部から緩やかに屈曲して、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は尖り底。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ、体部外側ハケナデ後ヘラミガキ、内面ヘラナデ後ナデ。	淡茶褐色	鐵砂粒を少 量含む	良	
550	同 上	口径 10.6  包含層	扁平な半球形の体部から緩やかに屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は尖り底。 口縁部外面ヨコナデ後ヘラミガキ、体部外側上部ハケナデ後ヘラミガキ、中位以下ヘラ割り、内面剥離の為不明。	淡茶褐色	精良 細砂粒を少 量含む	良	
551	高 环	口径 24.8  包含層	環部は外上方に伸びた後凹曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至り、端部附近で内側する。端部は内傾する平坦な面をもつ。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、環部外側ハケナデ後ヘラミガキ、内面上部皮脂膜痕、脚ヘラミガキ。	素灰褐色	3mm以下の 砂礫粒を少 量含む	良好	

植物番号 固有番号	出土地点 種	(cm) 口径 法量 筋高	形態・調整等の特徴	色調	施土	施肥	備考
552	土縫	径 3.4 長さ 6.4 孔径 1.5	管状形。 外曲ナデ。	暗茶灰色	微砂粒を含む	良	
四十九	包含層						
553	梗	口径 12.2	体部から強く屈曲し、斜上方に伸びる口縫部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 淡灰褐色 内 暗茶灰褐色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良	黒縦有
	包含層						
554	同上	口径 14.4	上方へ緩やかに内彎して伸びる体部から強く屈曲し、外上方に伸びる口縫部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 淡灰褐色 内 茶灰色	細砂粒を多量に含む	良	
	包含層						
555	同上	口径 15.4	体部から屈曲し、上方方に伸びる口縫部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面倒黒の為不明。	茶褐色	細砂粒を含む	良	
	包含層						
556	同上	口径 14.0	体部から強く屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ナデ、指頭痕。	外 茶褐色 内 茶灰色	3mm以下の 砂礫粒を含む	やや 不良	
	包含層						
557	同上	口径 22.0	上方に内彎して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縫部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 黄灰褐色 内 黄灰褐色	3mm以下の 砂礫粒を含む	やや 不良	
	包含層						
558	同上	口径 18.0	上方へ内彎して伸びる体部から丸く屈曲し、斜上方へ内彎気味に伸びる口縫部に至る。端部は丸い。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面倒黒の為不明、内面ナデ、指頭痕。	外 淡灰褐色 内 乳灰茶色	微砂粒を含む	良	
	包含層						
559	同上	口径 17.2	体部から屈曲し、上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。頸部内面に接合痕を有す。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ。	茶褐色	細砂粒を少 量含む	良	
	包含層						

遺物番号 測定番号	器 出 土 地 点	(cm) 口径 法 量 高 さ	形 態 ・ 調 整 等 の 特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
560	裏	口径 16.4	上内方へ内側して伸びる体部から屈曲し、上方へ外縁気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ヘラナダ。	外 暗茶褐色 内 黒赤褐色	1mm以下の 粗砂粒を含む	良好	
561	同 上	口径 16.8	上内方へ横やかに内側して伸びる体部から丸く屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。窓部内面に接合痕を有す。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ、指擦痕。	外 基底色 内 淡茶褐色	2mm以下の 粗砂粒を含む	良好	
562	同 上	口径 17.0	上内方へ内側して伸びる体部から丸く屈曲し、上方へ外反気味に広がる口縁部に至る。窓部は外傾する平坦な面をもつ。体部内面上面に接合痕を有す。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面剥離の為不明。	外 暗褐色 内 淡茶褐色	5mm以下の 砂礫粒を含む	良	
563	同 上	口径 13.7	体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削り。	淡灰色	4mm以下の 砂礫粒を含む	良	
564	同 上	口径 16.8	体部から屈曲し、上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上方に膨らむ。窓部内面に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良	
565	同 上	口径 15.4	体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(9本)、内面ヘラ削り。	乳灰褐色	4mm以下の 砂礫粒を含む	良好	
566	同 上	口径 16.9	体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は肥厚する。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(9本)、内面ヘラ削り。	灰褐色	粗砂粒を含む	良	
567	同 上	口径 14.6	上内方する張りのない体部から鈍く屈曲し、短く水平方向に伸びる口縁部に至る。端部は外に平坦な面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部内外面剥離の為不明(内面はハケナデと思われる。)	茶褐色	微砂粒を含む	良	
	包含層						

遺物番号 採取番号	器 出 土 地 点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎 土	機收	備考
568	甕	口径 16.2	蝶形と思われる体部から屈曲し、長く上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。肩部内面に接合痕を有す。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(6本)、内面ヘラ削り、下位一部指痕痕。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	3mm以下の 砂粒を含む	良	
	包含層						
569	同 上	口径 14.6	体部からやや観る屈曲し、上外方に内側して伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(5本)、内面ヘラ削り。	乳灰褐色	細砂粒を含む	良好	
	包含層						
570	同 上	口径 12.6	上外方に内側して伸びる体部から屈曲し、上外方に内側する凹面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(9本)、上位一部に膨脹者す、内面ヘラ削り。	外 乳褐色 内 赤褐色	細砂粒を含む	良	
	包含層						
571	同 上	口径 14.0	上外方に内側して伸びる体部から丸く屈曲し、上外方に内側する凹面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(5本)、内面ヘラ削り。	外 淡灰褐色 内 乳灰褐色	細砂粒を含む	良好	
	包含層						
572	甕 ?	底径 3.7	底部は突出気味のくぼみ底。 体部は欠損。 体部外面タッキ?、内面ヘラナデ?、底部外面ナデ、内面ヘラナデ?。	外 淡灰茶色 内 増灰褐色	細砂粒を含む	良	
	包含層						
573	甕 ?	底径 3.1	底部は突出気味の半底。 体部は欠損。 体部外面タッキ、内面ヘラナデ、下位指痕痕、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	乳灰褐色	細砂粒を含む	良	斑斑有
	包含層						
574	同 上	底径 5.6	突出気味のくぼみ底の底部から、半球形と思われる体部に至る。上部は欠損。 体部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	外 暗茶褐色 内 暗灰茶褐色	粗良 細砂粒を少 量含む	良好	
	包含層						
575	同 上	底径 3.8	大きく突出する半底の底部から、半球形と思われる体部に至る。内面上位に接合痕を有す。上部は欠損。 体部外面タッキ(5本)、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	外 晴茶褐色 内 乳茶褐色	細砂粒を含む	良	斑斑有
	包含層						

遺物番号 区分番号	出 土 地 点	種 類	(cm) 11種 法量 器高	形 態・ 調 整 等 の 特 徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
576	鉢 ?	底径	4.2	底部は突出するくぼみ底。 体部は欠損。 体部外面ナデ、内面ヘラミガキ。底部外面ナデ、内面ヘラミガキ。	外 淡茶褐色 内 乳茶褐色	精良 颗粒物を少 量含む	良好	
577	同 上	底径	4.5	底部は突出しない平底。 体部は欠損。 体部外面磨滅の為不明、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	淡茶色	細砂粒を含 む	良	
578	同 上	底径	4.8	底部は突出気味の平底。 体部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	外 淡茶褐色 内 暗赤茶褐色	砂礫粒を少 量含む	良	
579	甕 ?	底径	3.9	底部は突出気味のやくぼみ底。 体部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	外 淡赤茶褐色 内 淡茶色	4mm以下の 砂礫粒を含 む	良	
580	同 上	底径	4.6	底部は突出気味のくぼみ底。 体部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面指頭痕。	外 淡赤茶褐色 内 淡灰褐色	細砂粒を多 量に含む	良	
581	同 上	底径	3.6	底部は突出する平底。 体部は欠損。 体部外面指ナデ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	淡赤茶褐色	3mm以下の 砂礫粒を含 む	良	
582	同 上	底径	3.1	底部は突出する平底。 体部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	茶褐色	3mm以下の 砂礫粒を含 む	良好	
583	同 上	底径	3.4	底部は突出する平底。 体部は欠損。 体部外面ヘラナデ、内面ナデ、底部内外漏ナデ。	外 淡茶褐色 内 黑褐色	6mm以下の 砂礫粒を含 む	やや 不良	

遺物番号 測量番号	形 種 出 土 地 点	(cm) 口 深 法量 器名	形 種・調 整 等 の 特 徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
584	甕 ?	底径 3.6	底部は突出する平底。体部は欠損。 体部外面指痕有、内面磨滅の為不明、底部外側ナダ、内曲面滅の為不明。	外 茶灰褐色 内 淡茶褐色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良	
	包含層						
585	同 上	底径 4.4	底部は突出する上げ底。体部は欠損。 体部外側ナダ、内面ヘラナダ、底部外側ナダ、内面ヘラナダ。	外 淡茶褐色 内 茶灰褐色	粗砂粒を含む	良	黒斑有
	包含層						
586	同 上	底径 3.5	底部は突出気味のややくぼみ底。体部は欠損。 体部外側タタキ、内面ヘラナダ、底部外側面ヘラナダ。	淡茶褐色	粗砂粒を少 量含む	良	
	包含層						
587	同 上	底径 5.6	底部は突出するくぼみ底。体部は欠損。 体部外側タタキ(3本)、内面ナダ、底部内 外側ナダ。	外 灰褐色 内 淡茶褐色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良好	
	包含層						
588	球 壺 (須恵器)	口径 12.7 基径 12.7	短く突いた脚から壺底に下る口縁部に至り、 壺部は平坦な面をもつ。大井部は欠損。 内外面回転ナダ。	外 暗灰色 内 灰青色	3mm以下の 砂礫粒を少 量含む	良好	
	包含層						
589	同 上	口径 12.0 基高 3.8? 壁径 11.6 天井部高 1.8	丸味をもつ天井部から鋸い縁に至り、縁の 下方に沈線が落ちる。口縁部は縁から下外方へ 下り、肩部はやや凹凸をもつ。 天井部外回転ヘラ削り、他回転ナダ。	外 暗灰色 内 淡茶褐色	粗砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 右方向 自然釉付着
	包含層						
590	同 上	口径 13.2 基高 4.6 壁径 12.6 天井部高 2.0	丸味をもつ天井部から短く鋸い縁に至り、 縁の下方に沈線が落ちる。口縁部は下外方へ下 り、肩部は平坦な面をもつ。 天井部外回転ヘラ削り、他回転ナダ。	外 淡茶褐色 内 孔灰青 色	粗良 粗砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 右方向 底かぶり
	包含層						
591	球 壺 (須恵器)	口径 10.9 立ち上がり 高 1.9 受部径 7.3	底作部から内側して、外上方に伸びる受部 に至り、壺部は鋸い。立ち上がりは受部から 内側して伸び。壺部は平坦な面をもつ。底作 部は欠損。 底作部分回転ヘラ削り、他回転ナダ。	灰青色	粗良 粗砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 左方向
	包含層						

遺物番号 国際番号	出土地点	(cm) 口径 法算 筋高	形態・調査等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
592	高 壁 (須恵器)	底径 8.6	口縁部は外方へ外反して伸び、端部付近で凸縮を這らし、端部は垂直に下り伸びる。長方形のスカラシを有す。環部は欠損。 脚部内外面凹凸ナデ。	淡灰白色	精良	良好	
593	壺 (須恵器)	口径 16.0	口縁部は上外方へ大きく外反して広がり、端部は斜上方にのみ、外に凹面をもつ。口縁部中位に凸縮を這らし、その上に1帯(12条~15条)、下に1帯(15条)の2帯の波状文を有す。体部は欠損。 口縁部内外面凹凸ナデ。	外 淡灰青 内 灰色	精良 粗砂粒を少 量含む	良好	
594	台付鉢? (須恵器)	底径 5.8	平出な底部から屈曲し上外方に伸びる体部に至る。上部は欠損。高台は断面方形で、端部は外に肥厚し、凹面をもつ。 体部外面下位・底部周縁へり削り、他凹凸 ナデ。	外 淡灰青 内 灰青色	2mm以下の 粗砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 右方向
595	壺	口径 13.4	口縁部は上外方へ内側気味に立ち上がる。 端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、端部外面に一部ハケ ナデ、内面ヨコナデ。	外 淡灰褐色 内 淡茶灰 褐色	微砂粒を含 む	良好	
596	同 上	口径 15.6	体部から丸く屈曲し、上外方へ内側気味に立ち上がる口縁部に至る。端部は外方に肥厚し、内傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 淡茶灰 褐色	微砂粒を含 む	良好	
597	同 上	口径 15.6	体部からやや鋭く屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は内傾し凹面をもつ。口縁部は中位で肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	微砂粒を含 む	良好	黒斑有
598	同 上	口径 16.0	上内方に内側して伸びる体部から屈曲し、上外方に内側して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ハケナ デ(9本)。	外 淡灰褐色 内 淡茶灰 褐色	微砂粒を含 む	良	
599	同 上	口径 23.6	体部から丸く屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナ デ(10本)、内面ナナヘ一部ハケナデ。	乳茶灰色	2mm以下の 粗砂粒・長 石・石英等 を含む	良好	

遺物番号 試験番号	出土地点	種類 (cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
600	高环	口径 12.9	椭形の环部から上外方へ内側に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。环底部・脚部は欠損。 环部外面ヨコナゲ、内面上位ナゲ後ハケナデ、下位ナゲ。	外 淡赤茶色 内 乳赤茶色	精良 細砂粒を少量含む	良	
	包含層						
601	同上	口径 11.9	椭形の环部から斜上方へ内側気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。环底部・脚部は欠損。 环部外面ヘラミガキ後ヘラナゲ、内面ヘラミガキ。	外 赤茶褐色 内 淡赤茶褐色	精良 細砂粒を少量含む	良好	
	包含層						
602	同上	口径 10.4	椭形の环部から直にする口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。环底部・脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、环部外面磨滅の為不明、内面ヨコナゲ。	淡赤茶褐色	細砂粒を含む	良	
	包含層						
603	同上	口径 12.9	602とはほぼ同様。 环底部・脚部は欠損。 环部外面磨滅の為不明、内面ヨコナゲ。	淡赤茶褐色	細砂粒を少量含む	良	
	包含層						
604	同上	底径 8.4	脚部は中空の柱部から屈曲し、外下方に外反して伸びる部に至る。端部は丸い。环部は欠損。 脚部外面ヘラナゲ、内面上位くりぬき、下位指痕痕・ナゲ。	淡灰灰色	細砂粒を少量含む	良好	
	包含層						
605	同上	底径 8.7	脚部は中空の柱部から屈曲し、外下方へ外反気味に聞く部に至る。端部は外傾し凸面をもつ。柱部下位の三方に円孔をもつ。环部は欠損。 脚部外面磨滅の為不明、内面上位しづり目、下位指痕痕・ナゲ。	外 淡赤茶褐色 内 淡赤茶褐色	細砂粒を少量含む	良	
	包含層						
606	瓶	口径 20.8	口縁部は外反気味に直して立ち上がった後端部付近で短く外上方する。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 端部内外面ヨコナゲ、口縁部内外面ハケナデ?。	淡赤茶褐色	細砂粒を含む	良	
	包含層						
607	土師瓶	口径 9.0 器高 3.7	椭形の部から上外方へ内側気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 环部外面磨滅の為不明、内面上位ヨコナゲ、下位等々。	外 淡灰茶色 内 赤茶褐色	精良	良好	
	包含層						

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 器高	形態・開口部の特徴	色調	胎土	焼成 度	備考
608	土師皿	口径 13.2 器高 3.5  包含層	楕円形と思われる体部から、上方外へ伸びる口縁部に至る。端部は外につまむ。底延部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ナゲ、内面ヨコナギ。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	微砂粒を含む	良	
609	同上	口径 13.4 器高 3.5  包含層	平坦な底延部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外反し、丸い。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ナゲ、指頭痕、内面ナゲ。	赤褐色	微砂粒を少 量含む	良好	
610	同上	口径 14.2  包含層	外上方へ直線的に伸びる体部から、穂やかに上方外へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面ナゲ、指頭痕、内面ナゲ。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	5mm以下の 砂礫粒を含む	良	
611	土師皿	口径 16.0  包含層	平坦な底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。底部は欠損。 口縁部・体部内外面ヨコナギ。	外 茶褐色 内 乳灰褐色	稍良	良	
612	土師皿	口径 15.8  包含層	611とほぼ同様。 端部は外につまみ面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部内外面ナゲ、指頭痕。	外 淡茶褐色 内 淡灰褐色	稍良	良好	
613	黒色土器	高台径 7.6 高台高 0.9  包含層	高台は断面三角形で、端部は丸い。体部は欠損。 底部外面ナゲ、内面ヘリミガキ。高台部はヨコナギ。	外 乳灰茶色 内 淡灰褐色	微砂粒を少 量含む	良	
621	壺	口径 14.0  包含層	口縁部は上方へ無く伸び、端部は純く尖る。頭部外面に凸巻を巡らし、刻み目を有す。体部は欠損。 口縁部内外面ナゲ。	淡茶褐色	5mm以下の 砂礫粒を含む	良	
622	陶瓶器	口径 9.5 底径 2.6  包含層	丸味をもつ底部から、外上方へ穂やかに内彎して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。内外面同軸ナゲ。	淡灰褐色	稍良	良好	内面に輪廓 す

遺物番号 団体番号	器 出 土 地 点	種 類 (cm) 口径 法量 器高	形 態 ・ 調 整 等 の 特 徴	色 調	胎 土	焼 成	措 考
623	形象埴輪		ヘラ先で沈線の模様を施す。 外面ハケナデ、内面ナデ。	灰褐色	4mm以下の 砂礫粒を含む	良	
	包含層						
624	同 上		ヘラ先で沈線の模様を施す。 内外面ハケナデ。	乳茶灰色	細砂粒を含む	良	
五十一	包含層						
625	円筒埴輪	タガ 上幅 1.3 下幅 2.7 高さ 1.3	タガ断面は並んだ台形を成し、側面は凹面 もつ。器壁は薄い。接合部を有す。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ。	乳黃灰色	細砂粒を多 量に含む	良	
	包含層						
626	同 上	タガ 上幅 0.8 下幅 1.9 高さ 0.5	タガ断面は並んだ台形を成し、低く、側面 は平坦な面をもつ。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ハケ ナデ後ナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少 量含む	良	
	包含層						
631	ミニチュア の壺	底径 3.8	球形の体部から緩やかに屈曲し口縁部に至る。口縁部は欠損。体部内面に3ヶ所接合 痕を有す。底部は突出しない平底。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面上位一部 ヘラミガキ、他ナデ、内面ナデ。	外 淡茶灰 色 内 灰灰色	8mm以下の 砂礫粒を含む	良	内面に蝶付 のものが付 着
五十二	包含層						
632	同 上	口径 6.9 器高 7.1 底径 3.9	球形の体部から緩やかに屈曲して直上角峰 に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。近部は 突出しない平底。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面上タキ、内面 ナデ。	暗茶灰色	4mm以下の 砂礫粒を含む	良	
	包含層						
633	壺	口径 12.0	体部から屈曲し、上方方に伸びる口縁部に 至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヘラ ミガキ、体部外面上ミガキ、ナデ、内面ナ デ。	外 淡灰 色 内 灰褐色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良	
	上層包含層						
634	小型鉢？	底径 3.2	底部は突出しない平底。体部は欠損。 底部内外面剥離の為不明。	外 茶 色 内 灰 色	5mm以下の 砂礫粒を含む	良	
	包含層						

遺物番号 同様番号	出 土 点	(cm) 口径 口径 器高 底径	形態・調査等の特徴	色 質	胎 土	燒成	備 考
635	鉢	口径 13.6 器高 6.5 底径 7.9	半球形の体部から緩やかに内側して伸び、そのまま口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は突出異形の平底。 体部内外面ヘラミガキ?、底部外面ナゲ、内面ヘラミガキ?。	外 淡灰茶 内 茶灰茶	4mm以下の 砂礫粒を多 量に含む	良好	
五十二	包含層						
636	台付鉢	口径 16.1 器高 8.9 底径 5.4	半球形の体部から直上して立ち上がる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は突出する上げ底。 体部、底部内外面ナゲ。	茶灰色	8mm以下の 砂礫粒を含 む	良	
五十二	包含層						
637	鉢	口径 11.8 器高 10.3 底径 3.4	半球円形の体部から屈曲し、斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部外側上位に粘土の補強痕を見る。体部外面中位に1ヶ所、腹部内側に1ヶ所接合痕を有す。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外側タタキ(3本)、内面ヘラナダ。底部ナゲ。外面ナゲ、内面ヘラナダ。	茶灰色	4mm以下の 砂礫粒を含 む	良	
五十二	包含層						
638	同 上	口径 12.7	張りのない直上気味に内側して伸びる体部から弧曲し、斜上方で伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部外側タタキ、内面ヨコナダ、体部外 面タタキ、内面ナゲ。	暗茶灰褐色	細砂粒を含 む	良	
	包含層						
639	甕	口径 14.8	体部から緩く屈曲し、斜上方に伸びる体部から弧曲し、大きく外上方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部内外面ナゲ。	外 淡褐色 内 淡灰茶 色	細砂粒を含 む	良	
	包含層						
640	同 上	口径 15.8	七方に緩やかに内側して伸びる体部から弧曲し、大きく外上方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部内側上位に2ヶ所接合痕を有す。 口縁部外側ヨコナダ後タタキ、内面ヨコナ ダ、体部外側ハケナダ後ヘラナダ、内面ハケ ナダ。	茶色	4mm以下の 砂礫粒を多 量に含む	良	
	包含層						
641	同 上	口径 12.2	球形と思われる体部から丸く屈曲し、外上方へ反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。肩部内面に2ヶ所接合痕を有す。 口縁部外側ヨコナダ、内面ハケナダ、体部 外側剥離の為不明、内面ナゲ。	外 淡茶灰 内 淡茶灰 色	細砂粒を多 量に含む	やや 良	
	包含層						
642	同 上	口径 18.0	体部から屈曲して斜上方に外反して伸びる 口縁部に至る。端部は外傾して凹面をもつ。 腹部内面に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外側タタキ、 内面ヘラナダ。	外 茶褐色 内 茶灰茶	3mm以下の 砂礫粒を含 む	良	
	包含層						

動物番号 国際番号	器上 地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	熟成	備 考
643	裏	口径 13.2  包含層	上内方へ緩やかに内彎して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縫部に至る。端部は外側する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ。	外 淡茶灰 色 内 乳灰褐色	砂糖粒を多 量に含む	良	
644	同 上	底径 4.4  包含層	突出気味のくぼみ底の底部から、下位に張りをもつ体部に至ると思われる。体部は欠損。 体部外面タタキ(3本)、下位指節板、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	茶褐色	細砂粒・微 砂粒を含む	良好	
645	同 上	底径 4.4  包含層	底部は突出気味のくぼみ底。体部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	外 淡茶灰 色 内 黑褐色	細砂粒を多 量に含む	良	黒斑有
646	同 上	底径 4.6  包含層	底部は突出気味のくぼみ底。体部は欠損。 底部内外面ナデ。	外 淡茶灰 色 内 黑褐色	砂糖粒を含 む	良	
647	同 上	口径 13.0  包含層	体部から鋭く屈曲し、斜上方へ伸びる口縫部に至る。口縫部は中位で肥厚し、端部も内方へ肥厚する。体部は欠損。 口縫部外面ハケナデ(8本)後ヨコナデ、内面ハケナデ(6本)、体部外面ハケナデ(8本)、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	細砂粒を少 量含む	良	僅付着
648	底 盤 (須恵器)	口径 10.8 器高 4.0 腰径 10.4 天井部高 1.7  包含層	丸い天井部から鋭い壁に至り、下外方へ下る口縫部に至る。端部は内傾し凹面をもち、外側で接続する。 内外面回転ナデ。	外 灰色 内 灰青色	3mm以下の 砂糖粒を含 む	良好	
649	底 盤 (須恵器)	口径 12.0 腰径 11.6	鋭い壁から下外方へ下る口縫部に至る。端部は外方へ肥厚し、内傾して凹面をもち、外側で接続する。 天井部回転ヘラ削り、他内外面回転ナデ。	外 灰色 内 灰白色	細砂粒を少 量含む	良好	ロクロ 右方向 灰かぶり
650	同 上	口径 13.2 器高 4.1? 腰径 12.5 天井部高 1.7?  包含層	平坦に近い天井部から鋭い壁に至り、下外方へ下る口縫部に至る。口縫部は下位で肥厚し、端部は内傾し平坦な面をもち、外側で接続する。 天井部回転ヘラ削り、他内外面回転ナデ。	淡灰色	細砂粒を含 む	良好	ロクロ 右方向 灰かぶり

遺物番号 内数番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
651  包含層	环 壁 (須恵器)	口径 13.3 高さ 5.0? 横径 13.4 大井部高 2.6?	丸い大井部から続いた縫に至り、縫底に下る 口縫部に至る。端部は外方に肥厚し、内側し 平縫全面をもち、外側で接地する。 大井部周縫へラ削り、他内外面回転ナダ。	淡灰青色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良	
652  包含層	同 上	口径 15.0 横径 13.8	650とほぼ同様。 大井部回転へラ削り、他内外面回転ナダ。	外 淡灰青 内 淡灰色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良好	ロクロ 右方向
653  包含層	同 上	口径 15.8 横径 15.0	長い縫から下外方へ内縫氣味に下る口縫部 に至る。端部は内側し凹面をもち、外側で接 地する。天井部は欠損。 大井部回転へラ削り、他内外面回転ナダ。	暗灰色	細砂粒を少 量含む	良好	
654  包含層	环 身 (須恵器)	口径 10.4 立ち上がり 高 2.1 受部径 12.6	底体部から外上方に伸びる受部に至る。端 部は鋸く尖る。立ち上がりは内側して伸び、 端部は内側し段をもつ。底体部は欠損。 底体部回転へラ削り、他内外面回転ナダ。	外 暗灰色 内 淡青色	細砂粒を少 量含む	良好	
655  包含層	無蓋壺 (須恵器)	口径 14.2	楕円形の环部から、茎肉をやや減じて斜上方 に外反気味に伸びる口縫部に至る。端部は丸 い。环部外面中央に1帯(5条)の波状文を有 し、その上に凸筋を1条這わす。脚部は欠損。 内外面回転ナダ。	外 内 暗灰色 淡灰青 色	3mm以下の 砂礫粒を含む	良好	
656  包含層	有蓋高环 (須恵器)	受部径 13.6	半坦に近い环底部から緩やかに内縮して、 水平方向に伸びる受部に至る。端部は丸い。 立ち上がり、脚部は欠損。 环底部周縫へラ削り、他内外面回転ナダ。	灰色	2mm以下の 粗砂粒を含む	良	ロクロ 右方向
657  包含層	壺 (須恵器)	口径 15.4	口縫部は上外刃へ強く外反して立ち上がり、 端部は鋸く尖り下方に凸筋を巡らす。体部は 欠損。 口縫部内外面回転ナダ。	淡灰色	5mm以下の 砂礫粒を含む	良	
658  包含層	瓶 (須恵器)	口径 18.2 容高 2.2?	広く平坦と思われる底部から斜上方へ伸び る口縫部に至る。端部は平坦な面をもつ。 底部外面ナダ、角内外面回転ナダ。	外 乳白色 内 黒褐色	精良	良好	

造物番号 同種番号	出上地 点	(cm) 口径 法量 深さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
659	前田形埴輪		前頭型埴輪の頭部の一部。タガ断面は丸味をもつ台形で底盤は厚い。 外面ココナデ、内面ナデ。	淡茶灰色	粗砂粒を多量に含む	良	
	包含層						
660	同上		659とはほぼ同様。 外面ココナデ、内面ナデ。	乳褐色	3mm以下の 粗砂粒を含む	良好	
	包含層						
661	円筒埴輪	タガ 上幅 0.7 下幅 1.3 高さ 0.9	タガ断面は台形を成し、側面は凹面である。 接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ。	乳灰褐色	微砂粒を含む	良好	
	包含層						
662	同上		器壁はやや薄い。 内外面ハケナデ。	淡赤褐色	2mm以下の 粗砂粒を少量含む	良	
	包含層						

瓦の観察表

通物番号 国鉄番号	出上地點	(cm) 口徑 法蓋 標高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
413	平瓦	厚さ 2.0	狭端部面は凹面側に斜方向へのヘラ削りを行なう。粘土板を2枚1組による成形。 凹面布目、凸面純目。	外 面 底色 乳灰褐色	精良 少量の細砂粒(長石・雲母・石英他)を含む	良	
四十二	落ち込み8						
414	同上	厚さ 2.0	端部面は直角に切る。 凹面布目、凸面純目後板ナゲ。	外 面 底色 淡灰色	精良 わざかに石英・長石他 の細砂粒を含む	良好 堅密	
四十二	落ち込み8						
510	同上	厚さ 2.5	広端部面は直角、狭端部面は斜方向に切り取る。 凹面布目、凸面純目叩き口後端縁に板ナゲ、狭端縁に指彫痕。	凹面 底色 灰褐色 凸面 底色 乳灰褐色 底 面 底色 灰褐色	精良 わざかに石英・長石他 の細砂粒を含む	良好 堅密	
四十七	河川1						
511	同上	厚さ 2.5	広端部面は直角に切る。 凹面布目、凸面純目。	凹面 底色 灰褐色 凸面 底色 黑灰褐色 底 面 底色 淡灰色	粗砂粒を含む(長石・石英・チャート他)	良好 堅密	
四十七	河川1						
512	同上	厚さ 1.8	広狭端部面は直角に切り、狭端部面の凹面側は斜方向に切り取る。 凹面布目、凸面純目。	凹面 底色 茶色 凸面 底色 灰褐色 底 面 底色 淡灰色	少量の砂粒 を含む(長石・石英他)	良好 堅密	
四十八	河川1						
513	同上	厚さ 2.0	狭端部面は直角に切った後、両面側に斜方向の切り取りを行なう。 凹面布目、凸面純目。	凹面 底色 灰褐色 凸面 底色 灰褐色 底 面 底色 淡灰色	8mm以下の 砂礫を少 量含む(長 石他)	良好 堅密	
四十八	河川1						
540	同上	厚さ 2.7	腹部中央のみの瓦片で、広端部の両側中央を削り破り向みを施している。 凹面布目、凸面純目。	両面 底 面 底色 灰褐色	少量の細砂 粒を含む(長 石他)	良好 堅密	
四十九	包含層						
514	同上	厚さ 2.0	腹部のみの破片である。 凹面布目、凸面板ナゲ。	両面 底 面 底色 淡灰色	少量の微砂 粒を含む	良好	
五十	包含層						

遺物番号 現版番号	出土地 種類	(cm) 口径 法量 高さ	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
615	平瓦	厚さ 1.8	頂部中央のみの破片である。 凹面布目、凸面ナゲ。	外 淡白色 内 白灰色	精良	良	
五十	包含層						
616	同上	厚さ 1.7	広端部は直角に切った後、凸面側を斜方向の切り取りを行なう。 凹面布目、凸面綾目。	凹面 断 斜 灰青色	微砂粒を含む	良好 堅緻	
	包含層						
617	丸瓦	厚さ 1.7	広端端面は直角に切り取る。 凹面布目、凸面ナゲ。	凹面 从褐色 凸面 斜 茶灰色	少量の細砂粒を含む	良	
	包含層						
618	平瓦	厚さ 2.0	頂部中央のみの破片である。 凹面布目、凸面綾目。	凹面 断 斜 乳灰色	多量の細砂粒を含む (石英・長石他)	良	
五十	包含層						
619	同上	厚さ 1.8	広端部は直角に切り、凸面側をやや斜方向の切り取りを行なう。 凹面布目、凸面綾目。	凹面 断 斜 乳灰色	多量の細砂粒を含む (石英・長石他)	良	
	包含層						
620	同上	厚さ 2.0	狭端部は直角に切る。 凹面布目、凸面綾目。	凹面 内面 斜 暗灰色 断 斜 黑色	砂礫粒を含む (長石・石英他)	良好	
五十一	包含層						
630	同上	厚さ 2.1	広端端部は直角に切り、広端部の凸面側を斜方向の切り取りを行なう。 凹面布目、凸面綾目。	凹面 凸面 断 漆黒灰色	細砂粒を含む (長石・石英他)	良好	
五十一	包含層						

## 第6章 土器胎土中の砂礫観察

### 第1節 はじめに

土器の表面に見られる砂礫種を裸眼と実体鏡（倍率30倍）によって観察した。表面に見られる砂礫の観察数量をなるべく多くするため、残存片の全体を観察するように心がけ、偶然性をなるべく除去するようにした。例えば、羽曳野丘陵の砂礫層中や石川の川原砂中に結晶片岩粒が認められるが、量的には極めて少量である。紀ノ川の川原砂中には比較的多く含まれる。量的には雲泥の差である。土器全体を裸眼で観察すれば數十個以上認められても、1cmぐらいでは全く認められない場合が多くある。土器中の砂礫の採取地を推定する上で、土器全体に1個ぐらいしか結晶片岩粒が認められなくて、結晶片岩分布域で採取された砂礫とは言いがたいが、數十個含まれていれば、結晶片岩分布域で採取された砂礫と言えるであろう。

観察した試料は土器の移動量の基礎となるため、一個体と確認できるもののみである。

観察した岩石種は、花崗岩・閃綠岩・斑鷹岩・流紋岩・砂岩・チャート・ホルソフェルス・結晶片岩・蛇紋岩・珪岩・火山ガラスで、鉱物種は、石英・長石・雲母・角閃石・輝石・滑石である。花崗岩片としたものには、石英・長石・石英・雲母・長石・雲母がかみ合った粒も含めた。閃綠岩としたものは、石英・角閃石・長石・角閃石・雲母・角閃石の粒がかみ合ったものである。斑鷹岩は、角閃石・長石・輝石の粒がかみ合ったものである。角閃石・長石のかみ合った粒では、量的に角閃石が長石よりも多い場合を斑鷹岩とした。鉱物粒の外形から、結晶面がある又は自形である場合は鉱物の含まれる原岩が火山岩と推定され、他形であれば原岩が深成岩と推定されるため、鉱物片については結晶面の有無について注意した。

### 第2節 類型区分

土器胎土中に含まれる砂礫種構成と砂礫種の特徴から、7類型に区分される。

I類型：結晶面が認められない角閃石が多く含まれ、碎屑岩類が含まれない。

Ia類型：花崗岩片・石英粒が裸眼で認められない。

Ib類型：花崗岩片・石英粒が裸眼で認められる。

II類型：結晶面が認められる又は自形である角閃石が含まれる。

IIa類型：結晶面が認められる又は自形である石英・石英と柱状の角閃石とがかみ合った粒が含まれる。

IIb類型：結晶面が認められる又は自形である石英・石英と柱状の角閃石とがかみ合った粒・砂屑岩片が含まれない。

Ⅱc類型：流紋岩片・屑碎岩片が含まれる（Ⅱa類型の条件も含まれる場合がある）。

Ⅱd類型：結晶面が認められる又は自形である輝石が認められる。

Ⅱe類型：結晶片岩が含まれる。

Ⅲ類型：結晶片岩が比較的多く含まれる。

Ⅳ類型：発掘地遺構面の砂礫種構成と砂礫種の特徴が一致又は酷似する。

Ⅴ類型：砂岩片・チャート片が比較的多く含まれる。

Ⅵ類型：Ⅰ類型～Ⅴ類型のいずれの区分にも属さない。

不能：観察砂礫が細粒である又は量が少なくて類型区分が不能。

以上のように区分した。

### 第3節 類型の特徴

各類型の砂礫種とその特徴について述べる。

Ⅰa類型：構成砂礫種は岩石片として、花崗岩・閃綠岩・斑柄岩、鉱物片として石英・長石・黒雲母・角閃石である。花崗岩が含まれる試料はわずかである。色は灰白色で、粒径が1mm～3mmで、粒形が角礫である。量はごくわずかである。造岩鉱物は石英・長石からなる。

閃綠岩が含まれる試料はわずかである。色は灰白色で、粒径が1mm～3mmで、粒形が角礫、量はごくわずかである。造岩鉱物は石英・角閃石・長石からなる。

斑柄岩が含まれる試料はごくわずかである。色は暗灰色～黒色で、粒形が角礫、粒径が1mm～4mmである。量はごくわずかである。造岩鉱物は角閃石・長石からなり長石がわずかである。

石英は無色透明で多くの試料に実体鏡下で認められる。粒形は角礫で、粒径は粗粒～細粒である。量はごくわずかの場合から多い場合まである。長石は白色で、ほとんど全ての試料に含まれる。粒形は角礫で、粒径は細粒～3mmである。量はごくわずかの場合から多い場合まである。黒雲母はほとんど全ての試料に量的には大差があるが認められる。色は黒色・金色で、粒形が粒状・板状である。黒色の場合は粒状の場合が多い。粒径は2mm以下で、量が多い場合からごくわずかの場合まである。角閃石は全ての試料に認められる。色は黒色・黒褐色で、粒形は角礫である。粒径は細粒～3mmで、量は多い場合と非常に多い場合とがある。

Ⅰb類型：Ⅰa類型に似るが、花崗岩・石英が量的に多い。石英は裸眼で認められ、粒径は細粒～2mmで、量がごくわずかの場合から多い場合まである。

Ⅱa類型：構成砂礫種は岩石片として、花崗岩・閃綠岩・火山ガラス、鉱物片として、石英・長石・黒雲母・角閃石である。花崗岩は多くの試料に認められる。色は灰白色で、粒形は角礫である。粒径は1mm～4mmで、量がごくわずか～わずかである。造岩鉱物は石英・長石である。閃綠岩は全ての試料に含まれる。色は灰白・暗灰色である。細粒～2mmで、量がごくわずか

～わずかである。造岩鉱物は石英・角閃石・長石である。角閃石は柱状・柱状自形である。火山ガラスはわずかの試料に実体鏡下で認められる。色は無色透明で、粒形は貝殻状である。粒径は細粒～中粒で、量がごくわずかの場合から多い場合まである。石英は無色透明で、全ての試料に認められる。粒形は角礫で、粒径は細粒～1.5mmで、量は中程度から多い場合まである。石英に結晶面が認められる場合、自形である場合がある。長石は全ての試料に認められる。粒形は角礫で、粒径は細粒～1mmで、量がごくわずかの場合から多い場合まである。黒雲母はわずかの試料に含まれ、含まれる量には差がある。色は金色を示す場合が多く、まれに黒色である。粒形は板状で、粒径は細砂～1mmで、量はごくわずかの場合から多い場合まである。角閃石は全ての試料に含まれる。粒形は角礫で、粒径は細粒～2mmで、量は中程度から多い場合まである。角閃石は結晶面が認められる場合、柱状で自形である場合がある。

Ⅱb類型：Ⅱa類型に似るが、閃緑岩粒と結晶面がある石英、又は自形の石英が認められない。

Ⅱc類型：構成砂礫種は岩石片として、花崗岩・閃緑岩・流紋岩・砂岩・チャート・火山ガラス、鉱物片として、石英・長石・白雲母・黒雲母・角閃石・滑石である。花崗岩は多くの試料に認められる。色は灰白色で、粒形は角礫で、粒径が中粒～6mmである。量はごくわずかの場合からわずかの場合まである。造岩鉱物は石英・長石・黒雲母からなる場合がある。閃緑岩は一試料にのみ認められる。色は灰色で、粒形が亜円礫で、粒径が粗粒で、量がわずかである。造岩鉱物は石英・角閃石からなる。流紋岩はわずかの試料に認められる。色は黒色・茶褐色・淡赤褐色で、粒形が亜角～亜円で、粒径が中粒～2mmである。量はごくわずか～わずかである。石基はやや玻璃質で、石英の細粒産晶がある。砂岩はわずかの試料に認められる。色は灰色・淡茶褐色・茶褐色・淡赤褐色で、粒形は角礫・亜円礫で、粒径は細粒～1mmである。量はごくわずか～わずかである。チャートは多くの試料に認められる。色は灰色・暗灰色・灰黑色・淡茶褐色・淡赤褐色で、粒形は角礫・亜角礫・亜円礫である。亜円礫が多い。粒径は0.5mm～5mmで、量がごくわずか～わずかである。火山ガラスはわずかの試料に認められる。色は黒色・無色透明で、粒形は貝殻状・フジツボ状である。黒色透明の場合、フジツボ状をなすものが多い。粒径は細粒～中粒で、量はごくわずかの場合から多い場合がある。

石英は全ての試料に含まれる。色は無色透明で、粒形は角礫が多く、亜角礫はわずかである。粒径は細粒～2mmで、量が中程度～多い場合がある。一試料であるが結晶面がある石英が認められる。長石はほとんど全ての試料に含まれるが量には差がある。色は淡灰色・白色・無色透明である。粒形は角礫・亜角礫で、角礫が多い。粒径は0.5mm～2mmで、量はごくわずかの場合から多い場合まである。白雲母は一試料にのみ認められる。色は無色透明で、粒形は板状である。量はわずかで、粒径は微粒である。黒雲母は半数の試料に含まれる。色は金色の場合が多く、黒色もある。粒形は板状で、粒径は細粒～2mmで、量はごくわずかである。一試料にのみ

黒色で六角形板状の自形を示す黒雲母が認められる。角閃石は全ての試料に含まれる。色は黒色で、粒形は角礫・亜角礫であり、角礫が多い。粒径は細粒～中粒で、量はごくわずかの場合から多い場合まである。結晶面がある柱状自形である角閃石が認められる。滑石は一試料にのみ認められる。色は灰白色で網糸状の光沢がある。粒形は亜円礫で、粒径は4mmである。量はごくわずかである。

II d類型：構成砂礫種は岩片として、花崗岩・結晶片岩・ホルンフェルス・火山ガラス、鉱物片として、石英・長石・黒雲母・角閃石・輝石である。花崗岩は一試料に認められる。色は白色で、粒形は亜円礫である。粒径は細粒で、量がわずかである。造岩鉱物は石英・長石からなる。一試料にのみ認められる。粒形は角礫で、粒径は粗粒である。量はごくわずかである。

ホルンフェルスは一試料のみ認められる。色は暗灰色で、粒形は亜角礫である。粒径は細粒で、量がごくごくわずかである。火山ガラスは一試料にのみ認められる。色は無色透明で、粒形は貝殻状である。粒径は細粒で、量がわずかである。石英は全ての試料に含まれる。色は無色透明で、粒形は角礫である。粒径は細粒～1mmで、量はわずかの場合から多い場合まである。二試料には結晶面が認められる。長石は全ての試料に含まれる。色は白色・無色透明で、粒形は角礫である。粒径は細粒～1.5mmで、量はごくわずかの場合から多い場合まである。黒雲母は二試料に認められる。色は金色で、粒形は板状である。粒径は1mm以下で、量はごくわずかである。角閃石は全ての試料に認められる。色は黒色で、粒形は角礫である。粒径は細粒～2mmで、量はわずかの場合から多い場合まである。粒状や柱状をなすが、柱状の場合、自形であるものが多い。輝石は全ての試料に認められる。色は黒色で、粒形は角礫である。粒径は細粒～中粒で、量はごくわずかの場合からわずかの場合まである。粒状や柱状をなすが、柱状の場合、自形である場合が多い。

II e類型：構成砂礫種は岩片として、流紋岩・砂岩・チャート・結晶片岩・蛇紋岩・火山ガラスであり、鉱物片として、石英・長石・黒雲母・角閃石である。流紋岩は一試料にのみ認められる。色は淡茶灰色で、粒形は亜角である。粒径は粗粒で、量はごくわずかである。砂岩は二試料に認められる。色は灰色・淡茶灰色で、粒形は亜角礫・亜円礫である。粒径は中粒から粗粒で、量はわずかである。チャートは二試料に認められる。色は灰色・淡茶灰色で、粒形は角礫・亜円礫である。粒径は中粒・1cmである。量はごくわずかである。結晶片岩は石英片岩・雲母片岩等で、全ての試料に認められる。色は淡灰色・灰白色・暗灰色・淡茶褐色で、粒形は角礫・亜角礫・亜円礫である。粒径は細粒～1mmで、量はごくわずか～わずかである。蛇紋岩は一試料にのみ認められる。色は淡緑色で、粒形は亜角礫である。粒径は粗粒で、量はごくごくわずかである。火山ガラスは一試料に認められる。色は無色・無色透明で、粒形は貝殻状である。粒径は細粒～中粒で、量はごくわずかの場合からわずかの場合まである。石英は全て

の試料に含まれる。色は無色透明で、粒形は角礫・亜角礫である。粒径は細粒～1.5mmで、量はわずかの場合から中程度まで認められる。一試料にのみ結晶面のある石英が見られる。長石は一試料にのみ認められる。色は白色で、粒形は亜角礫である。粒径は細粒～3mmで、量はわずかである。黒雲母は二試料に認められる。色は黒色・金色で、粒形は板状である。粒径は微粒～細粒で、量はわずかである。角閃石は全ての試料に認められる。色は黒色で、粒形は角礫・亜角礫である。角礫が多い。粒径は微粒～中粒で、量はごくわずかの場合から多い場合まである。結晶面がある又は柱状自形である角閃石が認められる。

III類型：構成砂礫種は岩石片として、花崗岩・流紋岩・砂岩・チャート・結晶片岩・鉱物片として、石英・長石・角閃石である。花崗岩は二試料ともに認められる。色は灰白色で、粒形は角礫・亜角・亜円礫である。粒径は中粒～3mmで、量はごくわずかの場合からわずかの場合がある。造岩鉱物は、石英・長石・石英・黒雲母からなる。流紋岩は一試料に認められる。色は淡赤褐色で、粒形は角礫である。粒径は3mmで、量はごくわずかである。石基は玻璃質である。砂岩は一試料に認められる。色は淡茶色で、粒形は亜角礫である。粒径は中粒で、量はわずかである。チャートは一試料に認められる。色は灰白色・暗灰色で、粒形は亜角礫・亜円礫である。粒径は0.5mm～2.5mmで、量はわずかである。結晶片岩は石英片岩・泥質片岩で二試料に認められる。色は無色・黒色・暗灰色で、粒形は亜角礫・亜円礫である。粒径は0.5mm～1mmで、量はごくわずかである。石英は二試料に認められる。色は無色透明で、粒形が角礫である。粒径は細粒～3mmで、量は中程度である。一試料には高温型自形の石英が認められる。長石は二試料に認められる。色は白色で、粒形は角礫である。粒径は0.5mm～1.5mmで、量がごくわずかの場合からわずかの場合がある。角閃石は二試料に認められる。色は黒色で、粒形は角礫である。粒径は細粒～1mmで、量はごくわずかの場合からわずかの場合がある。

IV類型：構成砂礫種は岩石片として、花崗岩・閃綠岩・砂岩・チャート・ホルンフェルス・火山ガラス、鉱物片として、石英・長石・白雲母・黒雲母・角閃石である。花崗岩は多くの試料に認められる。色は灰白色で、粒形は角礫・亜角礫・亜円礫である。角閃石が多い。粒径は細粒～7mmで、量はごくわずか～中程度である。造岩鉱物は石英・長石・黒雲母からなる。閃綠岩はごくわずかの試料に認められる。色は暗灰色・黒灰色で、粒形が角礫・亜角礫である。粒径は細粒～粗粒で、量はわずかである。造岩鉱物は石英・角閃石である。砂岩はごくわずかの試料に認められる。色は淡灰色・暗灰色・黒色である。粒形は亜角礫・亜円礫で、粒径は1mm～4mmである。量はごくわずかである。チャートはわずかの試料に認められる。色は灰白色・灰色・暗灰色・赤褐色・茶褐色・黒色である。粒形は角礫・亜角礫で、粒径は細粒～6mmである。量はごくわずかの場合からわずかの場合がある。ホルンフェルスは砂質で一試料にのみ認められる。色は暗灰色で、粒形は角礫である。粒径は中粒で、量はごくわずかである。火山ガ

ラスは無色・黒色透明で、粒形は貝殻状・板状・フジツボ状である。粒径は細粒～中粒で、量はごくわずか～中程度である。石英は全ての資料に含まれる。色は無色透明で、粒形は角礫・亜角礫である。粒径は細粒～3mmで、量はわずかの場合から多い場合まである。長石はほとんど全ての試料に含まれる。粒形は角礫・亜角礫で、粒径は細粒～4mmである。量はごくわずかの場合から多い場合まである。白雲母は一試料にのみ認められる。色は無色透明で、粒形は板状である。粒径は細粒～中粒で、量はごくわずかである。黒雲母は多くの試料に認められる。色は黒色・金色で、粒径は微粒～1.5mmである。粒形は板状で、量はごくわずかの場合から多い場合まである。角閃石は多くの試料に認められる。粒径は細粒～中粒で、粒形は角礫・亜角礫で、量はごくわずかの場合からわずかの場合がある。

V類型：構成砂礫種は岩石片として、花崗岩・閃綠岩・流紋岩・砂岩・チャート・ホルンフェルス・火山ガラス・鉱物片として、石英・長石・黒雲母・角閃石である。花崗岩は二試料に認められる。色は灰白色で、粒形は角礫である。粒径は中粒～5mmで、量はごくわずかの場合からわずかの場合がある。造岩鉱物は石英・長石である。閃綠岩は二試料に認められる。色は黒灰色・暗灰色である。粒形は角礫・亜角礫で、粒径は中粒～粗粒である。量はごくわずかの場合からわずかの場合がある。造岩鉱物は石英・角閃石からなる。流紋岩は二試料に認められる。色は灰白色・灰色で、粒形は亜角礫・亜円礫である。粒径は1mm～5mmで、量がごくわずかである。石基は玻璃質で、石英の斑晶がある。砂岩は四試料に認められる。色は暗灰色・茶褐色である。粒形は角礫・亜角礫・亜円礫で、粒径は中粒～4mmである。量はごくわずか～中程度である。チャートは全ての試料に含まれる。色は灰色・灰白色・暗灰色・茶灰色で、粒形は角礫・亜角礫・亜円礫である。粒径は0.5mm～5mmで、量はわずかの場合から多い場合まである。ホルンフェルスは一試料にのみ認められる。色は灰色・黒色で、粒形は角礫・亜角礫である。粒径は細砂粒～1mmで、量はわずかである。結晶片岩は一試料に1個のみ認められる。火山ガラスは二試料に認められる。色は無色・黒色・茶褐色透明で、粒形は貝殻状・フジツボ状である。粒径は細粒で、量はごくわずか～中程度である。石英は全ての試料に認められる。色は無色・白色透明で、粒形は角礫・亜角礫である。粒径は細粒～2mmで、量はわずかの場合から多い場合まである。結晶面がある。高温型の自形である石英が三試料に認められる。長石は五試料に認められる。色は白色で、粒形は角礫・亜角礫である。粒径は細粒～2mmで、量はごくわずかの場合からわずかの場合がある。黒雲母は一資料に認められる。色は金色で、粒形は板状である。粒径は細粒で、量はごくわずかである。角閃石は五試料に含まれる。色は黒色で、粒径は細粒～中粒である。粒形は角礫・亜角礫で、量はごくわずかの場合からわずかの場合がある。一試料にのみ結晶面がある角閃石が1個認められる。

VI類型：I類型からV類型のいずれにも属さない試料をまとめた類型であるため、特徴はつ

かめない。

第7表 砂礫による類型区分と器種

器種 類型	壺	カメ	鉢	高杯	器台	製塙	合計
I a	1	39	1				41
I b		26	1				27
II a	4	6					10
II b	2	1		3	1		7
II c	1	9	1	3			14
II d		2	1				3
II e		3			1		4
III		2					2
IV	5	25	5	3	1	1	40
V	2	3	1				6
VI	7	11	3	6	3	1	31
不 能	1	4	3	1			9
合 計	23	131	16	16	6	2	194

#### 第4節 砂礫種構成から推定される砂礫の採取地

土器の出土した小阪合遺跡を中心として、近距離で求められる土器胎土中の砂礫種構成と同じ砂礫の分布を土器胎土中の砂礫の採取地とする。

各類型の砂礫の採取地について述べる。

I類型：I類型は碎屑岩類を含まず、深成岩類及び、その碎屑片と推定される砂礫からなることから、深成岩類の分布地域で、碎屑岩片の混入しないような地域が推定される。角閃石粒が多いことから角閃石が多く含まれる岩石が分布する地域が推定される。Ia類型は石英が少ないことから斑柄岩の分布地から、Ib類型は石英が多いことから斑柄岩の分布地からわずかに離れた花崗岩の分布地又は比較的多くの角閃石が含まれる閃綠岩の分布地から砂礫が採取されたと推定される。斑柄岩は牛駒山を中心広く分布する。また、角閃石を比較的多く含有する閃綠岩は八尾市服部川付近、大東市から東大阪市の北部にかけての山地部に小規模に分布する。Ia類型の砂礫は生駒山西麓で採取されたと推定される。Ib類型はIa類型の砂礫採取地から少し下流へ下った地点か、八尾市服部川付近か、大東市から東大阪市北部にかけての山地部のいずれかで砂礫が採取されたと推定される。

**I a類型：**角閃石・石英に結晶面があるか、自形であるものが認められ、閃錫岩中には柱状又は柱状自形の角閃石が認められることから、この砂礫構成は岡山市足守川流域の加茂遺跡付近の砂礫構成と同じである。よって、I a類型の砂礫は岡山市北部、加茂遺跡付近で採集されたものである。

**I b類型・I c類型：**I b類型・I c類型の砂礫構成は岡山市から赤磐郡にかけて分布する古墳から出土する埴輪の胎土中の砂礫構成に似たものが多い。また、岡山市上東遺跡出土の甕にも同じような砂礫構成のものがある。砂礫の採取地は限定しがたい。

**I d類型：**I d類型は角閃石・輝石が結晶面をもつか又は自形であることから、安山岩・安山岩質灰岩が広く分布する地域が推定される。また、砂礫には花崗岩質の要素も認められるため、花崗岩が分布する地域でもある。このような条件を満たす地域としては山陰地方か、讃岐地方が推定される。

**I e類型：**I e類型は結晶面がある又は自形である角閃石・結晶片岩が含まれることから、安山岩・安山岩質灰岩と結晶片岩の分布地域が推定される。結晶片岩は三波川帯や三郡變成帯に広く分布することから、I e類型は山陰地方のいすこかで採取された砂礫であると推定される。

**II類型：**II類型は結晶片岩・花崗岩類を含むことから、結晶片岩と花崗岩類の分布域から流出した砂礫であると推定される。条件を満たす地域としては紀ノ川下流域の和歌山市付近が砂礫の採取地と推定される。

**IV類型：**IV類型は発掘地遺構面の砂礫構成と一致又は酷似することから、小阪合遺跡付近で砂礫を採取したと推定される。

**V類型：**V類型はチャートが多く含まれ、砂岩も含まれる資料があること、自形の石英が含まれる資料があることから、泉州地方の砂礫の可能性がある。

**VI類型：**VI類型の砂礫採取地は推定できないが、VI類型の砂礫構成とは異なるため、小阪合遺跡付近以外で採取された砂礫である。

土器胎土中の砂礫を観察した結果、小阪合遺跡付近の砂礫構成と異なる砂礫構成の土器が約8割あることが判明した。また、砂礫の採取地が土器の製作地であるとすれば、搬入土器の器種と砂礫構成には密接な関係があるが、小阪合遺跡付近で製作されたと推定される土器の器種は各種に及ぶ。

第 8 章 電子商務的關係



3  
◎山



๗๙๕

「魔理神」—試験研究 94, 110, 149, 158, 159, 160, 162, 207, 222。トルメンヘルスニル試験研究 8, 124, 126, 127, 321。魔巧二段好勝 216。

## 第7章 まとめ

今回の報告は、八尾市が計画した南小阪合土地区画整理事業に伴う事前の発掘調査である。調査は第1章で記述したように4年ないし5年間に分割して行なうこととなり、昭和57年度第1次調査として青山線（A地区）・21号線・22号線の一部・中央線（C-II地区）の一部である計画予定地の発掘調査を実施した。今回の調査総面積は約2000m<sup>2</sup>を測る。しかし、最大幅6m～最小幅2mと幅が狭く細長いトレンチであるため、遺構の全容を検出できたものはわずかで、ほとんどは調査区外に至る。また一部の地区で拡張した箇所もあるが、遺構の性格・位置付けなど不明瞭な点が多かった。だが、調査区で出土した遺物はコソテナ約78箱分を数える。

今回の調査で検出した遺構及び遺物は幾つかの時期差はあるが大まかに6時期に分けられる。弥生時代後期・古墳時代前期・古墳時代中期・奈良時代・平安時代・鎌倉時代以降である。この中で最も遺物の出土量が多かったのは古墳時代前期の時期のものである。そしてさらに庄内期新相～布留期古相に位置付けられるA-II b地区落ち込み7の堆積土内からの出土遺物が今回の調査で出土した遺物の約半数を占めていた。

以下、各時代毎に第1次調査で検出した調査の結果に基づいて、若干の考察を加えてまとめ要約しながら記述したい。

### 小阪合遺跡の変遷について

#### 弥生時代後期

今回の調査で検出した遺構では最も古い時期であるが、遺物では弥生時代中期に比定されると思われる壺片（519）がA-II e地区の第5層内より1点を出土しているだけである。

さて、調査地区で検出した弥生時代後期の複元地形は、A-III地区と22k～n地区で自然堤防の微高地が形成されている。この東部に位置するA-IV・A-V地区は逆に微低地であると考えられる。西部に位置するA-I・A-II・21・22a～j地区は第7層下の砂層の著しい堆積をみる幅100m以上になると思われる自然河川が流れていたと推測される。

この時代の人々は、微高地上を生活の場として營まれていたと思われ、土坑・ピット群・溝等の遺構が掘り込まれている。だが、今回の調査では住居址と思われる遺構は検出されなかつたが、A-II地区で検出したピット群が掘立柱建物や竪穴式住居の削平された柱穴跡ではないかと推測できる。しかし限定された調査区内では規則性のある配列は見出せなかった。

#### 古墳時代前期

この時代は、A-II地区の微高地やA-IV・A-V地区の微低地の状況は弥生時代後期から

あまり変化はないが、調査地区の西部に位置する自然河川の流れが砂層の堆積に因って停止している。この自然河川の上面をベースとしてA-Ⅰ地区では井戸・土坑等の遺構を検出している。井戸（SE 1）は用途不明の板材を転用材として使用しているが、精巧に組み合せて構築している。これはこの時期に多い粗末な素掘り井戸と違い、集落の集團に於ける公共的機能をもつ生活用水としての中心的役目であったのではないかと推察されるが、隣接には住居址と考えられる遺構は今回の調査地区内で検出しなかった。

また、A-Ⅲ地区の微高地上では落ち込み7の堆積土内から多量の土器を出土しているが、ここでも同様に住居址と考えられる遺構は検出されなかつたが、陸地化した自然河川上や弥生時代後期より安定した微高地上に人々が生活の場としていた可能性が強く、今後の調査で、この時期の集落遺構が検出されるであろう。

#### 古墳時代中期

この時代は、弥生時代後期より安定したA-Ⅲ地区の微高地上で第6層弥生時代後期～古墳時代前期の遺物包含層上面をベースとして遺構が構築されている。遺構は炭・灰等を多量に含む焼土坑状のもの（SK 12・SK 13）や祭祀用に使用されたと思われる土器が出土した土坑（SK 14）等を検出しているが、住居址の遺構は調査地区的微高地上では検出しなかつた。

一方、微高地の西部に位置するA-Ⅱ・22地区は弥生時代後期の自然河川が埋没した砂層まで切り込まれた落ち込み状遺構が検出している。これは一時的な氾濫によってできた自然河道ではないかと考えられ、22g・h地区落ち込み10がA-Ⅱ地区で落ち込み2～落ち込み6・S D 17・S D 18に分流したと推測される。

調査地区的東部に位置するA-IV・A-V地区・北西部に位置するC-Ⅱ地区は弥生時代後期からあまり変動もなく、安定した粘土層が堆積し、水田耕作の痕跡も認められないことから、低湿地帯の原野の風景を残していたのではないかと考えられる。

#### 奈良時代～平安時代

この時代に入ると、低湿地帯であったと考えられるA-IV・A-V・C-Ⅱ地区やA-Ⅰ・A-Ⅱ・22a～g地区で検出した古墳時代中期の落ち込み状遺構が埋没したのちの上面で、東西・南北の方向に至る小溝が数条掘り込まれているのが検出した。これは畦畔などの検出は認められないが、農耕作に関連する畝溝もしくは唐鋤による痕跡等の遺構と思われる。当遺跡に於いて農耕が行なわれたのは現在の調査ではこの時期からはじまるものと考えられる。

一方、A-Ⅲ地区の微高地上には古墳時代中期の遺構面とほとんど同一面に於いて、3×2間（SB 2）と2×2間（SB 1）の規模をもつ南北軸の掘立柱建物2棟とこの間に配置している状態で方形の木枠を構築した井戸が検出している。これらのことから判断して、この時期は調査地のA-Ⅲ地区の微高地を地盤として集落が営まれ、これを囲むように東西部の低湿地

帶が稻作等の耕作する生産地域として構成されているようである。

なお、奈良時代にはA-I・IV地区で氾濫によってできた河川3が耕作地を切って北流している。平安時代はA-I・A-II・21地区で河川3と同様に一時的な氾濫によってできた河川1が北流した状態で検出している。これらの2時期の自然河川は堆積した砂層に混入した遺物からみて上流に於いて耕作地とともに集落の一部が破壊されている可能性が考えられる。

#### 鎌倉時代～近世

この時代は、調査地区的全域から東西・南北の方向に至る小溝が數十条掘り込まれているのが検出された。これらは農耕作によって掘り込まれた畠溝もしくは廻鋤による痕跡と考えられる。また、これらの小溝は現在の農地の方向とほぼ重なり合った状態であり、現在の土地区画の位置にはほぼ固定されたのがこの時期からと考えられる。それ以後は安定した農耕地としての生産地域で現在に至っているようである。

#### 出土遺物について

今回の調査で出土した遺物の時期は弥生時代中期～近世に至る多種多様の遺物であった。これらの遺物はできる限り実測図の作成を行い、図示するよう努めた。総数は井戸の木枠材を入れると約700点にのぼる。これらは「第3章 調査の結果」で各時代の各遺構ごとに概説し記載した。また個々の遺物は形態・法量・調整等については「第5章 出土遺物観察表」に一括して掲載した。今回は多量に出土した弥生時代後期～古墳時代前期の土器について記述した。

弥生時代後期～古墳時代前期の土器は、近年、土師器の研究で話題の一つに成り続けている土器である。それは弥生時代から古墳時代へと移行する時期にあたり、文化（生活様式等）の変遷や時間（時代）の空間を埋める一つとして重要な意味をもつものと考えられるからである。

さて、この時期の土器は、既に各地で編年試案が試みられている。それは小林行雄氏『弥生時代土器集成』で行った西之辻遺跡に於ける弥生時代後期の細分案を先行として、佐原真氏・<sup>註1</sup>都出比呂志氏・森岡秀人氏・寺沢薰氏・石野博信氏等の先学諸氏によって幾つかの細分編年案<sup>註2</sup>が提唱されている。本市に於いても米田敏幸氏が『八尾南遺跡』で行った古墳時代前期の土器についての細分編年案を提唱している。また、近年、大阪近郊は大規模な開発の波が押寄せ、これに伴う発掘調査も数多く実施され良好な資料が増加し、各地域で細分編年案やこの時期についての論考が掲載されているのが散見されるようである。

では、今回の調査で出土した弥生時代後期～古墳時代前期にかけての遺構について記す。

#### 弥生時代後期

S K23・SK36・SK37・SP31・SD26・SD28・SD109・SD110等で出土した土器は畿内第V様式の形態に見られる様相を持つもので、煮沸用の容器と考えられる變形土器が最も

多く含まれていた。壺の形態は突出する平底を持ち器壁が厚い。体部は外面荒いタタキ目、内面は指ナデ及びヘラナデによる調整が施されている特徴を持つものがほとんどである。また胎土は生駒山西麓の胎土をもつ搬入土器のものが大半であった。これらの土器は八尾市成法寺遺跡(SW1・SW2等の土器群)・東大阪市北烏池遺構の下層出土土器・柏原市船橋遺跡第9トレンチ出土土器等と類似する資料と考えられる。また、この時期の資料は八尾市の弓削遺跡に於ける共同住宅の建設に伴う発掘調査で溝状遺構内から畿内第V様式に類似する土器が完形に近い状態で多量に出土している。さらに当遺跡で実施した第3次調査の271地区の溝(SD321)からも一括土器が出土した。だが、これらは殆ど未整理であり、今後の整理作業の進行によって八尾市域に於ける土器の細分編年案の良好な資料となりうると考えられる。

なお、これらの畿内第V様式の壺は庄内式土器に含まれている畿内第V様式系の壺と類似し、形態的・技法的には見分けが付き難いのが現状である。よって、今回の調査で検出した遺構の時期については畿内第V様式の土器だけを出土したもの、層位的にみて考えられるものを弥生時代後期の時期とし、庄内式～布留式の壺と畿内第V様式の土器が共存して出土したものは古墳時代前期(庄内式～布留式)の土器として取扱った。

#### 古墳時代前期

遺構はSE1・SK1・落ち込み7を検出している。このうちの落ち込み7の堆積土内から庄内式新相～布留式古相に移行すると考える時期の土器が多量に出土した。器種は壺・鉢・鼓形器台・小型器台・高杯・製塩土器・壺等のセット関係を出土しているが、この中で大半を占めるのが煮沸用の容器と思われる壺形土器であった。

では、多量に出土した落ち込み7の出土土器について下記に触ることにする。本文で試みた個々の形態分類をした土器と胎土分析の結果を比較してまとめてみると、

I a類型(生駒山西麓)：壺N類・鉢F類・壺C類・壺E類・壺L類・壺S類

I b類型(生駒山西麓の下流)：鉢D類・壺C類・壺E類・壺K類

II a類型(岡山市北部)：壺E類・壺H類・鉢A類・高杯A類・壺A類・壺P類

II b類型・II c類型(岡山市～赤磐郡)：壺C類・壺N類・鉢B類・器台B類・器台C類・高杯C類・高杯D類・高杯E類・壺A類・壺C類・壺D類・壺F類・壺I類・壺R類・壺S類

II d類型(山陰地方・瀬戸内地方)：鉢C類・壺M類

II e類型(山陰地方)：壺A類・壺C類・壺M類

III類型(紀ノ川下流域)：壺A類・壺Q類

IV類型(在地)：壺A類・壺B類・壺D類・壺F類・壺O類・鉢A類・鉢C類・壺E類・器台B類・高杯A類・高杯C類・高杯E類・製塩土器A類・壺A類・壺C類・

甕 E 類・甕 I 類・甕 J 類・甕 N 類・甕 R 類・甕 S 類

V 類型（泉州地方）：壺 G 類・壺 J 類・甕 S 類

VI 類型（小阪合遺跡以外）：壺 C 類・甕 G 類・壺 K 類・壺 H 類・壺 L 類・壺 M 類・鉢 A 類・鼓形器台 A 類・器台 B 類・高杯 A 類・高杯 B 類・高杯 C 類・高杯 E 類・製塩器 A 類・

甕 A 類・甕 C 3 類・甕 I 類・甕 J 類・甕 S 類

という結果が得られた。これらの形態分類したものには畿内第 V 様式系（甕 A 類）・庄内式（甕 C 類）・布留式系の甕（甕 E 類・甕 F 類・甕 G 類・甕 H 類・甕 I 類・甕 J 類・甕 L 類・甕 R 類）・布留式（甕 S 類）・酒津式系（甕 P 類）・東部瀬戸内系（甕 M 類）・山陰系（器台 A 類・甕 Q 類）・東海系（甕 N 類）などといった形態的特徴をもつ他地域の土器がみられる。それと、胎土分析の結果においても明確に他地域の胎土をもつ土器が含まれていた。胎土分析の結果の統計（観察した土器）によると中河内地域の土器が約 55%（在地の土器が約 20%、近隣する生駒山西麓の土器が約 21% と生駒山西麓の下流が約 14% の割合）を占め、他地域からの搬入土器または粘土の採集地が約 45% とほぼ半数近くを含んでいた。この内訳をみると、中部瀬戸内地域の土器が約 18%（岡山市から赤磐郡にかけての土器が約 11% と岡山市北部の足守川流域付近の土器が約 7% の 2 箇所）と最も多い割合を占め、続いて山陰地方・讃岐地方の土器が約 4%、泉州地方の土器が約 4%、紀の川下流域の土器が約 1% という割合である（尚、地域は不明であるが当遺跡以外と考えられる土器が約 15% と観察不能の土器が約 3% である）。

これらの胎土分析の結果で得られた他地域の土器と形態的特徴で判断できる他地域の土器（特に煮沸用の土器である甕が顕著にみられる）と比較してみる。まず、当遺跡が所在する中河内地域の土器には庄内式甕（甕 C 類）がある。この庄内式甕は胎土によって 3 つに分けられる。第 1 は河内平野に位置する沖積地の胎土をもつ土器と第 2 は生駒山西麓の胎土をもつ土器とが存在する。第 1 は当該地に位置するもので在地の土器（VI 類型）と考えられる。第 2 は近隣地域からの搬入土器又は粘土の採集地で、生駒山西麓（I a 類型）と生駒山西麓の下流（I b 類型）の 2 箇所が存在する。この庄内式甕は胎土分析の結果においてほとんどが生駒山西麓の胎土をもち、在地の庄内式甕はごく少量であった。これは庄内式甕の製作地又は粘土（砂礫）の採集地が生駒山西麓であるということが窺える。また、この庄内式甕の時期は、現在の中河内地域の細分編年案によれば庄内式新相に比定されると思われる。八尾市においては「八尾南遺跡」の既往調査で米田氏によって古墳時代前期の細分編年案を試みて I ~ V 期に区分している。これによると、IV ~ V 期の庄内式甕に類似するようである。他の資料では当遺跡の南部に接する中田遺跡（中田 1 丁目土坑一括土器）や近隣する成法寺遺跡（S X 3・S X 4 出土土器）・東郷遺跡（第 5 次の S D 9・第 16 次 S K 4）・萱振遺跡（井戸一括土器）・美國遺跡（C S D 313・C S K 303）などがあげられる。しかし近年の調査において、庄内式土器が増加するにつれ傾め

て複雑な様相を兼備えているように思える。

弥生時代後期の畿内第V様式の系譜を引く壺A類がある。胎土分析の結果では在地の土器と他地域（岡山市～赤磐郡に分布する）の胎土をもつ土器などが含まれていた。だが、弥生時代後期の時期として記載した遺構内からの畿内第V様式の壺は殆どが生駒山西麓の胎土をもつ土器であったが、落ち込み7から出土した壺A類には生駒山西麓の胎土をもつ土器は出土していない。また、この畿内第V様式系の壺は各地で庄内式壺に伴って出土している。「八尾南遺跡」では庄内式土器に含む畿内第V様式系の壺の量によって時期差がみられると解釈し、庄内式壺の形態の変遷などを合せて細分編年案を提唱している。しかし、当遺跡や各地で出土している庄内式土器と共に出土する畿内第V様式系の壺は庄内式土器の細分編年に複雑な要因を持っているようである。

吉備地方（瀬戸内東部）の形態的特徴をもつ土器でいわゆる酒津式系壺（壺P類）がある。胎土分析の結果では岡山市北部（Ⅰa類型）の足守川流域付近の胎土をもつ土器であった。また、その他の器種にもⅠa類型の胎土をもつ土器が多く含まれていた。では、出土した酒津式壺は吉備地方の出土土器の資料と比較してみると、百間川遺跡や川入・上東遺跡などの出土土器の新段階のものに類似するようである。  
註13  
註14

山陰地方の形態的特徴は、口縁部が体部より丸く屈曲し、斜上方へ短く外反した後上外方へ外反するいわゆる複合口縁といわれる土器で、壺F類と壺Q類がある。この土器は秋里遺跡・青木遺跡などの出土土器と類似する資料がみられる。だが、胎土分析の結果は当遺跡の南方に位置する紀の川下流域（Ⅲ類型）という地域などの胎土をもつ土器であった。また、山陰地方に特有の鼓形器台（器台A類）の形態的特徴をもつ土器1点出土している。この鼓形器台は山陰地方の秋里遺跡の編年によると秋里Ⅰ式に類似する資料である。

東海地方の形態的特徴をもつ壺N類が1点みられる。口縁部が体部から丸く屈曲し、短く彎曲するもので、いわゆるS字状口縁壺と呼称する土器である。朝日遺跡の弥生土器編年では第VI形式～元屋敷形式に類似する資料と思われるが、胎土分析の結果では在地の胎土で製作されたものであった。  
註15  
註16  
註17

布留式系と思われる壺は、壺E2類・壺F類・壺G類・壺H類・壺I類・壺J類・壺L類・壺R類の形態分類した壺がこれに相当するものと考えられる。これらの壺には形態や調整の技法などに共通性がみられ、布留式壺の形態的特徴が極めて酷似しているようである。これらの壺は布留式壺に関わる系譜を兼備えた土器ではないかと考えられる。この壺は、各地の調査において顕著に出土している。本市では米田氏により布留式壺の系譜を引くものと考え、布留式傾向壺と呼称している。他地域の資料をみると壺Cなどと呼称して、庄内式壺と布留式壺の間に埋める形式をしている。胎土分析の結果はⅠa類型・Ⅱb類型・Ⅱc類型・Ⅳ類型・Ⅵ類型

の胎土をもつ土器がみられ、在地の胎土をもつ土器はごく少量であった。殆どは他地域の胎土をもち、製作地又は粘土の採集地であった。

布留式の形態的特徴をもつ甕 S類がある。特徴は丸底で球形した体部より屈曲し内彎しながら上外方へ伸びる口縁部で、端部が内側に肥厚する。体部内面は庄内式甕の系譜を引くものでヘラケズリにより器壁を薄くしているが、体部外面は庄内式甕と違い細かいハケナデ調整よりタタキ目を消しているもので、布留式古相の時期に相当するものである。この布留式甕は八尾南遺跡のⅤ期・馬場川遺跡T地点出土の土器群<sup>井3</sup>・縄向遺跡の縄向4式に類似する資料であろう。<sup>4118</sup><sup>4119</sup>胎土分析の結果はⅠa類型・Ⅱb類型・Ⅳ類型・Ⅴ類型・Ⅵ類型で各地の胎土をもつものが殆どである。

以上のように、形態的特徴と胎土分析による結果で得られた土器について簡単ではあるが記述してみた。これらは地城色をもつ土器が顕著にあらわされているようである。これは人又は人の集団などの移動に伴って持込まれた土器や当該地で製作された他地域の模倣品土器などがあり、この時期の当遺跡における社会的・文化的要因が他の地域との交流に深く関わりをもつものであろう。特に近隣する生駒山西麓地域や遠方に位置する吉備地方の土器の流動が顕著にみられる。これは当遺跡に位置する中河内地方の遺跡でも同じことが言えるようで、八尾南遺跡・中田遺跡・成法寺遺跡・東郷遺跡・萱振遺跡・美闇遺跡・西岩田遺跡などから同様の結果が得られている。しかし、生駒山山脈で阻まれている大和地方（縄向遺跡）では東海地方の土器の割合が多く、吉備地方の土器の割合が少ないという結果が得られている。これは中河内地方とは逆のものであり、中河内地方と大和地方とは政治・社会的な要因などに相違が認められる。この点については今後に究明していくかなくてはならない課題であろう。

なお、当遺跡で多量に出土した畿内第V様式から布留式にかけての土器は年々増加する開発に伴う発掘調査によって、この時期の資料は各遺跡で増え続けている。当遺跡もその後の調査で多量の土器が出土されている現状である。

また、今回は触れなかったが初期須恵器や韓式系土器などを出土した古墳時代中期の遺物や井戸等から出土した奈良時代の遺物からも良好な資料が出土している。これらについては今後の報告書で記述していく。

以上、当遺跡の変遷と出土遺物について記述した。今回の調査は最初の調査で、調査対象地が限られた道路敷面下の細長いトレンチ調査である。したがって、線的な調査での意味合いが強く、各時代の様相も限られた調査成果であったが、特に弥生時代後期から奈良時代にかけての遺構・遺物が多く認められ、当遺跡の様相を知る上で多大な成果を得ることができた。

その後の発掘調査でも数多くの遺構・遺物が検出している現状であり、当遺跡の様相がより明確に成って行くであろう。

注

- 註1 小林行雄氏「大阪府枚岡市額田町西ノ辻遺跡Ⅰ地点の土器、E・D・H地点」『弥生時代土器集成』資料編1 1958
- 註2 ○佐原真「畿内地方」『弥生式土器集成』本編2 1968  
○都出比呂志「古墳出現前夜の集団関係—淀川水系を中心にして」『考古学研究』第20卷4号 1974  
○森尚秀人「畿内第V様式の編年細分と大師山遺跡出土土器の占める位置」『大師山』所収 1977  
○寺沢薰 奈良県教育委員会「大和におけるいわゆる第五様式土器の細別と二・三の問題」『六条山』 1980  
○石野博信「奈良県經向石塚古墳と圓向式土器の評価 一木下正史氏の批評に答える一」『考古学雑誌』第64卷1号 1979
- 註3 八尾南遺跡調査会『八尾南遺跡』—大阪市電気軌道2号線建設に伴う発掘調査報告書— 1981
- 註4 八尾市教育委員会「成法寺遺跡」—八尾市光南町1丁目29番地の調査— 1983
- 註5 大阪府立花園高等学校地盤部「北島池遺跡」『河内古代遺跡の研究』 1970
- 註6 (財)大阪文化財センター「船橋」—大和川環境整備事業柏原地区高木敷整正工事に伴う船橋遺跡試掘調査報告書— 1976
- 註7 (財)八尾市文化財調査研究会「弓削遺跡(第1次調査)」『昭和59年度事業概要報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告7 1985
- 註8 (財)八尾市文化財調査研究会「小坂合遺跡(第3次調査)」『昭和58年度事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告6 1985
- 註9 米田敏幸・奥田尚「土器の胎土分析方法について」『古代学研究』第99卷 1983
- 註10 八尾市教育委員会「東郷遺跡 第5次調査」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報 1980・1981年度』 1983
- 註11 大阪府教育委員会「菅原遺跡発掘調査概要Ⅰ」—八尾市緑ヶ丘2丁目所在— 1983
- 註12 (財)大阪文化財センター「美園」—近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書— 1985
- 註13 岡山県教育委員会「旭川放水路(百間川)改修工事に伴う発掘調査Ⅰ」—岡山県埋蔵文化財発掘調査報告39 1980
- 註14 岡山県教育委員会「川入・上東」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告16 1977
- 註15 烏取県教育委員会「鳥取・秋里遺跡Ⅰ」 1976
- 註16 青木遺跡発掘調査団「青木遺跡発掘調査報告書Ⅲ」 1976
- 註17 愛知県教育委員会 編集「朝日遺跡」(本文篇) 1982
- 註18 東大阪市遺跡保護調査会「馬場川遺跡発掘調査報告」 1977
- 註19 榎原考古学研究所編(石野博信・関川尚功他)「布留式成立に関わる観察」『圓向』—奈良県桜井市經向遺跡の調査— 1976

## 追記

この報告書の発行は、諸事情により昭和61年度の印刷発行となり、この間には大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・当調査研究会（昭和61年度までに第8次調査が行われている）により発掘調査が実施されている。また、この報告は第2次調査・第3次調査の報告と重なった形で同じ年度に発行することになったのである。

その後の発掘調査で新たな遺構・遺物が検出され、当遺跡の変遷が明白になりつつある状況である。

# 図 版



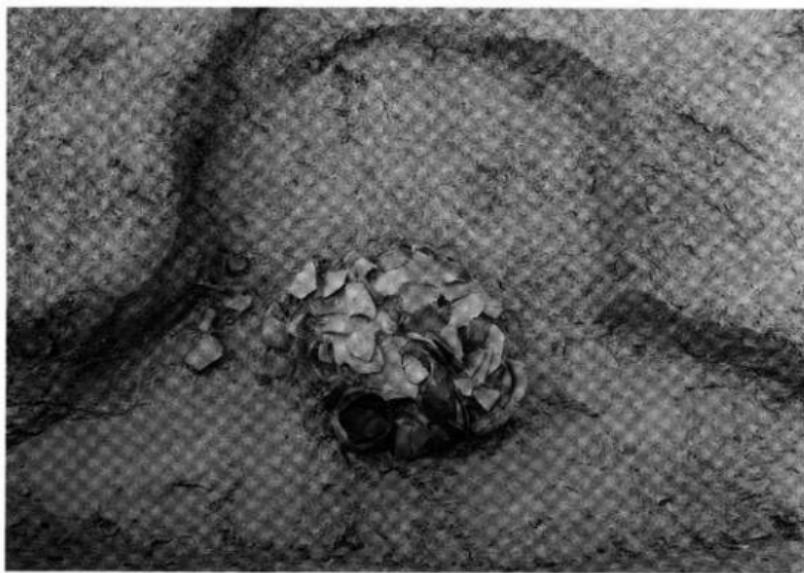
調査地全景（航空写真）



1. 第2調査面（東より）



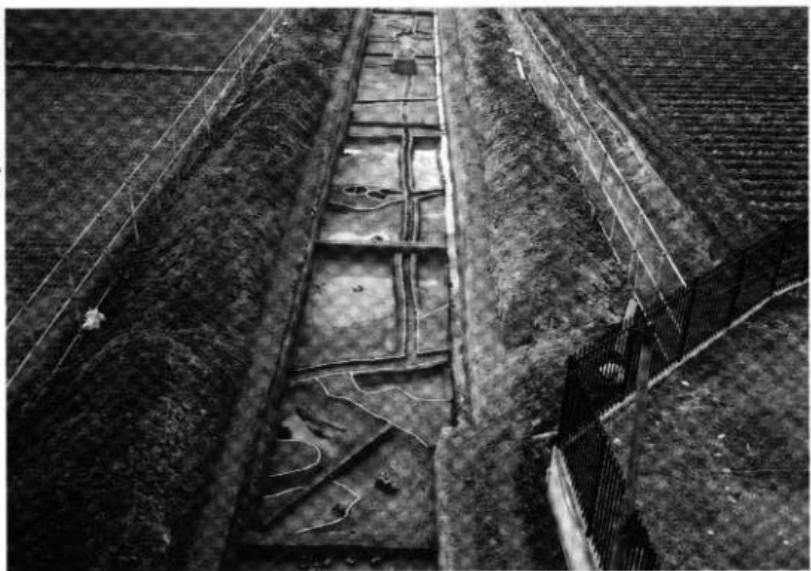
2. S E I (東より)



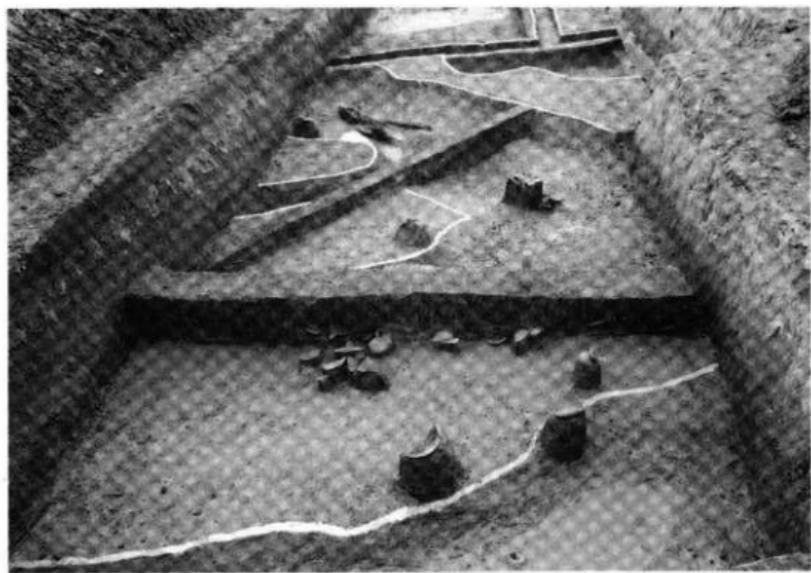
1. SK 2 (南より)



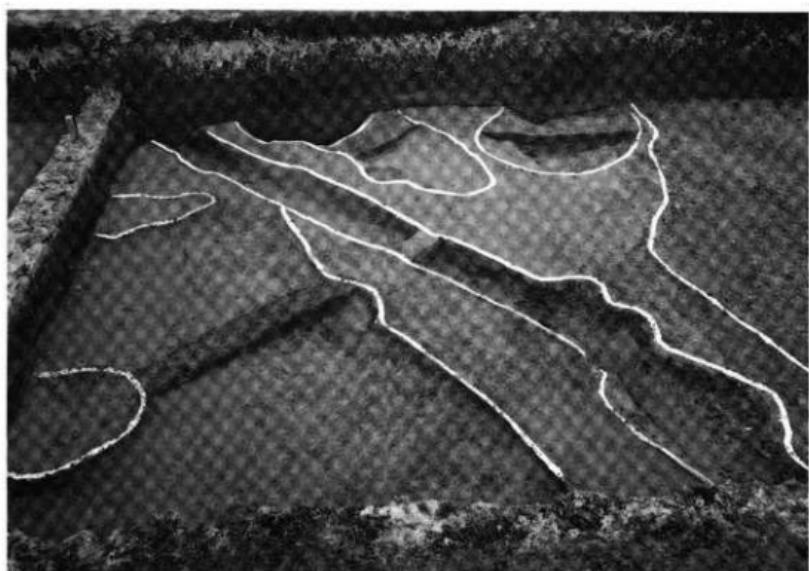
2. 第1調査面 (東より)



1. 全景(東より)



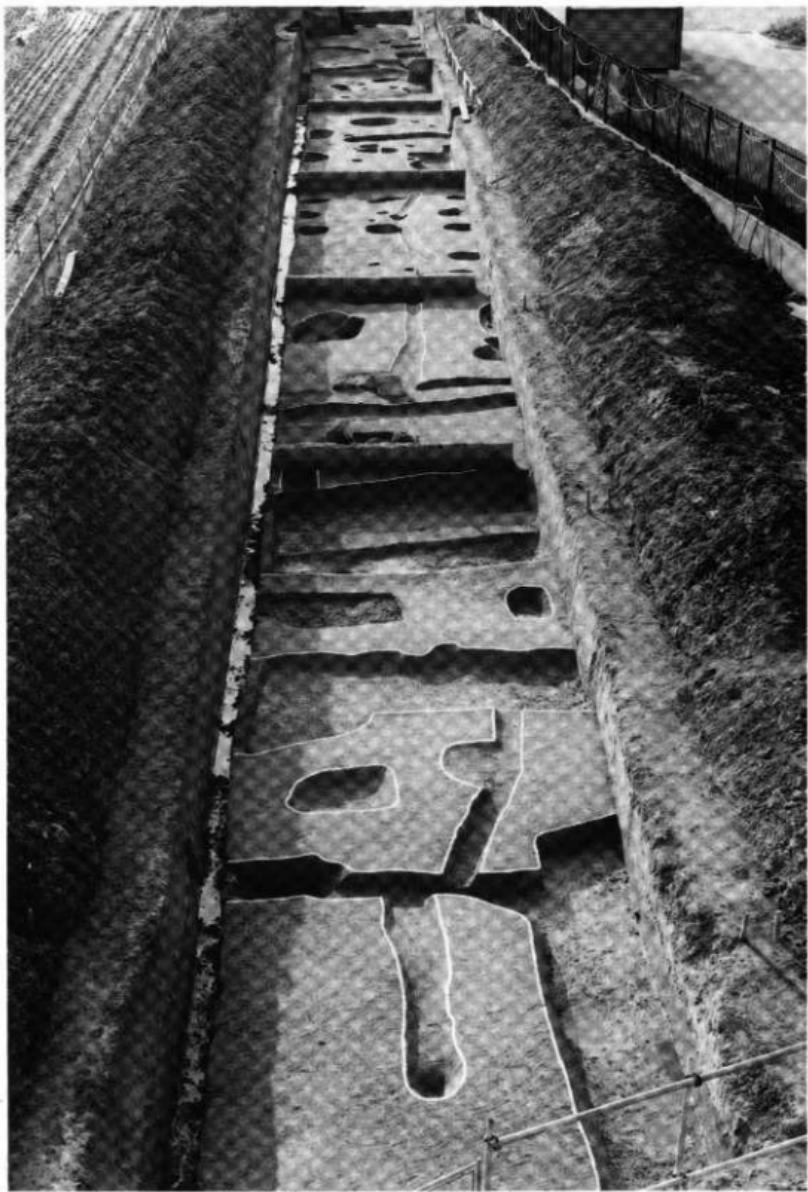
2. SD17(東より)



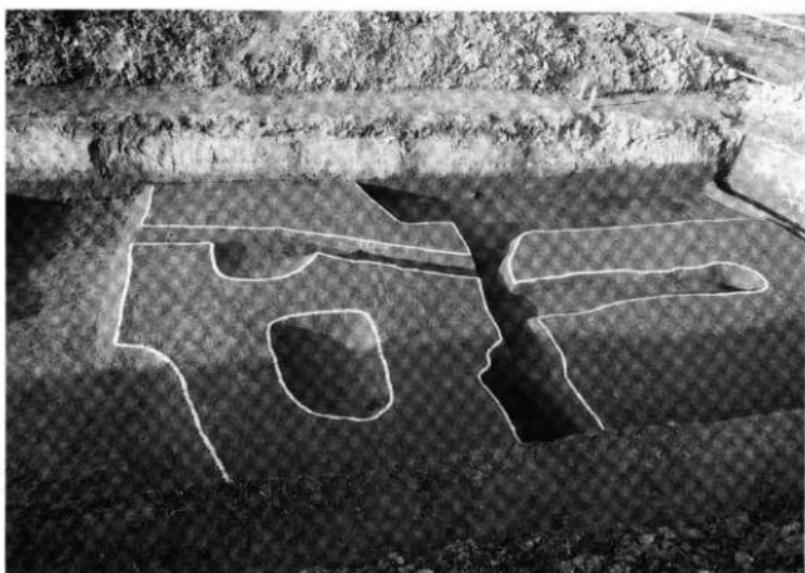
1. SK2・SK3・SD6・SD7・SD8 (北より)



2. 河川1 (北東より)



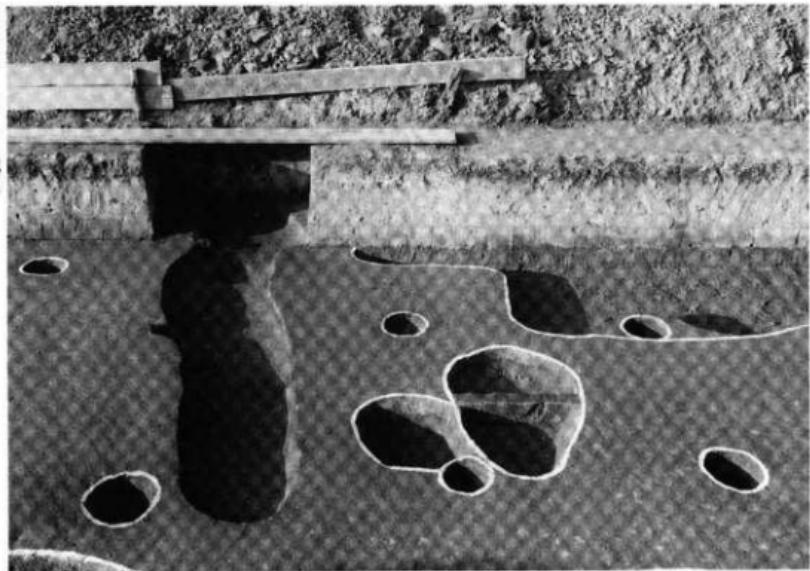
第2調査面全景（東より）



1. I-h 地区遺構状況 (南より)



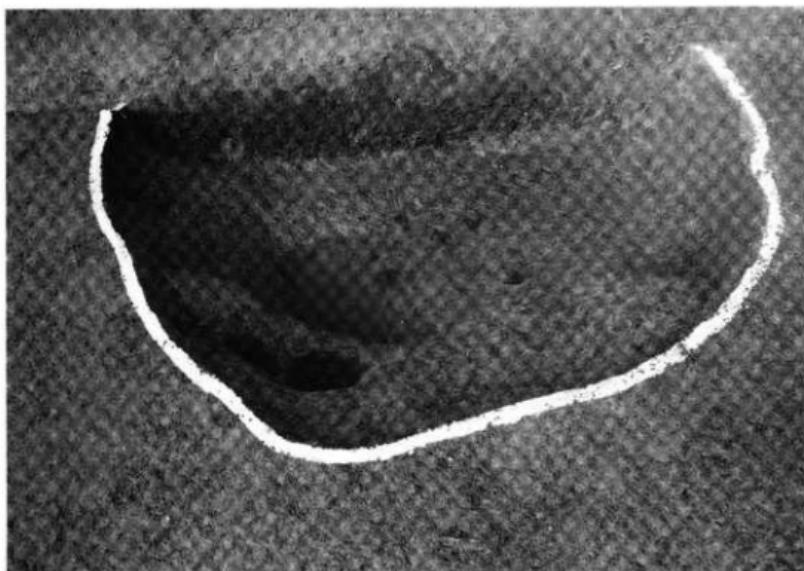
2. 落ち込み7 (東より)



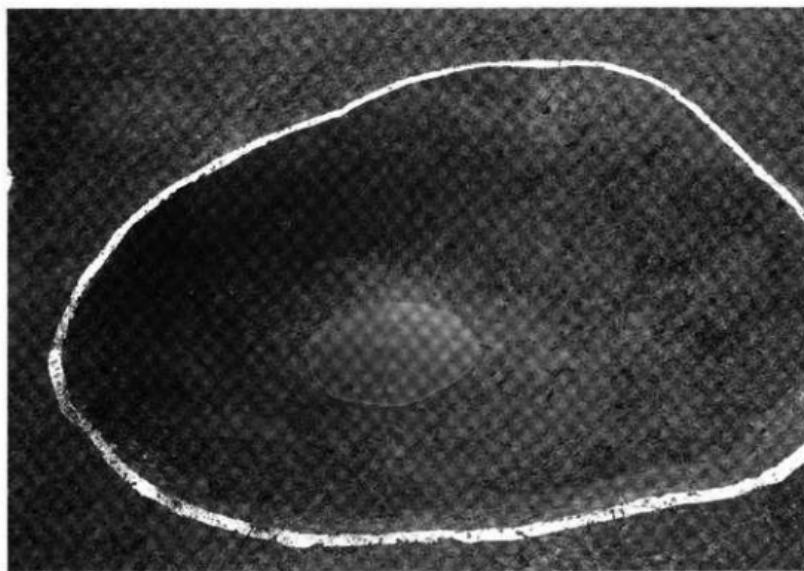
1. e 地区遭構状況（南より）



2. 第1測査面全景（東より）



1. SK12 (南より)



2. SK13 (東より)